

令和3年度
柳川市民アンケート調査
報告書

令和4年2月
柳川市

目次

I. 調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査主体	3
II. 調査結果の概要	4
1. 歴史・文化・景観に関連する結果について...問 7、9、10、11、12、13、27、28	4
2. 地産地消やブランド化に関連する結果について...問 19.....	5
3. 市の広報活動に関連する結果について...問 20、21、22、23	6
4. 移動環境・手段に関連する結果について...問 24、25、26	7
5. 生活環境に関連する結果について...問 5、6、8、14	8
6. 学校再編に関連する結果について...問 16、17、18	8
7. ごみ減量に関連する結果について...問 29、30、31	9
8. 公共施設の利用に関連する結果について	10
①公共施設の利用状況について...問 37、38、39	10
②柳川市役所の利用状況について...問 40、41	10
9. 火災警報器に関連する結果について...問 33、34、35、36	11
III. 調査結果	12
1. 基本属性	12
2. 歴史・文化・景観について	14
(1) 観光客へのおもてなしをして良かったと思う度合い (問 7)	14
(2) 柳川市の歴史や伝統文化の認知状況 (問 9)	18
(3) 柳川市の歴史や伝統文化への愛着・誇りの度合い (問 10)	22
(4) 柳川初代藩主「立花宗茂」とその妻「闇千代」の認知度 (問 11)	26
(5) 文化芸術活動が盛んに行われているかと思う度合い (問 12)	30
(6) 柳川市民文化会館「水都やながわ」の訪問目的 (問 13)	34
(7) この1年以内の川下り経験有無 (問 27)	38
(8) 柳川市の水辺の景観や掘割が保全されていると感じる度合い (問 28)	42
3. ブランド化について	46
(1) 「柳川ブランド認定品」の認知度 (問 19)	46
4. 市の広報活動について	50
(1) 柳川市からの情報発信に対する満足度 (問 20)	50
(2) 広報やながわの発行について、妥当だと思う回数 (問 21)	54
(3) テレビのKBC d ボタンで見る柳川市の情報についての視聴度合い (問 22)	58
(4) よく利用するSNS (問 23)	62
5. 移動環境・手段について	66
(1) 市内の道路を快適に通行できるかと思う度合い (問 24)	66
(2) 路線バス・電車などの公共交通を利用しようと思う度合い (問 25)	70
(3) 柳川市運行コミュニティバスの認知度 (問 26)	74
6. 生活環境について	78
(1) 柳川市への愛着の度合い (問 5)	78
(2) 人権が守られているかと思う度合い (問 6)	82

(3) 地域活動・地域ボランティアへの参加有無 (問 8)	86
(4) 柳川市は子育てしやすい環境であると思う度合い (問 14)	90
7. 学校再編について	94
(1) 学校再編を進めることについての賛否 (問 16)	94
(2) 小学校の望ましいと思う 1 学年あたりの学級数 (問 17)	98
(3) 中学校の望ましいと思う 1 学年あたりの学級数 (問 18)	102
8. ごみ減量について	106
(1) ごみの減量やりサイクルへの関心有無 (問 29)	106
(2) 現在ごみ減量に関して取り組んでいること (問 30)	110
(3) ごみ減量の工夫として取り組んで良いと思うもの (問 31)	114
9. 公共施設の利用について	118
(1) 柳川市の公共施設の利用状況 (問 37)	118
(2) 市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合について思うこと (問 38)	122
(3) 市民が利用する施設の使用料免除制度について思うこと (問 39)	126
(4) 昨年度 1 年間のうち、柳川市役所の利用回数 (問 40)	130
(5) 市役所に用事がある時の利用庁舎 (問 41)	134
10. 住宅用火災警報器について	138
(1) 家族全員の寝室への住宅用火災警報器の設置状況 (問 33)	138
(2) 住宅用火災警報器を設置後、10 年の経過有無 (問 34)	142
(3) 最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認状況 (問 35)	146
(4) 最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認結果 (問 36)	150

IV. 参考資料.....154

1. 自由記述	154
(1) 子育てしやすい(しにくい)と思う点に関する自由記述 (問 15)	154
(2) 学校再編を進めることへの賛否理由 (問 16)	176
(3) 市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由 (問 38)	194
(4) 市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由 (問 39)	208
(5) 柳川市のまちづくりについての自由記述 (問 42)	218
2. 調査票	251

I. 調査の概要

1. 調査の目的

第2次柳川市総合計画後期基本計画に掲げる施策の進捗や各施策分野における市民の実感等を把握するとともに市民の総合的な満足度やそれに寄与する要因を抽出、目標設定の基礎資料とするため調査及び調査結果に対する分析を実施する。

2. 調査設計

- (1) 調査地域 柳川市全域
- (2) 調査対象者 市内に居住する18歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000 サンプル
※住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 標本抽出台帳 令和3年7月現在の選挙人名簿
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 令和3年8月10日～令和3年8月31日
- (7) 回収数(率) 1,060 サンプル (53.0%)
- (8) 調査主体 柳川市 総務部 企画課
- (9) 居住地域分類 校区は下記の通り

中学校区	柳城	昭代	蒲池	柳南	大和	三橋
小学校区	柳河 城内 東宮永	昭代第一 昭代第二	蒲池	矢留 両開	皿垣 有明 中大 六島 大豊 豊原	藤吉 矢ヶ部 二ツ河 垂見 中山

3. 調査主体

- 調査担当課 柳川市 総務部 企画課
- 調査実施機関 株式会社 サーベイリサーチセンター

【 調査結果利用上の注意 】

<p>(1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。</p> <p>(2) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。</p> <p>(3) 数表、図表に示す選択肢は、スペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。</p> <p>(4) サンプル数が10サンプル未満となる属性項目(年代別:10代)については、比率が変動しやすいため、参考程度の掲載にとどめ、分析からは除外している。</p> <p>(5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』としている。</p>
--

Ⅱ. 調査結果の概要

本調査の設問は、概ね9つの分野に大別される。調査結果の概要は、分野ごとに、市民のニーズや今後の取り組むべき方針等をまとめた。

1. 歴史・文化・景観に関連する結果について…問 7、9、10、11、12、13、27、28

県内有数の観光地である本市について、観光客へのおもてなしをして良かったと思う度合い（問7）は、「大いに感じた」（12.1%）、「多少感じた」（31.8%）を合わせて43.9%と、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前回より15.3ポイント上昇している。反対の回答である「おもてなしの機会がなかった」（38.3%）は前回より21.3ポイント低下している。ただ、おもてなしをして良かったと『感じた』割合は地域によって大きな差がある。

本市の歴史や伝統文化の認知状況（問9）をみると、「知っている」（11.9%）と「少し知っている」（66.4%）を合わせた割合は78.3%に達している。

また、本市の歴史や伝統文化への愛着・誇りの度合い（問10）では、「大いに感じる」（23.5%）と「多少感じる」（59.5%）を合わせた割合は83.0%に達し、前回と比べて横ばいではあるものの、わずかに上昇している。

一方で、NHK 大河ドラマ招致活動を行っている柳川初代藩主「立花宗茂」とその妻「閨千代」の認知度（問11）については、「エピソードも含めよく知っている」（6.6%）と「ある程度知っている」（34.5%）を合わせて41.1%と半数に満たず、前回から0.4ポイント減少している。居住校区や年代によっても差が生じているが、「名前は聞いたことがある」（43.6%）と答えた人は、20～50歳代では各年代で約半数を占めている。

次に、文化芸術活動が盛んに行われていると思う度合い（問12）をみると、「そう思う」（5.5%）と「どちらかといえばそう思う」（27.9%）を合わせた割合は33.4%で、いずれの回答も大きな変化はない。また、反対意見より13.5ポイント上回っているものの、「どちらともいえない」が44.2%と、前回同様、多くの市民に活動が認知されていないことが分かる。

次に、本市の水辺の景観や掘割が保全されていると感じる度合い（問28）では、「そう思う」（9.8%）、「どちらかといえばそう思う」（39.5%）を合わせた割合は49.3%で、反対意見より28.8ポイント高くなっている。しかし、『そう思わない』の割合をみると、年代別では18～20歳代、40歳代が特に高くなっている。また、「どちらともいえない」では20代で特に高くなっており、前回同様、若年層を中心にした理解促進策等が必要であると見受けられる。

柳川市観光の目玉ともいえる、この1年以内の川下り経験有無（問27）については過去1年以内に川下りをした人の割合は6.0%とかなり低く、前回からもやや下がっており、市民の川下り離れの傾向が続いている。

また、柳川市民文化会館「水都やながわ」の訪問目的（問13）をみると、「音楽鑑賞」（6.6%）が最も高く、「講演会」（4.2%）、「会議」（2.9%）、「美術鑑賞」（2.2%）、「その他」（14.0%）と続く。「その他」の中では「確定申告」が最も多く挙げられている。一方で「行ったことがない」は67.7%と、半数以上の人に行く機会そのものがまだなく、市民文化会館での催事の周知にはまだ余地があるとうかがえる。

多くの市民が、市の歴史や文化に対して愛着や誇りを持ち、景観についても維持されていると思いながらも、前回に引き続き、立花宗茂など特定の人物への理解度や文化芸術活動の状況などについては、依然として認知度が低いことが分かる。

また、観光客をおもてなししたことのある市民は前回より増えたものの、本市の観光の主だったアクティビティとなっている川下りの過去1年以内に経験はないという市民がまだ多い。新型コロナウイルス感染症流行による余波は続くものの、歴史文化ならびに文化芸術活動の認知度上昇により、市民と観光客との交流促進の機会は広げられると考えられる。

2. 地産地消やブランド化に関連する結果について…問19

本市の商品で品質が高評価である「柳川ブランド認定品」の認知度（問19）をみると、「あまり知らない」が40.8%と最も高く、「全く知らない」の13.4%を合わせた割合は54.2%となっており認知度は低いものの、前回調査からは上がっている。また、年代別にみると、前回同様、30代以下の認知度が低く、若年層を対象とした広報や周知による開拓が引き続き必要であると思われる。

Ⅱ. 調査結果の概要

3. 市の広報活動に関連する結果について…問 20、21、22、23

本市からの情報発信に対する満足度（問 20）をみると、「どちらでもない」が 52.3%で最も高い。また、「満足している」（4.6%）、「どちらかといえば満足している」（29.5%）を合わせた割合は 34.1%で、「どちらかといえば不満である」（8.9%）、「不満である」（2.5%）を合わせた割合（11.4%）を 22.7 ポイント上回っており、不満を持っている人の割合は低い結果となっている。前回調査と比較すると、『満足している』はやや高くなったが、『不満である』もやや上がっている。年代別にみると、『満足している』の割合が高くなっているのは 50 代以上、「どちらでもない」の割合が高くなっているのは 40 代以下となっている。

また、現時点で月に 2 回発行されている「広報やながわ」について妥当だと思う回数（問 21）をみると、「月に 1 回」（67.1%）が最も高くなっている。「見ていないから分からない」は 5.1%のため、多くの市民が広報紙を読んでいることがうかがえるものの、発行回数については検討の余地があると考えられる人が多いと見受けられる。年代別では、「月に 1 回」の割合が最も高いのは 30 歳代で、「月に 2 回」が最も高いのは 70 歳以上となっている。

テレビの K B C d ボタンで見る柳川市の情報についての視聴度合い（問 22）をみると、「たまに見る」（35.4%）が最も高く、「よく見る」（12.2%）を足した割合は 47.6%と、約半数の人が見ていることが分かる。年代別では 10～30 歳代で「知らない」の割合が高く、年代によって差が生じている。また、利用者が年々増加している SNS について、よく利用する SNS を尋ねたところ（問 23）、「LINE」（50.7%）が最も高く過半数を占めている。年代別では、20～30 歳代の「Instagram」利用が目立つ。一方で、年代が上がるにつれて「SNS を利用しない」の割合が高まり、70 歳代では半数を超えている。これらのことから、年代によってテレビと SNS の視聴・利用度合いが異なっていることが分かる。年代に合わせた情報発信の方法や周知を図る取り組みが必要であることがうかがえる。

4. 移動環境・手段に関連する結果について…問 24、25、26

市内の道路を快適に通行できると思う度合い（問 24）は「そう思う」（7.7%）と「どちらかといえばそう思う」（29.4%）を合わせれば、37.1%となっており、反対の回答と比較すると 8.2 ポイント上回っているものの、前回調査からは 21.6 ポイントと大きく低下している。また、60 代以上の『そう思う』の割合は他の年代と比べて低い。居住地域による差も見受けられる。

また、外出する際、路線バス・電車などの公共交通を利用しようと思う度合い（問 25）をみると、「よく思う」（12.1%）と「たまに思う」（34.3%）を合わせた割合は 46.4%で、「あまり思わない」（33.4%）と「全く思わない」（19.0%）を合わせた割合（52.4%）を 6.0 ポイント下回っており、前回調査に引き続き、市民の半数が公共交通を利用しようと思っていない結果になっている。なかでも『思わない』の割合は 30 歳代が 65.5%で最も高く、40 歳代の 57.3%、60 歳代の 55.7%が続いており、自家用車を所有すると考えられる働き盛りの世代やミドルシニアの公共交通の利用意向が低い傾向がみられる。

本市運行コミュニティバスの認知度（問 26）をみると、「路線・ダイヤなど含めよく知っている」（3.0%）、「ある程度知っている」（50.8%）を合わせた割合は 53.8%と約半数を占めるが、前回調査と比較すると 4.2 ポイント低くなっている。また年代別では 18～30 歳代の『知らない』の割合が特に高く、居住校区別にみても認知度に差があり、引き続き周知を行う余地があると思える。

Ⅱ. 調査結果の概要

5. 生活環境に関連する結果について…問 5、6、8、14

本市への愛着の度合い（問5）は「大いに感じる」（23.4%）と「多少感じる」（43.7%）を合わせると67.1%となっているが、前回の調査と比較すると8.9ポイント低くなっている。

人権が守られていると思う度合い（問6）は「そう思う」（12.1%）、「どちらかと言えばそう思う」（36.9%）を合わせて49.0%となっており、前回の調査より12.8ポイント高くなっている。一方、「どちらともいえない」（41.9%）は前回より12.7ポイント下がっているものの、4割を占めていることから、引き続き人権教育及び啓発が必要なことがうかがえる。

地域活動・地域ボランティアへの参加有無（問8）は「参加している」は38.0%となっており、前回調査と比較すると横ばいだが、わずかながら1.2ポイント低下している。年代が上がるにつれて参加率は上がっているが、若年層の中でもとりわけ20代は7.5%と非常に低くなっている。

本市は子育てしやすい環境であると思う度合い（問14）は、「そう思う」（7.8%）、「どちらかと言えばそう思う」（25.8%）を合わせた『そう思う』（33.6%）と、「どちらかといえばそう思わない」（10.2%）、「そう思わない」（6.7%）を合わせた『そう思わない』（16.9%）となっており『そう思う』が16.7ポイント高くなっている。18歳以下の子どもがいる市民でみると、『そう思う』の割合は32.7%と、『そう思わない』（29.9%）と拮抗するなど、子育て世代の半数でも評価が分かれている。また、居住校区别では校区によって差が大きく生じている。『そう思わない』層の自由意見をみると、子どもが遊べる公園が少ない、保育料・学童料が高い、医療費の負担が大き、希望する保育園に入所できない、通学路の安全性の低さ、市の施策の中で子育ての優先順位が低いなど、近隣の市町と比べての不満が多くなっている。

6. 学校再編に関連する結果について…問 16、17、18

学校再編を進めることについての賛否（問16）は「どちらでもない」（53.3%）が最も高く、「賛成」は27.8%となっている。18歳以下の子どもがいる人の「賛成」の割合（33.2%）はいない人より7.1ポイント上がっている。小学校区・中学校区別でみると、地域による差が見受けられるものの、半数近くの人が賛否決めかねている状況であることがうかがえる。

小学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数（問17）は、「2～3クラス」（77.4%）が最も高く、50代の86.5%をピークに年代が上下するにつれて低くなっている。しかし、小学校区別では校区によって差が生じているため、該当地域によって検討する必要がある。

また、中学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数（問18）は、「3～5クラス」（79.9%）が最も高く、特に20代では92.5%に達している。小学校の学級数とは異なり、中学校区別による大きな差は見受けられない。

7. ごみ減量に関連する結果について…問 29、30、31

ごみの減量やリサイクルへの関心有無（問 29）は「ある」（85.0％）が最も高く、年代別では年代が上がるにつれて割合も上がっており、関心の高さがうかがえる。

実際に現在ごみ減量に関して取り組んでいること（問 30）としては、「買い物の際にマイバックを使用している」（87.6％）、「水切りネットを使用している」（57.6％）、「飲料用マイボトルを使用している」（45.9％）、「紙袋を紙ごみ用の袋として使用している」（45.8％）と続き、ポリ袋の使用頻度の減少や、日用品を活用した取り組みが多く挙げられている。「その他」（5.2％）の内訳では、「ごみ分別の徹底」や「生ごみの自家処理」、「リサイクル」など、自宅でのごみ処理や物の使用・購入方法の工夫に関する回答が多くなっている。また、女性のほうがマイバックやマイボトル、紙袋の使用などエコアイテムや日用品のリサイクルについての回答率が高い傾向がうかがえる。

ごみ減量の工夫として取り組んで良いと思うもの（問 31）としては、「買い物の際にマイバックの使用」（66.0％）、「水切りネットの使用」（47.9％）、「飲料用マイボトルの使用」（47.8％）など、現在実践されていること且つ自宅内外で取り組みやすいものが上位となっている。また、全体の回答数は低い「フードバンクの利用」（17.7％）では、18歳以下の子どもがいる人の割合が、いない人よりも 11.8 ポイント高く、食品ロスや貧困問題への意識の高さがうかがえる。

8. 公共施設の利用に関連する結果について

①公共施設の利用状況について…問 37、38、39

本市の公共施設の利用状況（問 37）は「利用していない」（80.8%）が最も高く、「週に1回程度利用している」（4.7%）、「月に複数回利用している」（6.8%）、「月に1回程度利用している」（5.7%）を足した割合は17.2%と、約8割の人が利用していないことが分かる。年代別では、40代ならびに60歳以上の『利用している』の割合が高い傾向にあり、20～30代や50代は低くなっている。また、居住校区によっても違いが生じており、利用促進の余地が大きいとかがえる。

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合について思うこと（問 38）は、「現状のままで良い」（48.3%）が最も高い。しかし、「施設利用者の負担割合（使用料）を増やすべき」（12.5%）と「どちらかといえば施設利用者の負担割合（使用料）を増やすべき」（20.8%）を足した割合（以降、『増やすべき』と表記）は33.3%と、約3割に達している。特に30～50代の割合が高く、若年層に使用料の負担割合に疑問を抱く人が多い傾向が見受けられる。また、『増やすべき』と答えた人の自由回答をみると、市の財政負担軽減のため、使用頻度の高い人に負担してもらいたい、自身が利用していないから、など、市税の使用用途や利用していない市民にとっての不公平感に関する意見・不満が多く挙げられている。

一方で、市民が利用する施設の使用料免除制度について思うこと（問 39）は、「現状のままで良い」（47.9%）が最も高く、「使用料は減額するが、一定程度の使用料は支払うべき」（25.9%）、「通常の使用料を支払うべき」（15.3%）と続く。『通常または一定程度の使用料を支払うべき』と答えた人の自由回答では、維持管理経費の負担割合に関する意見と同様に、市税の負担軽減、利用しない市民にとっての不公平感、全額免除にすると悪用される可能性がある、などの意見が多い。施設の使用料に関して、普段利用していない市民の理解を得られるよう、内訳や免除対象の詳細の周知を促す取り組みが必要であることがうかがえる。

②柳川市役所の利用状況について…問 40、41

昨年度1年間のうち、柳川市役所の利用回数（問 40）は、「1～2回」（38.7%）が最も高く、「3～5回」（31.9%）、「6～10回」（10.0%）が続く。1回でも利用したことがある人は全体の85.0%となり、多くの人を訪れていることが分かる。

また、市役所に用事がある時の利用庁舎（問 41）は、「柳川庁舎」（76.1%）が最も高く、「大和庁舎」は19.1%、「三橋庁舎」は20.8%となっている。居住校区別にみると、校区に沿って利用庁舎の割合が分散されていることが分かる。市民部や保健福祉部が集まる柳川庁舎を中心に、居住地の近隣にある庁舎が合わせて利用されていることがうかがえる。

9. 火災警報器に関連する結果について…問 33、34、35、36

家族全員の寝室への住宅用火災警報器の設置状況（問 33）をみると、「一部設置している」（34.2%）で最も高い。次に高いのが「全て設置している」（32.3%）で、双方を合わせた割合は 66.5%を占めている。火災警報器の設置は十分ではないため、設置を促す取り組みが必要ではあるものの、前回調査と比較すると「設置していない」の割合は 3.2 ポイント減り、わずかではあるが改善されている。18 歳以下の子どもがいる人の「全て設置している」割合は、いない人よりも約 1 割上回っている。

住宅用火災警報器を設置後、10 年の経過有無（問 34）をみると、「10 年経過していない」（39.4%）が最も高く、「途中交換し 10 年経過していない」（10.4%）を足した割合は 49.8%と、約半数を占めている。年代別では、「10 年経過している」の割合は 70 歳代が最も高く、年代が上がるにつれて交換しないまま使用している傾向にあるとみられる。

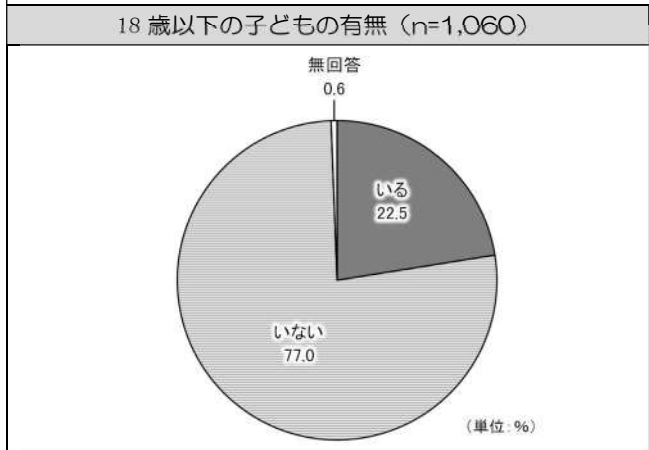
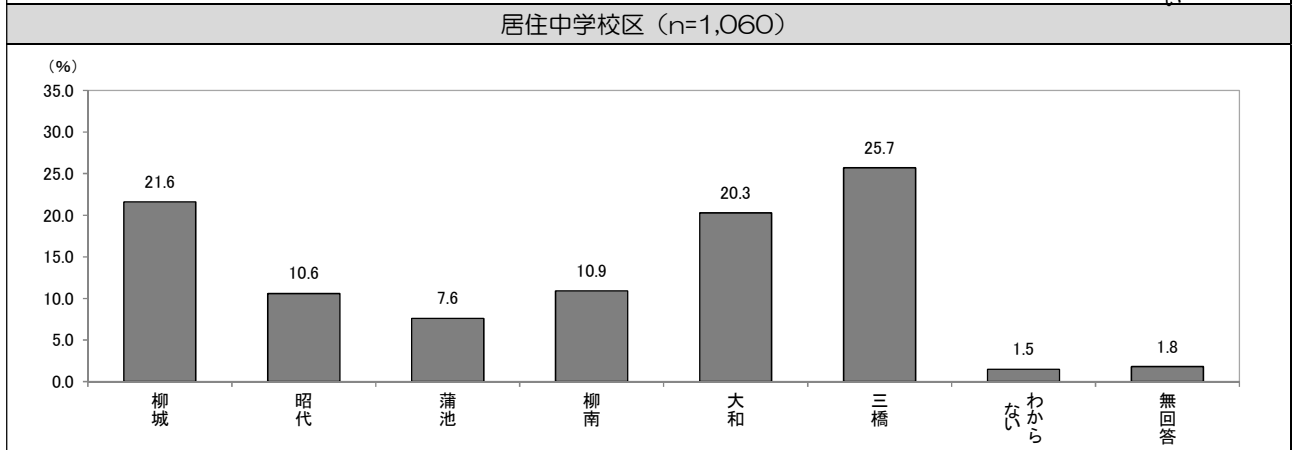
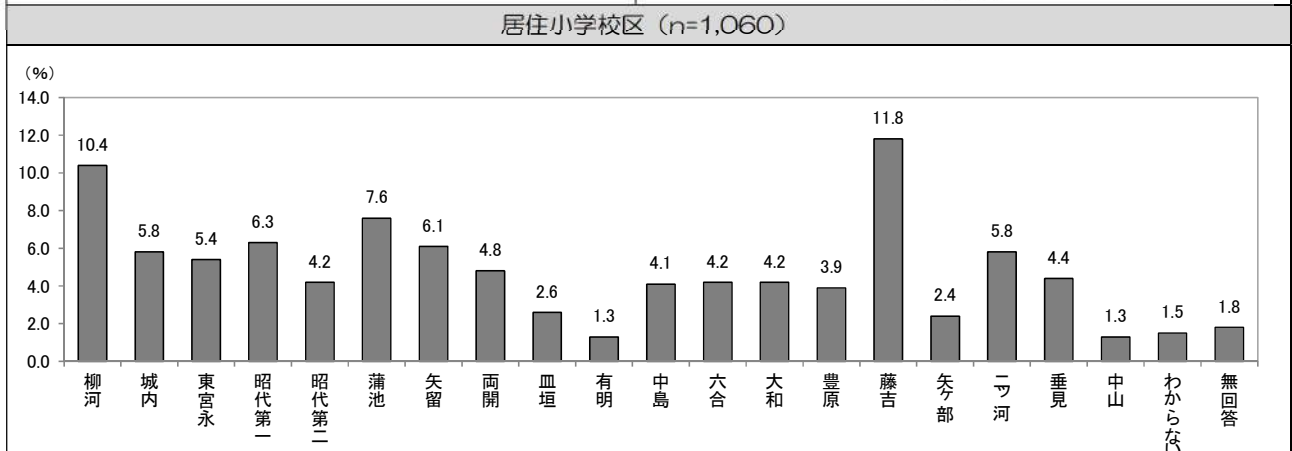
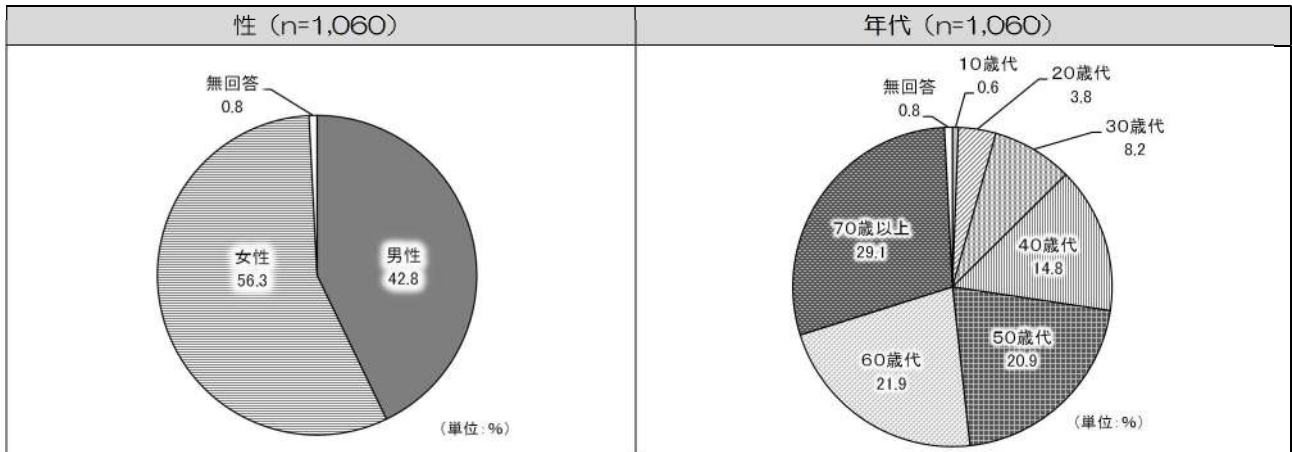
また、最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認状況（問 35）をみると、「実施していない」が 62.8%で最も高く、以下、「実施した」（19.4%）、「分からない」（5.1%）、「実施予定である」（2.7%）の順となっており、過半数の人が設置後の作動確認を行っていないことが分かる。年代別にみると、「実施した」の割合は 60 歳以上で高くなっている。「実施していない」の割合は 20 歳代および 40 歳代、「分からない」の割合は 30 歳代以下で特に高くなっている。若年層では火災警報器の経年劣化の割合は低いが生動確認が行き渡っておらず、高年層ではその反対の傾向が見られるため、まずは作動確認の推進ならびに周知させる取り組みが必要と思われる。

また、最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認結果（問 36）をみると、「異常なし」（90.5%）で最も高くなっている。

Ⅲ. 調査結果

Ⅲ. 調査結果

1. 基本属性



Ⅲ. 調査結果

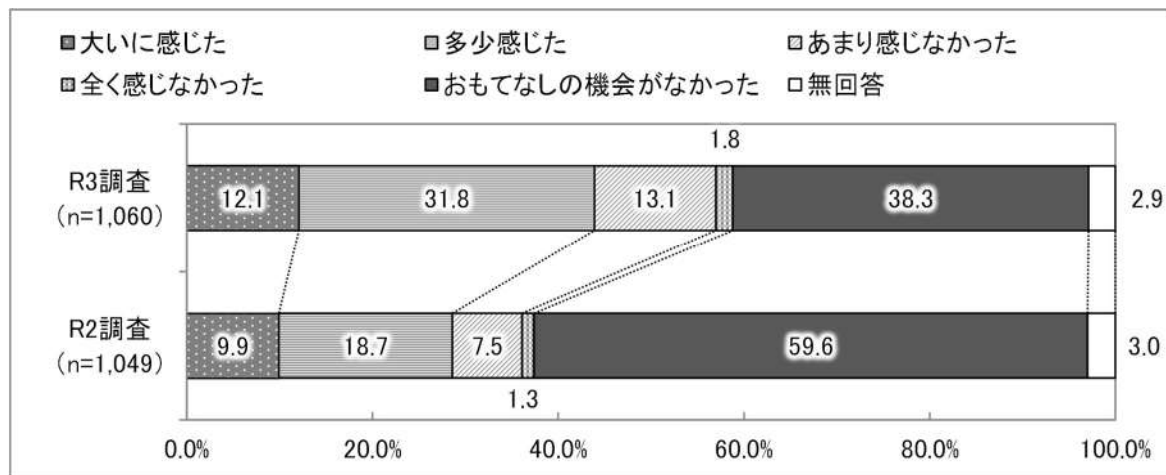
2. 歴史・文化・景観について

(1) 観光客へのおもてなしをして良かったと思う度合い (問7)

問7. 観光客などに対しておもてなしをして良かったと感じますか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「おもてなしの機会がなかった」で38.3%。

「大いに感じた」「多少感じた」の合計「感じた」は43.9%と、前年から15.3ポイント上昇。



■観光客へのおもてなしについて、最も高かった割合は「おもてなしの機会がなかった」で38.3%だった。以下、割合が高い順に、「多少感じた」(31.8%)、「あまり感じなかった」(13.1%)、「大いに感じた」(12.1%)と「全く感じなかった」(1.8%)。

また、「大いに感じた」と「多少感じた」を合わせた『感じた』の割合は43.9%で、「あまり感じなかった」と「全く感じなかった」を合わせた『感じなかった』の14.9%より29.0ポイント上回っている。

■令和2年度調査と比較すると、「おもてなしの機会がなかった」の割合は21.3ポイント低くなっている。

『感じなかった』の割合に大きな差は見られないが、『感じた』の割合は令和2年度の28.6%より15.3ポイント高くなっている。

(問7) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	大いに感じた	多少感じた	あまり感じなかった	全く感じなかった	おもてなしの機会がなかった	無回答	『感じた』	『感じなかった』
(上段：件数、下段：%)										
全体		1,060 100.0	128 12.1	337 31.8	139 13.1	19 1.8	406 38.3	31 2.9	465 43.9	158 14.9
性別	男性	454 100.0	51 11.2	135 29.7	67 14.8	9 2.0	178 39.2	14 3.1	186 40.9	76 16.8
	女性	597 100.0	75 12.6	202 33.8	69 11.6	9 1.5	225 37.7	17 2.8	277 46.4	78 13.1
	無回答	9 100.0	2 22.2	0 -	3 33.3	1 11.1	3 33.3	0 -	2 22.2	4 44.4
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	0 -	0 -	0 -	5 83.3	0 -	1 16.7	0 -
	20代	40 100.0	4 10.0	14 35.0	5 12.5	0 -	16 40.0	1 2.5	18 45.0	5 12.5
	30代	87 100.0	16 18.4	25 28.7	12 13.8	1 1.1	31 35.6	2 2.3	41 47.1	13 14.9
	40代	157 100.0	23 14.6	59 37.6	19 12.1	5 3.2	48 30.6	3 1.9	82 52.2	24 15.3
	50代	222 100.0	24 10.8	66 29.7	41 18.5	4 1.8	82 36.9	5 2.3	90 40.5	45 20.3
	60代	232 100.0	20 8.6	83 35.8	29 12.5	4 1.7	86 37.1	10 4.3	103 44.4	33 14.2
	70代以上	308 100.0	38 12.3	89 28.9	32 10.4	4 1.3	136 44.2	9 2.9	127 41.2	36 11.7
	無回答	8 100.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	38 16.0	82 34.5	31 13.0	4 1.7	77 32.4	6 2.5	120 50.5	35 14.7
	いない	816 100.0	88 10.8	255 31.3	107 13.1	14 1.7	327 40.1	25 3.1	343 42.1	121 14.8
	無回答	6 100.0	2 33.3	0 -	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0 -	2 33.3	2 33.4

<性別>

『感じなかった』と「おもてなしの機会がなかった」の割合は男性がやや高く、『感じた』の割合は女性が高かった。

<年代別>

「おもてなしの機会がなかった」の割合は70歳以上が最も高く44.2%。『感じた』の割合については、40代が他の年代よりも高く、52.2%と唯一5割を超えた。

<18歳以下の子どもの有無別>

『感じた』の割合は、「いる」と答えた人が50.5%で、「いない」と答えた人よりも8.4ポイント高かった。

「おもてなしの機会がなかった」の割合は、「いない」と答えた人のほうが「いる」と答えた人よりも7.7ポイント高い40.1%だった。

Ⅲ. 調査結果

(問7) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	大いに感じた	多少感じた	あまり感じなかった	全く感じなかった	なおもてなしの機会がなかった	無回答	『感じた』	『感じなかった』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	128 12.1	337 31.8	139 13.1	19 1.8	406 38.3	31 2.9	465 43.9	158 14.9
居住小学校区別	柳河	110 100.0	15 13.6	40 36.4	18 16.4	3 2.7	29 26.4	5 4.5	55 50.0	21 19.1
	城内	62 100.0	9 14.5	26 41.9	9 14.5	3 4.8	15 24.2	0	35 56.4	12 19.3
	東宮永	57 100.0	7 12.3	18 31.6	6 10.5	0	26 45.6	0	25 43.9	6 10.5
	昭代第一	67 100.0	8 11.9	24 35.8	8 11.9	1 1.5	26 38.8	0	32 47.7	9 13.4
	昭代第二	45 100.0	5 11.1	16 35.6	1 2.2	1 2.2	19 42.2	3 6.7	21 46.7	2 4.4
	蒲池	81 100.0	6 7.4	29 35.8	8 9.9	0	33 40.7	5 6.2	35 43.2	8 9.9
	矢留	65 100.0	8 12.3	30 46.2	9 13.8	0	15 23.1	3 4.6	38 58.5	9 13.8
	両開	51 100.0	5 9.8	12 23.5	6 11.8	1 2.0	26 51.0	1 2.0	17 33.3	7 13.8
	皿垣	28 100.0	3 10.7	9 32.1	5 17.9	0	9 32.1	2 7.1	12 42.8	5 17.9
	有明	14 100.0	2 14.3	3 21.4	2 14.3	0	6 42.9	1 7.1	5 35.7	2 14.3
	中島	43 100.0	4 9.3	8 18.6	10 23.3	1 2.3	18 41.9	2 4.7	12 27.9	11 25.6
	六合	44 100.0	4 9.1	13 29.5	11 25.0	0	15 34.1	1 2.3	17 38.6	11 25.0
	大和	45 100.0	6 13.3	9 20.0	7 15.6	2 4.4	20 44.4	1 2.2	15 33.3	9 20.0
	豊原	41 100.0	1 2.4	12 29.3	9 22.0	0	16 39.0	3 7.3	13 31.7	9 22.0
	藤吉	125 100.0	16 12.8	46 36.8	14 11.2	2 1.6	45 36.0	2 1.6	62 49.6	16 12.8
	矢ヶ部	25 100.0	3 12.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0	15 60.0	0	6 24.0	4 16.0
	二ッ河	61 100.0	11 18.0	18 29.5	4 6.6	1 1.6	27 44.3	0	29 47.5	5 8.2
	垂見	47 100.0	6 12.8	12 25.5	5 10.6	0	23 48.9	1 2.1	18 38.3	5 10.6
	中山	14 100.0	4 28.6	3 21.4	1 7.1	1 7.1	5 35.7	0	7 50.0	2 14.2
	わからない	16 100.0	3 18.8	3 18.8	1 6.3	0	8 50.0	1 6.3	6 37.6	1 6.3
	無回答	19 100.0	2 10.5	3 15.8	3 15.8	1 5.3	10 52.6	0	5 26.3	4 21.1
居住中学校区別	柳城	229 100.0	31 13.5	84 36.7	33 14.4	6 2.6	70 30.6	5 2.2	115 50.2	39 17.0
	昭代	112 100.0	13 11.6	40 35.7	9 8.0	2 1.8	45 40.2	3 2.7	53 47.3	11 9.8
	蒲池	81 100.0	6 7.4	29 35.8	8 9.9	0	33 40.7	5 6.2	35 43.2	8 9.9
	柳南	116 100.0	13 11.2	42 36.2	15 12.9	1 0.9	41 35.3	4 3.4	55 47.4	16 13.8
	大和	215 100.0	20 9.3	54 25.1	44 20.5	3 1.4	84 39.1	10 4.7	74 34.4	47 21.9
	三橋	272 100.0	40 14.7	82 30.1	26 9.6	6 2.2	115 42.3	3 1.1	122 44.8	32 11.8
	わからない	16 100.0	3 18.8	3 18.8	1 6.3	0	8 50.0	1 6.3	6 37.6	1 6.3
	無回答	19 100.0	2 10.5	3 15.8	3 15.8	1 5.3	10 52.6	0	5 26.3	4 21.1

<中学校区別>

『感じた』の割合が最も高いのは柳城の 50.2%で、柳南 (47.4%)、昭代 (47.3%) と続く。最も低かったのは大和で 34.4%。

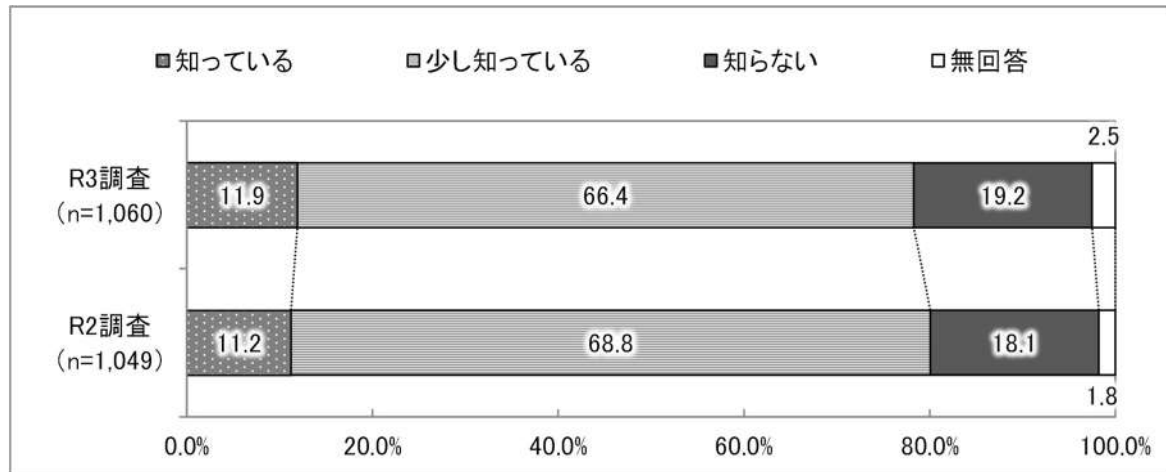
Ⅲ. 調査結果

(2) 柳川市の歴史や伝統文化の認知状況（問9）

問9. 柳川市の歴史や伝統文化を知っていますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「少し知っている」で66.4%。

「知っている」「少し知っている」の合計「知っている」の割合はやや減ったものの横ばい。



■柳川市の歴史や伝統文化の認知状況について、最も高かった割合は「少し知っている」で66.4%だった。以下、割合が高い順に、「知らない」（19.2%）、「知っている」（11.9%）。

また、「知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』の割合は78.3%で、「知らなかった」19.2%より「知っている」が59.1ポイント上回っている。

■令和2年度調査と比較すると、大きな差は見られないが、『知っている』の割合は1.7ポイント低くなっている。

(問9) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	知っている	少し知っている	知らない	無回答	『知っている』
(上段：件数、下段：%)							
全体		1,060 100.0	126 11.9	704 66.4	204 19.2	26 2.5	830 78.3
性別	男性	454 100.0	74 16.3	284 62.6	87 19.2	9 2.0	358 78.9
	女性	597 100.0	51 8.5	413 69.2	117 19.6	16 2.7	464 77.7
	無回答	9 100.0	1 11.1	7 77.8	0 -	1 11.1	8 88.9
年代別	10代	6 100.0	0 -	3 50.0	3 50.0	0 -	3 50.0
	20代	40 100.0	3 7.5	20 50.0	17 42.5	0 -	23 57.5
	30代	87 100.0	9 10.3	54 62.1	23 26.4	1 1.1	63 72.4
	40代	157 100.0	23 14.6	95 60.5	36 22.9	3 1.9	118 75.1
	50代	222 100.0	21 9.5	158 71.2	39 17.6	4 1.8	179 80.7
	60代	232 100.0	24 10.3	156 67.2	47 20.3	5 2.2	180 77.5
	70代以上	308 100.0	45 14.6	212 68.8	39 12.7	12 3.9	257 83.4
	無回答	8 100.0	1 12.5	6 75.0	0 -	1 12.5	7 87.5
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	32 13.4	155 65.1	47 19.7	4 1.7	187 78.5
	いない	816 100.0	93 11.4	545 66.8	157 19.2	21 2.6	638 78.2
	無回答	6 100.0	1 16.7	4 66.7	0 -	1 16.7	5 83.4

<性別>

大きな差は見られないが、『知っている』の割合は男性がやや高かった。

<年代別>

『知っている』の割合は30代以上がそれぞれ7割を超えていた。一方、20代以下では「知らない」が4割以上と、他の年代よりも高かった。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな違いは見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(問9) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	知っている	少し知っている	知らない	無回答	『知っている』
(上段：件数、下段：%)							
全 体		1,060 100.0	126 11.9	704 66.4	204 19.2	26 2.5	830 78.3
居住小学校区別	柳河	110 100.0	20 18.2	68 61.8	18 16.4	4 3.6	88 80.0
	城内	62 100.0	9 14.5	47 75.8	6 9.7	0 -	56 90.3
	東宮永	57 100.0	7 12.3	39 68.4	10 17.5	1 1.8	46 80.7
	昭代第一	67 100.0	7 10.4	48 71.6	11 16.4	1 1.5	55 82.0
	昭代第二	45 100.0	4 8.9	29 64.4	9 20.0	3 6.7	33 73.3
	蒲池	81 100.0	10 12.3	52 64.2	17 21.0	2 2.5	62 76.5
	矢留	65 100.0	6 9.2	49 75.4	8 12.3	2 3.1	55 84.6
	両開	51 100.0	8 15.7	38 74.5	4 7.8	1 2.0	46 90.2
	皿垣	28 100.0	3 10.7	16 57.1	8 28.6	1 3.6	19 67.8
	有明	14 100.0	0 -	10 71.4	4 28.6	0 -	10 71.4
	中島	43 100.0	7 16.3	23 53.5	12 27.9	1 2.3	30 69.8
	六合	44 100.0	1 2.3	32 72.7	10 22.7	1 2.3	33 75.0
	大和	45 100.0	4 8.9	29 64.4	11 24.4	1 2.2	33 73.3
	豊原	41 100.0	3 7.3	29 70.7	7 17.1	2 4.9	32 78.0
	藤吉	125 100.0	11 8.8	94 75.2	19 15.2	1 0.8	105 84.0
	矢ヶ部	25 100.0	5 20.0	15 60.0	4 16.0	1 4.0	20 80.0
	二ッ河	61 100.0	8 13.1	37 60.7	15 24.6	1 1.6	45 73.8
	垂見	47 100.0	10 21.3	25 53.2	10 21.3	2 4.3	35 74.5
	中山	14 100.0	1 7.1	8 57.1	5 35.7	0 -	9 64.2
	わからない	16 100.0	1 6.3	5 31.3	10 62.5	0 -	6 37.6
	無回答	19 100.0	1 5.3	11 57.9	6 31.6	1 5.3	12 63.2
居住中学校区別	柳城	229 100.0	36 15.7	154 67.2	34 14.8	5 2.2	190 82.9
	昭代	112 100.0	11 9.8	77 68.8	20 17.9	4 3.6	88 78.6
	蒲池	81 100.0	10 12.3	52 64.2	17 21.0	2 2.5	62 76.5
	柳南	116 100.0	14 12.1	87 75.0	12 10.3	3 2.6	101 87.1
	大和	215 100.0	18 8.4	139 64.7	52 24.2	6 2.8	157 73.1
	三橋	272 100.0	35 12.9	179 65.8	53 19.5	5 1.8	214 78.7
	わからない	16 100.0	1 6.3	5 31.3	10 62.5	0 -	6 37.6
	無回答	19 100.0	1 5.3	11 57.9	6 31.6	1 5.3	12 63.2

<中学校区別>

『知っている』の割合が最も高いのは柳南の87.1%で、柳城(82.9%)、三橋(78.7%)と続く。最も低かったのは大和で73.1%。

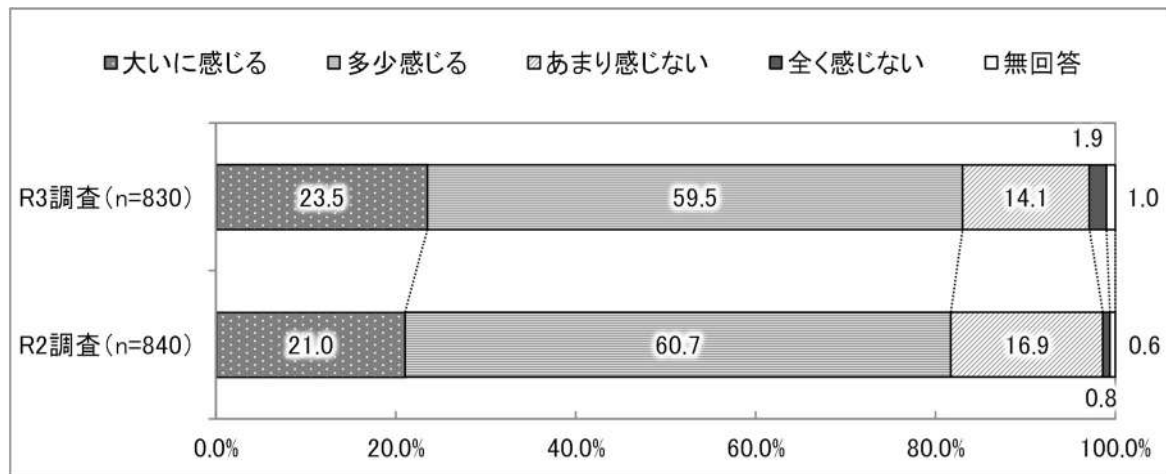
Ⅲ. 調査結果

(3) 柳川市の歴史や伝統文化への愛着・誇りの度合い（問 10）

問 10. 柳川市の歴史や伝統文化に愛着や誇りを感じますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「多少感じる」で 59.5%。

「大いに感じる」「多少感じる」の合計「感じる」は 83.0%と、前年とほぼ横ばい。



■柳川市の歴史や伝統文化に愛着や誇りの度合いについて、最も高かった割合は「多少感じる」で 59.5%だった。以下、割合が高い順に、「大いに感じる」(23.5%)、「あまり感じない」(14.1%)、「全く感じない」(1.9%)。

また、「大いに感じる」と「多少感じる」を合わせた『感じる』の割合は 83.0%で、「あまり感じない」と「全く感じない」を合わせた『感じない』の 16.0%より 67.0 ポイント上回っている。

■令和 2 年度調査と比較すると、『感じる』の割合はほぼ横ばい。

(問 10) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	大いに感じる	多少感じる	あまり感じない	全く感じない	無回答	『感じる』	『感じない』
(上段：件数、下段：%)									
全 体		830 100.0	195 23.5	494 59.5	117 14.1	16 1.9	8 1.0	689 83.0	133 16.0
性別	男性	358 100.0	90 25.1	205 57.3	51 14.2	8 2.2	4 1.1	295 82.4	59 16.4
	女性	464 100.0	102 22.0	285 61.4	65 14.0	8 1.7	4 0.9	387 83.4	73 15.7
	無回答	8 100.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 -	0 -	7 87.5	1 12.5
年代別	10代	3 100.0	1 33.3	0 -	1 33.3	1 33.3	0 -	1 33.3	2 66.6
	20代	23 100.0	5 21.7	13 56.5	3 13.0	2 8.7	0 -	18 78.2	5 21.7
	30代	63 100.0	12 19.0	37 58.7	11 17.5	3 4.8	0 -	49 77.7	14 22.3
	40代	118 100.0	36 30.5	58 49.2	18 15.3	4 3.4	2 1.7	94 79.7	22 18.7
	50代	179 100.0	40 22.3	106 59.2	25 14.0	4 2.2	4 2.2	146 81.5	29 16.2
	60代	180 100.0	35 19.4	119 66.1	23 12.8	1 0.6	2 1.1	154 85.5	24 13.4
	70代以上	257 100.0	63 24.5	158 61.5	35 13.6	1 0.4	0 -	221 86.0	36 14.0
	無回答	7 100.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3	0 -	0 -	6 85.8	1 14.3
の18歳以下の子ども有無	いる	187 100.0	52 27.8	88 47.1	37 19.8	8 4.3	2 1.1	140 74.9	45 24.1
	いない	638 100.0	140 21.9	405 63.5	79 12.4	8 1.3	6 0.9	545 85.4	87 13.7
	無回答	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 -	0 -	4 80.0	1 20.0

<性別>

性別に見ても、大きな差はみられない。

<年代別>

『感じる』の割合については70歳以上の割合が他の年代よりも高く、86.0%。調査数の少ない10代を除き、各年代で約8割の人が『感じる』と答えている。

<18歳以下の子どもの有無別>

『感じる』の割合は、「いない」と答えた人のほうが「いる」と答えた人よりも10.5ポイント高く、8割強となった。

Ⅲ. 調査結果

(問 10) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	大いに感じる	多少感じる	あまり感じない	全く感じない	無回答	『感じる』	『感じない』	
(上段：件数、下段：%)										
全 体		830 100.0	195 23.5	494 59.5	117 14.1	16 1.9	8 1.0	689 83.0	133 16.0	
居住小学校区別	柳河	88 100.0	27 30.7	43 48.9	15 17.0	2 2.3	1 1.1	70 79.6	17 19.3	
	城内	56 100.0	17 30.4	30 53.6	7 12.5	2 3.6	0 -	47 84.0	9 16.1	
	東宮永	46 100.0	8 17.4	27 58.7	9 19.6	1 2.2	1 2.2	35 76.1	10 21.8	
	昭代第一	55 100.0	12 21.8	38 69.1	4 7.3	0 -	1 1.8	50 90.9	4 7.3	
	昭代第二	33 100.0	8 24.2	20 60.6	4 12.1	1 3.0	0 -	28 84.8	5 15.1	
	蒲池	62 100.0	17 27.4	36 58.1	8 12.9	0 -	1 1.6	53 85.5	8 12.9	
	矢留	55 100.0	15 27.3	33 60.0	6 10.9	0 -	1 1.8	48 87.3	6 10.9	
	両開	46 100.0	11 23.9	23 50.0	12 26.1	0 -	0 -	34 73.9	12 26.1	
	皿垣	19 100.0	3 15.8	14 73.7	2 10.5	0 -	0 -	17 89.5	2 10.5	
	有明	10 100.0	0 -	8 80.0	2 20.0	0 -	0 -	8 80.0	2 20.0	
	中島	30 100.0	7 23.3	20 66.7	1 3.3	2 6.7	0 -	27 90.0	3 10.0	
	六合	33 100.0	7 21.2	17 51.5	9 27.3	0 -	0 -	24 72.7	9 27.3	
	大和	33 100.0	9 27.3	16 48.5	7 21.2	0 -	1 3.0	25 75.8	7 21.2	
	豊原	32 100.0	6 18.8	18 56.3	6 18.8	1 3.1	1 3.1	24 75.1	7 21.9	
	藤吉	105 100.0	23 21.9	72 68.6	6 5.7	3 2.9	1 1.0	95 90.5	9 8.6	
	矢ヶ部	20 100.0	3 15.0	10 50.0	4 20.0	3 15.0	0 -	13 65.0	7 35.0	
	二ッ河	45 100.0	8 17.8	30 66.7	7 15.6	0 -	0 -	38 84.5	7 15.6	
	垂見	35 100.0	6 17.1	25 71.4	3 8.6	1 2.9	0 -	31 88.5	4 11.5	
	中山	9 100.0	3 33.3	5 55.6	1 11.1	0 -	0 -	8 88.9	1 11.1	
	わからない	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 -	0 -	0 -	6 100.0	0 -	
	無回答	12 100.0	3 25.0	5 41.7	4 33.3	0 -	0 -	8 66.7	4 33.3	
	居住中学校区別	柳城	190 100.0	52 27.4	100 52.6	31 16.3	5 2.6	2 1.1	152 80.0	36 18.9
		昭代	88 100.0	20 22.7	58 65.9	8 9.1	1 1.1	1 1.1	78 88.6	9 10.2
		蒲池	62 100.0	17 27.4	36 58.1	8 12.9	0 -	1 1.6	53 85.5	8 12.9
		柳南	101 100.0	26 25.7	56 55.4	18 17.8	0 -	1 1.0	82 81.1	18 17.8
		大和	157 100.0	32 20.4	93 59.2	27 17.2	3 1.9	2 1.3	125 79.6	30 19.1
三橋		214 100.0	43 20.1	142 66.4	21 9.8	7 3.3	1 0.5	185 86.5	28 13.1	
わからない		6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 -	0 -	0 -	6 100.0	0 -	
無回答		12 100.0	3 25.0	5 41.7	4 33.3	0 -	0 -	8 66.7	4 33.3	

<中学校区別>

『感じる』の割合が最も高いのは昭代の 88.6%で、三橋 (86.5%)、蒲池 (85.5%) と続く、最も低い大和でも 79.6%と、各校区で約 8～9 割の人が『感じる』と答えている。

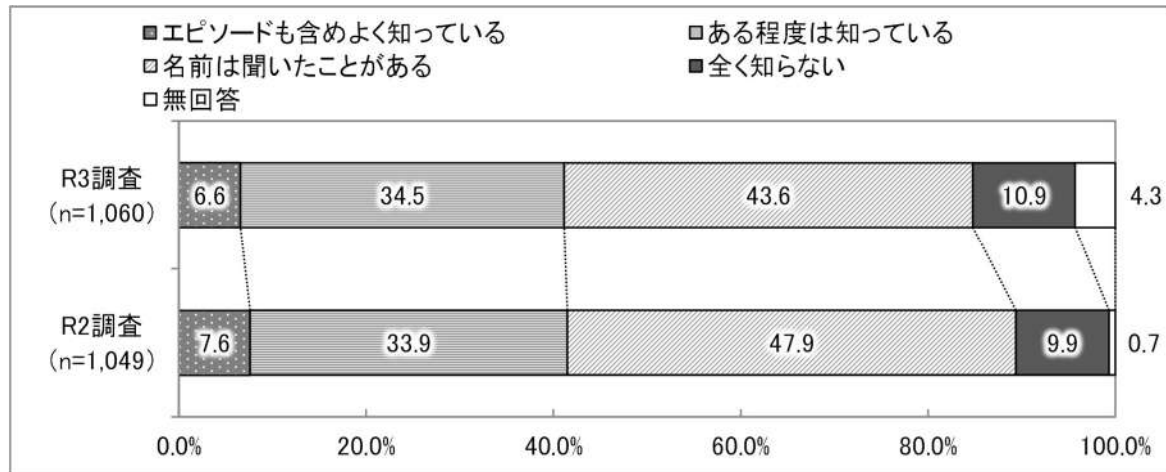
Ⅲ. 調査結果

(4) 柳川初代藩主「立花宗茂」とその妻「閨千代」の認知度（問 11）

問 11. 柳川初代藩主「立花宗茂」とその妻「閨千代」を知っていますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「名前は聞いたことがある」で 43.6%。

認知度は前年よりやや低下したが、約8割を維持。



■柳川初代藩主「立花宗茂」とその妻「閨千代」について、最も高かった割合は「名前は聞いたことがある」で43.6%だった。以下、割合が高い順に、「ある程度は知っている」（34.5%）、「全く知らない」（10.9%）、「エピソードもよく含めて知っている」（6.6%）。

また、「エピソードも含めてよく知っている」と「ある程度は知っている」と「名前は聞いたことがある」を合わせた『知っている』の割合は84.7%で、「全く知らない」の10.9%より73.8ポイントと大きく上回っている。

■令和2年度調査と比較すると、「全く知らない」の割合に大きな差は見られない。『知っている』の割合は令和2年度の89.4%より4.7ポイント低くなったが、約8割の人からは認知されていることがわかった。

(問 11) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	よく知っているも含め	知っている程度は	名前が聞いたことがある	全く知らない	無回答	『知っている』
(上段：件数、下段：%)								
全 体		1,060 100.0	70 6.6	366 34.5	462 43.6	116 10.9	46 4.3	898 84.7
性別	男性	454 100.0	42 9.3	156 34.4	181 39.9	54 11.9	21 4.6	379 83.6
	女性	597 100.0	27 4.5	206 34.5	278 46.6	61 10.2	25 4.2	511 85.6
	無回答	9 100.0	1 11.1	4 44.4	3 33.3	1 11.1	0 -	8 88.8
年代別	10代	6 100.0	0 -	1 16.7	1 16.7	4 66.7	0 -	2 33.4
	20代	40 100.0	2 5.0	8 20.0	19 47.5	9 22.5	2 5.0	29 72.5
	30代	87 100.0	4 4.6	14 16.1	44 50.6	21 24.1	4 4.6	62 71.3
	40代	157 100.0	13 8.3	45 28.7	74 47.1	20 12.7	5 3.2	132 84.1
	50代	222 100.0	16 7.2	70 31.5	105 47.3	20 9.0	11 5.0	191 86.0
	60代	232 100.0	13 5.6	87 37.5	102 44.0	17 7.3	13 5.6	202 87.1
	70代以上	308 100.0	21 6.8	136 44.2	116 37.7	24 7.8	11 3.6	273 88.7
	無回答	8 100.0	1 12.5	5 62.5	1 12.5	1 12.5	0 -	7 87.5
の18歳以下 の有無	いる	238 100.0	13 5.5	76 31.9	101 42.4	38 16.0	10 4.2	190 79.8
	いない	816 100.0	56 6.9	287 35.2	360 44.1	77 9.4	36 4.4	703 86.2
	無回答	6 100.0	1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7	0 -	5 83.4

<性別>

『知っている』の割合は女性がやや高かったが、大きな差は見られない。

<年代別>

『知っている』の割合については70歳以上が最も高く、88.7%。他の年代でも20歳以上はそれぞれ7割以上が認知していることがわかった。

<18歳以下の子どもの有無別>

『知っている』の割合は、「いない」と答えた人のほうが「いる」と答えた人よりも6.4ポイント高い86.2%だった。

Ⅲ. 調査結果

(問 11) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	よく知っている エピソードも含め	ある程度は 知っている	名前はある ことがあ る	全く知らない	無回答	『知っている』
(上段：件数、下段：%)								
全 体		1,060 100.0	70 6.6	366 34.5	462 43.6	116 10.9	46 4.3	898 84.7
居住小学校区別	柳河	110 100.0	10 9.1	39 35.5	41 37.3	16 14.5	4 3.6	90 81.9
	城内	62 100.0	7 11.3	24 38.7	25 40.3	2 3.2	4 6.5	56 90.3
	東宮永	57 100.0	4 7.0	16 28.1	30 52.6	4 7.0	3 5.3	50 87.7
	昭代第一	67 100.0	5 7.5	25 37.3	29 43.3	6 9.0	2 3.0	59 88.1
	昭代第二	45 100.0	1 2.2	16 35.6	21 46.7	4 8.9	3 6.7	38 84.5
	蒲池	81 100.0	4 4.9	28 34.6	35 43.2	10 12.3	4 4.9	67 82.7
	矢留	65 100.0	3 4.6	29 44.6	28 43.1	2 3.1	3 4.6	60 92.3
	両開	51 100.0	2 3.9	21 41.2	23 45.1	1 2.0	4 7.8	46 90.2
	皿垣	28 100.0	0 -	4 14.3	15 53.6	5 17.9	4 14.3	19 67.9
	有明	14 100.0	1 7.1	4 28.6	7 50.0	1 7.1	1 7.1	12 85.7
	中島	43 100.0	2 4.7	14 32.6	19 44.2	5 11.6	3 7.0	35 81.5
	六合	44 100.0	1 2.3	16 36.4	20 45.5	6 13.6	1 2.3	37 84.2
	大和	45 100.0	2 4.4	15 33.3	19 42.2	7 15.6	2 4.4	36 79.9
	豊原	41 100.0	2 4.9	11 26.8	20 48.8	5 12.2	3 7.3	33 80.5
	藤吉	125 100.0	12 9.6	52 41.6	47 37.6	14 11.2	0 -	111 88.8
	矢ヶ部	25 100.0	3 12.0	5 20.0	14 56.0	2 8.0	1 4.0	22 88.0
	二ッ河	61 100.0	5 8.2	19 31.1	28 45.9	9 14.8	0 -	52 85.2
	垂見	47 100.0	4 8.5	15 31.9	20 42.6	5 10.6	3 6.4	39 83.0
	中山	14 100.0	1 7.1	4 28.6	5 35.7	4 28.6	0 -	10 71.4
	わからない	16 100.0	0 -	5 31.3	8 50.0	2 12.5	1 6.3	13 81.3
	無回答	19 100.0	1 5.3	4 21.1	8 42.1	6 31.6	0 -	13 68.5
居住中学校区別	柳城	229 100.0	21 9.2	79 34.5	96 41.9	22 9.6	11 4.8	196 85.6
	昭代	112 100.0	6 5.4	41 36.6	50 44.6	10 8.9	5 4.5	97 86.6
	蒲池	81 100.0	4 4.9	28 34.6	35 43.2	10 12.3	4 4.9	67 82.7
	柳南	116 100.0	5 4.3	50 43.1	51 44.0	3 2.6	7 6.0	106 91.4
	大和	215 100.0	8 3.7	64 29.8	100 46.5	29 13.5	14 6.5	172 80.0
	三橋	272 100.0	25 9.2	95 34.9	114 41.9	34 12.5	4 1.5	234 86.0
	わからない	16 100.0	0 -	5 31.3	8 50.0	2 12.5	1 6.3	13 81.3
	無回答	19 100.0	1 5.3	4 21.1	8 42.1	6 31.6	0 -	13 68.5

<中学校区別>

『知っている』の割合が最も高いのは柳南の91.4%で、昭代(86.6%)、三橋(86.0%)と続く。最も低かったのは大和で80.0%。

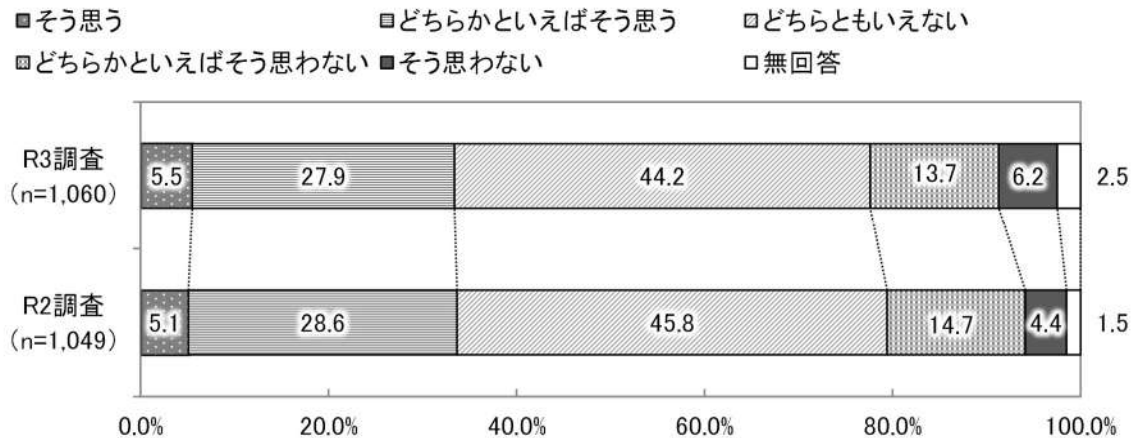
Ⅲ. 調査結果

(5) 文化芸術活動が盛んに行われているかと思う度合い (問 12)

問 12. 文化芸術活動が盛んに行われていると思いますか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「どちらともいえない」で44.2%。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計「そう思う」は前年とほぼ横ばい。



■文化芸術活動が盛んに行われているかについて、最も高かった割合は「どちらともいえない」で44.2%だった。以下、割合が高い順に、「どちらかといえばそう思う」(27.9%)、「どちらかといえばそう思わない」(13.7%)、「そう思わない」(6.2%)と「そう思う」(5.5%)。また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は33.4%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の19.9%より13.5ポイント上回っている。

■令和2年度調査と比較すると、いずれの回答も大きな変化はなく、ほぼ横ばい。

(問 12) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえば』	『どちらともいえない』	『どちらかわからない』	『そう思わない』	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	58 5.5	296 27.9	469 44.2	145 13.7	66 6.2	26 2.5	354 33.4	211 19.9
性別	男性	454 100.0	26 5.7	118 26.0	207 45.6	55 12.1	35 7.7	13 2.9	144 31.7	90 19.8
	女性	597 100.0	31 5.2	175 29.3	259 43.4	89 14.9	30 5.0	13 2.2	206 34.5	119 19.9
	無回答	9 100.0	1 11.1	3 33.3	3 33.3	1 11.1	1 11.1	0 -	4 44.4	2 22.2
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	0 -	5 83.3	0 -	0 -	0 -	1 16.7	0 -
	20代	40 100.0	1 2.5	19 47.5	15 37.5	3 7.5	2 5.0	0 -	20 50.0	5 12.5
	30代	87 100.0	9 10.3	21 24.1	39 44.8	8 9.2	9 10.3	1 1.1	30 34.4	17 19.5
	40代	157 100.0	8 5.1	53 33.8	61 38.9	21 13.4	12 7.6	2 1.3	61 38.9	33 21.0
	50代	222 100.0	14 6.3	62 27.9	95 42.8	29 13.1	16 7.2	6 2.7	76 34.2	45 20.3
	60代	232 100.0	9 3.9	41 17.7	116 50.0	41 17.7	18 7.8	7 3.0	50 21.6	59 25.5
	70代以上	308 100.0	16 5.2	97 31.5	136 44.2	42 13.6	8 2.6	9 2.9	113 36.7	50 16.2
	無回答	8 100.0	0 -	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	14 5.9	77 32.4	96 40.3	33 13.9	15 6.3	3 1.3	91 38.3	48 20.2
	いない	816 100.0	44 5.4	217 26.6	371 45.5	111 13.6	50 6.1	23 2.8	261 32.0	161 19.7
	無回答	6 100.0	0 -	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 -	2 33.3	2 33.4

<性別>

『そう思う』の割合は女性のほうがやや高いが、大きな差は見られない。

<年代別>

『そう思う』の割合については20代の割合が他の年代よりも高く、唯一5割を占めた。

<18歳以下の子どもの有無別>

『そう思う』の割合は、「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりも6.3ポイント高い38.3%だった。

Ⅲ. 調査結果

(問 12) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえば』	『どちらともいえない』	『どちらかといえば』	『そう思わない』	無回答	『そう思う』	『そう思わない』	
(上段：件数、下段：%)											
全 体		1,060 100.0	58 5.5	296 27.9	469 44.2	145 13.7	66 6.2	26 2.5	354 33.4	211 19.9	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	5 4.5	38 34.5	45 40.9	14 12.7	5 4.5	3 2.7	43 39.0	19 17.2	
	城内	62 100.0	3 4.8	21 33.9	21 33.9	12 19.4	5 8.1	0 -	24 38.7	17 27.5	
	東宮永	57 100.0	4 7.0	14 24.6	20 35.1	12 21.1	6 10.5	1 1.8	18 31.6	18 31.6	
	昭代第一	67 100.0	2 3.0	21 31.3	28 41.8	12 17.9	4 6.0	0 -	23 34.3	16 23.9	
	昭代第二	45 100.0	5 11.1	10 22.2	19 42.2	4 8.9	3 6.7	4 8.9	15 33.3	7 15.6	
	蒲池	81 100.0	4 4.9	21 25.9	38 46.9	10 12.3	6 7.4	2 2.5	25 30.8	16 19.7	
	矢留	65 100.0	3 4.6	19 29.2	32 49.2	6 9.2	3 4.6	2 3.1	22 33.8	9 13.8	
	両開	51 100.0	4 7.8	13 25.5	21 41.2	9 17.6	3 5.9	1 2.0	17 33.3	12 23.5	
	皿垣	28 100.0	1 3.6	6 21.4	15 53.6	3 10.7	1 3.6	2 7.1	7 25.0	4 14.3	
	有明	14 100.0	1 7.1	2 14.3	4 28.6	5 35.7	1 7.1	1 7.1	3 21.4	6 42.8	
	中島	43 100.0	4 9.3	7 16.3	21 48.8	5 11.6	4 9.3	2 4.7	11 25.6	9 20.9	
	六合	44 100.0	1 2.3	15 34.1	23 52.3	2 4.5	1 2.3	2 4.5	16 36.4	3 6.8	
	大和	45 100.0	2 4.4	12 26.7	22 48.9	4 8.9	3 6.7	2 4.4	14 31.1	7 15.6	
	豊原	41 100.0	1 2.4	9 22.0	19 46.3	8 19.5	3 7.3	1 2.4	10 24.4	11 26.8	
	藤吉	125 100.0	6 4.8	29 23.2	65 52.0	16 12.8	7 5.6	2 1.6	35 28.0	23 18.4	
	矢ヶ部	25 100.0	2 8.0	5 20.0	13 52.0	4 16.0	1 4.0	0 -	7 28.0	5 20.0	
	二ッ河	61 100.0	5 8.2	23 37.7	23 37.7	8 13.1	2 3.3	0 -	28 45.9	10 16.4	
	垂見	47 100.0	4 8.5	13 27.7	22 46.8	5 10.6	2 4.3	1 2.1	17 36.2	7 14.9	
	中山	14 100.0	0 -	7 50.0	3 21.4	2 14.3	2 14.3	0 -	7 50.0	4 28.6	
	わからない	16 100.0	1 6.3	5 31.3	7 43.8	1 6.3	2 12.5	0 -	6 37.6	3 18.8	
	無回答	19 100.0	0 -	6 31.6	8 42.1	3 15.8	2 10.5	0 -	6 31.6	5 26.3	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	12 5.2	73 31.9	86 37.6	38 16.6	16 7.0	4 1.7	85 37.1	54 23.6
		昭代	112 100.0	7 6.3	31 27.7	47 42.0	16 14.3	7 6.3	4 3.6	38 34.0	23 20.6
蒲池		81 100.0	4 4.9	21 25.9	38 46.9	10 12.3	6 7.4	2 2.5	25 30.8	16 19.7	
柳南		116 100.0	7 6.0	32 27.6	53 45.7	15 12.9	6 5.2	3 2.6	39 33.6	21 18.1	
大和		215 100.0	10 4.7	51 23.7	104 48.4	27 12.6	13 6.0	10 4.7	61 28.4	40 18.6	
三橋		272 100.0	17 6.3	77 28.3	126 46.3	35 12.9	14 5.1	3 1.1	94 34.6	49 18.0	
わからない		16 100.0	1 6.3	5 31.3	7 43.8	1 6.3	2 12.5	0 -	6 37.6	3 18.8	
無回答		19 100.0	0 -	6 31.6	8 42.1	3 15.8	2 10.5	0 -	6 31.6	5 26.3	

<中学校区別>

『そう思う』の割合が最も高いのは柳城の37.1%で、三橋(34.6%)、昭代(34.0%)と続く。最も低かったのは大和で28.4%。

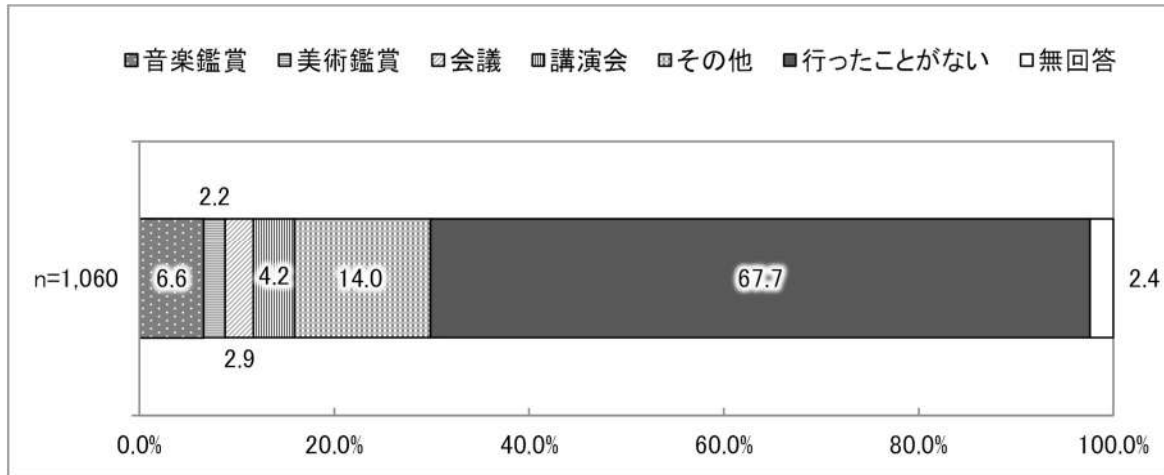
Ⅲ. 調査結果

(6) 柳川市民文化会館「水都やながわ」の訪問目的 (問 13)

問 13. 柳川市民文化会館「水都やながわ」には、どのような目的で行ったことがありますか。
(○は1つだけ)

最も高い割合は「行ったことがない」で 67.7%。

「その他」を除く訪問目的として、最も割合が高かった回答は「音楽鑑賞」。



■柳川市民文化会館「水都やながわ」には、どのような目的で行ったことがあるかについて、最も高かった割合は「行ったことがない」で 67.7% だった。以下、割合が高い順に、「その他」(14.0%)、「音楽鑑賞」(6.6%)、「講演会」(4.2%)、「会議」(2.9%) と「美術鑑賞」(2.2%)。「行ったことがない」以外の選択肢を合わせた『行ったことがある』は約 3 割だった。

■「その他」回答の内訳は下記の通り。※複数回答の記入があるため調査数とは一致しない

調査数	確定申告 (行政手続き)	見学	展示会、 発表会	観劇、映画、 落語	保育園・学校 行事	仕事	子ども の健康診断・ 発表会	成人式	説明会、 教室	散歩	予防接種	その他	不便で 行けない	未記入
件数	148	50	15	9	8	7	6	5	4	4	2	5	1	31

最も多かった回答は「確定申告 (行政手続き)」で 50 件。続いて「見学」(15 件)、「展示会、発表会」(9 件)、「観劇、映画、落語」(8 件) と続き、行政関連の手続きや、芸術鑑賞や、子供の行事などが挙げられた。

「その他」(5 件) としては、以下の回答が得られた。

主な記述内容	性別	年代
Q13. 柳川市民文化会館「水都やながわ」への訪問目的「その他」と回答した人の意見		
・献血。	男性	40歳代
・子供の頃にはよく行きました。	男性	40歳代
・弁護士相談。	女性	50歳代
・選挙演説(旧市民文化会館)。	男性	60歳代
・コロナの時期の為、まだ行かない。	男性	70歳代

(問 13) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調査数	音楽鑑賞	美術鑑賞	会議	講演会	その他	行ったことがない	無回答	『行ったことがある』
(上段：件数、下段：%)										
全体		1,060 100.0	70 6.6	23 2.2	31 2.9	45 4.2	148 14.0	718 67.7	25 2.4	317 29.9
性別	男性	454 100.0	21 4.6	8 1.8	17 3.7	15 3.3	55 12.1	328 72.2	10 2.2	116 25.5
	女性	597 100.0	48 8.0	15 2.5	13 2.2	29 4.9	92 15.4	385 64.5	15 2.5	197 33.0
	無回答	9 100.0	1 11.1	0 -	1 11.1	1 11.1	1 11.1	5 55.6	0 -	4 44.4
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	0 -	0 -	1 16.7	1 25.0	3 50.0	0 -	3 50.1
	20代	40 100.0	2 5.0	0 -	0 -	0 -	10 25.0	28 70.0	0 -	12 30.0
	30代	87 100.0	6 6.9	2 2.3	3 3.4	2 2.3	9 10.3	64 73.6	1 1.1	22 25.2
	40代	157 100.0	14 8.9	3 1.9	4 2.5	3 1.9	17 10.8	114 72.6	2 1.3	41 26.0
	50代	222 100.0	10 4.5	4 1.8	7 3.2	9 4.1	32 14.4	155 69.8	5 2.3	62 28.0
	60代	232 100.0	13 5.6	3 1.3	9 3.9	10 4.3	32 13.8	160 69.0	5 2.2	67 28.9
	70代以上	308 100.0	23 7.5	11 3.6	8 2.6	19 6.2	46 14.9	190 61.7	11 3.6	107 34.8
	無回答	8 100.0	1 12.5	0 -	0 -	1 12.5	1 12.5	4 50.0	1 12.5	3 37.5
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	20 8.4	4 1.7	9 3.8	3 1.3	37 15.5	161 67.6	4 1.7	73 30.7
	いない	816 100.0	49 6.0	19 2.3	22 2.7	41 5.0	110 13.5	554 67.9	21 2.6	241 29.5
	無回答	6 100.0	1 16.7	0 -	0 -	1 16.7	1 16.7	3 50.0	0 -	3 50.1

<性別>

「行ったことがない」の割合は男性がやや高く、『行ったことがある』の割合はやや女性が高かった。

<年代別>

「行ったことがない」の割合は30代が最も高く73.6%。『行ったことがある』の割合については70歳以上の割合が最も高く3割を超えた。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(問 13) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	音楽鑑賞	美術鑑賞	会議	講演会	その他	行ったことがない	無回答	『行ったことがある』	
(上段：件数、下段：%)											
全 体		1,060 100.0	70 6.6	23 2.2	31 2.9	45 4.2	148 14.0	718 67.7	25 2.4	317 29.9	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	10 9.1	5 4.5	3 2.7	5 4.5	13 11.8	72 65.5	2 1.8	36 32.6	
	城内	62 100.0	7 11.3	5 8.1	2 3.2	1 1.6	15 24.2	31 50.0	1 1.6	30 48.4	
	東宮永	57 100.0	1 1.8	1 1.8	2 3.5	4 7.0	11 19.3	38 66.7	0	19 33.4	
	昭代第一	67 100.0	7 10.4	0	1 1.5	4 6.0	9 13.4	46 68.7	0	21 31.3	
	昭代第二	45 100.0	4 8.9	0	1 2.2	2 4.4	7 15.6	26 57.8	5 11.1	14 31.1	
	蒲池	81 100.0	1 1.2	1 1.2	3 3.7	0	14 17.3	59 72.8	3 3.7	19 23.4	
	矢留	65 100.0	1 1.5	1 1.5	3 4.6	2 3.1	11 16.9	44 67.7	3 4.6	18 27.6	
	両開	51 100.0	2 3.9	1 2.0	3 5.9	5 9.8	10 19.6	29 56.9	1 2.0	21 41.2	
	皿垣	28 100.0	3 10.7	1 3.6	0	0	2	21 75.0	1 3.6	6 21.4	
	有明	14 100.0	1 7.1	0	0	2 14.3	0	11 78.6	0	3 21.4	
	中島	43 100.0	2 4.7	1 2.3	1 2.3	4 9.3	3 7.0	30 69.8	2 4.7	11 25.6	
	六合	44 100.0	2 4.5	0	2 4.5	3 6.8	2 4.5	33 75.0	2 4.5	9 20.3	
	大和	45 100.0	3 6.7	2 2.2	1 2.2	0	4 8.9	36 80.0	0	9 20.0	
	豊原	41 100.0	2 4.9	1 2.4	0	1 2.4	4 9.8	32 78.0	1 2.4	8 19.5	
	藤吉	125 100.0	12 9.6	1 1.6	2 3.2	4 5.6	7 16.0	20 62.4	2 1.6	45 36.0	
	矢ヶ部	25 100.0	2 8.0	1 4.0	0	0	6 24.0	16 64.0	0	9 36.0	
	二ッ河	61 100.0	4 6.6	2 3.3	1 1.6	1 1.6	12 19.7	40 65.6	1 1.6	20 32.8	
	垂見	47 100.0	4 8.5	0	2 4.3	2 4.3	1 2.1	37 78.7	1 2.1	9 19.2	
	中山	14 100.0	1 7.1	0	2 14.3	1 7.1	1 7.1	9 64.3	0	5 35.6	
	わからない	16 100.0	0	0	0	0	2 12.5	14 87.5	0	2 12.5	
	無回答	19 100.0	1 5.3	0	0	1 5.3	1 5.3	16 84.2	0	3 15.9	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	18 7.9	11 4.8	7 3.1	10 4.4	39 17.0	141 61.6	3 1.3	85 37.2
		昭代	112 100.0	11 9.8	0	2 1.8	6 5.4	16 14.3	72 64.3	5 4.5	35 31.3
蒲池		81 100.0	1 1.2	1 1.2	3 3.7	0	14 17.3	59 72.8	3 3.7	19 23.4	
柳南		116 100.0	3 2.6	2 1.7	6 5.2	7 6.0	21 18.1	73 62.9	4 3.4	39 33.6	
大和		215 100.0	13 6.0	4 1.9	4 1.9	10 4.7	15 7.0	163 75.8	6 2.8	46 21.5	
三橋		272 100.0	23 8.5	5 1.8	9 3.3	11 4.0	40 14.7	180 66.2	4 1.5	88 32.3	
わからない		16 100.0	0	0	0	0	2 12.5	14 87.5	0	2 12.5	
無回答		19 100.0	1 5.3	0	0	1 5.3	1 5.3	16 84.2	0	3 15.9	

<中学校区別>

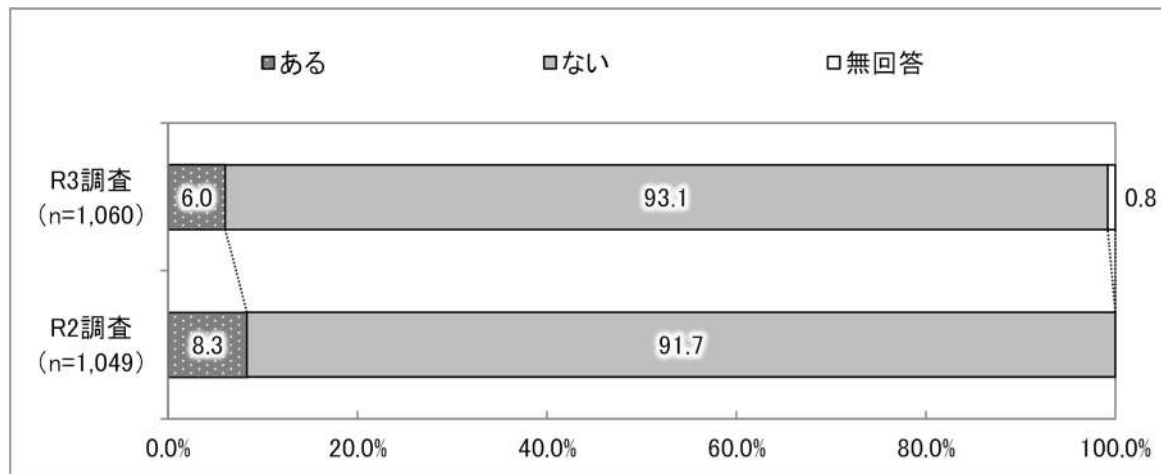
『行ったことがある』の割合が最も高いのは、市民文化会館の近隣校区である柳城の 37.2%。次に柳南 (33.6%)、三橋 (32.3%) と続く。最も低かったのは大和で 21.5%。

Ⅲ. 調査結果

(7) この1年以内の川下り経験有無（問27）

問27. この1年以内に川下りをしたことがありますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「ない」で93.1%。「ある」は6.0%と、前年からわずかに下降。



■この1年以内の川下り経験の有無について、最も高かった割合は「ない」で9割を占め、「ある」は1割に満たなかった。

■令和2年度調査と比較すると、「ある」の割合はやや下がった。

(問 27) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調査数	ある	ない	無回答
(上段：件数、下段：%)					
全 体		1,060 100.0	64 6.0	987 93.1	9 0.8
性別	男性	454 100.0	22 4.8	426 93.8	6 1.3
	女性	597 100.0	40 6.7	554 92.8	3 0.5
	無回答	9 100.0	2 22.2	7 77.8	0 -
年代別	10 歳代	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 -
	20 歳代	40 100.0	1 2.5	39 97.5	0 -
	30 歳代	87 100.0	4 4.6	82 94.3	1 1.1
	40 歳代	157 100.0	10 6.4	147 93.6	0 -
	50 歳代	222 100.0	8 3.6	212 95.5	2 0.9
	60 歳代	232 100.0	14 6.0	216 93.1	2 0.9
	70 歳以上	308 100.0	22 7.1	282 91.6	4 1.3
	無回答	8 100.0	1 12.5	7 87.5	0 -
	の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	13 5.5	223 93.7
いない		816 100.0	50 6.1	759 93.0	7 0.9
無回答		6 100.0	1 16.7	5 83.3	0 -

<性別>

性別による大きな差は見られない。

<年代別>

「ない」の割合は20代が最も高く97.5%。「ある」の割合については70歳以上の割合が他の年代よりもやや高かった。

※10代は調査数が少ないため分析からは除外

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られない。

Ⅲ. 調査結果

(問 27) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	ある	ない	無回答
(上段：件数、下段：%)					
全 体		1,060 100.0	64 6.0	987 93.1	9 0.8
居住小学校区別	柳河	110 100.0	10 9.1	100 90.9	0 -
	城内	62 100.0	3 4.8	58 93.5	1 1.6
	東宮永	57 100.0	3 5.3	53 93.0	1 1.8
	昭代第一	67 100.0	2 3.0	64 95.5	1 1.5
	昭代第二	45 100.0	3 6.7	42 93.3	0 -
	蒲池	81 100.0	3 3.7	78 96.3	0 -
	矢留	65 100.0	3 4.6	62 95.4	0 -
	両開	51 100.0	7 13.7	43 84.3	1 2.0
	皿垣	28 100.0	0 -	27 96.4	1 3.6
	有明	14 100.0	0 -	14 100.0	0 -
	中島	43 100.0	4 9.3	39 90.7	0 -
	六合	44 100.0	1 2.3	43 97.7	0 -
	大和	45 100.0	2 4.4	43 95.6	0 -
	豊原	41 100.0	1 2.4	40 97.6	0 -
	藤吉	125 100.0	10 8.0	114 91.2	1 0.8
	矢ヶ部	25 100.0	1 4.0	24 96.0	0 -
	二ッ河	61 100.0	4 6.6	55 90.2	2 3.3
	垂見	47 100.0	1 2.1	45 95.7	1 2.1
	中山	14 100.0	2 14.3	12 85.7	0 -
	わからない	16 100.0	2 12.5	14 87.5	0 -
	無回答	19 100.0	2 10.5	17 89.5	0 -
居住中学校区別	柳城	229 100.0	16 7.0	211 92.1	2 0.9
	昭代	112 100.0	5 4.5	106 94.6	1 0.9
	蒲池	81 100.0	3 3.7	78 96.3	0 -
	柳南	116 100.0	10 8.6	105 90.5	1 0.9
	大和	215 100.0	8 3.7	206 95.8	1 0.5
	三橋	272 100.0	18 6.6	250 91.9	4 1.5
	わからない	16 100.0	2 12.5	14 87.5	0 -
	無回答	19 100.0	2 10.5	17 89.5	0 -

< 中学校区別 >

僅差だが、「ある」の割合が最も高かったのは柳南の 8.6%で、柳城 (7.0%)、三橋 (6.6%) と続く。

「ない」の割合が最も高いのは蒲池の 96.3%。続いて大和 (95.8%)、昭代 (94.6%)。

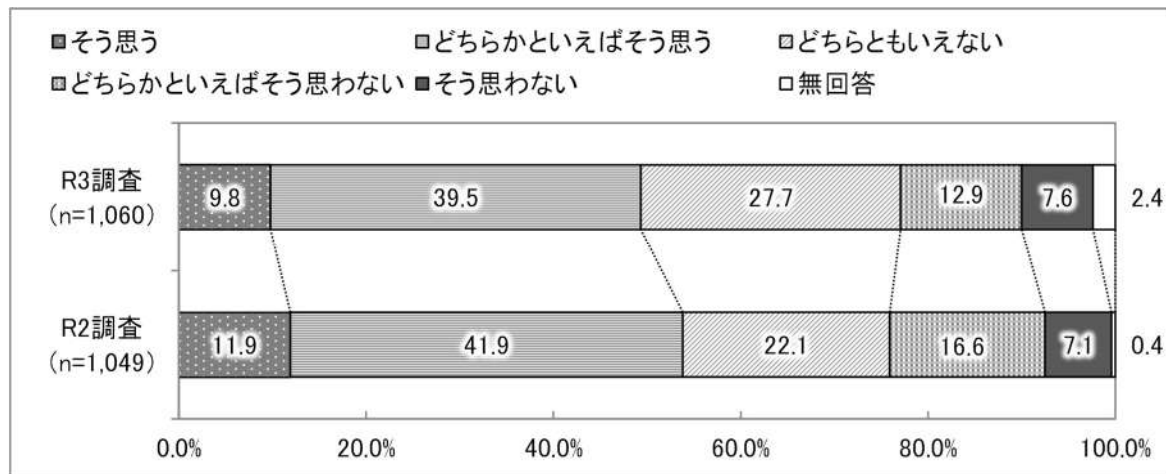
Ⅲ. 調査結果

(8) 柳川市の水辺の景観や掘割が保全されていると感じる度合い（問 28）

問 28. 柳川市の水辺の景観や掘割が保全されていると感じますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「どちらかといえばそう思う」で 39.5%。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」は前年からやや下降。



■柳川市の水辺の景観や掘割が保全されていると感じるかについて、最も高かった割合は「どちらかといえばそう思う」で 39.5%だった。

以下、割合が高い順に、「どちらともいえない」(27.7%)、「どちらかといえばそう思わない」(12.9%)、「そう思う」(9.8%)と「そう思わない」(7.6%)。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は 49.3%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の 20.5%より 28.8ポイント上回っている。

■令和2年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合はやや高くなっている。

(問 28) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえば』	『どちらともいえない』	『どちらかといえ』	『そう思わない』	無回答	『『そう思う』』	『『そう思わない』』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	104 9.8	419 39.5	294 27.7	137 12.9	81 7.6	25 2.4	523 49.3	218 20.5
性別	男性	454 100.0	47 10.4	174 38.3	115 25.3	67 14.8	44 9.7	7 1.5	221 48.7	111 24.5
	女性	597 100.0	56 9.4	239 40.0	179 30.0	70 11.7	35 5.9	18 3.0	295 49.4	105 17.6
	無回答	9 100.0	1 11.1	6 66.7	0 -	0 -	2 22.2	0 -	7 77.8	2 22.2
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	2 33.3	0 -	1 16.7	2 33.3	0 -	3 50.0	3 50.0
	20代	40 100.0	4 10.0	9 22.5	17 42.5	5 12.5	5 12.5	0 -	13 32.5	10 25.0
	30代	87 100.0	10 11.5	32 36.8	27 31.0	10 11.5	7 8.0	1 1.1	42 48.3	17 19.5
	40代	157 100.0	9 5.7	63 40.1	46 29.3	22 14.0	16 10.2	1 0.6	72 45.8	38 24.2
	50代	222 100.0	21 9.5	84 37.8	67 30.2	28 12.6	19 8.6	3 1.4	105 47.3	47 21.2
	60代	232 100.0	24 10.3	92 39.7	64 27.6	38 16.4	12 5.2	2 0.9	116 50.0	50 21.6
	70代以上	308 100.0	34 11.0	133 43.2	72 23.4	33 10.7	18 5.8	18 5.8	167 54.2	51 16.5
	無回答	8 100.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5	0 -	2 25.0	0 -	5 62.5	2 25.0
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	20 8.4	94 39.5	70 29.4	31 13.0	19 8.0	4 1.7	114 47.9	50 21.0
	いない	816 100.0	83 10.2	322 39.5	224 27.5	106 13.0	60 7.4	21 2.6	405 49.7	166 20.4
	無回答	6 100.0	1 16.7	3 50.0	0 -	0 -	2 33.3	0 -	4 66.7	2 33.3

<性別>

『『そう思う』』の割合はやや女性が高く、『『そう思わない』』の割合は男性が高かった。

<年代別>

『『そう思う』』の割合は70歳以上(54.2%)が最も高く、最も低いのは20代(32.5%)だった。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(問 28) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえば』	『どちらともいえない』	『どちらかといえば』	『そう思わない』	無回答	『そう思う』	『そう思わない』	
(上段：件数、下段：%)											
全 体		1,060 100.0	104 9.8	419 39.5	294 27.7	137 12.9	81 7.6	25 2.4	523 49.3	218 20.5	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	14 12.7	37 33.6	32 29.1	18 16.4	8 7.3	1 0.9	51 46.3	26 23.7	
	城内	62 100.0	6 9.7	26 41.9	13 21.0	11 17.7	6 9.7	0 -	32 51.6	17 27.4	
	東宮永	57 100.0	4 7.0	22 38.6	19 33.3	9 15.8	1 1.8	2 3.5	26 45.6	10 17.6	
	昭代第一	67 100.0	5 7.5	30 44.8	17 25.4	8 11.9	7 10.4	0 -	35 52.3	15 22.3	
	昭代第二	45 100.0	4 8.9	21 46.7	9 20.0	7 15.6	1 2.2	3 6.7	25 55.6	8 17.8	
	蒲池	81 100.0	10 12.3	25 30.9	23 28.4	14 17.3	6 7.4	3 3.7	35 43.2	20 24.7	
	矢留	65 100.0	3 4.6	24 36.9	19 29.2	11 16.9	6 9.2	2 3.1	27 41.5	17 26.1	
	両開	51 100.0	4 7.8	21 41.2	14 27.5	8 15.7	2 3.9	2 3.9	25 49.0	10 19.6	
	皿垣	28 100.0	4 14.3	15 53.6	6 21.4	2 7.1	1 3.6	0 -	19 67.9	3 10.7	
	有明	14 100.0	1 7.1	7 50.0	3 21.4	1 7.1	1 7.1	1 7.1	8 57.1	2 14.2	
	中島	43 100.0	5 11.6	18 41.9	8 18.6	8 18.6	4 9.3	0 -	23 53.5	12 27.9	
	六合	44 100.0	4 9.1	19 43.2	13 29.5	2 4.5	4 9.1	2 4.5	23 52.3	6 13.6	
	大和	45 100.0	4 8.9	13 28.9	18 40.0	5 11.1	4 8.9	1 2.2	17 37.8	9 20.0	
	豊原	41 100.0	6 14.6	15 36.6	12 29.3	4 9.8	2 4.9	2 4.9	21 51.2	6 14.7	
	藤吉	125 100.0	11 8.8	57 45.6	32 25.6	14 11.2	9 7.2	2 1.6	68 54.4	23 18.4	
	矢ヶ部	25 100.0	2 8.0	9 36.0	6 24.0	4 16.0	2 8.0	2 8.0	11 44.0	6 24.0	
	二ッ河	61 100.0	7 11.5	25 41.0	18 29.5	4 6.6	6 9.8	1 1.6	32 52.5	10 16.4	
	垂見	47 100.0	6 12.8	20 42.6	14 29.8	3 6.4	3 6.4	1 2.1	26 55.4	6 12.8	
	中山	14 100.0	1 7.1	5 35.7	5 35.7	1 7.1	2 14.3	0 -	6 42.8	3 21.4	
	わからない	16 100.0	2 12.5	5 31.3	6 37.5	1 6.3	2 12.5	0 -	7 43.8	3 18.8	
	無回答	19 100.0	1 5.3	5 26.3	7 36.8	2 10.5	4 21.1	0 -	6 31.6	6 31.6	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	24 10.5	85 37.1	64 27.9	38 16.6	15 6.6	3 1.3	109 47.6	53 23.2
		昭代	112 100.0	9 8.0	51 45.5	26 23.2	15 13.4	8 7.1	3 2.7	60 53.5	23 20.5
蒲池		81 100.0	10 12.3	25 30.9	23 28.4	14 17.3	6 7.4	3 3.7	35 43.2	20 24.7	
柳南		116 100.0	7 6.0	45 38.8	33 28.4	19 16.4	8 6.9	4 3.4	52 44.8	27 23.3	
大和		215 100.0	24 11.2	87 40.5	60 27.9	22 10.2	16 7.4	6 2.8	111 51.7	38 17.6	
三橋		272 100.0	27 9.9	116 42.6	75 27.6	26 9.6	22 8.1	6 2.2	143 52.5	48 17.7	
わからない		16 100.0	2 12.5	5 31.3	6 37.5	1 6.3	2 12.5	0 -	7 43.8	3 18.8	
無回答		19 100.0	1 5.3	5 26.3	7 36.8	2 10.5	4 21.1	0 -	6 31.6	6 31.6	

<中学校区別>

『そう思う』の割合が最も高いのは昭代の53.5%で、三橋(52.5%)、大和(51.7%)と続く。最も低かったのは蒲池で43.2%。

Ⅲ. 調査結果

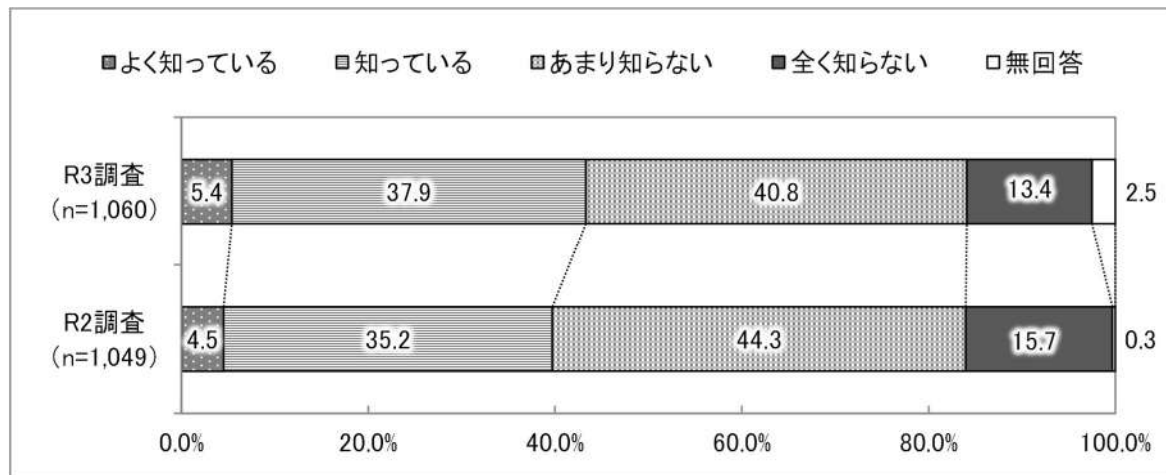
3. ブランド化について

(1) 「柳川ブランド認定品」の認知度 (問 19)

問 19. 商品の地域性や安全性等を評価し、認定される「柳川ブランド認定品」を知っていますか。(〇は1つだけ)

最も高い割合は「あまり知らない」で40.8%。

「よく知っている」「知っている」の合計「知っている」は43.3%と、前年からやや上昇。



■ 「柳川ブランド認定品」の認知度について、最も高かった割合は「あまり知らない」で40.8%だった。以下、割合が高い順に、「知っている」(37.9%)、「全く知らない」(13.4%)と「よく知っている」(5.4%)。

また、「よく知っている」と「知っている」を合わせた『知っている』の割合は43.3%で、「あまり知らない」と「全く知らない」を合わせた『知らない』の54.2%より10.9ポイント下回っている。

■ 令和2年度調査と比較すると、『知っている』の割合は令和2年度の39.7%より3.6ポイント上がった。

(問 19) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調査数	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない	無回答	『知っている』	『知らない』
(上段：件数、下段：%)									
全 体		1,060 100.0	57 5.4	402 37.9	433 40.8	142 13.4	26 2.5	459 43.3	575 54.2
性別	男性	454 100.0	22 4.8	159 35.0	183 40.3	76 16.7	14 3.1	181 39.8	259 57.0
	女性	597 100.0	32 5.4	241 40.4	248 41.5	64 10.7	12 2.0	273 45.8	312 52.2
	無回答	9 100.0	3 33.3	2 22.2	2 22.2	2 22.2	0 -	5 55.5	4 44.4
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	0 -	2 33.3	3 50.0	0 -	1 16.7	5 83.3
	20代	40 100.0	1 2.5	7 17.5	20 50.0	12 30.0	0 -	8 20.0	32 80.0
	30代	87 100.0	7 8.0	25 28.7	37 42.5	16 18.4	2 2.3	32 36.7	53 60.9
	40代	157 100.0	12 7.6	63 40.1	57 36.3	25 15.9	0 -	75 47.7	82 52.2
	50代	222 100.0	12 5.4	82 36.9	93 41.9	32 14.4	3 1.4	94 42.3	125 56.3
	60代	232 100.0	8 3.4	98 42.2	94 40.5	26 11.2	6 2.6	106 45.6	120 51.7
	70代以上	308 100.0	14 4.5	123 39.9	129 41.9	27 8.8	15 4.9	137 44.4	156 50.7
	無回答	8 100.0	2 25.0	4 50.0	1 12.5	1 12.5	0 -	6 75.0	2 25.0
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	21 8.8	90 37.8	94 39.5	29 12.2	4 1.7	111 46.6	123 51.7
	いない	816 100.0	34 4.2	310 38.0	338 41.4	112 13.7	22 2.7	344 42.2	450 55.1
	無回答	6 100.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 -	4 66.6	2 33.4

<性別>

『知っている』の割合は女性がやや高かった。

<年代別>

『知っている』の割合については、40歳以上がそれぞれ4割を超えており、特に40代は他の年代よりも高く約5割を占めた。

<18歳以下の子どもの有無別>

『知っている』の割合は、「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりやや高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問 19) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない	無回答	『知っている』	『知らない』
(上段：件数、下段：%)									
全 体		1,060 100.0	57 5.4	402 37.9	433 40.8	142 13.4	26 2.5	459 43.3	575 54.2
居住小学校区別	柳河	110 100.0	6 5.5	46 41.8	40 36.4	18 16.4	0 -	52 47.3	58 52.8
	城内	62 100.0	6 9.7	28 45.2	23 37.1	3 4.8	2 3.2	34 54.9	26 41.9
	東宮永	57 100.0	2 3.5	18 31.6	24 42.1	10 17.5	3 5.3	20 35.1	34 59.6
	昭代第一	67 100.0	2 3.0	18 26.9	35 52.2	11 16.4	1 1.5	20 29.9	46 68.6
	昭代第二	45 100.0	0 -	21 46.7	14 31.1	9 20.0	1 2.2	21 46.7	23 51.1
	蒲池	81 100.0	4 4.9	27 33.3	38 46.9	11 13.6	1 1.2	31 38.2	49 60.5
	矢留	65 100.0	3 4.6	30 46.2	26 40.0	4 6.2	2 3.1	33 50.8	30 46.2
	両開	51 100.0	3 5.9	22 43.1	22 43.1	3 5.9	1 2.0	25 49.0	25 49.0
	皿垣	28 100.0	1 3.6	13 46.4	9 32.1	4 14.3	1 3.6	14 50.0	13 46.4
	有明	14 100.0	1 7.1	4 28.6	6 42.9	2 14.3	1 7.1	5 35.7	8 57.2
	中島	43 100.0	2 4.7	14 32.6	20 46.5	6 14.0	1 2.3	16 37.3	26 60.5
	六合	44 100.0	2 4.5	22 50.0	14 31.8	4 9.1	2 4.5	24 54.5	18 40.9
	大和	45 100.0	3 6.7	13 28.9	20 44.4	6 13.3	3 6.7	16 35.6	26 57.7
	豊原	41 100.0	4 9.8	12 29.3	21 51.2	2 4.9	2 4.9	16 39.1	23 56.1
	藤吉	125 100.0	9 7.2	47 37.6	50 40.0	17 13.6	2 1.6	56 44.8	67 53.6
	矢ヶ部	25 100.0	0 -	13 52.0	5 20.0	7 28.0	0 -	13 52.0	12 48.0
	二ッ河	61 100.0	4 6.6	17 27.9	26 42.6	12 19.7	2 3.3	21 34.5	38 62.3
	垂見	47 100.0	2 4.3	22 46.8	18 38.3	4 8.5	1 2.1	24 51.1	22 46.8
	中山	14 100.0	0 -	4 28.6	8 57.1	2 14.3	0 -	4 28.6	10 71.4
	わからない	16 100.0	0 -	4 25.0	8 50.0	4 25.0	0 -	4 25.0	12 75.0
	無回答	19 100.0	3 15.8	7 36.8	6 31.6	3 15.8	0 -	10 52.6	9 47.4
居住中学校区別	柳城	229 100.0	14 6.1	92 40.2	87 38.0	31 13.5	5 2.2	106 46.3	118 51.5
	昭代	112 100.0	2 1.8	39 34.8	49 43.8	20 17.9	2 1.8	41 36.6	69 61.7
	蒲池	81 100.0	4 4.9	27 33.3	38 46.9	11 13.6	1 1.2	31 38.2	49 60.5
	柳南	116 100.0	6 5.2	52 44.8	48 41.4	7 6.0	3 2.6	58 50.0	55 47.4
	大和	215 100.0	13 6.0	78 36.3	90 41.9	24 11.2	10 4.7	91 42.3	114 53.1
	三橋	272 100.0	15 5.5	103 37.9	107 39.3	42 15.4	5 1.8	118 43.4	149 54.7
	わからない	16 100.0	0 -	4 25.0	8 50.0	4 25.0	0 -	4 25.0	12 75.0
	無回答	19 100.0	3 15.8	7 36.8	6 31.6	3 15.8	0 -	10 52.6	9 47.4

<中学校区別>

『知っている』の割合が最も高いのは柳南の 50.0%で、柳城 (46.3%)、三橋 (43.4%) と続く。最も低かったのは昭代で 36.6%。

Ⅲ. 調査結果

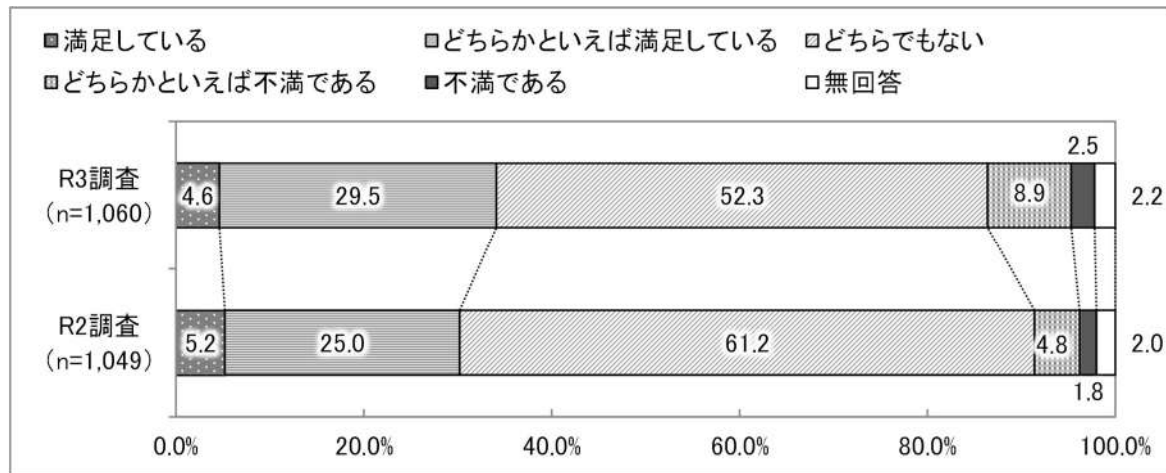
4. 市の広報活動について

(1) 柳川市からの情報発信に対する満足度（問 20）

問 20. 柳川市からの情報発信に満足していますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「どちらでもない」で 52.3%。

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた「満足している」は前年からやや上昇。



■柳川市からの情報発信に満足しているかについて、最も高かった割合は「どちらでもない」で 52.3%だった。以下、割合が高い順に、「どちらかといえば満足している」(29.5%)、「どちらかといえば不満である」(8.9%)、「満足している」(4.6%)と「不満である」(2.5%)。

また、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』の割合は 34.1%で、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた『不満である』の 11.4%より 22.7ポイント上回っている。

■令和2年度調査と比較すると、『満足している』はやや高くなった一方で、『不満である』の割合も前年度よりやや高くなっている。

(問 20) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調査数	満足している	どちらかといえ ば満足している	どちらでもない	どちらかといえ ば不満である	不満である	無回答	『満足している』	『不満である』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	49 4.6	313 29.5	554 52.3	94 8.9	27 2.5	23 2.2	362 34.1	121 11.4
性別	男性	454 100.0	18 4.0	129 28.4	245 54.0	37 8.1	16 3.5	9 2.0	147 32.4	53 11.6
	女性	597 100.0	31 5.2	180 30.2	305 51.1	56 9.4	11 1.8	14 2.3	211 35.4	67 11.2
	無回答	9 100.0	0 -	4 44.4	4 44.4	1 11.1	0 -	0 -	4 44.4	1 11.1
年代別	10代	6 100.0	0 -	1 16.7	4 66.7	1 16.7	0 -	0 -	1 16.7	1 16.7
	20代	40 100.0	2 5.0	8 20.0	24 60.0	5 12.5	1 2.5	0 -	10 25.0	6 15.0
	30代	87 100.0	4 4.6	20 23.0	49 56.3	8 9.2	5 5.7	1 1.1	24 27.6	13 14.9
	40代	157 100.0	11 7.0	26 16.6	100 63.7	11 7.0	9 5.7	0 -	37 23.6	20 12.7
	50代	222 100.0	8 3.6	69 31.1	114 51.4	24 10.8	3 1.4	4 1.8	77 34.7	27 12.2
	60代	232 100.0	6 2.6	66 28.4	126 54.3	24 10.3	6 2.6	4 1.7	72 31.0	30 12.9
	70代以上	308 100.0	18 5.8	120 39.0	133 43.2	20 6.5	3 1.0	14 4.5	138 44.8	23 7.5
	無回答	8 100.0	0 -	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 -	0 -	3 37.5	1 12.5
の18歳以下の 有無	いる	238 100.0	9 3.8	61 25.6	135 56.7	23 9.7	8 3.4	2 0.8	70 29.4	31 13.1
	いない	816 100.0	40 4.9	249 30.5	417 51.1	70 8.6	19 2.3	21 2.6	289 35.4	89 10.9
	無回答	6 100.0	0 -	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 -	0 -	3 50.0	1 16.7

<性別>

『満足している』は女性の割合が男性よりやや高かった。

<年代別>

『満足している』の割合で最も高いのは70歳以上(44.8%)。40代以下の満足度が低く、『満足している』の割合が3割を切っている。

<18歳以下の子どもの有無別>

『満足している』の割合は、「いない」と答えた人が、「いる」と答えた人よりやや高い。

Ⅲ. 調査結果

(問 20) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	満足している	どちらかといえ ば満足している	どちらでもない	どちらかといえ ば不満である	不満である	無回答	『満足している』	『不満である』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	49 4.6	313 29.5	554 52.3	94 8.9	27 2.5	23 2.2	362 34.1	121 11.4
居住小学校区別	柳河	110 100.0	6 5.5	25 22.7	66 60.0	8 7.3	4 3.6	1 0.9	31 28.2	12 10.9
	城内	62 100.0	2 3.2	17 27.4	30 48.4	9 14.5	2 3.2	2 3.2	19 30.6	11 17.7
	東宮永	57 100.0	3 5.3	12 21.1	32 56.1	8 14.0	1 1.8	1 1.8	15 26.4	9 15.8
	昭代第一	67 100.0	1 1.5	18 26.9	40 59.7	6 9.0	1 1.5	1 1.5	19 28.4	7 10.5
	昭代第二	45 100.0	3 6.7	18 40.0	19 42.2	4 8.9	1 2.2	0 -	21 46.7	5 11.1
	蒲池	81 100.0	4 4.9	15 18.5	51 63.0	6 7.4	3 3.7	2 2.5	19 23.4	9 11.1
	矢留	65 100.0	2 3.1	23 35.4	29 44.6	9 13.8	0 -	2 3.1	25 38.5	9 13.8
	両開	51 100.0	2 3.9	18 35.3	26 51.0	1 2.0	2 3.9	2 3.9	20 39.2	3 5.9
	皿垣	28 100.0	2 7.1	11 39.3	12 42.9	1 3.6	0 -	2 7.1	13 46.4	1 3.6
	有明	14 100.0	0 -	5 35.7	7 50.0	1 7.1	0 -	1 7.1	5 35.7	1 7.1
	中島	43 100.0	0 -	11 25.6	25 58.1	5 11.6	1 2.3	1 2.3	11 25.6	6 13.9
	六合	44 100.0	2 4.5	18 40.9	20 45.5	3 6.8	1 2.3	0 -	20 45.4	4 9.1
	大和	45 100.0	2 4.4	11 24.4	24 53.3	3 6.7	2 4.4	3 6.7	13 28.8	5 11.1
	豊原	41 100.0	4 9.8	11 26.8	18 43.9	4 9.8	3 7.3	1 2.4	15 36.6	7 17.1
	藤吉	125 100.0	6 4.8	43 34.4	60 48.0	11 8.8	4 3.2	1 0.8	49 39.2	15 12.0
	矢ヶ部	25 100.0	2 8.0	8 32.0	11 44.0	4 16.0	0 -	0 -	10 40.0	4 16.0
	二ッ河	61 100.0	5 8.2	22 36.1	29 47.5	3 4.9	0 -	2 3.3	27 44.3	3 4.9
	垂見	47 100.0	3 6.4	13 27.7	28 59.6	2 4.3	0 -	1 2.1	16 34.1	2 4.3
	中山	14 100.0	0 -	5 35.7	7 50.0	0 -	2 14.3	0 -	5 35.7	2 14.3
	わからない	16 100.0	0 -	3 18.8	9 56.3	4 25.0	0 -	0 -	3 18.8	4 25.0
	無回答	19 100.0	0 -	6 31.6	11 57.9	2 10.5	0 -	0 -	6 31.6	2 10.5
居住中学校区別	柳城	229 100.0	11 4.8	54 23.6	128 55.9	25 10.9	7 3.1	4 1.7	65 28.4	32 14.0
	昭代	112 100.0	4 3.6	36 32.1	59 52.7	10 8.9	2 1.8	1 0.9	40 35.7	12 10.7
	蒲池	81 100.0	4 4.9	15 18.5	51 63.0	6 7.4	3 3.7	2 2.5	19 23.4	9 11.1
	柳南	116 100.0	4 3.4	41 35.3	55 47.4	10 8.6	2 1.7	4 3.4	45 38.7	12 10.3
	大和	215 100.0	10 4.7	67 31.2	106 49.3	17 7.9	7 3.3	8 3.7	77 35.9	24 11.2
	三橋	272 100.0	16 5.9	91 33.5	135 49.6	20 7.4	6 2.2	4 1.5	107 39.4	26 9.6
	わからない	16 100.0	0 -	3 18.8	9 56.3	4 25.0	0 -	0 -	3 18.8	4 25.0
	無回答	19 100.0	0 -	6 31.6	11 57.9	2 10.5	0 -	0 -	6 31.6	2 10.5

<中学校区別>

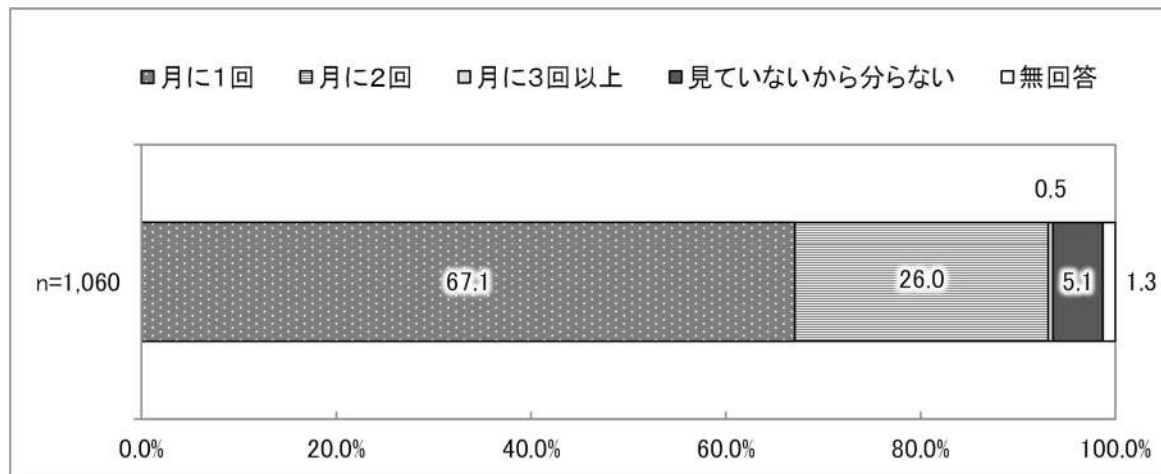
『満足している』の割合が最も高いのは三橋の 39.4%で、柳南 (38.7%)、大和 (35.9%) と続く。最も低かったのは蒲池で 23.4%。

Ⅲ. 調査結果

(2) 広報やながわの発行について、妥当だと思う回数（問 21）

問 21. 広報やながわの発行は、月に何回が妥当だと思いますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「月に1回」で67.1%と過半数を超えた。



■ 広報やながわの発行で妥当だと思う回数について、最も高かった割合は「月に1回」で67.1%だった。以下、割合が高い順に、「月に2回」(26.0%)、「見ていないから分からない」(5.1%)と「月に3回」(0.5%)。

令和3年度時点では1月と5月を除き月に2回の発行だが、「月に1回」を妥当と感じる人が過半数を超え、約7割を占めた。

(問 21) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	月に1回	月に2回	月に3回以上	分見らないないから	無回答
(上段：件数、下段：%)							
全 体		1,060 100.0	711 67.1	276 26.0	5 0.5	54 5.1	14 1.3
性別	男性	454 100.0	314 69.2	102 22.5	3 0.7	28 6.2	7 1.5
	女性	597 100.0	389 65.2	173 29.0	2 0.3	26 4.4	7 1.2
	無回答	9 100.0	8 88.9	1 11.1	0 -	0 -	0 -
年代別	10歳代	6 100.0	2 33.3	0 -	0 -	4 66.7	0 -
	20歳代	40 100.0	25 62.5	4 10.0	0 -	11 27.5	0 -
	30歳代	87 100.0	65 74.7	15 17.2	2 2.3	4 4.6	1 1.1
	40歳代	157 100.0	106 67.5	36 22.9	2 1.3	13 8.3	0 -
	50歳代	222 100.0	149 67.1	61 27.5	0 -	9 4.1	3 1.4
	60歳代	232 100.0	165 71.1	53 22.8	0 -	11 4.7	3 1.3
	70歳以上	308 100.0	192 62.3	106 34.4	1 0.3	2 0.6	7 2.3
	無回答	8 100.0	7 87.5	1 12.5	0 -	0 -	0 -
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	170 71.4	54 22.7	2 0.8	9 3.8	3 1.3
	いない	816 100.0	536 65.7	221 27.1	3 0.4	45 5.5	11 1.3
	無回答	6 100.0	5 83.3	1 16.7	0 -	0 -	0 -

<性別>

「月に1回」の割合は男性がやや高く、「月に2回」の割合は女性がやや高かった。

<年代別>

「月に1回」の割合は30代が最も高く74.7%。

「月に2回」の割合は70歳以上が最も高く、唯一3割を超えた。

<18歳以下の子どもの有無別>

「月に1回」の割合は、「いる」と答えた人が71.4%で、「いない」と答えた人より5.7ポイント高かった。

また、「月に2回」の割合は、「いない」と答えた人のほうが、「いる」と答えた人よりも4.4ポイント高い27.1%だった。

Ⅲ. 調査結果

(問 21) 居住小学校区別・中学校区別

	調査数	月に1回	月に2回	月に3回以上	分見らないから	無回答		
(上段：件数、下段：%)								
全 体	1,060 100.0	711 67.1	276 26.0	5 0.5	54 5.1	14 1.3		
居住小学校区別	柳河	110 100.0	67 60.9	33 30.0	0 -	9 8.2	1 0.9	
	城内	62 100.0	43 69.4	15 24.2	1 1.6	2 3.2	1 1.6	
	東宮永	57 100.0	41 71.9	12 21.1	0 -	3 5.3	1 1.8	
	昭代第一	67 100.0	46 68.7	16 23.9	0 -	4 6.0	1 1.5	
	昭代第二	45 100.0	31 68.9	9 20.0	0 -	4 8.9	1 2.2	
	蒲池	81 100.0	58 71.6	17 21.0	1 1.2	4 4.9	1 1.2	
	矢留	65 100.0	38 58.5	24 36.9	0 -	2 3.1	1 1.5	
	両開	51 100.0	37 72.5	12 23.5	0 -	0 -	2 3.9	
	皿垣	28 100.0	18 64.3	9 32.1	0 -	0 -	1 3.6	
	有明	14 100.0	6 42.9	5 35.7	0 -	3 21.4	0 -	
	中島	43 100.0	32 74.4	7 16.3	0 -	4 9.3	0 -	
	六合	44 100.0	29 65.9	15 34.1	0 -	0 -	0 -	
	大和	45 100.0	30 66.7	11 24.4	0 -	3 6.7	1 2.2	
	豊原	41 100.0	24 58.5	13 31.7	1 2.4	3 7.3	0 -	
	藤吉	125 100.0	86 68.8	35 28.0	1 0.8	3 2.4	0 -	
	矢ヶ部	25 100.0	18 72.0	3 12.0	0 -	4 16.0	0 -	
	二ッ河	61 100.0	40 65.6	18 29.5	0 -	1 1.6	2 3.3	
	垂見	47 100.0	32 68.1	13 27.7	0 -	1 2.1	1 2.1	
	中山	14 100.0	11 78.6	2 14.3	0 -	1 7.1	0 -	
	わからない	16 100.0	11 68.8	2 12.5	0 -	3 18.8	0 -	
	無回答	19 100.0	13 68.4	5 26.3	1 5.3	0 -	0 -	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	151 65.9	60 26.2	1 0.4	14 6.1	3 1.3
		昭代	112 100.0	77 68.8	25 22.3	0 -	8 7.1	2 1.8
蒲池		81 100.0	58 71.6	17 21.0	1 1.2	4 4.9	1 1.2	
柳南		116 100.0	75 64.7	36 31.0	0 -	2 1.7	3 2.6	
大和		215 100.0	139 64.7	60 27.9	1 0.5	13 6.0	2 0.9	
三橋		272 100.0	187 68.8	71 26.1	1 0.4	10 3.7	3 1.1	
わからない		16 100.0	11 68.8	2 12.5	0 -	3 18.8	0 -	
無回答		19 100.0	13 68.4	5 26.3	1 5.3	0 -	0 -	

< 中学校区別 >

「月に1回」の割合が最も高いのは蒲池の71.6%で、昭代と三橋(68.8%)、柳城(65.9%)。最も低かったのは柳南と大和で64.7%。

「月に2回」の割合が最も高かったのは柳南(31.0%)。

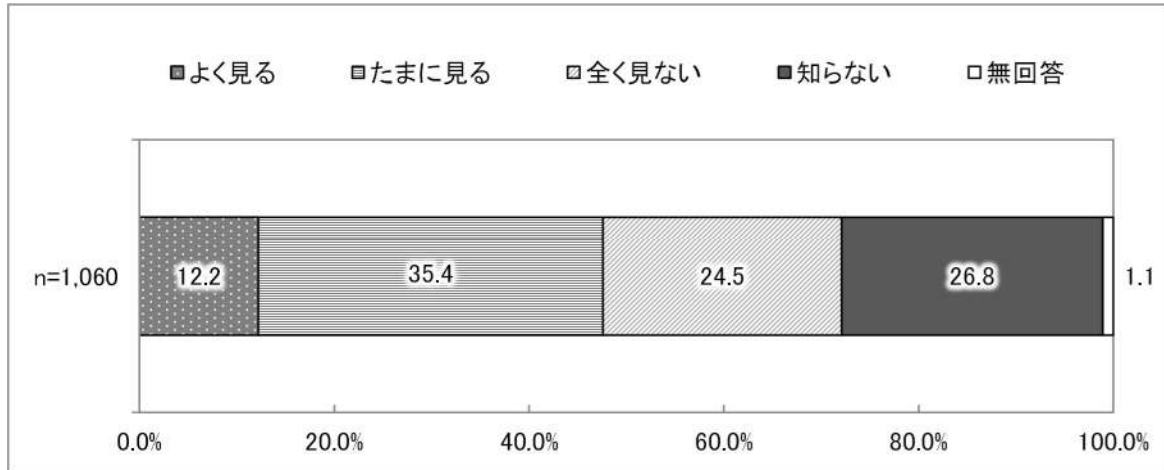
Ⅲ. 調査結果

(3) テレビのKBC dボタンで見る柳川市の情報についての視聴度合い（問 22）

問 22. テレビのKBC d ボタンを押して柳川市の情報を見ていますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「たまに見る」で 35.4%。

「よく見る」「たまに見る」の合計「見る」は 47.6%と約5割。



■テレビの KBC d ボタンを押して柳川市の情報を見ているかについて、最も高かった割合は「たまに見る」で 35.4%だった。以下、割合が高い順に、「知らない」(26.8%)、「全く見ない」(24.5%)と、「よく見る」(12.2%)。

また、「よく見る」と「たまに見る」を合わせた『見る』の割合は 47.6%で、約5割の人が見ていることがわかった。

(問 22) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	よく見る	たまに見る	全く見ない	知らない	無回答	『見る』
(上段：件数、下段：%)								
全 体		1,060 100.0	129 12.2	375 35.4	260 24.5	284 26.8	12 1.1	504 47.6
性別	男性	454 100.0	46 10.1	159 35.0	118 26.0	125 27.5	6 1.3	205 45.1
	女性	597 100.0	82 13.7	211 35.3	139 23.3	159 26.6	6 1.0	293 49.0
	無回答	9 100.0	1 11.1	5 55.6	3 33.3	0 -	0 -	6 66.7
年代別	10代	6 100.0	0 -	0 -	2 33.3	4 66.7	0 -	0 -
	20代	40 100.0	1 2.5	6 15.0	14 35.0	19 47.5	0 -	7 17.5
	30代	87 100.0	4 4.6	18 20.7	24 27.6	40 46.0	1 1.1	22 25.3
	40代	157 100.0	9 5.7	37 23.6	66 42.0	45 28.7	0 -	46 29.3
	50代	222 100.0	29 13.1	77 34.7	52 23.4	61 27.5	3 1.4	106 47.8
	60代	232 100.0	38 16.4	103 44.4	38 16.4	51 22.0	2 0.9	141 60.8
	70代以上	308 100.0	47 15.3	130 42.2	62 20.1	63 20.5	6 1.9	177 57.5
	無回答	8 100.0	1 12.5	4 50.0	2 25.0	1 12.5	0 -	5 62.5
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	20 8.4	63 26.5	79 33.2	74 31.1	2 0.8	83 34.9
	いない	816 100.0	108 13.2	309 37.9	179 21.9	210 25.7	10 1.2	417 51.1
	無回答	6 100.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	0 -	0 -	4 66.7

<性別>

『見る』の割合は女性がやや高く、「全く見ない」と「知らない」の割合は男性がやや高かった。

<年代別>

『見る』の割合は50代以上の割合がそれぞれ5～6割前後で、40代以下。次に「知らない」の割合については10代の割合が他の年代よりも高く、66.7%である。

<18歳以下の子どもの有無別>

『見る』の割合は、「いない」と答えた人は、「いる」と答えた人より16.2ポイント高く5割を占めている。

Ⅲ. 調査結果

(問 22) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	よく見る	たまに見る	全く見ない	知らない	無回答	『見る』	
(上段：件数、下段：%)									
全 体		1,060 100.0	129 12.2	375 35.4	260 24.5	284 26.8	12 1.1	504 47.6	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	14 12.7	36 32.7	26 23.6	33 30.0	1 0.9	50 45.4	
	城内	62 100.0	7 11.3	25 40.3	11 17.7	18 29.0	1 1.6	32 51.6	
	東宮永	57 100.0	10 17.5	20 35.1	14 24.6	12 21.1	1 1.8	30 52.6	
	昭代第一	67 100.0	6 9.0	30 44.8	17 25.4	13 19.4	1 1.5	36 53.8	
	昭代第二	45 100.0	10 22.2	14 31.1	9 20.0	12 26.7	0 -	24 53.3	
	蒲池	81 100.0	8 9.9	27 33.3	23 28.4	22 27.2	1 1.2	35 43.2	
	矢留	65 100.0	7 10.8	22 33.8	17 26.2	19 29.2	0 -	29 44.6	
	両開	51 100.0	9 17.6	18 35.3	11 21.6	12 23.5	1 2.0	27 52.9	
	皿垣	28 100.0	4 14.3	12 42.9	4 14.3	7 25.0	1 3.6	16 57.2	
	有明	14 100.0	2 14.3	4 28.6	2 14.3	6 42.9	0 -	6 42.9	
	中島	43 100.0	2 4.7	12 27.9	13 30.2	15 34.9	1 2.3	14 32.6	
	六合	44 100.0	8 18.2	11 25.0	16 36.4	9 20.5	0 -	19 43.2	
	大和	45 100.0	6 13.3	14 31.1	15 33.3	9 20.0	1 2.2	20 44.4	
	豊原	41 100.0	5 12.2	13 31.7	11 26.8	12 29.3	0 -	18 43.9	
	藤吉	125 100.0	9 7.2	52 41.6	37 29.6	27 21.6	0 -	61 48.8	
	矢ヶ部	25 100.0	2 8.0	12 48.0	4 16.0	7 28.0	0 -	14 56.0	
	二ッ河	61 100.0	7 11.5	19 31.1	13 21.3	20 32.8	2 3.3	26 42.6	
	垂見	47 100.0	7 14.9	19 40.4	9 19.1	11 23.4	1 2.1	26 55.3	
	中山	14 100.0	0 -	8 57.1	2 14.3	4 28.6	0 -	8 57.1	
	わからない	16 100.0	2 12.5	2 12.5	3 18.8	9 56.3	0 -	4 25.0	
	無回答	19 100.0	4 21.1	5 26.3	3 15.8	7 36.8	0 -	9 47.4	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	31 13.5	81 35.4	51 22.3	63 27.5	3 1.3	112 48.9
		昭代	112 100.0	16 14.3	44 39.3	26 23.2	25 22.3	1 0.9	60 53.6
		蒲池	81 100.0	8 9.9	27 33.3	23 28.4	22 27.2	1 1.2	35 43.2
柳南		116 100.0	16 13.8	40 34.5	28 24.1	31 26.7	1 0.9	56 48.3	
大和		215 100.0	27 12.6	66 30.7	61 28.4	58 27.0	3 1.4	93 43.3	
三橋		272 100.0	25 9.2	110 40.4	65 23.9	69 25.4	3 1.1	135 49.6	
わからない		16 100.0	2 12.5	2 12.5	3 18.8	9 56.3	0 -	4 25.0	
無回答		19 100.0	4 21.1	5 26.3	3 15.8	7 36.8	0 -	9 47.4	

< 中学校区別 >

『見る』の割合が最も高いのは昭代の 53.6%で、三橋 (49.6%)、柳城 (48.9%) と続く。最も低かったのは蒲池で 43.2%。

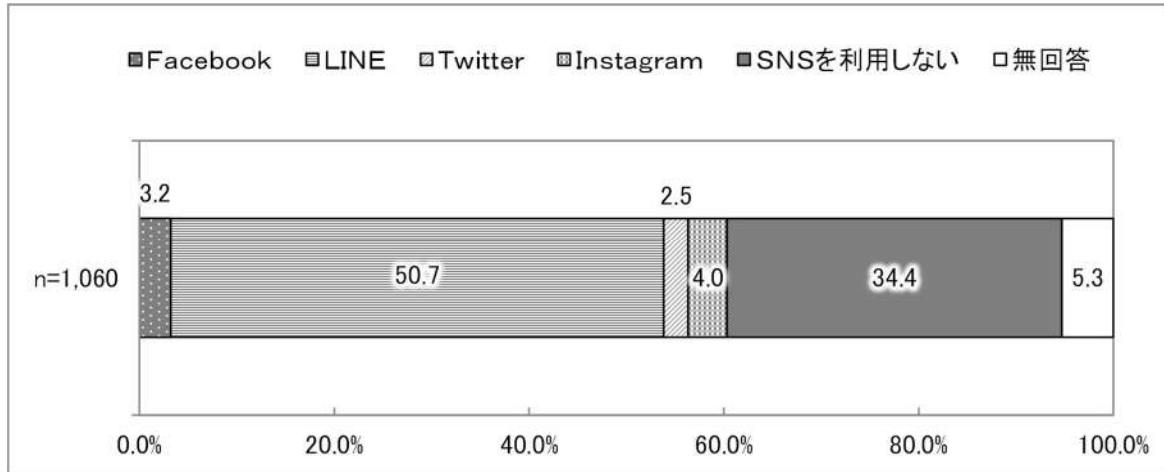
Ⅲ. 調査結果

(4) よく利用するSNS (問 23)

問 23. よく利用する SNS の種類は何ですか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「LINE」で 50.7%。

「LINE」が過半数を占めている。



■よく利用する SNS の種類は何かについて、最も高かった割合は「LINE」で 50.7%だった。以下、割合が高い順に、「SNS を利用しない」(34.4%)、「Instagram」(4.0%)、「Facebook」(3.2%)と「Twitter」(2.5%)。

他の SNS と大きく差をつけて「LINE」が利用されていることがわかった。

(問 23) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調 査 数	F a c e b o o k	L I N E	T w i t t e r	I n s t a g r a m	S N S を 利 用 し な い	無 回 答
(上段：件数、下段：%)								
全 体		1,060 100.0	34 3.2	537 50.7	26 2.5	42 4.0	365 34.4	56 5.3
性 別	男性	454 100.0	20 4.4	217 47.8	14 3.1	15 3.3	164 36.1	24 5.3
	女性	597 100.0	13 2.2	319 53.4	12 2.0	27 4.5	194 32.5	32 5.4
	無回答	9 100.0	1 11.1	1 11.1	0 -	0 -	7 77.8	0 -
年 代 別	10代	6 100.0	0 -	2 33.3	0 -	4 66.7	0 -	0 -
	20代	40 100.0	0 -	23 57.5	5 12.5	12 30.0	0 -	0 -
	30代	87 100.0	4 4.6	62 71.3	7 8.0	10 11.5	3 3.4	1 1.1
	40代	157 100.0	12 7.6	109 69.4	8 5.1	9 5.7	18 11.5	1 0.6
	50代	222 100.0	8 3.6	149 67.1	3 1.4	6 2.7	53 23.9	3 1.4
	60代	232 100.0	5 2.2	114 49.1	2 0.9	1 0.4	102 44.0	8 3.4
	70代以上	308 100.0	5 1.6	75 24.4	1 0.3	0 -	184 59.7	43 14.0
	無回答	8 100.0	0 -	3 37.5	0 -	0 -	5 62.5	0 -
の18歳 有無も以下	いる	238 100.0	12 5.0	168 70.6	5 2.1	20 8.4	28 11.8	5 2.1
	いない	816 100.0	22 2.7	368 45.1	21 2.6	22 2.7	332 40.7	51 6.3
	無回答	6 100.0	0 -	1 16.7	0 -	0 -	5 83.3	0 -

<性別>

「LINE」の割合は女性がやや高く、「SNS を利用しない」の割合は男性がやや高かった。

<年代別>

「LINE」の割合は30代が最も高く71.3%で、どの年代からも利用されていた。「Instagram」については30代以下の割合が高かった。

また、年代が上がるにつれて「SNS を利用しない」の割合が上がっている。

<18 歳以下の子どもの有無別>

「LINE」の割合は、「いる」と答えた人は、「いない」と答えた人より25.5ポイント高く7割を占めている。

「SNS を利用しない」の割合は、「いない」と答えた人のほうが「いる」と答えた人よりも28.9ポイント高い40.7%だった。

Ⅲ. 調査結果

(問 23) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	F a c e b o o k	L I N E	T w i t t e r	I n s t a g r a m	S N S を 利 用 し な い	無 回 答
(上段：件数、下段：%)								
全 体		1,060 100.0	34 3.2	537 50.7	26 2.5	42 4.0	365 34.4	56 5.3
居住 小 学 校 区 別	柳河	110 100.0	8 7.3	59 53.6	2 1.8	6 5.5	31 28.2	4 3.6
	城内	62 100.0	7 11.3	29 46.8	2 3.2	3 4.8	17 27.4	4 6.5
	東宮永	57 100.0	1 1.8	30 52.6	1 1.8	2 3.5	20 35.1	3 5.3
	昭代第一	67 100.0	1 1.5	35 52.2	2 3.0	4 6.0	22 32.8	3 4.5
	昭代第二	45 100.0	0 -	22 48.9	2 4.4	0 -	18 40.0	3 6.7
	蒲池	81 100.0	3 3.7	43 53.1	5 6.2	2 2.5	28 34.6	0 -
	矢留	65 100.0	1 1.5	30 46.2	1 1.5	1 1.5	27 41.5	5 7.7
	両開	51 100.0	2 3.9	23 45.1	0 -	1 2.0	20 39.2	5 9.8
	皿垣	28 100.0	1 3.6	11 39.3	0 -	0 -	14 50.0	2 7.1
	有明	14 100.0	0 -	7 50.0	0 -	1 7.1	5 35.7	1 7.1
	中島	43 100.0	0 -	22 51.2	0 -	3 7.0	14 32.6	4 9.3
	六合	44 100.0	1 2.3	19 43.2	0 -	2 4.5	20 45.5	2 4.5
	大和	45 100.0	0 -	24 53.3	1 2.2	0 -	15 33.3	5 11.1
	豊原	41 100.0	2 4.9	22 53.7	1 2.4	1 2.4	12 29.3	3 7.3
	藤吉	125 100.0	2 1.6	76 60.8	5 4.0	8 6.4	30 24.0	4 3.2
	矢ヶ部	25 100.0	1 4.0	10 40.0	3 12.0	1 4.0	10 40.0	0 -
	二ッ河	61 100.0	3 4.9	27 44.3	0 -	2 3.3	25 41.0	4 6.6
	垂見	47 100.0	0 -	25 53.2	0 -	2 4.3	17 36.2	3 6.4
	中山	14 100.0	1 7.1	6 42.9	0 -	0 -	7 50.0	0 -
	わからない	16 100.0	0 -	12 75.0	1 6.3	1 6.3	2 12.5	0 -
	無回答	19 100.0	0 -	5 26.3	0 -	2 10.5	11 57.9	1 5.3
居住 中 学 校 区 別	柳城	229 100.0	16 7.0	118 51.5	5 2.2	11 4.8	68 29.7	11 4.8
	昭代	112 100.0	1 0.9	57 50.9	4 3.6	4 3.6	40 35.7	6 5.4
	蒲池	81 100.0	3 3.7	43 53.1	5 6.2	2 2.5	28 34.6	0 -
	柳南	116 100.0	3 2.6	53 45.7	1 0.9	2 1.7	47 40.5	10 8.6
	大和	215 100.0	4 1.9	105 48.8	2 0.9	7 3.3	80 37.2	17 7.9
	三橋	272 100.0	7 2.6	144 52.9	8 2.9	13 4.8	89 32.7	11 4.0
	わからない	16 100.0	0 -	12 75.0	1 6.3	1 6.3	2 12.5	0 -
	無回答	19 100.0	0 -	5 26.3	0 -	2 10.5	11 57.9	1 5.3

< 中学校区別 >

「LINE」の割合が最も高いのは蒲池の 53.1%で、三橋 (52.9%)、柳城 (51.5%) と続く。最も低かったのは柳南で 45.7%。柳南は「SNS を利用しない」の割合が最も高かった (40.5%)。

Ⅲ. 調査結果

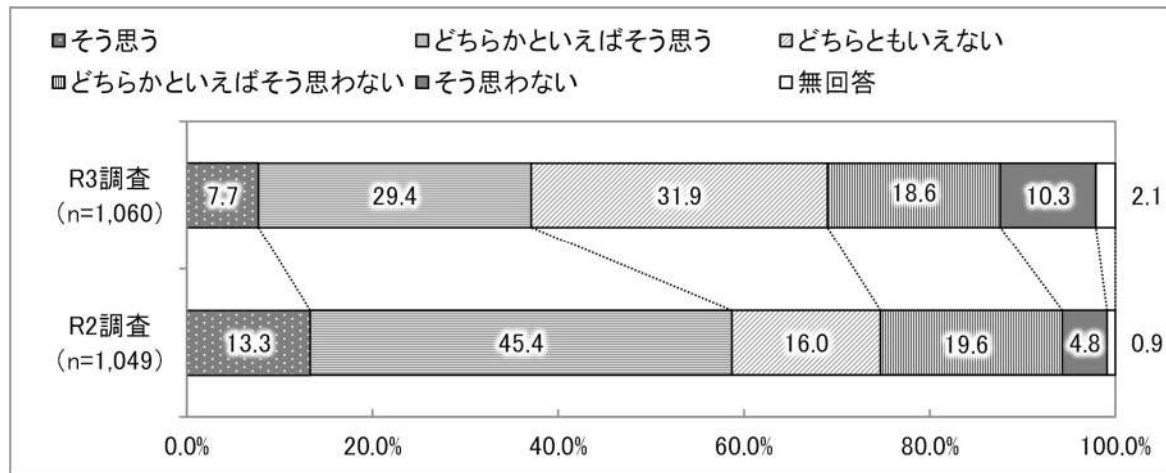
5. 移動環境・手段について

(1) 市内の道路を快適に通行できると思う度合い（問 24）

問 24. 市内の道路を快適に通行できると思いますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「どちらともいえない」で 31.9%。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計「そう思う」は 37.1%で、前年から 21.6 ポイント減少。



■市内の道路を快適に通行できると思う度合いについて、最も高かった割合は「どちらともいえない」で 31.9%だった。以下、割合が高い順に、「どちらかといえばそう思う」(29.4%)、「どちらかといえばそう思わない」(18.6%)、「そう思わない」(10.3%)と「そう思う」(7.7%)。また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は 37.1%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の 28.9%より 8.2 ポイント上回っている。

■令和 2 年度調査と比較すると、『そう思わない』の割合に大きな差は見られないが、『そう思う』の割合は令和 2 年度の 58.7%より 21.6 ポイントと大幅に低くなっている。

(問 24) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえどそう思う』	『どちらともいえない』	『どちらかといえどそう思わない』	『そう思わない』	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	82 7.7	312 29.4	338 31.9	197 18.6	109 10.3	22 2.1	394 37.1	306 28.9
性別	男性	454 100.0	40 8.8	137 30.2	128 28.2	83 18.3	54 11.9	12 2.6	177 39.0	137 30.2
	女性	597 100.0	42 7.0	172 28.8	206 34.5	113 18.9	54 9.0	10 1.7	214 35.8	167 27.9
	無回答	9 100.0	0 -	3 33.3	4 44.4	1 11.1	1 11.1	0 -	3 33.3	2 22.2
年代別	10代	6 100.0	0 -	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	0 -	2 33.3	3 50.0
	20代	40 100.0	7 17.5	17 42.5	8 20.0	4 10.0	4 10.0	0 -	24 60.0	8 20.0
	30代	87 100.0	11 12.6	27 31.0	20 23.0	22 25.3	5 5.7	2 2.3	38 43.6	27 31.0
	40代	157 100.0	11 7.0	50 31.8	48 30.6	27 17.2	21 13.4	0 -	61 38.8	48 30.6
	50代	222 100.0	16 7.2	71 32.0	67 30.2	42 18.9	23 10.4	3 1.4	87 39.2	65 29.3
	60代	232 100.0	14 6.0	65 28.0	81 34.9	42 18.1	27 11.6	3 1.3	79 34.0	69 29.7
	70代以上	308 100.0	23 7.5	77 25.0	111 36.0	56 18.2	27 8.8	14 4.5	100 32.5	83 27.0
	無回答	8 100.0	0 -	3 37.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	0 -	3 37.5	3 37.5
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	14 5.9	79 33.2	68 28.6	50 21.0	24 10.1	3 1.3	93 39.1	74 31.1
	いない	816 100.0	68 8.3	230 28.2	269 33.0	146 17.9	84 10.3	19 2.3	298 36.5	230 28.2
	無回答	6 100.0	0 -	3 50.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 -	3 50.0	2 33.4

<性別>

『そう思う』、『そう思わない』の割合はどちらも男性がやや高く、女性は「どちらともいえない」の割合がやや高かったが、いずれも大きな差は見られない。

<年代別>

『そう思う』の割合が最も高かったのは20代で6割を占め、最も低かったのは70代以上で約3割。

<18歳以下の子どもの有無別>

『そう思う』の割合は、「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりやや高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問 24) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえば』	『どちらともいえない』	『どちらかといえば』	『そう思う』	無回答	『そう思う』	『そう思う』	
(上段：件数、下段：%)											
全 体		1,060 100.0	82 7.7	312 29.4	338 31.9	197 18.6	109 10.3	22 2.1	394 37.1	306 28.9	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	6 5.5	28 25.5	35 31.8	23 20.9	18 16.4	0 -	34 31.0	41 37.3	
	城内	62 100.0	6 9.7	17 27.4	20 32.3	13 21.0	4 6.5	2 3.2	23 37.1	17 27.5	
	東宮永	57 100.0	6 10.5	13 22.8	20 35.1	14 24.6	3 5.3	1 1.8	19 33.3	17 29.9	
	昭代第一	67 100.0	2 3.0	15 22.4	24 35.8	15 22.4	10 14.9	1 1.5	17 25.4	25 37.3	
	昭代第二	45 100.0	2 4.4	13 28.9	14 31.1	10 22.2	5 11.1	1 2.2	15 33.3	15 33.3	
	蒲池	81 100.0	9 11.1	26 32.1	21 25.9	19 23.5	5 6.2	1 1.2	35 43.2	24 29.7	
	矢留	65 100.0	2 3.1	15 23.1	22 33.8	18 27.7	7 10.8	1 1.5	17 26.2	25 38.5	
	両開	51 100.0	5 9.8	10 19.6	18 35.3	9 17.6	5 9.8	4 7.8	15 29.4	14 27.4	
	皿垣	28 100.0	4 14.3	7 25.0	8 28.6	5 17.9	2 7.1	2 7.1	11 39.3	7 25.0	
	有明	14 100.0	1 7.1	4 28.6	7 50.0	0 -	2 14.3	0 -	5 35.7	2 14.3	
	中島	43 100.0	3 7.0	20 46.5	8 18.6	10 23.3	2 4.7	0 -	23 53.5	12 28.0	
	六合	44 100.0	5 11.4	18 40.9	12 27.3	7 15.9	2 4.5	0 -	23 52.3	9 20.4	
	大和	45 100.0	3 6.7	14 31.1	20 44.4	5 11.1	2 4.4	1 2.2	17 37.8	7 15.5	
	豊原	41 100.0	5 12.2	14 34.1	11 26.8	6 14.6	5 12.2	0 -	19 46.3	11 26.8	
	藤吉	125 100.0	10 8.0	43 34.4	38 30.4	22 17.6	10 8.0	2 1.6	53 42.4	32 25.6	
	矢ヶ部	25 100.0	2 8.0	3 12.0	11 44.0	1 4.0	8 32.0	0 -	5 20.0	9 36.0	
	二ッ河	61 100.0	3 4.9	17 27.9	21 34.4	8 13.1	9 14.8	3 4.9	20 32.8	17 27.9	
	垂見	47 100.0	6 12.8	15 31.9	11 23.4	8 17.0	4 8.5	3 6.4	21 44.7	12 25.5	
	中山	14 100.0	2 14.3	5 35.7	5 35.7	1 7.1	1 7.1	0 -	7 50.0	2 14.2	
	わからない	16 100.0	0 -	7 43.8	5 31.3	2 12.5	2 12.5	0 -	7 43.8	4 25.0	
	無回答	19 100.0	0 -	8 42.1	7 36.8	1 5.3	3 15.8	0 -	8 42.1	4 21.1	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	18 7.9	58 25.3	75 32.8	50 21.8	25 10.9	3 1.3	76 33.2	75 32.7
		昭代	112 100.0	4 3.6	28 25.0	38 33.9	25 22.3	15 13.4	2 1.8	32 28.6	40 35.7
蒲池		81 100.0	9 11.1	26 32.1	21 25.9	19 23.5	5 6.2	1 1.2	35 43.2	24 29.7	
柳南		116 100.0	7 6.0	25 21.6	40 34.5	27 23.3	12 10.3	5 4.3	32 27.6	39 33.6	
大和		215 100.0	21 9.8	77 35.8	66 30.7	33 15.3	15 7.0	3 1.4	98 45.6	48 22.3	
三橋		272 100.0	23 8.5	83 30.5	86 31.6	40 14.7	32 11.8	8 2.9	106 39.0	72 26.5	
わからない		16 100.0	0 -	7 43.8	5 31.3	2 12.5	2 12.5	0 -	7 43.8	4 25.0	
無回答		19 100.0	0 -	8 42.1	7 36.8	1 5.3	3 15.8	0 -	8 42.1	4 21.1	

<中学校区別>

『そう思う』の割合が最も高いのは大和の45.6%で、蒲池(43.2%)、三橋(39.0%)と続く。最も低かったのは柳南で27.6%。

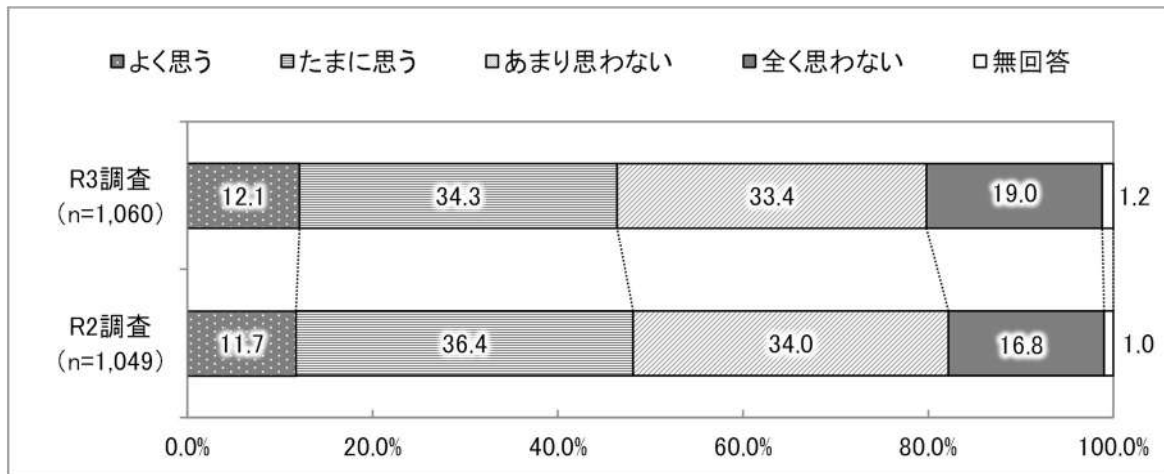
Ⅲ. 調査結果

(2) 路線バス・電車などの公共交通を利用しようと思う度合い（問 25）

問 25. 外出する際、路線バス・電車など公共交通を利用しようと思うことはありますか。
(○は1つだけ)

最も高い割合は「たまに思う」で 34.3%。

「あまり思わない」「全く思わない」の合計『思わない』は 52.4%と、前年から 1.6 ポイント上昇。



■公共交通を利用しようと思う度合いについて、最も高かった割合は「たまに思う」で 34.3%だった。以下、割合が高い順に、「あまり思わない」(33.4%)、「全く思わない」(19.0%)、「よく思う」(12.1%)。

また、「よく思う」と「たまに思う」を合わせた『思う』の割合は 46.4%で、「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせた『思わない』の 52.4%より 6.0 ポイント下回っている。

■令和 2 年度調査と比較すると、『思う』の割合は令和 2 年度よりやや下がっている。

(問 25) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調査数	よく思う	たまに思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	『思う』	『思わない』
(上段：件数、下段：%)									
全 体		1,060 100.0	128 12.1	364 34.3	354 33.4	201 19.0	13 1.2	492 46.4	555 52.4
性別	男性	454 100.0	33 7.3	134 29.5	168 37.0	113 24.9	6 1.3	167 36.8	281 61.9
	女性	597 100.0	93 15.6	226 37.9	185 31.0	86 14.4	7 1.2	319 53.5	271 45.4
	無回答	9 100.0	2 22.2	4 44.4	1 11.1	2 22.2	0 -	6 66.6	3 33.3
年代別	10代	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 -	0 -	0 -	6 100.0	0 -
	20代	40 100.0	7 17.5	18 45.0	8 20.0	7 17.5	0 -	25 62.5	15 37.5
	30代	87 100.0	11 12.6	18 20.7	30 34.5	27 31.0	1 1.1	29 33.3	57 65.5
	40代	157 100.0	15 9.6	52 33.1	57 36.3	33 21.0	0 -	67 42.7	90 57.3
	50代	222 100.0	23 10.4	85 38.3	71 32.0	40 18.0	3 1.4	108 48.7	111 50.0
	60代	232 100.0	24 10.3	78 33.6	79 34.1	50 21.6	1 0.4	102 43.9	129 55.7
	70代以上	308 100.0	45 14.6	105 34.1	107 34.7	43 14.0	8 2.6	150 48.7	150 48.7
	無回答	8 100.0	1 12.5	4 50.0	2 25.0	1 12.5	0 -	5 62.5	3 37.5
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	15 6.3	80 33.6	83 34.9	58 24.4	2 0.8	95 39.9	141 59.3
	いない	816 100.0	113 13.8	280 34.3	270 33.1	142 17.4	11 1.3	393 48.1	412 50.5
	無回答	6 100.0	0 -	4 66.7	1 16.7	1 16.7	0 -	4 66.7	2 33.4

<性別>

『思う』の割合は女性が高く、『思わない』の割合は男性が高かった。

<年代別>

『思う』の割合は20代以下が特に高く、最も低い年代は30代だった。

<18歳以下の子どもの有無別>

『思う』の割合は、「いない」と答えた人(48.1%)のほうが「いる」と答えた人(39.9%)より8.2ポイント高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問 25) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	よく思う	たまに思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	『思う』	『思わない』	
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	128 12.1	364 34.3	354 33.4	201 19.0	13 1.2	492 46.4	555 52.4	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	17 15.5	46 41.8	30 27.3	17 15.5	0 -	63 57.3	47 42.8	
	城内	62 100.0	19 30.6	21 33.9	13 21.0	7 11.3	2 3.2	40 64.5	20 32.3	
	東宮永	57 100.0	8 14.0	12 21.1	19 33.3	16 28.1	2 3.5	20 35.1	35 61.4	
	昭代第一	67 100.0	5 7.5	28 41.8	21 31.3	12 17.9	1 1.5	33 49.3	33 49.2	
	昭代第二	45 100.0	3 6.7	13 28.9	17 37.8	12 26.7	0 -	16 35.6	29 64.5	
	蒲池	81 100.0	6 7.4	35 43.2	27 33.3	13 16.0	0 -	41 50.6	40 49.3	
	矢留	65 100.0	10 15.4	19 29.2	22 33.8	14 21.5	0 -	29 44.6	36 55.3	
	両開	51 100.0	2 3.9	11 21.6	21 41.2	16 31.4	1 2.0	13 25.5	37 72.6	
	皿垣	28 100.0	3 10.7	10 35.7	10 35.7	4 14.3	1 3.6	13 46.4	14 50.0	
	有明	14 100.0	2 14.3	1 7.1	6 42.9	5 35.7	0 -	3 21.4	11 78.6	
	中島	43 100.0	2 4.7	14 32.6	19 44.2	8 18.6	0 -	16 37.3	27 62.8	
	六合	44 100.0	3 6.8	10 22.7	20 45.5	11 25.0	0 -	13 29.5	31 70.5	
	大和	45 100.0	2 4.4	14 31.1	16 35.6	13 28.9	0 -	16 35.5	29 64.5	
	豊原	41 100.0	4 9.8	20 48.8	11 26.8	5 12.2	1 2.4	24 58.6	16 39.0	
	藤吉	125 100.0	20 16.0	53 42.4	40 32.0	12 9.6	0 -	73 58.4	52 41.6	
	矢ヶ部	25 100.0	3 12.0	12 48.0	6 24.0	3 12.0	1 4.0	15 60.0	9 36.0	
	二ッ河	61 100.0	8 13.1	14 23.0	22 36.1	14 23.0	3 4.9	22 36.1	36 59.1	
	垂見	47 100.0	4 8.5	14 29.8	19 40.4	9 19.1	1 2.1	18 38.3	28 59.5	
	中山	14 100.0	2 14.3	3 21.4	6 42.9	3 21.4	0 -	5 35.7	9 64.3	
	わからない	16 100.0	2 12.5	7 43.8	3 18.8	4 25.0	0 -	9 56.3	7 43.8	
	無回答	19 100.0	3 15.8	7 36.8	6 31.6	3 15.8	0 -	10 52.6	9 47.4	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	44 19.2	79 34.5	62 27.1	40 17.5	4 1.7	123 53.7	102 44.6
		昭代	112 100.0	8 7.1	41 36.6	38 33.9	24 21.4	1 0.9	49 43.7	62 55.3
蒲池		81 100.0	6 7.4	35 43.2	27 33.3	13 16.0	0 -	41 50.6	40 49.3	
柳南		116 100.0	12 10.3	30 25.9	43 37.1	30 25.9	1 0.9	42 36.2	73 63.0	
大和		215 100.0	16 7.4	69 32.1	82 38.1	46 21.4	2 0.9	85 39.5	128 59.5	
三橋		272 100.0	37 13.6	96 35.3	93 34.2	41 15.1	5 1.8	133 48.9	134 49.3	
わからない		16 100.0	2 12.5	7 43.8	3 18.8	4 25.0	0 -	9 56.3	7 43.8	
無回答		19 100.0	3 15.8	7 36.8	6 31.6	3 15.8	0 -	10 52.6	9 47.4	

<中学校区別>

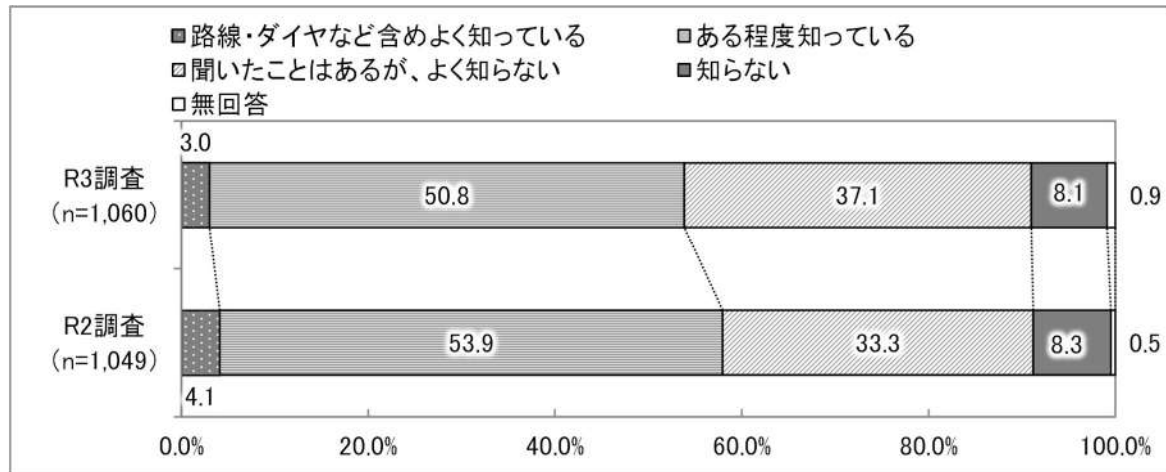
『思う』の割合が最も高いのは柳城の 53.7%で、蒲池 (50.6%)、三橋 (48.9%) と続く。最も低かったのは柳南で 36.2%。

Ⅲ. 調査結果

(3) 柳川市運行コミュニティバスの認知度（問 26）

問 26. コミュニティバスを知っているか（○は1つだけ）

最も高い割合は「ある程度知っている」で 50.8%。「路線・ダイヤなど含めよく知っている」「ある程度知っている」の合計「知っている」は前年からやや低下。



■ コミュニティバスの認知度について、最も高かった割合は「ある程度知っている」で 50.8% だった。以下、割合が高い順に、「聞いたことはあるが、よく知らない」(37.1%)、「知らない」(8.1%)、「路線・ダイヤなど含めよく知っている」(3.0%)。

また、「路線・ダイヤなど含めよく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた『知っている』の割合は 53.8% で、「聞いたことはあるが、よく知らない」と「知らない」を合わせた『知らない』の 45.2% より 8.6 ポイント上回っている。

■ 令和 2 年度調査と比較すると、『知っている』は 53.8% に比べ、4.2 ポイントとわずかに減少した。

(問 26) 性別・年代別・18 歳以下の子どもの有無別

		調査数	含路 め線 よく ダイ 知 つ て い る	あ る 程 度 知 つ て い る	よ 聞 く 知 ら な い こ と は あ る が、	知 ら な い	無 回 答	『 知 っ て い る 』	『 知 ら な い 』
(上段：件数、下段：%)									
全 体		1,060 100.0	32 3.0	539 50.8	393 37.1	86 8.1	10 0.9	571 53.8	479 45.2
性 別	男性	454 100.0	11 2.4	228 50.2	162 35.7	46 10.1	7 1.5	239 52.6	208 45.8
	女性	597 100.0	21 3.5	302 50.6	231 38.7	40 6.7	3 0.5	323 54.1	271 45.4
	無回答	9 100.0	0 -	9 100.0	0 -	0 -	0 -	9 100.0	0 -
年 代 別	10代	6 100.0	0 -	2 33.3	3 50.0	1 16.7	0 -	2 33.3	4 66.7
	20代	40 100.0	0 -	9 22.5	22 55.0	9 22.5	0 -	9 22.5	31 77.5
	30代	87 100.0	4 4.6	29 33.3	38 43.7	15 17.2	1 1.1	33 37.9	53 60.9
	40代	157 100.0	2 1.3	67 42.7	72 45.9	16 10.2	0 -	69 44.0	88 56.1
	50代	222 100.0	2 0.9	111 50.0	90 40.5	17 7.7	2 0.9	113 50.9	107 48.2
	60代	232 100.0	6 2.6	120 51.7	88 37.9	17 7.3	1 0.4	126 54.3	105 45.2
	70代以上	308 100.0	18 5.8	194 63.0	79 25.6	11 3.6	6 1.9	212 68.8	90 29.2
	無回答	8 100.0	0 -	7 87.5	1 12.5	0 -	0 -	7 87.5	1 12.5
の 1 8 歳 以 下 の 子 ど も の 有 無	いる	238 100.0	7 2.9	111 46.6	94 39.5	24 10.1	2 0.8	118 49.5	118 49.6
	いない	816 100.0	25 3.1	422 51.7	299 36.6	62 7.6	8 1.0	447 54.8	361 44.2
	無回答	6 100.0	0 -	6 100.0	0 -	0 -	0 -	6 100.0	0 -

<性別>

『知っている』の割合は女性がやや高かったが、大きな差は見られない。

<年代別>

『知っている』の割合は70代以上が最も高く、唯一7割近くに上った。『知らない』は20代の割合が他の年代よりも高く、8割近くを占めた。

<18歳以下の子どもの有無別>

『知っている』の割合は、「いない」と答えた人のほうが「いる」と答えた人よりも5.3ポイント高い54.8%だった。

Ⅲ. 調査結果

(問 26) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	含 路 線 ・ ダ イ ヤ な ど 知 っ て い る	あ る 程 度 知 っ て い る	よ 開 い た こ と は あ る が、 知 ら な い	知 ら な い	無 回 答	『 知 っ て い る 』	『 知 ら な い 』	
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	32 3.0	539 50.8	393 37.1	86 8.1	10 0.9	571 53.8	479 45.2	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	2 1.8	57 51.8	42 38.2	9 8.2	0 -	59 53.6	51 46.4	
	城内	62 100.0	3 4.8	33 53.2	21 33.9	4 6.5	1 1.6	36 58.0	25 40.4	
	東宮永	57 100.0	5 8.8	27 47.4	24 42.1	0 -	1 1.8	32 56.2	24 42.1	
	昭代第一	67 100.0	3 4.5	34 50.7	27 40.3	2 3.0	1 1.5	37 55.2	29 43.3	
	昭代第二	45 100.0	1 2.2	29 64.4	8 17.8	7 15.6	0 -	30 66.6	15 33.4	
	蒲池	81 100.0	2 2.5	37 45.7	34 42.0	8 9.9	0 -	39 48.2	42 51.9	
	矢留	65 100.0	1 1.5	34 52.3	25 38.5	5 7.7	0 -	35 53.8	30 46.2	
	両開	51 100.0	1 2.0	36 70.6	12 23.5	1 2.0	1 2.0	37 72.6	13 25.5	
	皿垣	28 100.0	1 3.6	18 64.3	8 28.6	0 -	1 3.6	19 67.9	8 28.6	
	有明	14 100.0	1 7.1	2 14.3	9 64.3	2 14.3	0 -	3 21.4	11 78.6	
	中島	43 100.0	1 2.3	28 65.1	11 25.6	3 7.0	0 -	29 67.4	14 32.6	
	六合	44 100.0	0 -	17 38.6	20 45.5	6 13.6	1 2.3	17 38.6	26 59.1	
	大和	45 100.0	3 6.7	18 40.0	21 46.7	3 6.7	0 -	21 46.7	24 53.4	
	豊原	41 100.0	3 7.3	17 41.5	14 34.1	7 17.1	0 -	20 48.8	21 51.2	
	藤吉	125 100.0	2 1.6	64 51.2	48 38.4	11 8.8	0 -	66 52.8	59 47.2	
	矢ヶ部	25 100.0	0 -	10 40.0	10 40.0	5 20.0	0 -	10 40.0	15 60.0	
	二ッ河	61 100.0	1 1.6	35 57.4	19 31.1	4 6.6	2 3.3	36 59.0	23 37.7	
	垂見	47 100.0	1 2.1	19 40.4	24 51.1	2 4.3	1 2.1	20 42.5	26 55.4	
	中山	14 100.0	0 -	6 42.9	5 35.7	3 21.4	0 -	6 42.9	8 57.1	
	わからない	16 100.0	1 6.3	8 50.0	4 25.0	3 18.8	0 -	9 56.3	7 43.8	
	無回答	19 100.0	0 -	10 52.6	7 36.8	1 5.3	1 5.3	10 52.6	8 42.1	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	10 4.4	117 51.1	87 38.0	13 5.7	2 0.9	127 55.5	100 43.7
		昭代	112 100.0	4 3.6	63 56.3	35 31.3	9 8.0	1 0.9	67 59.9	44 39.3
蒲池		81 100.0	2 2.5	37 45.7	34 42.0	8 9.9	0 -	39 48.2	42 51.9	
柳南		116 100.0	2 1.7	70 60.3	37 31.9	6 5.2	1 0.9	72 62.0	43 37.1	
大和		215 100.0	9 4.2	100 46.5	83 38.6	21 9.8	2 0.9	109 50.7	104 48.4	
三橋		272 100.0	4 1.5	134 49.3	106 39.0	25 9.2	3 1.1	138 50.8	131 48.2	
わからない		16 100.0	1 6.3	8 50.0	4 25.0	3 18.8	0 -	9 56.3	7 43.8	
無回答		19 100.0	0 -	10 52.6	7 36.8	1 5.3	1 5.3	10 52.6	8 42.1	

<中学校区別>

『知っている』の割合が最も高いのは柳南の 62.0%で、昭代 (59.9%)、柳城 (55.5%) と続く。最も低かったのは蒲池で 48.2%。

Ⅲ. 調査結果

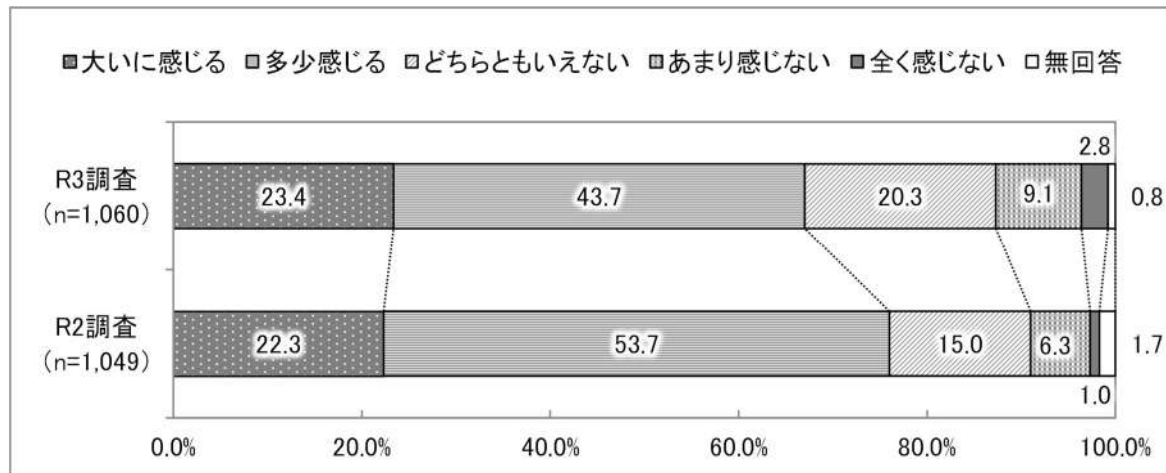
6. 生活環境について

(1) 柳川市への愛着の度合い (問5)

問5. 柳川市に愛着や誇りを感じますか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「多少感じる」で43.7%。

「大いに感じる」「多少感じる」の合計「感じる」は67.1%と、前年から8.9ポイント減少。



■柳川市への愛着度について、最も高かった割合は「多少感じる」で43.7%だった。以下、割合が高い順に、「大いに感じる」(23.4%)、「どちらともいえない」(20.3%)、「あまり感じない」(9.1%)と「全く感じない」(2.8%)。

また、「大いに感じる」と「多少感じる」を合わせた『感じる』の割合は67.1%で、「あまり感じない」と「全く感じない」を合わせた『感じない』の11.9%より55.2ポイント上回っている。

■令和2年度調査と比較すると、『感じない』の割合に大きな差は見られないが、『感じる』の割合は令和2年度の76.0%より8.9ポイント低くなっている。

(問5) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	大いに感じる	多少感じる	どちらともいえない	あまり感じない	全く感じない	無回答	『感じる』	『感じない』
(上段：件数、下段：%)										
全体		1,060 100.0	248 23.4	463 43.7	215 20.3	96 9.1	30 2.8	8 0.8	711 67.1	126 11.9
性別	男性	454 100.0	108 23.8	191 42.1	100 22.0	41 9.0	14 3.1	0 -	299 65.9	55 12.1
	女性	597 100.0	139 23.3	272 45.6	113 18.9	55 9.2	16 2.7	2 0.3	411 68.9	71 11.9
	無回答	9 100.0	1 11.1	0 -	2 22.2	0 -	0 -	6 66.7	1 11.1	0 -
年代別	10代	6 100.0	0 -	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 -	2 33.3	2 33.4
	20代	40 100.0	4 10.0	18 45.0	9 22.5	5 12.5	4 10.0	0 -	22 55.0	9 22.5
	30代	87 100.0	17 19.5	35 40.2	15 17.2	14 16.1	6 6.9	0 -	52 59.7	20 23.0
	40代	157 100.0	39 24.8	66 42.0	30 19.1	16 10.2	6 3.8	0 -	105 66.8	22 14.0
	50代	222 100.0	54 24.3	105 47.3	43 19.4	12 5.4	8 3.6	0 -	159 71.6	20 9.0
	60代	232 100.0	44 19.0	107 46.1	53 22.8	25 10.8	2 0.9	1 0.4	151 65.1	27 11.7
	70代以上	308 100.0	90 29.2	128 41.6	63 20.5	23 7.5	3 1.0	1 0.3	218 70.8	26 8.5
	無回答	8 100.0	0 -	2 25.0	0 -	0 -	0 -	6 75.0	2 25.0	0 -
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	56 23.5	110 46.2	39 16.4	25 10.5	8 3.4	0 -	166 69.7	33 13.9
	いない	816 100.0	192 23.5	353 43.3	176 21.6	71 8.7	22 2.7	2 0.2	545 66.8	93 11.4
	無回答	6 100.0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	6 100.0	0 -	0 -

<性別>

『感じる』の割合は女性がやや高かった。

<年代別>

『感じる』の割合は、20代以上は半数を超えており、特に40代以上は6割を超えた。最も高い年代は50代で約7割。

<18歳以下の子どもの有無別>

「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりも『感じる』の割合がやや高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問5) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	大いに感じる	多少感じる	どちらともいえない	あまり感じない	全く感じない	無回答	『感じる』	『感じない』	
(上段：件数、下段：%)											
全 体		1,060 100.0	248 23.4	463 43.7	215 20.3	96 9.1	30 2.8	8 0.8	711 67.1	126 11.9	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	27 24.5	44 40.0	25 22.7	12 10.9	2 1.8	0 -	71 64.5	14 12.7	
	城内	62 100.0	20 32.3	26 41.9	11 17.7	3 4.8	2 3.2	0 -	46 74.2	5 8.0	
	東宮永	57 100.0	13 22.8	20 35.1	16 28.1	7 12.3	1 1.8	0 -	33 57.9	8 14.1	
	昭代第一	67 100.0	19 28.4	31 46.3	13 19.4	4 6.0	0 -	0 -	50 74.7	4 6.0	
	昭代第二	45 100.0	11 24.4	23 51.1	7 15.6	3 6.7	1 2.2	0 -	34 75.5	4 8.9	
	蒲池	81 100.0	15 18.5	32 39.5	22 27.2	10 12.3	2 2.5	0 -	47 58.0	12 14.8	
	矢留	65 100.0	17 26.2	32 49.2	10 15.4	4 6.2	1 1.5	1 1.5	49 75.4	5 7.7	
	両開	51 100.0	15 29.4	19 37.3	11 21.6	6 11.8	0 -	0 -	34 66.7	6 11.8	
	皿垣	28 100.0	4 14.3	19 67.9	4 14.3	1 3.6	0 -	0 -	23 82.2	1 3.6	
	有明	14 100.0	3 21.4	7 50.0	2 14.3	2 14.3	0 -	0 -	10 71.4	2 14.3	
	中島	43 100.0	8 18.6	19 44.2	10 23.3	2 4.7	4 9.3	0 -	27 62.8	6 14.0	
	六合	44 100.0	14 31.8	19 43.2	7 15.9	4 9.1	0 -	0 -	33 75.0	4 9.1	
	大和	45 100.0	13 28.9	15 33.3	7 15.6	7 15.6	2 4.4	1 2.2	28 62.2	9 20.0	
	豊原	41 100.0	9 22.0	17 41.5	10 24.4	5 12.2	0 -	0 -	26 63.5	5 12.2	
	藤吉	125 100.0	23 18.4	62 49.6	27 21.6	9 7.2	4 3.2	0 -	85 68.0	13 10.4	
	矢ヶ部	25 100.0	4 16.0	10 40.0	5 20.0	2 8.0	4 16.0	0 -	14 56.0	6 24.0	
	二ッ河	61 100.0	14 23.0	27 44.3	11 18.0	8 13.1	1 1.6	0 -	41 67.3	9 14.7	
	垂見	47 100.0	12 25.5	25 53.2	6 12.8	3 6.4	1 2.1	0 -	37 78.7	4 8.5	
	中山	14 100.0	4 28.6	7 50.0	2 14.3	0 -	1 7.1	0 -	11 78.6	1 7.1	
	わからない	16 100.0	3 18.8	5 31.3	4 25.0	1 6.3	3 18.8	0 -	8 50.1	4 25.1	
	無回答	19 100.0	0 -	4 21.1	5 26.3	3 15.8	1 5.3	6 31.6	4 21.1	4 21.1	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	60 26.2	90 39.3	52 22.7	22 9.6	5 2.2	0 -	150 65.5	27 11.8
		昭代	112 100.0	30 26.8	54 48.2	20 17.9	7 6.3	1 0.9	0 -	84 75.0	8 7.2
蒲池		81 100.0	15 18.5	32 39.5	22 27.2	10 12.3	2 2.5	0 -	47 58.0	12 14.8	
柳南		116 100.0	32 27.6	51 44.0	21 18.1	10 8.6	1 0.9	1 0.9	83 71.6	11 9.5	
大和		215 100.0	51 23.7	96 44.7	40 18.6	21 9.8	6 2.8	1 0.5	147 68.4	27 12.6	
三橋		272 100.0	57 21.0	131 48.2	51 18.8	22 8.1	11 4.0	0 -	188 69.2	33 12.1	
わからない		16 100.0	3 18.8	5 31.3	4 25.0	1 6.3	3 18.8	0 -	8 50.1	4 25.1	
無回答		19 100.0	0 -	4 21.1	5 26.3	3 15.8	1 5.3	6 31.6	4 21.1	4 21.1	

<中学校区別>

『感じる』の割合が最も高いのは昭代の75.0%で、柳南(71.6%)、三橋(69.2%)と続く。最も低かったのは蒲池で58.0%。

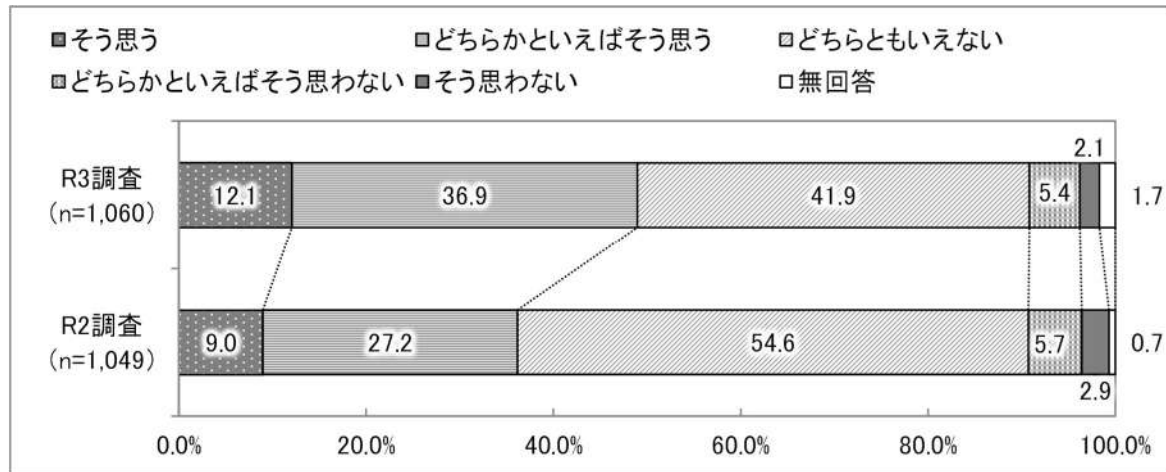
Ⅲ. 調査結果

(2) 人権が守られていると思う度合い (問 6)

問 6. 柳川市は人権が守られていると思いますか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「どちらともいえない」で 41.9%。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計「そう思う」は 49.0%と、前年から 12.8 ポイント上昇。



■ 人権が守られていると思うかについて、最も高かった割合は「どちらともいえない」で 41.9% だった。以下、割合が高い順に、「どちらかといえばそう思う」(36.9%)、「そう思う」(12.1%)、「どちらかといえばそう思わない」(5.4%)と「そう思わない」(2.1%)。

また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は 49.0%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の 7.5%より 41.5 ポイント大きく上回っている。

■ 令和 2 年度調査と比較すると、『そう思わない』の割合に大きな差は見られないが、『そう思う』の割合は令和 2 年度の 36.2%より 12.8 ポイント高くなっている。

(問6) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえば』	『どちらともいえない』	『どちらかといえ』	『そう思わない』	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	128 12.1	391 36.9	444 41.9	57 5.4	22 2.1	18 1.7	519 49.0	79 7.5
性別	男性	454 100.0	62 13.7	155 34.1	201 44.3	21 4.6	12 2.6	3 0.7	217 47.8	33 7.2
	女性	597 100.0	65 10.9	236 39.5	242 40.5	35 5.9	10 1.7	9 1.5	301 50.4	45 7.6
	無回答	9 100.0	1 11.1	0 -	1 11.1	1 11.1	0 -	6 66.7	1 11.1	1 11.1
年代別	10代	6 100.0	0 -	2 33.3	3 50.0	1 16.7	0 -	0 -	2 33.3	1 16.7
	20代	40 100.0	7 17.5	8 20.0	25 62.5	0 -	0 -	0 -	15 37.5	0 -
	30代	87 100.0	7 8.0	30 34.5	38 43.7	6 6.9	5 5.7	1 1.1	37 42.5	11 12.6
	40代	157 100.0	16 10.2	45 28.7	90 57.3	3 1.9	3 1.9	0 -	61 38.9	6 3.8
	50代	222 100.0	21 9.5	82 36.9	101 45.5	15 6.8	2 0.9	1 0.5	103 46.4	17 7.7
	60代	232 100.0	24 10.3	87 37.5	92 39.7	16 6.9	10 4.3	3 1.3	111 47.8	26 11.2
	70代以上	308 100.0	53 17.2	136 44.2	95 30.8	16 5.2	2 0.6	6 1.9	189 61.4	18 5.8
	無回答	8 100.0	0 -	1 12.5	0 -	0 -	0 -	7 87.5	1 12.5	0 -
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	22 9.2	86 36.1	116 48.7	10 4.2	4 1.7	0 -	108 45.3	14 5.9
	いない	816 100.0	106 13.0	305 37.4	328 40.2	47 5.8	18 2.2	12 1.5	411 50.4	65 8.0
	無回答	6 100.0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	6 100.0	0 -	0 -

<性別>

性別による大きな差は見られない。

<年代別>

『そう思う』は70代以上が61.4%と最も高く、他の年代は約3～5割とばらつきが見られた。

<18歳以下の子どもの有無別>

『そう思う』の割合について、「いない」と答えた人のほうが「いる」と答えた人よりやや高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問6) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	『そう思う』	『どちらかといえば』	『どちらともいえない』	『どちらかといえば』	『そう思う』	無回答	『そう思う』	『そう思う』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	128 12.1	391 36.9	444 41.9	57 5.4	22 2.1	18 1.7	519 49.0	79 7.5
居住小学校区別	柳河	110 100.0	16 14.5	37 33.6	48 43.6	6 5.5	2 1.8	1 0.9	53 48.1	8 7.3
	城内	62 100.0	6 9.7	26 41.9	23 37.1	4 6.5	2 3.2	1 1.6	32 51.6	6 9.7
	東宮永	57 100.0	10 17.5	18 31.6	25 43.9	2 3.5	2 3.5	0 -	28 49.1	4 7.0
	昭代第一	67 100.0	11 16.4	24 35.8	25 37.3	4 6.0	3 4.5	0 -	35 52.2	7 10.5
	昭代第二	45 100.0	3 6.7	19 42.2	21 46.7	1 2.2	1 2.2	0 -	22 48.9	2 4.4
	蒲池	81 100.0	2 2.5	33 40.7	37 45.7	7 8.6	1 1.2	1 1.2	35 43.2	8 9.8
	矢留	65 100.0	11 16.9	26 40.0	25 38.5	3 4.6	0 -	0 -	37 56.9	3 4.6
	両開	51 100.0	10 19.6	13 25.5	21 41.2	5 9.8	1 2.0	1 2.0	23 45.1	6 11.8
	皿垣	28 100.0	4 14.3	13 46.4	10 35.7	1 3.6	0 -	0 -	17 60.7	1 3.6
	有明	14 100.0	2 14.3	6 42.9	5 35.7	1 7.1	0 -	0 -	8 57.2	1 7.1
	中島	43 100.0	6 14.0	13 30.2	18 41.9	5 11.6	0 -	1 2.3	19 44.2	5 11.6
	六合	44 100.0	5 11.4	17 38.6	18 40.9	3 6.8	1 2.3	0 -	22 50.0	4 9.1
	大和	45 100.0	5 11.1	15 33.3	19 42.2	2 4.4	1 2.2	3 6.7	20 44.4	3 6.6
	豊原	41 100.0	6 14.6	15 36.6	17 41.5	1 2.4	2 4.9	0 -	21 51.2	3 7.3
	藤吉	125 100.0	10 8.0	51 40.8	50 40.0	8 6.4	3 2.4	3 2.4	61 48.8	11 8.8
	矢ヶ部	25 100.0	4 16.0	7 28.0	12 48.0	1 4.0	1 4.0	0 -	11 44.0	2 8.0
	二ッ河	61 100.0	9 14.8	22 36.1	29 47.5	1 1.6	0 -	0 -	31 50.9	1 1.6
	垂見	47 100.0	6 12.8	20 42.6	21 44.7	0 -	0 -	0 -	26 55.4	0 -
	中山	14 100.0	0 -	10 71.4	1 7.1	1 7.1	1 7.1	1 7.1	10 71.4	2 14.2
	わからない	16 100.0	1 6.3	4 25.0	10 62.5	1 6.3	0 -	0 -	5 31.3	1 6.3
	無回答	19 100.0	1 5.3	2 10.5	9 47.4	0 -	1 5.3	6 31.6	3 15.8	1 5.3
居住中学校区別	柳城	229 100.0	32 14.0	81 35.4	96 41.9	12 5.2	6 2.6	2 0.9	113 49.4	18 7.8
	昭代	112 100.0	14 12.5	43 38.4	46 41.1	5 4.5	4 3.6	0 -	57 50.9	9 8.1
	蒲池	81 100.0	2 2.5	33 40.7	37 45.7	7 8.6	1 1.2	1 1.2	35 43.2	8 9.8
	柳南	116 100.0	21 18.1	39 33.6	46 39.7	8 6.9	1 0.9	1 0.9	60 51.7	9 7.8
	大和	215 100.0	28 13.0	79 36.7	87 40.5	13 6.0	4 1.9	4 1.9	107 49.7	17 7.9
	三橋	272 100.0	29 10.7	110 40.4	113 41.5	11 4.0	5 1.8	4 1.5	139 51.1	16 5.8
	わからない	16 100.0	1 6.3	4 25.0	10 62.5	1 6.3	0 -	0 -	5 31.3	1 6.3
	無回答	19 100.0	1 5.3	2 10.5	9 47.4	0 -	1 5.3	6 31.6	3 15.8	1 5.3

<中学校区別>

『そう思う』の割合が最も高いのは柳南の51.7%で、三橋(51.1%)、昭代(50.9%)と続く。最も低かったのは蒲池で43.2%。

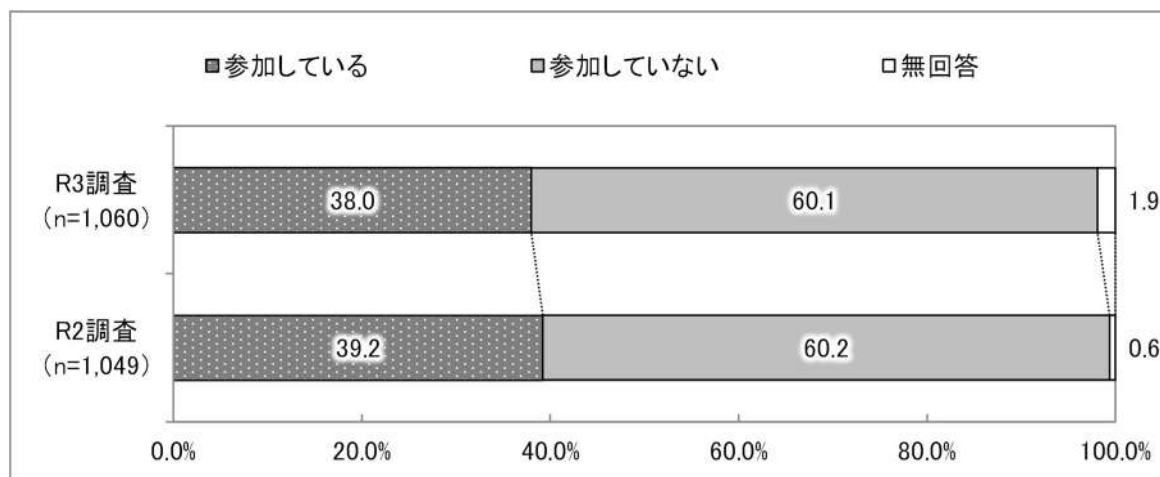
Ⅲ. 調査結果

(3) 地域活動・地域ボランティアへの参加有無（問8）

問8. 地域活動や地域ボランティアに参加していますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「参加していない」で60.1%。

いずれの回答も、前年度と比較すると横ばい。



■ 地域活動や地域ボランティアの参加について、最も高かった割合は「参加していない」で60.1%だった。以下、割合が高い順に、「参加している」(38.0%)。

■ 令和2年度調査と比較すると、「参加している」「参加していない」の割合はあまり変化が見られず、横ばいに推移している。

(問8) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	参加している	参加していない	無回答
(上段：件数、下段：%)					
全 体		1,060 100.0	403 38.0	637 60.1	20 1.9
性別	男性	454 100.0	193 42.5	252 55.5	9 2.0
	女性	597 100.0	207 34.7	379 63.5	11 1.8
	無回答	9 100.0	3 33.3	6 66.7	0 -
年代別	10歳代	6 100.0	1 16.7	5 83.3	0 -
	20歳代	40 100.0	3 7.5	37 92.5	0 -
	30歳代	87 100.0	21 24.1	64 73.6	2 2.3
	40歳代	157 100.0	58 36.9	97 61.8	2 1.3
	50歳代	222 100.0	83 37.4	134 60.4	5 2.3
	60歳代	232 100.0	98 42.2	129 55.6	5 2.2
	70歳以上	308 100.0	135 43.8	167 54.2	6 1.9
	無回答	8 100.0	4 50.0	4 50.0	0 -
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	98 41.2	135 56.7	5 2.1
	いない	816 100.0	303 37.1	498 61.0	15 1.8
	無回答	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 -

<性別>

「参加している」の割合は男性がやや高かった。

<年代別>

年代が上がるにつれ「参加している」の割合が高くなっており、60代以上は4割を超えた。

<18歳以下の子どもの有無別>

「参加している」の割合は、「いる」と答えた人(41.2%)のほうが「いない」と答えた人(37.1%)よりもやや高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問8) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	参加している	参加していない	無回答
(上段：件数、下段：%)					
全 体		1,060 100.0	403 38.0	637 60.1	20 1.9
居住小学校区別	柳河	110 100.0	33 30.0	75 68.2	2 1.8
	城内	62 100.0	18 29.0	43 69.4	1 1.6
	東宮永	57 100.0	20 35.1	37 64.9	0 -
	昭代第一	67 100.0	23 34.3	44 65.7	0 -
	昭代第二	45 100.0	17 37.8	25 55.6	3 6.7
	蒲池	81 100.0	26 32.1	54 66.7	1 1.2
	矢留	65 100.0	20 30.8	41 63.1	4 6.2
	両開	51 100.0	31 60.8	19 37.3	1 2.0
	皿垣	28 100.0	13 46.4	14 50.0	1 3.6
	有明	14 100.0	4 28.6	10 71.4	0 -
	中島	43 100.0	17 39.5	24 55.8	2 4.7
	六合	44 100.0	20 45.5	22 50.0	2 4.5
	大和	45 100.0	20 44.4	25 55.6	0 -
	豊原	41 100.0	21 51.2	19 46.3	1 2.4
	藤吉	125 100.0	38 30.4	87 69.6	0 -
	矢ヶ部	25 100.0	10 40.0	15 60.0	0 -
	二ッ河	61 100.0	37 60.7	24 39.3	0 -
	垂見	47 100.0	24 51.1	22 46.8	1 2.1
	中山	14 100.0	8 57.1	6 42.9	0 -
	わからない	16 100.0	1 6.3	15 93.8	0 -
	無回答	19 100.0	2 10.5	16 84.2	1 5.3
居住中学校区別	柳城	229 100.0	71 31.0	155 67.7	3 1.3
	昭代	112 100.0	40 35.7	69 61.6	3 2.7
	蒲池	81 100.0	26 32.1	54 66.7	1 1.2
	柳南	116 100.0	51 44.0	60 51.7	5 4.3
	大和	215 100.0	95 44.2	114 53.0	6 2.8
	三橋	272 100.0	117 43.0	154 56.6	1 0.4
	わからない	16 100.0	1 6.3	15 93.8	0 -
	無回答	19 100.0	2 10.5	16 84.2	1 5.3

<中学校区別>

「参加している」の割合が最も高いのは大和の44.2%で、柳南(44.0%)、三橋(43.0%)と続く。最も低かったのは柳城で31.0%。

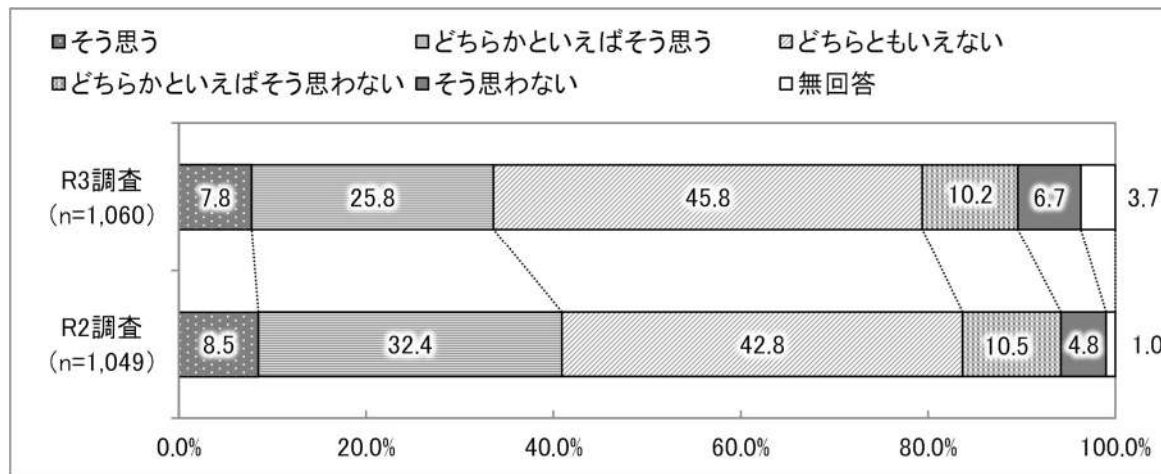
Ⅲ. 調査結果

(4) 柳川市は子育てしやすい環境であると思う度合い (問 14)

問 14. 柳川市は子育てしやすい環境であると思いますか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「どちらともいえない」で 45.8%。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計「そう思う」は 33.6%と、前年から 7.3 ポイント減少。



■子育てしやすい環境であると思う度合いについて、最も高かった割合は「どちらともいえない」で 45.8%だった。以下、割合が高い順に、「どちらかといえばそう思う」(25.8%)、「どちらかといえばそう思わない」(10.2%)、「そう思う」(7.8%)と「そう思わない」(6.7%)。また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は 33.6%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の 16.9%より 16.7 ポイント上回っている。

■令和 2 年度調査と比較すると、『そう思わない』の割合に大きな差は見られないが、『そう思う』の割合は令和 2 年度の 40.9%より 7.3 ポイント低くなっている。

(問 14) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえ	そう思わない	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
(上段：件数、下段：%)										
全 体		1,060 100.0	83 7.8	273 25.8	486 45.8	108 10.2	71 6.7	39 3.7	356 33.6	179 16.9
性別	男性	454 100.0	31 6.8	105 23.1	217 47.8	56 12.3	33 7.3	12 2.6	136 29.9	89 19.6
	女性	597 100.0	52 8.7	165 27.6	266 44.6	51 8.5	36 6.0	27 4.5	217 36.3	87 14.5
	無回答	9 100.0	0 -	3 33.3	3 33.3	1 11.1	2 22.2	0 -	3 33.3	3 33.3
年代別	10代	6 100.0	0 -	2 33.3	3 50.0	0 -	1 16.7	0 -	2 33.3	1 16.7
	20代	40 100.0	3 7.5	9 22.5	23 57.5	2 5.0	3 7.5	0 -	12 30.0	5 12.5
	30代	87 100.0	7 8.0	10 11.5	38 43.7	16 18.4	14 16.1	2 2.3	17 19.5	30 34.5
	40代	157 100.0	9 5.7	32 20.4	72 45.9	26 16.6	16 10.2	2 1.3	41 26.1	42 26.8
	50代	222 100.0	17 7.7	57 25.7	103 46.4	25 11.3	11 5.0	9 4.1	74 33.4	36 16.3
	60代	232 100.0	14 6.0	67 28.9	101 43.5	23 9.9	18 7.8	9 3.9	81 34.9	41 17.7
	70代以上	308 100.0	33 10.7	92 29.9	144 46.8	15 4.9	7 2.3	17 5.5	125 40.6	22 7.2
	無回答	8 100.0	0 -	4 50.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	0 -	4 50.0	2 25.0
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	22 9.2	56 23.5	85 35.7	43 18.1	28 11.8	4 1.7	78 32.7	71 29.9
	いない	816 100.0	61 7.5	214 26.2	400 49.0	64 7.8	42 5.1	35 4.3	275 33.7	106 12.9
	無回答	6 100.0	0 -	3 50.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 -	3 50.0	2 33.4

<性別>

『そう思う』の割合は女性がやや高く、『そう思わない』は男性がやや高かった。

<年代別>

『そう思う』の割合が最も高いのは70代以上で4割を占めた。一方で、現役世代の20～40代の『そう思う』の割合は約2～3割にとどまり、特に30代は2割を切った。

<18歳以下の子どもの有無別>

『そう思わない』の割合は、「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりも高く、約3割に上った。

Ⅲ. 調査結果

(問 14) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえば	そう思わない	無回答	『そう思う』	『そう思わない』	
(上段：件数、下段：%)											
全 体		1,060 100.0	83 7.8	273 25.8	486 45.8	108 10.2	71 6.7	39 3.7	356 33.6	179 16.9	
居住小学校区別	柳河	110 100.0	11 10.0	30 27.3	45 40.9	13 11.8	6 5.5	5 4.5	41 37.3	19 17.3	
	城内	62 100.0	3 4.8	14 22.6	32 51.6	5 8.1	7 11.3	1 1.6	17 27.4	12 19.4	
	東宮永	57 100.0	4 7.0	12 21.1	28 49.1	5 8.8	6 10.5	2 3.5	16 28.1	11 19.3	
	昭代第一	67 100.0	4 6.0	15 22.4	30 44.8	9 13.4	7 10.4	2 3.0	19 28.4	16 23.8	
	昭代第二	45 100.0	2 4.4	16 35.6	21 46.7	2 4.4	1 2.2	3 6.7	18 40.0	3 6.6	
	蒲池	81 100.0	6 7.4	18 22.2	41 50.6	7 8.6	7 8.6	2 2.5	24 29.6	14 17.2	
	矢留	65 100.0	3 4.6	18 27.7	31 47.7	6 9.2	5 7.7	2 3.1	21 32.3	11 16.9	
	両開	51 100.0	7 13.7	15 29.4	19 37.3	6 11.8	2 3.9	2 3.9	22 43.1	8 15.7	
	皿垣	28 100.0	2 7.1	9 32.1	11 39.3	3 10.7	2 7.1	1 3.6	11 39.2	5 17.8	
	有明	14 100.0	0 -	3 21.4	8 57.1	2 14.3	0 -	1 7.1	3 21.4	2 14.3	
	中島	43 100.0	2 4.7	6 14.0	20 46.5	7 16.3	5 11.6	3 7.0	8 18.7	12 27.9	
	六合	44 100.0	2 4.5	9 20.5	23 52.3	6 13.6	2 4.5	2 4.5	11 25.0	8 18.1	
	大和	45 100.0	5 11.1	9 20.0	23 51.1	2 4.4	3 6.7	3 6.7	14 31.1	5 11.1	
	豊原	41 100.0	4 9.8	6 14.6	22 53.7	7 17.1	0 -	2 4.9	10 24.4	7 17.1	
	藤吉	125 100.0	14 11.2	31 24.8	57 45.6	10 8.0	11 8.8	2 1.6	45 36.0	21 16.8	
	矢ヶ部	25 100.0	4 16.0	6 24.0	8 32.0	4 16.0	2 8.0	1 4.0	10 40.0	6 24.0	
	二ッ河	61 100.0	7 11.5	19 31.1	28 45.9	5 8.2	0 -	2 3.3	26 42.6	5 8.2	
	垂見	47 100.0	3 6.4	18 38.3	19 40.4	4 8.5	1 2.1	2 4.3	21 44.7	5 10.6	
	中山	14 100.0	0 -	8 57.1	4 28.6	1 7.1	1 7.1	0 -	8 57.1	2 14.2	
	わからない	16 100.0	0 -	6 37.5	7 43.8	2 12.5	1 6.3	0 -	6 37.5	3 18.8	
	無回答	19 100.0	0 -	5 26.3	9 47.4	2 10.5	2 10.5	1 5.3	5 26.3	4 21.0	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	18 7.9	56 24.5	105 45.9	23 10.0	19 8.3	8 3.5	74 32.4	42 18.3
		昭代	112 100.0	6 5.4	31 27.7	51 45.5	11 9.8	8 7.1	5 4.5	37 33.1	19 16.9
		蒲池	81 100.0	6 7.4	18 22.2	41 50.6	7 8.6	7 8.6	2 2.5	24 29.6	14 17.2
		柳南	116 100.0	10 8.6	33 28.4	50 43.1	12 10.3	7 6.0	4 3.4	43 37.0	19 16.3
		大和	215 100.0	15 7.0	42 19.5	107 49.8	27 12.6	12 5.6	12 5.6	57 26.5	39 18.2
三橋		272 100.0	28 10.3	82 30.1	116 42.6	24 8.8	15 5.5	7 2.6	110 40.4	39 14.3	
わからない		16 100.0	0 -	6 37.5	7 43.8	2 12.5	1 6.3	0 -	6 37.5	3 18.8	
無回答		19 100.0	0 -	5 26.3	9 47.4	2 10.5	2 10.5	1 5.3	5 26.3	4 21.0	

<中学校区別>

『そう思う』の割合が最も高いのは三橋の40.4%で、柳南(37.0%)、昭代(33.1%)と続く。最も低かったのは大和で26.5%。

Ⅲ. 調査結果

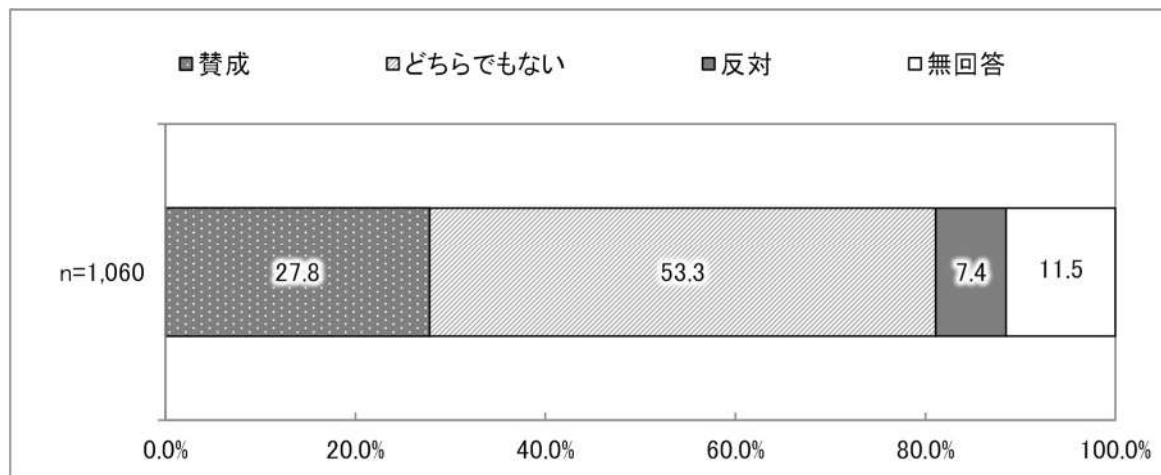
7. 学校再編について

(1) 学校再編を進めることについての賛否（問 16）

問 16. あなたは学校再編を進めることについてどう思いますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「どちらでもない」で 53.3%。

「賛成」は 27.8%と 3割近くを占めている。



■学校再編について、最も高かった割合は「どちらでもない」で 53.3%だった。以下、割合が高い順に、「賛成」(27.8%)、「反対」(7.4%)。また、「賛成」は約 3 割を占めている。

(問 16) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	賛成	どちらでもない	反対	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	295 27.8	565 53.3	78 7.4	122 11.5
性別	男性	454 100.0	152 33.5	221 48.7	39 8.6	42 9.3
	女性	597 100.0	139 23.3	339 56.8	39 6.5	80 13.4
	無回答	9 100.0	4 44.4	5 55.6	0 -	0 -
年代別	10歳代	6 100.0	0 -	5 83.3	1 16.7	0 -
	20歳代	40 100.0	13 32.5	24 60.0	3 7.5	0 -
	30歳代	87 100.0	21 24.1	57 65.5	5 5.7	4 4.6
	40歳代	157 100.0	47 29.9	95 60.5	7 4.5	8 5.1
	50歳代	222 100.0	63 28.4	125 56.3	18 8.1	16 7.2
	60歳代	232 100.0	61 26.3	118 50.9	21 9.1	32 13.8
	70歳以上	308 100.0	87 28.2	138 44.8	22 7.1	61 19.8
	無回答	8 100.0	3 37.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	79 33.2	127 53.4	15 6.3	17 7.1
	いない	816 100.0	213 26.1	435 53.3	63 7.7	105 12.9
	無回答	6 100.0	3 50.0	3 50.0	0 -	0 -

<性別>

女性は「どちらでもない」の回答者が過半数となった。一方、男性は「賛成」の割合が女性よりも10.2ポイント高かった。

<年代別>

20歳代は「賛成」の割合が他の年代よりも高く、32.5%と唯一3割を超えた。

<18歳以下の子どもの有無別>

「賛成」の割合は「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりもやや高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問 16) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	賛成	どちらでもない	反対	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	295 27.8	565 53.3	78 7.4	122 11.5
居住小学校区別	柳河	110 100.0	33 30.0	51 46.4	13 11.8	13 11.8
	城内	62 100.0	19 30.6	33 53.2	4 6.5	6 9.7
	東宮永	57 100.0	13 22.8	33 57.9	5 8.8	6 10.5
	昭代第一	67 100.0	23 34.3	34 50.7	6 9.0	4 6.0
	昭代第二	45 100.0	10 22.2	24 53.3	2 4.4	9 20.0
	蒲池	81 100.0	22 27.2	42 51.9	5 6.2	12 14.8
	矢留	65 100.0	17 26.2	37 56.9	5 7.7	6 9.2
	両開	51 100.0	11 21.6	25 49.0	5 9.8	10 19.6
	皿垣	28 100.0	10 35.7	12 42.9	1 3.6	5 17.9
	有明	14 100.0	5 35.7	7 50.0	0 -	2 14.3
	中島	43 100.0	15 34.9	18 41.9	4 9.3	6 14.0
	六合	44 100.0	9 20.5	29 65.9	2 4.5	4 9.1
	大和	45 100.0	10 22.2	28 62.2	0 -	7 15.6
	豊原	41 100.0	11 26.8	20 48.8	4 9.8	6 14.6
	藤吉	125 100.0	38 30.4	73 58.4	4 3.2	10 8.0
	矢ヶ部	25 100.0	9 36.0	14 56.0	1 4.0	1 4.0
	二ッ河	61 100.0	15 24.6	31 50.8	8 13.1	7 11.5
	垂見	47 100.0	12 25.5	26 55.3	4 8.5	5 10.6
	中山	14 100.0	4 28.6	6 42.9	4 28.6	0 -
	わからない	16 100.0	3 18.8	11 68.8	0 -	2 12.5
無回答	19 100.0	6 31.6	11 57.9	1 5.3	1 5.3	
居住中学校区別	柳城	229 100.0	65 28.4	117 51.1	22 9.6	25 10.9
	昭代	112 100.0	33 29.5	58 51.8	8 7.1	13 11.6
	蒲池	81 100.0	22 27.2	42 51.9	5 6.2	12 14.8
	柳南	116 100.0	28 24.1	62 53.4	10 8.6	16 13.8
	大和	215 100.0	60 27.9	114 53.0	11 5.1	30 14.0
	三橋	272 100.0	78 28.7	150 55.1	21 7.7	23 8.5
	わからない	16 100.0	3 18.8	11 68.8	0 -	2 12.5
	無回答	19 100.0	6 31.6	11 57.9	1 5.3	1 5.3

<中学校区別>

「賛成」の割合が最も高いのは昭代の 29.5%で、三橋 (28.7%)、柳城 (28.4%) と続く。最も低かったのは柳南で 24.1%。

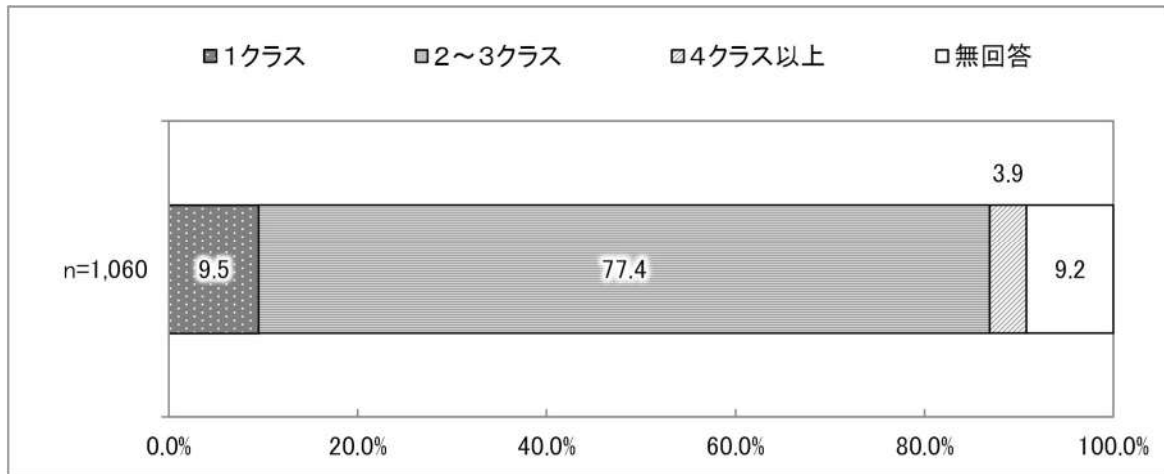
Ⅲ. 調査結果

(2) 小学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数(問17)

問17. 小学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数はどれですか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「2～3クラス」で77.4%。

「1クラス」は9.5%、「4クラス以上」は3.9%と大きく差がついた。



■小学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数について、最も高かった割合は「2～3クラス」で77.4%だった。「1クラス」が9.5%、「4クラス以上」は3.9%。

(問 17) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	1 ク ラ ス	2 ～ 3 ク ラ ス	4 ク ラ ス 以 上	無 回 答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	101 9.5	820 77.4	41 3.9	98 9.2
性 別	男性	454 100.0	47 10.4	353 77.8	17 3.7	37 8.1
	女性	597 100.0	53 8.9	459 76.9	24 4.0	61 10.2
	無回答	9 100.0	1 11.1	8 88.9	0 -	0 -
年 代 別	10歳代	6 100.0	1 16.7	4 66.7	1 16.7	0 -
	20歳代	40 100.0	8 20.0	30 75.0	1 2.5	1 2.5
	30歳代	87 100.0	11 12.6	66 75.9	8 9.2	2 2.3
	40歳代	157 100.0	17 10.8	129 82.2	9 5.7	2 1.3
	50歳代	222 100.0	10 4.5	192 86.5	7 3.2	13 5.9
	60歳代	232 100.0	25 10.8	180 77.6	6 2.6	21 9.1
	70歳以上	308 100.0	27 8.8	213 69.2	9 2.9	59 19.2
	無回答	8 100.0	2 25.0	6 75.0	0 -	0 -
の18歳以下の 有無	いる	238 100.0	21 8.8	193 81.1	13 5.5	11 4.6
	いない	816 100.0	79 9.7	622 76.2	28 3.4	87 10.7
	無回答	6 100.0	1 16.7	5 83.3	0 -	0 -

<性別>

男性、女性ともに「2～3クラス」と答えた人が7割を超えており、性別による大きな差は見られなかった。

<年代別>

すべての年代で「2～3クラス」と答えた人がそれぞれ約7～8割を占め、大きな差は見られなかった。「2～3クラス」の割合が最も高かった年代は50代で86.5%。

<18歳以下の子どもの有無別>

18歳以下の子どもの有無別でも大きな違いは見られない。

Ⅲ. 調査結果

(問 17) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	1 ク ラ ス	2 ～ 3 ク ラ ス	4 ク ラ ス 以 上	無 回 答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	101 9.5	820 77.4	41 3.9	98 9.2
居 住 小 学 校 区 別	柳河	110 100.0	7 6.4	86 78.2	7 6.4	10 9.1
	城内	62 100.0	8 12.9	46 74.2	3 4.8	5 8.1
	東宮永	57 100.0	4 7.0	43 75.4	3 5.3	7 12.3
	昭代第一	67 100.0	3 4.5	57 85.1	2 3.0	5 7.5
	昭代第二	45 100.0	1 2.2	42 93.3	1 2.2	1 2.2
	蒲池	81 100.0	6 7.4	64 79.0	6 7.4	5 6.2
	矢留	65 100.0	6 9.2	48 73.8	3 4.6	8 12.3
	両開	51 100.0	7 13.7	37 72.5	2 3.9	5 9.8
	皿垣	28 100.0	7 25.0	18 64.3	0 -	3 10.7
	有明	14 100.0	2 14.3	10 71.4	1 7.1	1 7.1
	中島	43 100.0	5 11.6	33 76.7	0 -	5 11.6
	六合	44 100.0	7 15.9	35 79.5	0 -	2 4.5
	大和	45 100.0	8 17.8	29 64.4	1 2.2	7 15.6
	豊原	41 100.0	5 12.2	33 80.5	0 -	3 7.3
	藤吉	125 100.0	3 2.4	106 84.8	6 4.8	10 8.0
	矢ヶ部	25 100.0	3 12.0	17 68.0	2 8.0	3 12.0
	二ッ河	61 100.0	3 4.9	47 77.0	0 -	11 18.0
	垂見	47 100.0	5 10.6	36 76.6	1 2.1	5 10.6
	中山	14 100.0	8 57.1	5 35.7	1 7.1	0 -
	わからない	16 100.0	0 -	14 87.5	2 12.5	0 -
無回答	19 100.0	3 15.8	14 73.7	0 -	2 10.5	
居 住 中 学 校 区 別	柳城	229 100.0	19 8.3	175 76.4	13 5.7	22 9.6
	昭代	112 100.0	4 3.6	99 88.4	3 2.7	6 5.4
	蒲池	81 100.0	6 7.4	64 79.0	6 7.4	5 6.2
	柳南	116 100.0	13 11.2	85 73.3	5 4.3	13 11.2
	大和	215 100.0	34 15.8	158 73.5	2 0.9	21 9.8
	三橋	272 100.0	22 8.1	211 77.6	10 3.7	29 10.7
	わからない	16 100.0	0 -	14 87.5	2 12.5	0 -
	無回答	19 100.0	3 15.8	14 73.7	0 -	2 10.5

<小学校区別>

「2～3クラス」の割合が最も高いのは昭代第二の93.3%。次いで昭代第一(85.1%)、藤吉(84.8%)と続く。

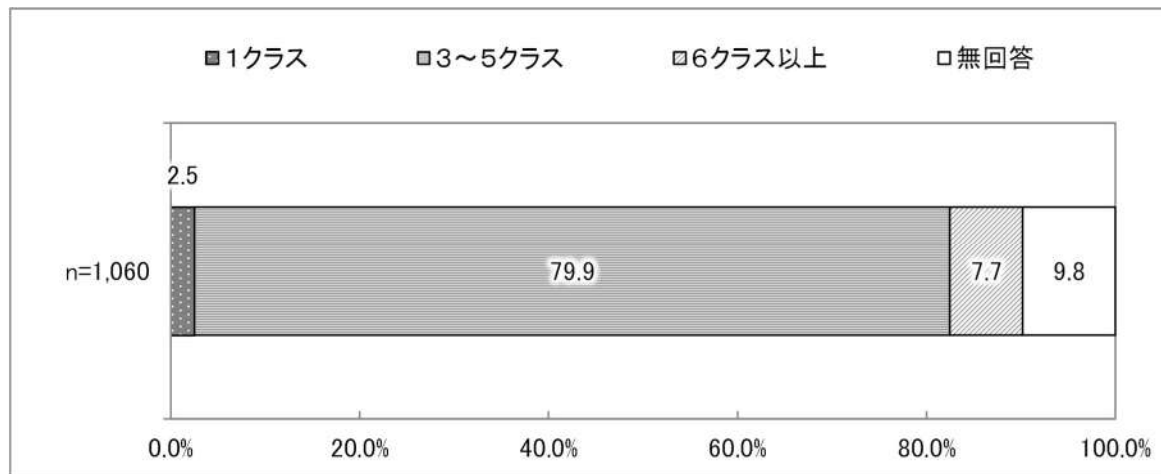
Ⅲ. 調査結果

(3) 中学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数(問18)

問18. 中学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数はどれですか。(○は1つだけ)

「3～5クラス」が最も高く79.9%。

「1クラス」、「6クラス以上」は1割に満たなかった。



■中学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数について、最も高かった割合は「3～5クラス」で79.9%と、他の回答と大きく差をつけた。

(問 18) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	1クラス	3～5クラス	6クラス以上	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	27 2.5	847 79.9	82 7.7	104 9.8
性別	男性	454 100.0	12 2.6	360 79.3	42 9.3	40 8.8
	女性	597 100.0	15 2.5	478 80.1	40 6.7	64 10.7
	無回答	9 100.0	0 -	9 100.0	0 -	0 -
年代別	10歳代	6 100.0	1 16.7	5 83.3	0 -	0 -
	20歳代	40 100.0	0 -	37 92.5	2 5.0	1 2.5
	30歳代	87 100.0	3 3.4	71 81.6	11 12.6	2 2.3
	40歳代	157 100.0	4 2.5	138 87.9	13 8.3	2 1.3
	50歳代	222 100.0	5 2.3	193 86.9	11 5.0	13 5.9
	60歳代	232 100.0	6 2.6	179 77.2	22 9.5	25 10.8
	70歳以上	308 100.0	8 2.6	216 70.1	23 7.5	61 19.8
	無回答	8 100.0	0 -	8 100.0	0 -	0 -
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	5 2.1	200 84.0	20 8.4	13 5.5
	いない	816 100.0	22 2.7	641 78.6	62 7.6	91 11.2
	無回答	6 100.0	0 -	6 100.0	0 -	0 -

<性別>

男性、女性ともに「3～5クラス」と答えた人が約8割で、性別による大きな差は見られなかった。

<年代別>

すべての年代で「3～5クラス」と答えた人がそれぞれ約7～9割を占め、大きな違いは見られなかった。

<18歳以下の子どもの有無別>

18歳以下の子どもの有無別でも大きな違いは見られない。

Ⅲ. 調査結果

(問 18) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	1 ク ラ ス	3 ~ 5 ク ラ ス	6 ク ラ ス 以 上	無 回 答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	27 2.5	847 79.9	82 7.7	104 9.8
居 住 小 学 校 区 別	柳河	110 100.0	3 2.7	90 81.8	7 6.4	10 9.1
	城内	62 100.0	2 3.2	50 80.6	4 6.5	6 9.7
	東宮永	57 100.0	3 5.3	44 77.2	3 5.3	7 12.3
	昭代第一	67 100.0	0 -	60 89.6	2 3.0	5 7.5
	昭代第二	45 100.0	0 -	43 95.6	1 2.2	1 2.2
	蒲池	81 100.0	3 3.7	71 87.7	2 2.5	5 6.2
	矢留	65 100.0	3 4.6	52 80.0	1 1.5	9 13.8
	両開	51 100.0	3 5.9	38 74.5	4 7.8	6 11.8
	皿垣	28 100.0	0 -	21 75.0	4 14.3	3 10.7
	有明	14 100.0	0 -	12 85.7	1 7.1	1 7.1
	中島	43 100.0	1 2.3	29 67.4	7 16.3	6 14.0
	六合	44 100.0	3 6.8	26 59.1	11 25.0	4 9.1
	大和	45 100.0	0 -	34 75.6	4 8.9	7 15.6
	豊原	41 100.0	0 -	34 82.9	4 9.8	3 7.3
	藤吉	125 100.0	1 0.8	103 82.4	10 8.0	11 8.8
	矢ヶ部	25 100.0	1 4.0	18 72.0	3 12.0	3 12.0
	二ッ河	61 100.0	1 1.6	44 72.1	6 9.8	10 16.4
	垂見	47 100.0	1 2.1	37 78.7	4 8.5	5 10.6
	中山	14 100.0	2 14.3	11 78.6	1 7.1	0 -
	わからない	16 100.0	0 -	14 87.5	2 12.5	0 -
無回答	19 100.0	0 -	16 84.2	1 5.3	2 10.5	
居 住 中 学 校 区 別	柳城	229 100.0	8 3.5	184 80.3	14 6.1	23 10.0
	昭代	112 100.0	0 -	103 92.0	3 2.7	6 5.4
	蒲池	81 100.0	3 3.7	71 87.7	2 2.5	5 6.2
	柳南	116 100.0	6 5.2	90 77.6	5 4.3	15 12.9
	大和	215 100.0	4 1.9	156 72.6	31 14.4	24 11.2
	三橋	272 100.0	6 2.2	213 78.3	24 8.8	29 10.7
	わからない	16 100.0	0 -	14 87.5	2 12.5	0 -
	無回答	19 100.0	0 -	16 84.2	1 5.3	2 10.5

<中学校区別>

「3～5クラス」の割合が最も高いのは昭代の92.0%。次いで蒲池(87.7%)、柳城(80.3%)。中学校区別での大きな差は見られなかったが、大和は「6クラス以上」が唯一1割を超え14.4%だった。

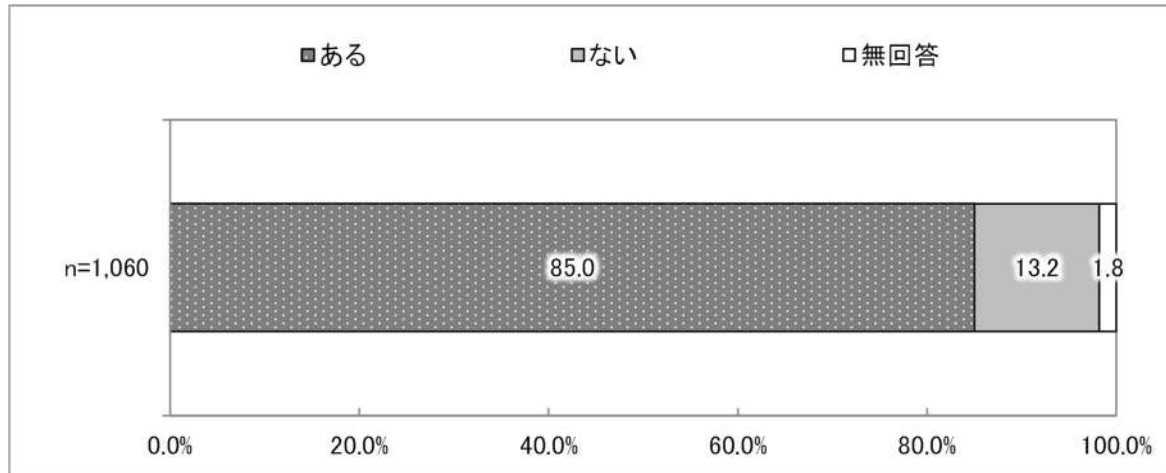
Ⅲ. 調査結果

8. ごみ減量について

(1) ごみの減量やリサイクルへの関心有無（問29）

問29. ごみの減量やリサイクルに関心はありますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「ある」で85.0%。「ない」と答えた人は13.2%。



■ ごみの減量やリサイクルへの関心有無について、「ある」と答えた人は85.0%と全体の8割を超えた。「ない」（13.2%）と71.8ポイント差となった。

(問 29) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	ある	ない	無回答
(上段：件数、下段：%)					
全 体		1,060 100.0	901 85.0	140 13.2	19 1.8
性別	男性	454 100.0	377 83.0	69 15.2	8 1.8
	女性	597 100.0	515 86.3	71 11.9	11 1.8
	無回答	9 100.0	9 100.0	0 -	0 -
年代別	10歳代	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 -
	20歳代	40 100.0	25 62.5	15 37.5	0 -
	30歳代	87 100.0	67 77.0	19 21.8	1 1.1
	40歳代	157 100.0	124 79.0	28 17.8	5 3.2
	50歳代	222 100.0	192 86.5	29 13.1	1 0.5
	60歳代	232 100.0	205 88.4	25 10.8	2 0.9
	70歳以上	308 100.0	276 89.6	22 7.1	10 3.2
	無回答	8 100.0	8 100.0	0 -	0 -
の18歳以下の子どもも	いる	238 100.0	195 81.9	38 16.0	5 2.1
	いない	816 100.0	700 85.8	102 12.5	14 1.7
	無回答	6 100.0	6 100.0	0 -	0 -

<性別>

「ある」の割合は女性がやや高かったが、性別による大きな差は見られなかった。

<年代別>

「ある」の割合が最も高かったのは70歳以上で89.6%。次いで60代(88.4%)、50代(86.5%)。30歳以上は、各年代でそれぞれ約8～9割が「ある」と答えていた。

<18歳以下の子どもの有無別>

「ある」の割合は、「いる」「いない」どちらの回答者も8割を超え、大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(問 29) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	ある	ない	無回答
(上段：件数、下段：%)					
全 体		1,060 100.0	901 85.0	140 13.2	19 1.8
居住小学校区別	柳河	110 100.0	89 80.9	18 16.4	3 2.7
	城内	62 100.0	57 91.9	4 6.5	1 1.6
	東宮永	57 100.0	47 82.5	7 12.3	3 5.3
	昭代第一	67 100.0	56 83.6	10 14.9	1 1.5
	昭代第二	45 100.0	36 80.0	8 17.8	1 2.2
	蒲池	81 100.0	71 87.7	9 11.1	1 1.2
	矢留	65 100.0	55 84.6	9 13.8	1 1.5
	両開	51 100.0	47 92.2	4 7.8	0 -
	皿垣	28 100.0	21 75.0	6 21.4	1 3.6
	有明	14 100.0	12 85.7	1 7.1	1 7.1
	中島	43 100.0	38 88.4	5 11.6	0 -
	六合	44 100.0	37 84.1	7 15.9	0 -
	大和	45 100.0	37 82.2	8 17.8	0 -
	豊原	41 100.0	33 80.5	6 14.6	2 4.9
	藤吉	125 100.0	110 88.0	14 11.2	1 0.8
	矢ヶ部	25 100.0	19 76.0	5 20.0	1 4.0
	二ッ河	61 100.0	49 80.3	10 16.4	2 3.3
	垂見	47 100.0	44 93.6	3 6.4	0 -
	中山	14 100.0	12 85.7	2 14.3	0 -
	わからない	16 100.0	14 87.5	2 12.5	0 -
	無回答	19 100.0	17 89.5	2 10.5	0 -
居住中学校区別	柳城	229 100.0	193 84.3	29 12.7	7 3.1
	昭代	112 100.0	92 82.1	18 16.1	2 1.8
	蒲池	81 100.0	71 87.7	9 11.1	1 1.2
	柳南	116 100.0	102 87.9	13 11.2	1 0.9
	大和	215 100.0	178 82.8	33 15.3	4 1.9
	三橋	272 100.0	234 86.0	34 12.5	4 1.5
	わからない	16 100.0	14 87.5	2 12.5	0 -
	無回答	19 100.0	17 89.5	2 10.5	0 -

< 中学校区別 >

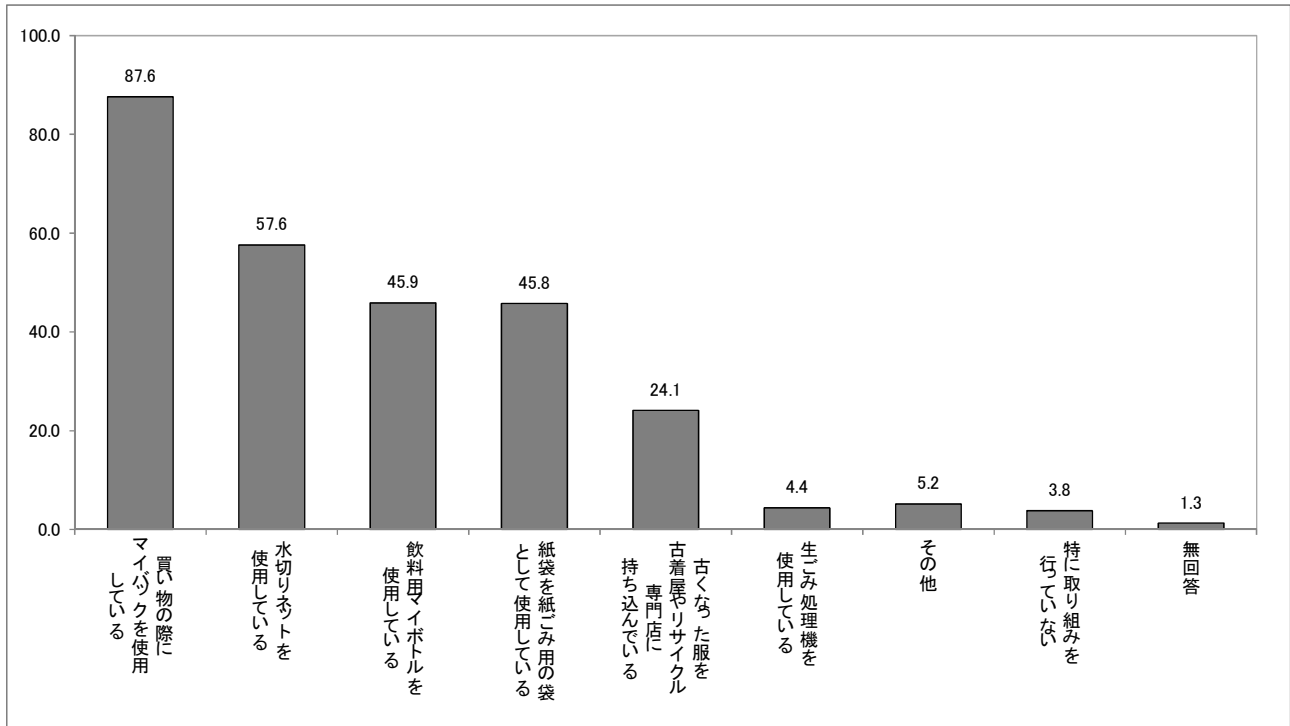
「ある」の割合が最も高いのは柳南で87.9%。各中学校区でそれぞれ「ある」の回答が8割を超えており、大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(2) 現在ごみ減量に関して取り組んでいること (問 30)

問 30. 現在ごみ減量に関して取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

「買い物の際にマイバックを使用している」が最も多い。(87.6%)。



■現在ごみ減量に関して取り組んでいることとして、「買い物の際にマイバックを使用している」が最も多く、87.6%だった。次に多い回答は「水切りネットを使用している」(57.6%)。僅差で「飲料用マイボトルを使用している」(45.9%)、「紙袋を紙ごみ用の袋として使用している」(45.8%)と、日用品のリサイクルにつながる回答が続いた。

(問 30) つづき

■ 「その他」の回答は下記の通り。

	調査数	ごみ分別の徹底	生ごみの自家処理	リサイクル	物を増やさない	コンポストの使用	乾燥せずや草を廃棄	その他	未記入
件数	55	21	8	7	5	3	3	7	1

最も多かった回答は「ごみ分別の徹底」で21件。続いて「生ごみの自家処理」(8件)、「リサイクル」(7件)と、自宅でのごみ処理方法の工夫や物の使い方・買い方の工夫に関する回答が続いた。

「その他」としては、以下の回答が得られた。

主な記述内容	性別	年代
Q30. ごみ減量に関して取り組んでいること「その他」と回答した人の意見		
・フリマアプリ活用。	女性	30歳代
・詰め替えパックを購入している。(本体ではなく、フードロス対策としてリベイクを利用)	女性	50歳代
・できるだけ長寿命のものを購入。服・家電・家具その他。	男性	60歳代
・木葉、草等を堆肥として使用している。	男性	70歳代
・生ごみポットへ。	男性	70歳代
・ゴミ袋のサイズが変わったので、縦長のバケツに入れにくい。	女性	70歳代
・古着は束ねて生ごみで破棄してる。	女性	70歳代

Ⅲ. 調査結果

(問 30) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	マイバックを使用している	買い物の際にマイバックを使用している	水切りネットを使用している	飲料用マイボトルを使用している	紙袋を紙ごみ用の袋として使用している	古くなった服を古着屋やリサイクル専門店に持ち込んでいる	生ごみ処理機を使用している	その他	行っていない	特に取り組みを組まない	無回答
(上段：件数、下段：%)													
全体		1,060 100.0	929 87.6	611 57.6	487 45.9	486 45.8	255 24.1	47 4.4	55 5.2	40 3.8	14 1.3		
性別	男性	454 100.0	367 80.8	224 49.3	148 32.6	162 35.7	100 22.0	25 5.5	23 5.1	31 6.8	7 1.5		
	女性	597 100.0	554 92.8	381 63.8	334 55.9	318 53.3	154 25.8	22 3.7	32 5.4	9 1.5	7 1.2		
	無回答	9 100.0	8 88.9	6 66.7	5 55.6	6 66.7	1 11.1	0 -	0 -	0 -	0 -		
年代別	10歳代	6 100.0	6 100.0	6 100.0	2 33.3	4 66.7	1 16.7	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
	20歳代	40 100.0	35 87.5	20 50.0	14 35.0	8 20.0	12 30.0	0 -	1 2.5	0 -	0 -	0 -	
	30歳代	87 100.0	75 86.2	55 63.2	45 51.7	34 39.1	32 36.8	2 2.3	10 11.5	3 3.4	1 1.1		
	40歳代	157 100.0	135 86.0	79 50.3	80 51.0	69 43.9	48 30.6	4 2.5	6 3.8	11 7.0	2 1.3		
	50歳代	222 100.0	200 90.1	134 60.4	110 49.5	112 50.5	64 28.8	9 4.1	13 5.9	8 3.6	1 0.5		
	60歳代	232 100.0	199 85.8	122 52.6	97 41.8	116 50.0	41 17.7	13 5.6	9 3.9	10 4.3	3 1.3		
	70歳以上	308 100.0	272 88.3	190 61.7	135 43.8	138 44.8	55 17.9	19 6.2	16 5.2	8 2.6	7 2.3		
	無回答	8 100.0	7 87.5	5 62.5	4 50.0	5 62.5	2 25.0	0 -	0 -	0 -	0 -		
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	211 88.7	144 60.5	122 51.3	113 47.5	81 34.0	2 0.8	19 8.0	9 3.8	2 0.8		
	いない	816 100.0	713 87.4	464 56.9	362 44.4	369 45.2	173 21.2	45 5.5	36 4.4	31 3.8	12 1.5		
	無回答	6 100.0	5 83.3	3 50.0	3 50.0	4 66.7	1 16.7	0 -	0 -	0 -	0 -		

<性別>

性別で見ると、いずれの回答も女性のほうが男性よりも多く、特に「買い物の際にマイバックを使用している」、「飲料用マイボトルを使用している」、「紙袋を紙ごみ用の袋として使用している」等の日用品のリサイクルに関する回答は、男性と比べて女性の割合のほうがそれぞれ10ポイント以上高かった。

<年代別>

20代から50代は「古くなった服を古着屋やリサイクル専門店に持ち込んでいる」の割合が他の年代よりやや高く、それぞれ約3割だったが、年代別による大きな差は見られなかった。

<18歳以下の子どもの有無別>

概ね大きな差は見られないものの、「古くなった服を古着屋やリサイクル専門店に持ち込んでいる」と回答した人は、18歳以下の子どもが「いる」人(34.0%)のほうが「いない」人(21.2%)よりも12.8ポイント高かった。

(問 30) 居住小学校区別・中学校区別

	調査数	マイバッグを使用している	買い物の際にマイバッグを使用している	水切りネットを使用している	飲料用マイボトルを使用している	紙袋として紙ごみ用として使用する	古くなつた服を古着に持ち込んでいる	生ごみ処理機を使用している	その他	行つていない	特に取り組みを	無回答
(上段：件数、下段：%)												
全 体	1,060 100.0	929 87.6	611 57.6	487 45.9	486 45.8	255 24.1	47 4.4	55 5.2	40 3.8	14 1.3		
居住小学校区別	柳河	110 100.0	100 90.9	62 56.4	52 47.3	53 48.2	29 26.4	2 1.8	3 2.7	4 3.6	1 0.9	
	城内	62 100.0	54 87.1	36 58.1	33 53.2	33 53.2	12 19.4	1 1.6	3 4.8	4 6.5	0 -	
	東宮永	57 100.0	52 91.2	36 63.2	25 43.9	28 49.1	15 26.3	2 3.5	4 7.0	0 -	2 3.5	
	昭代第一	67 100.0	60 89.6	43 64.2	37 55.2	32 47.8	17 25.4	7 10.4	3 4.5	3 4.5	0 -	
	昭代第二	45 100.0	39 86.7	26 57.8	15 33.3	23 51.1	13 28.9	0 -	5 11.1	2 4.4	1 2.2	
	蒲池	81 100.0	72 88.9	42 51.9	42 51.9	32 39.5	26 32.1	4 4.9	3 3.7	6 7.4	2 2.5	
	矢留	65 100.0	58 89.2	37 56.9	29 44.6	28 43.1	11 16.9	1 1.5	3 4.6	3 4.6	0 -	
	両開	51 100.0	45 88.2	30 58.8	23 45.1	17 33.3	13 25.5	2 3.9	0 -	0 -	0 -	
	皿垣	28 100.0	26 92.9	10 35.7	13 46.4	11 39.3	6 21.4	0 -	1 3.6	1 3.6	0 -	
	有明	14 100.0	12 85.7	9 64.3	7 50.0	6 42.9	3 21.4	1 7.1	0 -	0 -	0 -	
	中島	43 100.0	38 88.4	25 58.1	16 37.2	24 55.8	11 25.6	0 -	1 2.3	0 -	1 2.3	
	六合	44 100.0	35 79.5	25 56.8	16 36.4	17 38.6	8 18.2	1 2.3	2 4.5	4 9.1	0 -	
	大和	45 100.0	38 84.4	28 62.2	21 46.7	16 35.6	9 20.0	2 4.4	4 8.9	1 2.2	0 -	
	豊原	41 100.0	33 80.5	21 51.2	16 39.0	21 51.2	7 17.1	2 4.9	2 4.9	1 2.4	3 7.3	
	藤吉	125 100.0	107 85.6	84 67.2	54 43.2	58 46.4	33 26.4	5 4.0	9 7.2	5 4.0	1 0.8	
	矢ヶ部	25 100.0	21 84.0	11 44.0	14 56.0	12 48.0	5 20.0	5 20.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0	
	二ッ河	61 100.0	52 85.2	25 41.0	27 44.3	28 45.9	16 26.2	9 14.8	4 6.6	4 6.6	2 3.3	
	垂見	47 100.0	43 91.5	34 72.3	24 51.1	26 55.3	10 21.3	3 6.4	2 4.3	0 -	0 -	
	中山	14 100.0	12 85.7	6 42.9	6 42.9	6 42.9	3 21.4	0 -	1 7.1	1 7.1	0 -	
	わからない	16 100.0	15 93.8	11 68.8	7 43.8	5 31.3	4 25.0	0 -	2 12.5	0 -	0 -	
無回答	19 100.0	17 89.5	10 52.6	10 52.6	10 52.6	4 21.1	0 -	1 5.3	0 -	0 -		
居住中学校区別	柳城	229 100.0	206 90.0	134 58.5	110 48.0	114 49.8	56 24.5	5 2.2	10 4.4	8 3.5	3 1.3	
	昭代	112 100.0	99 88.4	69 61.6	52 46.4	55 49.1	30 26.8	7 6.3	8 7.1	5 4.5	1 0.9	
	蒲池	81 100.0	72 88.9	42 51.9	42 51.9	32 39.5	26 32.1	4 4.9	3 3.7	6 7.4	2 2.5	
	柳南	116 100.0	103 88.8	67 57.8	52 44.8	45 38.8	24 20.7	3 2.6	3 2.6	3 2.6	0 -	
	大和	215 100.0	182 84.7	118 54.9	89 41.4	95 44.2	44 20.5	6 2.8	10 4.7	7 3.3	4 1.9	
	三橋	272 100.0	235 86.4	160 58.8	125 46.0	130 47.8	67 24.6	22 8.1	18 6.6	11 4.0	4 1.5	
	わからない	16 100.0	15 93.8	11 68.8	7 43.8	5 31.3	4 25.0	0 -	2 12.5	0 -	0 -	
	無回答	19 100.0	17 89.5	10 52.6	10 52.6	10 52.6	4 21.1	0 -	1 5.3	0 -	0 -	

<中学校区別>

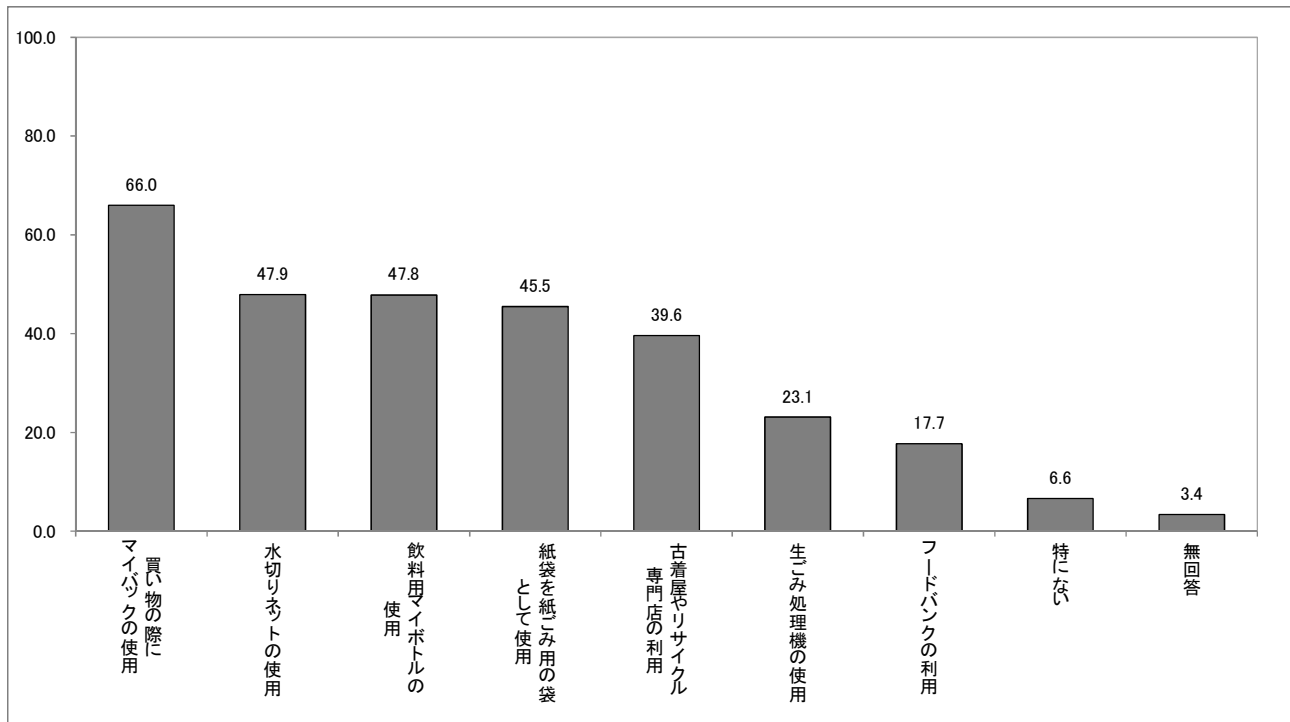
中学校区別では大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(3) ごみ減量の工夫として取り組んで良いと思うもの（問31）

問31. ごみ減量の工夫として、取り組んでもよいと思うものはありますか。（○はいくつでも）

ごみ減量に関して取り組んでいる回答として最多の「買い物の際にマイバックの使用」が最も多く66.0%。



■ごみ減量の工夫として取り組んで良いと思うものについて最も多かった回答は、日ごろの買い物時に取り入れられる「買い物の際にマイバックの使用」(66.0%) だった。マイバックに関しては前問の「現在ごみ減量に関して取り組んでいること」でも最多だった。

次に「水切りネットの使用」(47.9%)、「飲料用マイボトルの使用」(47.8%)、「紙袋を紙ごみ用の袋として使用」(45.5%) と、自宅内外で取り組みやすいものが続いた。

(問 31) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	マイバックの使用の際に使用	水切りネットの使用	飲料用マイボトルの使用	紙袋を紙ごみ用の袋として使用	古着屋やリサイクル専門店の利用	生ごみ処理機の使用	フードバンクの利用	特にない	無回答
(上段：件数、下段：%)											
全体		1,060 100.0	700 66.0	508 47.9	507 47.8	482 45.5	420 39.6	245 23.1	188 17.7	70 6.6	36 3.4
性別	男性	454 100.0	274 60.4	180 39.6	172 37.9	169 37.2	172 37.9	103 22.7	61 13.4	32 7.0	16 3.5
	女性	597 100.0	420 70.4	323 54.1	330 55.3	309 51.8	244 40.9	141 23.6	126 21.1	38 6.4	20 3.4
	無回答	9 100.0	6 66.7	5 55.6	5 55.6	4 44.4	4 44.4	1 11.1	1 11.1	0 -	0 -
年代別	10歳代	6 100.0	5 83.3	4 66.7	5 83.3	5 83.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	0 -	0 -
	20歳代	40 100.0	21 52.5	16 40.0	20 50.0	21 52.5	18 45.0	7 2.5	7 17.5	3 7.5	0 -
	30歳代	87 100.0	50 57.5	36 41.4	38 43.7	38 43.7	43 49.4	21 24.1	28 32.2	9 10.3	1 1.1
	40歳代	157 100.0	80 51.0	60 38.2	72 45.9	56 35.7	64 40.8	35 22.3	40 25.5	15 9.6	7 4.5
	50歳代	222 100.0	132 59.5	99 44.6	106 47.7	98 44.1	94 42.3	52 23.4	58 26.1	22 9.9	6 2.7
	60歳代	232 100.0	161 69.4	113 48.7	113 48.7	106 45.7	98 42.2	65 28.0	31 13.4	13 5.6	9 3.9
	70歳以上	308 100.0	246 79.9	175 56.8	146 47.4	153 49.7	98 31.8	68 22.1	21 6.8	8 2.6	13 4.2
	無回答	8 100.0	5 62.5	5 62.5	7 87.5	5 62.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	0 -	0 -
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	130 54.6	106 44.5	106 44.5	101 42.4	106 44.5	51 21.4	64 26.9	19 8.0	7 2.9
	いない	816 100.0	566 69.4	398 48.8	396 48.5	377 46.2	312 38.2	193 23.7	123 15.1	51 6.3	29 3.6
	無回答	6 100.0	4 66.7	4 66.7	5 83.3	4 66.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 -	0 -

<性別>

性別で見ると、前問と同様に、「買い物の際にマイバックの使用」、「飲料用マイボトルの使用」、「紙袋を紙ごみ用の袋として使用」等、日用品のリサイクルに関する回答は女性のほうが男性よりも10ポイント以上高かった。

<年代別>

年代別に見ると、「買い物の際にマイバックの使用」と答えた人は60歳以上が特に多く、約7～8割の回答が得られた。

食品ロスを削減する取り組みの一つである「フードバンクの利用」については、全体の回答は最も少ないものの、30～50代の割合が他の年代よりもやや高かった。

<18歳以下の子どもの有無別>

「フードバンクの利用」を回答した人は、18歳以下の子どもが「いる」(26.9%)のほうが「いない」(15.1%)よりも11.8ポイント高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問 31) 居住小学校区別・中学校区別

	調査数	マイバッグの使用の際に	水切りネットの使用	飲料用マイボトルの使用	紙袋を紙ごみ用の袋として使用	古着屋やリサイクル専門店の利用	生ごみ処理機の使用	フードバンクの利用	特にな	無回答
(上段：件数、下段：%)										
全 体	1,060 100.0	700 66.0	508 47.9	507 47.8	482 45.5	420 39.6	245 23.1	188 17.7	70 6.6	36 3.4
居住小学校区別	柳河	110 100.0	68 61.8	50 45.5	48 43.6	48 35.5	39 20.9	23 17.3	19 8.2	9 3.6
	城内	62 100.0	43 69.4	35 56.5	31 50.0	30 48.4	28 45.2	17 27.4	13 21.0	3 4.8
	東宮永	57 100.0	42 73.7	30 52.6	28 49.1	33 57.9	22 38.6	14 24.6	9 15.8	1 1.8
	昭代第一	67 100.0	50 74.6	34 50.7	40 59.7	29 43.3	33 49.3	18 26.9	9 13.4	4 6.0
	昭代第二	45 100.0	28 62.2	24 53.3	19 42.2	17 37.8	17 37.8	9 20.0	7 15.6	4 8.9
	蒲池	81 100.0	51 63.0	37 45.7	42 51.9	33 40.7	36 44.4	14 17.3	12 14.8	6 7.4
	矢留	65 100.0	38 58.5	30 46.2	30 46.2	28 43.1	19 29.2	15 23.1	11 16.9	7 10.8
	両開	51 100.0	33 64.7	29 56.9	22 43.1	17 33.3	20 39.2	10 19.6	13 25.5	1 2.0
	皿垣	28 100.0	18 64.3	8 28.6	14 50.0	9 32.1	9 32.1	9 32.1	4 14.3	2 7.1
	有明	14 100.0	12 85.7	10 71.4	9 64.3	7 50.0	5 35.7	6 42.9	1 7.1	1 7.1
	中島	43 100.0	31 72.1	15 34.9	15 34.9	19 44.2	14 32.6	11 25.6	9 20.9	4 9.3
	六合	44 100.0	28 63.6	24 54.5	16 36.4	20 45.5	18 40.9	10 22.7	9 20.5	2 4.5
	大和	45 100.0	30 66.7	23 51.1	20 44.4	19 42.2	13 28.9	10 22.2	6 13.3	1 2.2
	豊原	41 100.0	24 58.5	15 36.6	19 46.3	17 41.5	15 36.6	8 19.5	9 22.0	4 9.8
	藤吉	125 100.0	80 64.0	58 46.4	57 45.6	65 52.0	57 45.6	29 23.2	27 21.6	14 11.2
	矢ヶ部	25 100.0	17 68.0	12 48.0	14 56.0	13 52.0	11 44.0	7 28.0	4 16.0	0 -
	二ッ河	61 100.0	41 67.2	25 41.0	33 54.1	27 44.3	22 36.1	15 24.6	4 6.6	4 6.6
	垂見	47 100.0	32 68.1	27 57.4	25 53.2	27 57.4	20 42.6	14 29.8	15 31.9	1 2.1
	中山	14 100.0	11 78.6	6 42.9	9 64.3	8 57.1	8 57.1	2 14.3	2 14.3	1 7.1
	わからない	16 100.0	9 56.3	8 50.0	5 31.3	6 37.5	7 43.8	3 18.8	3 18.8	1 6.3
無回答	19 100.0	14 73.7	8 42.1	11 57.9	10 52.6	7 36.8	1 5.3	2 10.5	0 -	
居住中学校区別	柳城	229 100.0	153 66.8	115 50.2	107 46.7	111 48.5	89 38.9	54 23.6	41 17.9	13 5.7
	昭代	112 100.0	78 69.6	58 51.8	59 52.7	46 41.1	50 44.6	27 24.1	16 14.3	8 7.1
	蒲池	81 100.0	51 63.0	37 45.7	42 51.9	33 40.7	36 44.4	14 17.3	12 14.8	6 7.4
	柳南	116 100.0	71 61.2	59 50.9	52 44.8	45 38.8	39 33.6	25 21.6	24 20.7	8 6.9
	大和	215 100.0	143 66.5	95 44.2	93 43.3	91 42.3	74 34.4	54 25.1	38 17.7	14 6.5
	三橋	272 100.0	181 66.5	128 47.1	138 50.7	140 51.5	118 43.4	67 24.6	52 19.1	20 7.4
	わからない	16 100.0	9 56.3	8 50.0	5 31.3	6 37.5	7 43.8	3 18.8	3 18.8	1 6.3
	無回答	19 100.0	14 73.7	8 42.1	11 57.9	10 52.6	7 36.8	1 5.3	2 10.5	0 -

<中学校区別>

中学校区別による大きな差は見られなかった。

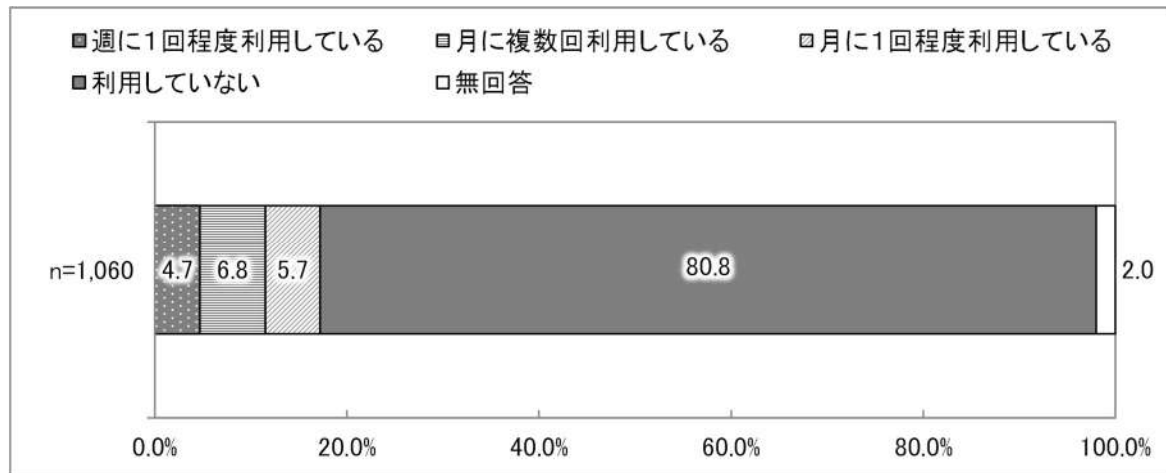
Ⅲ. 調査結果

9. 公共施設の利用について

(1) 柳川市の公共施設の利用状況 (問 37)

問 37. 柳川市の公共施設を利用していますか。(○は1つだけ)

最も多い回答は「利用していない」(80.8%)。「週に1回程度利用している」「月に複数回利用している」「月に1回程度利用している」の合計「利用している」は17.2%。



■柳川市の公共施設の利用状況について、「利用していない」と答えた人が最も多く 80.8%と約8割を占めた。

また、いずれも僅差だが、割合が高い順に「月に複数回利用している」(6.8%)、「月に1回程度利用している」(5.7%)、「週に1回程度利用している」(4.7%)で、それぞれを足した割合の『利用している』は17.2%となり、市内の公共施設を利用している人は全体の約2割弱ということがわかった。

(問 37) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	利用して1回程度	月に複数回	月に1回程度	利用していない	無回答	『利用している』
(上段：件数、下段：%)								
全 体		1,060 100.0	50 4.7	72 6.8	60 5.7	857 80.8	21 2.0	182 17.2
性別	男性	454 100.0	16 3.5	27 5.9	23 5.1	383 84.4	5 1.1	66 14.5
	女性	597 100.0	32 5.4	45 7.5	36 6.0	468 78.4	16 2.7	113 18.9
	無回答	9 100.0	2 22.2	0 -	1 11.1	6 66.7	0 -	3 33.3
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	0 -	1 16.7	4 66.7	0 -	2 33.4
	20代	40 100.0	2 5.0	0 -	2 5.0	36 90.0	0 -	4 10.0
	30代	87 100.0	3 3.4	4 4.6	3 3.4	77 88.5	0 -	10 11.4
	40代	157 100.0	5 3.2	8 5.1	16 10.2	127 80.9	1 0.6	29 18.5
	50代	222 100.0	8 3.6	5 2.3	6 2.7	201 90.5	2 0.9	19 8.6
	60代	232 100.0	8 3.4	18 7.8	12 5.2	191 82.3	3 1.3	38 16.4
	70代以上	308 100.0	21 6.8	37 12.0	20 6.5	215 69.8	15 4.9	78 25.3
	無回答	8 100.0	2 25.0	0 -	0 -	6 75.0	0 -	2 25.0
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	10 4.2	20 8.4	18 7.6	189 79.4	1 0.4	48 20.2
	いない	816 100.0	38 4.7	52 6.4	42 5.1	664 81.4	20 2.5	132 16.2
	無回答	6 100.0	2 33.3	0 -	0 -	4 66.7	0 -	2 33.3

<性別>

『利用している』の割合は女性が約2割で、男性よりやや高かった。

<年代別>

年代別では、『利用している』の割合が最も高い年代は70歳以上で25.3%。次に40代(18.5%)、60代(16.4%)と続いた。

また、「利用していない」が最も高い年代は50代(90.5%)。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(問 37) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	利用に1回程度	月に複数回	月に1回程度	利用していない	無回答	『利用している』
(上段：件数、下段：%)								
全 体		1,060 100.0	50 4.7	72 6.8	60 5.7	857 80.8	21 2.0	182 17.2
居住小学校区別	柳河	110 100.0	8 7.3	7 6.4	7 6.4	85 77.3	3 2.7	22 20.1
	城内	62 100.0	5 8.1	5 8.1	5 8.1	46 74.2	1 1.6	15 24.3
	東宮永	57 100.0	2 3.5	3 5.3	0 -	50 87.7	2 3.5	5 8.8
	昭代第一	67 100.0	1 1.5	6 9.0	4 6.0	55 82.1	1 1.5	11 16.5
	昭代第二	45 100.0	2 4.4	3 6.7	2 4.4	38 84.4	0 -	7 15.5
	蒲池	81 100.0	3 3.7	5 6.2	3 3.7	70 86.4	0 -	11 13.6
	矢留	65 100.0	2 3.1	6 9.2	8 12.3	49 75.4	0 -	16 24.6
	両開	51 100.0	1 2.0	8 15.7	1 2.0	38 74.5	3 5.9	10 19.7
	皿垣	28 100.0	1 3.6	3 10.7	2 7.1	22 78.6	0 -	6 21.4
	有明	14 100.0	0 -	0 -	0 -	14 100.0	0 -	0 -
	中島	43 100.0	5 11.6	1 2.3	1 2.3	36 83.7	0 -	7 16.2
	六合	44 100.0	1 2.3	2 4.5	1 2.3	38 86.4	2 4.5	4 9.1
	大和	45 100.0	0 -	0 -	3 6.7	42 93.3	0 -	3 6.7
	豊原	41 100.0	1 2.4	5 12.2	1 2.4	33 80.5	1 2.4	7 17.0
	藤吉	125 100.0	5 4.0	7 5.6	9 7.2	99 79.2	5 4.0	21 16.8
	矢ヶ部	25 100.0	1 4.0	1 4.0	0 -	23 92.0	0 -	2 8.0
	二ッ河	61 100.0	6 9.8	4 6.6	5 8.2	45 73.8	1 1.6	15 24.6
	垂見	47 100.0	4 8.5	3 6.4	5 10.6	33 70.2	2 4.3	12 25.5
	中山	14 100.0	0 -	1 7.1	3 21.4	10 71.4	0 -	4 28.5
	わからない	16 100.0	0 -	2 12.5	0 -	14 87.5	0 -	2 12.5
	無回答	19 100.0	2 10.5	0 -	0 -	17 89.5	0 -	2 10.5
居住中学校区別	柳城	229 100.0	15 6.6	15 6.6	12 5.2	181 79.0	6 2.6	42 18.4
	昭代	112 100.0	3 2.7	9 8.0	6 5.4	93 83.0	1 0.9	18 16.1
	蒲池	81 100.0	3 3.7	5 6.2	3 3.7	70 86.4	0 -	11 13.6
	柳南	116 100.0	3 2.6	14 12.1	9 7.8	87 75.0	3 2.6	26 22.5
	大和	215 100.0	8 3.7	11 5.1	8 3.7	185 86.0	3 1.4	27 12.5
	三橋	272 100.0	16 5.9	16 5.9	22 8.1	210 77.2	8 2.9	54 19.9
	わからない	16 100.0	0 -	2 12.5	0 -	14 87.5	0 -	2 12.5
	無回答	19 100.0	2 10.5	0 -	0 -	17 89.5	0 -	2 10.5

<中学校区別>

『利用している』が最も多い中学校区は柳南で22.5%、最も低い大和（12.5%）とは10.0ポイントの差があった。

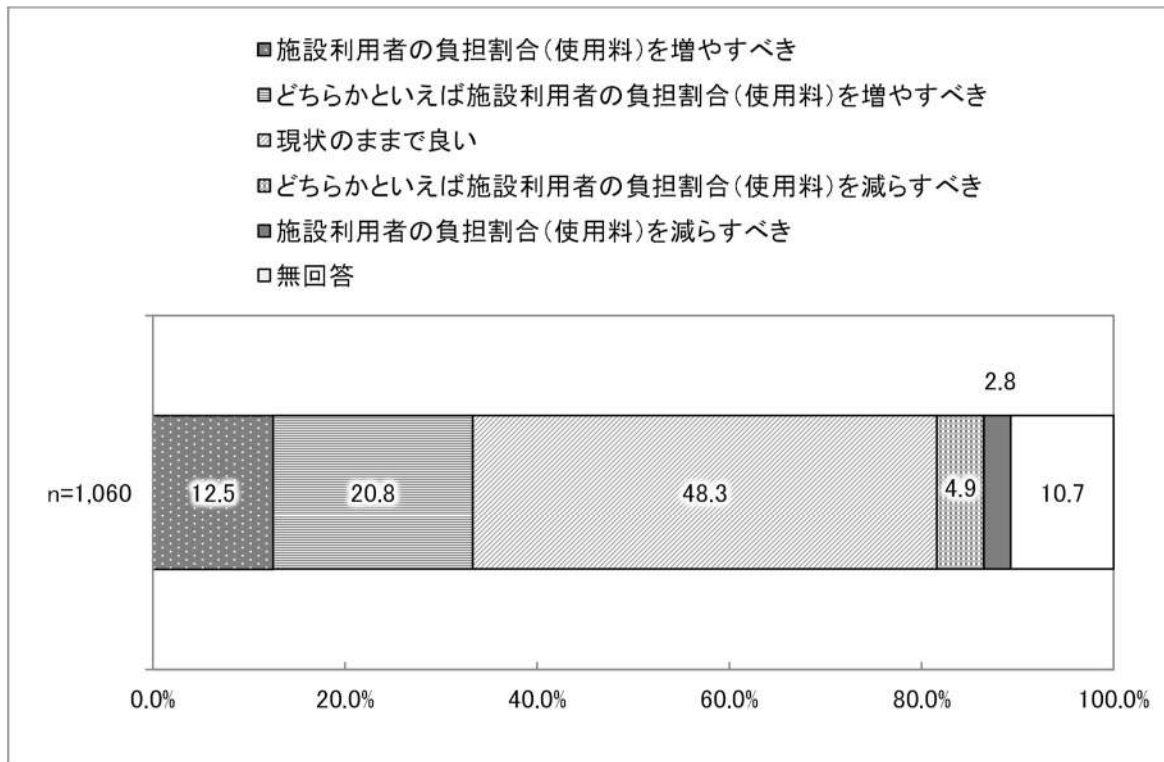
Ⅲ. 調査結果

(2) 市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合について思うこと (問 38)

問 38. 公共施設の維持管理経費における使用料収入と市税収入等との割合についてどう思われますか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「現状のままで良い」で 48.3%と約5割。

“増やすべき”と回答した人は全体の約3割。



■市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合について、最も割合の高かった回答は「現状のままで良い」で 48.3%だった。以下、割合が高い順に、「どちらかといえば施設利用者の負担割合(使用料)を増やすべき」(20.8%)、「施設利用者の負担割合(使用料)を増やすべき」(12.5%)、「どちらかといえば施設利用者の負担割合(使用料)を減らすべき」(4.9%)と「施設利用者の負担割合(使用料)を減らすべき」(2.8%)。

また、「施設利用者の負担割合(使用料)を増やすべき」と「どちらかといえば施設利用者の負担割合(使用料)を増やすべき」を合わせた割合である『施設利用者の負担割合(使用料)を増やすべき』(以降、『増やすべき』と表記)は 33.3%で、「どちらかといえば施設利用者の負担割合(使用料)を減らすべき」と「施設利用者の負担割合(使用料)を減らすべき」を合わせた『施設利用者の負担割合(使用料)を減らすべき』(以下、『減らすべき』と表記)の 7.7%より 25.6ポイント上回った。

(問 38) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別・柳川市の公共施設の利用状況別

		調査数	施設利用者(使用料)を増やすべき	どちらかといえば施設利用者(使用料)を増やすべき	現状のままで良い	施設利用者(使用料)を減らすべき	どちらかといえば施設利用者(使用料)を減らすべき	施設利用者(使用料)を増やすべき	無回答	『増やすべき』	『減らすべき』
(上段：件数、下段：%)											
全 体		1,060 100.0	132 12.5	221 20.8	512 48.3	52 4.9	30 2.8	113 10.7	353 33.3	82 7.7	
性別	男性	454 100.0	70 15.4	106 23.3	208 45.8	28 6.2	9 2.0	33 7.3	176 38.7	37 8.2	
	女性	597 100.0	61 10.2	113 18.9	300 50.3	24 4.0	19 3.2	80 13.4	174 29.1	43 7.2	
	無回答	9 100.0	1 11.1	2 22.2	4 44.4	0 -	2 22.2	0 -	3 33.3	2 22.2	
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	0 -	5 83.3	0 -	0 -	0 -	1 16.7	0 -	
	20代	40 100.0	7 17.5	5 12.5	25 62.5	0 -	1 2.5	2 5.0	12 30.0	1 2.5	
	30代	87 100.0	15 17.2	23 26.4	38 43.7	5 5.7	6 6.9	0 -	38 43.6	11 12.6	
	40代	157 100.0	30 19.1	36 22.9	77 49.0	8 5.1	3 1.9	3 1.9	66 42.0	11 7.0	
	50代	222 100.0	26 11.7	60 27.0	109 49.1	9 4.1	3 1.4	15 6.8	86 38.7	12 5.5	
	60代	232 100.0	27 11.6	47 20.3	113 48.7	12 5.2	5 2.2	28 12.1	74 31.9	17 7.4	
	70代以上	308 100.0	25 8.1	50 16.2	141 45.8	18 5.8	10 3.2	64 20.8	75 24.3	28 9.0	
	無回答	8 100.0	1 12.5	0 -	4 50.0	0 -	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	
18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	34 14.3	60 25.2	117 49.2	7 2.9	7 2.9	13 5.5	94 39.5	14 5.8	
	いない	816 100.0	97 11.9	161 19.7	392 48.0	45 5.5	21 2.6	100 12.3	258 31.6	66 8.1	
	無回答	6 100.0	1 16.7	0 -	3 50.0	0 -	2 33.3	0 -	1 16.7	2 33.3	
公共施設の利用状況	週に1回程度利用している	50 100.0	3 6.0	7 14.0	30 60.0	6 12.0	1 2.0	3 6.0	10 20.0	7 14.0	
	月に複数回利用している	72 100.0	2 2.8	15 20.8	51 70.8	3 4.2	0 -	1 1.4	17 23.6	3 4.2	
	月に1回程度利用している	60 100.0	2 3.3	9 15.0	38 63.3	6 10.0	3 5.0	2 3.3	11 18.3	9 15.0	
	利用していない	857 100.0	124 14.5	189 22.1	389 45.4	37 4.3	26 3.0	92 10.7	313 36.6	63 7.3	
	無回答	21 100.0	1 4.8	1 4.8	4 19.0	0 -	0 -	15 71.4	2 9.6	0 -	
公共施設の利用状況の集約	『利用している』	182 100.0	7 3.8	31 17.0	119 65.4	15 8.2	4 2.2	6 3.3	38 20.8	19 10.4	
	『利用していない』	857 100.0	124 14.5	189 22.1	389 45.4	37 4.3	26 3.0	92 10.7	313 36.6	63 7.3	
	無回答	21 100.0	1 4.8	1 4.8	4 19.0	0 -	0 -	15 71.4	2 9.6	0 -	

<性別>

『増やすべき』の割合は男性（38.7%）が女性（29.1%）よりやや高かった。

<年代別>

『増やすべき』の割合が特に高かった年代は30～50代で、それぞれで約4割を占めた。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られなかった。

<公共施設の利用状況別>

『増やすべき』の割合は『利用していない』（36.6%）が『利用している』（20.8%）より15.8ポイント高くなっている。

Ⅲ. 調査結果

(問 38) 居住小学校区別・中学校区別

	調査数	どちらかといえば施設利用者の負担割合を増やすべき		現状のままが良い	どちらかといえば施設利用者の負担割合を減らすべき		無回答	『増やすべき』	『減らすべき』		
		(施設利用者の負担割合を増やすべき)	(利用者の負担割合を増やすべき)		(施設利用者の負担割合を減らすべき)	(利用者の負担割合を減らすべき)					
全体	1,060 100.0	132 12.5	221 20.8	512 48.3	52 4.9	30 2.8	113 10.7	353 33.3	82 7.7		
居住小学校区別	柳河	110 100.0	17 15.5	20 18.2	53 48.2	6 5.5	2 1.8	12 10.9	37 33.7	8 7.3	
	城内	62 100.0	14 22.6	13 21.0	24 38.7	4 6.5	3 4.8	4 6.5	27 43.6	7 11.3	
	東宮永	57 100.0	11 19.3	6 10.5	29 50.9	0 -	1 1.8	10 17.5	17 29.8	1 1.8	
	昭代第一	67 100.0	8 11.9	17 25.4	31 46.3	3 4.5	3 4.5	5 7.5	25 37.3	6 9.0	
	昭代第二	45 100.0	4 8.9	11 24.4	22 48.9	3 6.7	2 4.4	3 6.7	15 33.3	5 11.1	
	蒲池	81 100.0	10 12.3	15 18.5	43 53.1	1 1.2	3 3.7	9 11.1	25 30.8	4 4.9	
	矢留	65 100.0	5 7.7	13 20.0	31 47.7	8 12.3	3 4.6	5 7.7	18 27.7	11 16.9	
	両開	51 100.0	6 11.8	7 13.7	27 52.9	4 7.8	0 -	7 13.7	13 25.5	4 7.8	
	皿垣	28 100.0	1 3.6	7 25.0	15 53.6	0 -	1 3.6	4 14.3	8 28.6	1 3.6	
	有明	14 100.0	1 7.1	4 28.6	6 42.9	0 -	0 -	3 21.4	5 35.7	0 -	
	中島	43 100.0	9 20.9	9 20.9	18 41.9	1 2.3	1 2.3	5 11.6	18 41.8	2 4.6	
	六合	44 100.0	3 6.8	12 27.3	21 47.7	1 2.3	1 2.3	6 13.6	15 34.1	2 4.6	
	大和	45 100.0	6 13.3	9 20.0	22 48.9	1 2.2	0 -	7 15.6	15 33.3	1 2.2	
	豊原	41 100.0	6 14.6	8 19.5	22 53.7	2 4.9	1 2.4	2 4.9	14 34.1	3 7.3	
	藤吉	125 100.0	12 9.6	24 19.2	64 51.2	9 7.2	2 1.6	14 11.2	36 28.8	11 8.8	
	矢ヶ部	25 100.0	5 20.0	7 28.0	8 32.0	2 8.0	1 4.0	2 8.0	12 48.0	3 12.0	
	二ッ河	61 100.0	6 9.8	18 29.5	29 47.5	2 3.3	1 1.6	5 8.2	24 39.3	3 4.9	
	垂見	47 100.0	3 6.4	9 19.1	27 57.4	1 2.1	0 -	7 14.9	12 25.5	1 2.1	
	中山	14 100.0	1 7.1	6 42.9	4 28.6	1 7.1	1 7.1	1 7.1	7 50.0	2 14.2	
	わからない	16 100.0	2 12.5	3 18.8	8 50.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3	5 31.3	2 12.6	
	無回答	19 100.0	2 10.5	3 15.8	8 42.1	2 10.5	3 15.8	1 5.3	5 26.3	5 26.3	
	居住中学校区別	柳城	229 100.0	42 18.3	39 17.0	106 46.3	10 4.4	6 2.6	26 11.4	81 35.3	16 7.0
		昭代	112 100.0	12 10.7	28 25.0	53 47.3	6 5.4	5 4.5	8 7.1	40 35.7	11 9.9
蒲池		81 100.0	10 12.3	15 18.5	43 53.1	1 1.2	3 3.7	9 11.1	25 30.8	4 4.9	
柳南		116 100.0	11 9.5	20 17.2	58 50.0	12 10.3	3 2.6	12 10.3	31 26.7	15 12.9	
大和		215 100.0	26 12.1	49 22.8	104 48.4	5 2.3	4 1.9	27 12.6	75 34.9	9 4.2	
三橋		272 100.0	27 9.9	64 23.5	132 48.5	15 5.5	5 1.8	29 10.7	91 33.4	20 7.3	
わからない		16 100.0	2 12.5	3 18.8	8 50.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3	5 31.3	2 12.6	
無回答		19 100.0	2 10.5	3 15.8	8 42.1	2 10.5	3 15.8	1 5.3	5 26.3	5 26.3	

<中学校区別>

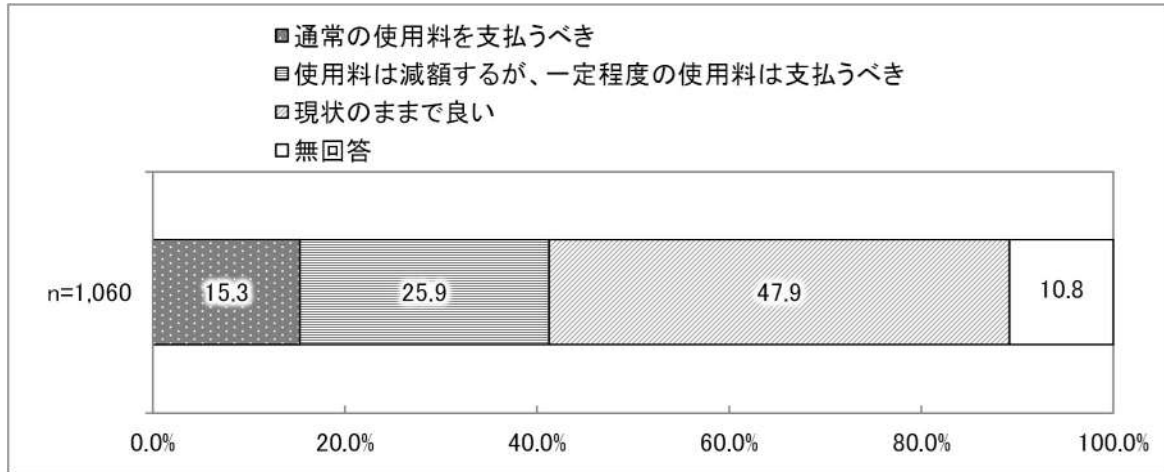
大きな差は見られないが、『増やすべき』の割合が最も高かった中学校区は昭代で 35.7%。最も低い柳南 (26.7%) とは 9.0 ポイント差だった。

Ⅲ. 調査結果

(3) 市民が利用する施設の使用料免除制度について思うこと (問 39)

問 39. 市民が利用する施設での使用料免除制度についてどう思われますか。(○は1つだけ)

最も高い割合は「現状のままで良い」で全体の約5割(47.9%)。



■ 市民が利用する施設の使用料免除制度について、最も高かった割合は「現状のままで良い」で47.9%だった。以下、割合が高い順に、「使用料は減額するが、一定程度の使用料は支払うべき」(25.9%)、「通常の使用料を支払うべき」(15.3%)。

(問 39) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	支 払 う べ き 通 常 の 使 用 料 を	支 払 う べ き 一 定 程 度 の 使 用 料 は 減 額 す る が、	現 状 の ま ま で 良 い	無 回 答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	162 15.3	275 25.9	508 47.9	115 10.8
性別	男性	454 100.0	91 20.0	123 27.1	204 44.9	36 7.9
	女性	597 100.0	69 11.6	151 25.3	298 49.9	79 13.2
	無回答	9 100.0	2 22.2	1 11.1	6 66.7	0 -
年代別	10代	6 100.0	1 16.7	0 -	5 83.3	0 -
	20代	40 100.0	2 5.0	2 5.0	33 82.5	3 7.5
	30代	87 100.0	16 18.4	30 34.5	41 47.1	0 -
	40代	157 100.0	34 21.7	40 25.5	77 49.0	6 3.8
	50代	222 100.0	27 12.2	75 33.8	102 45.9	18 8.1
	60代	232 100.0	46 19.8	58 25.0	105 45.3	23 9.9
	70代以上	308 100.0	35 11.4	70 22.7	139 45.1	64 20.8
	無回答	8 100.0	1 12.5	0 -	6 75.0	1 12.5
の18歳以下の 有無	いる	238 100.0	36 15.1	65 27.3	123 51.7	14 5.9
	いない	816 100.0	125 15.3	210 25.7	380 46.6	101 12.4
	無回答	6 100.0	1 16.7	0 -	5 83.3	0 -
公共施設の 利用状況	週に1回程度利用している	50 100.0	4 8.0	14 28.0	28 56.0	4 8.0
	月に複数回利用している	72 100.0	7 9.7	16 22.2	49 68.1	0 -
	月に1回程度利用している	60 100.0	5 8.3	15 25.0	37 61.7	3 5.0
	利用していない	857 100.0	145 16.9	229 26.7	390 45.5	93 10.9
	無回答	21 100.0	1 4.8	1 4.8	4 19.0	15 71.4
公共施設の 集約状況	『利用している』	182 100.0	16 8.8	45 24.7	114 62.6	7 3.8
	『利用していない』	857 100.0	145 16.9	229 26.7	390 45.5	93 10.9
	無回答	21 100.0	1 4.8	1 4.8	4 19.0	15 71.4

<性別>

「使用料は減額するが、一定程度の使用料は支払うべき」と「現状のままで良い」の割合に関して大きな差は見られないが、「通常の使用料を支払うべき」は男性(20.0%)が女性(11.6%)よりやや高かった。

<年代別>

年代別では、「使用料は減額するが、一定程度の使用料は支払うべき」の割合が最も高いのは30代で34.5%。次いで50代(33.8%)、40代(25.5%)。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られなかった。

<公共施設の利用状況別>

「現状のままでよい」の割合は『利用している』が62.6%と高くなっている。

Ⅲ. 調査結果

(問 39) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	支払うべき通常の使用料を	支払うべき一定料は減額するが、	現状のままで良い	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	162 15.3	275 25.9	508 47.9	115 10.8
居住小学校区別	柳河	110 100.0	14 12.7	30 27.3	56 50.9	10 9.1
	城内	62 100.0	14 22.6	14 22.6	30 48.4	4 6.5
	東宮永	57 100.0	11 19.3	13 22.8	25 43.9	8 14.0
	昭代第一	67 100.0	10 14.9	22 32.8	32 47.8	3 4.5
	昭代第二	45 100.0	7 15.6	11 24.4	22 48.9	5 11.1
	蒲池	81 100.0	11 13.6	27 33.3	35 43.2	8 9.9
	矢留	65 100.0	14 21.5	12 18.5	31 47.7	8 12.3
	両開	51 100.0	7 13.7	13 25.5	21 41.2	10 19.6
	皿垣	28 100.0	0 -	8 28.6	16 57.1	4 14.3
	有明	14 100.0	1 7.1	6 42.9	5 35.7	2 14.3
	中島	43 100.0	9 20.9	13 30.2	16 37.2	5 11.6
	六合	44 100.0	4 9.1	10 22.7	25 56.8	5 11.4
	大和	45 100.0	7 15.6	11 24.4	18 40.0	9 20.0
	豊原	41 100.0	6 14.6	9 22.0	24 58.5	2 4.9
	藤吉	125 100.0	24 19.2	30 24.0	57 45.6	14 11.2
	矢ヶ部	25 100.0	2 8.0	8 32.0	13 52.0	2 8.0
	二ッ河	61 100.0	8 13.1	14 23.0	32 52.5	7 11.5
	垂見	47 100.0	4 8.5	14 29.8	24 51.1	5 10.6
	中山	14 100.0	4 28.6	1 7.1	8 57.1	1 7.1
	わからない	16 100.0	1 6.3	6 37.5	8 50.0	1 6.3
無回答	19 100.0	4 21.1	3 15.8	10 52.6	2 10.5	
居住中学校区別	柳城	229 100.0	39 17.0	57 24.9	111 48.5	22 9.6
	昭代	112 100.0	17 15.2	33 29.5	54 48.2	8 7.1
	蒲池	81 100.0	11 13.6	27 33.3	35 43.2	8 9.9
	柳南	116 100.0	21 18.1	25 21.6	52 44.8	18 15.5
	大和	215 100.0	27 12.6	57 26.5	104 48.4	27 12.6
	三橋	272 100.0	42 15.4	67 24.6	134 49.3	29 10.7
	わからない	16 100.0	1 6.3	6 37.5	8 50.0	1 6.3
	無回答	19 100.0	4 21.1	3 15.8	10 52.6	2 10.5

<中学校区別>

中学校区別では大きな差は見られなかった。

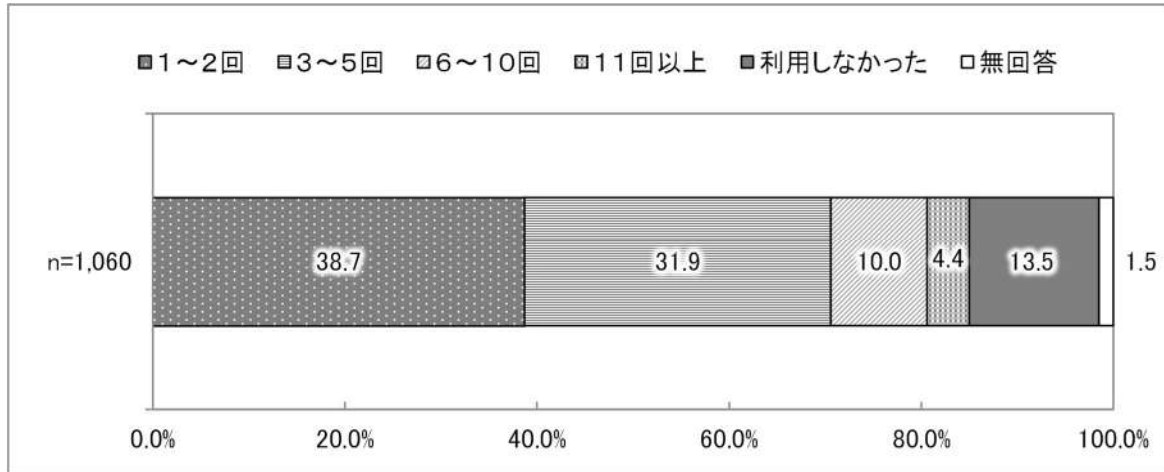
Ⅲ. 調査結果

(4) 昨年度1年間のうち、柳川市役所の利用回数（問40）

問40. 昨年度の1年間のうち、柳川市役所を何回利用されましたか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「1～2回」で38.7%。次点で「3～5回」の31.9%。

1回でも利用したことがある人の回答の合計「利用した」は全体の約8割。



■昨年度1年間のうち、柳川市役所の利用回数について、最も高かった割合は「1～2回」の38.7%。以下、割合が高い順に、「3～5回」(31.9%)、「利用しなかった」(13.5%)、「6～11回」(10.0%)、「11回以上」(4.4%)。

1回でも利用したことがある回答の合計『利用した』は85.0%と、全体の8割を超える人が昨年度、柳川市役所を利用したことがわかった。

(問 40) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	1 ～ 2 回	3 ～ 5 回	6 ～ 1 0 回	1 回 以上	利用 しな かつ た	無 回 答	『利 用 し た』
(上段：件数、下段：%)									
全 体		1,060 100.0	410 38.7	338 31.9	106 10.0	47 4.4	143 13.5	16 1.5	901 85.0
性別	男性	454 100.0	170 37.4	145 31.9	50 11.0	21 4.6	63 13.9	5 1.1	386 84.9
	女性	597 100.0	237 39.7	193 32.3	53 8.9	25 4.2	78 13.1	11 1.8	508 85.1
	無回答	9 100.0	3 33.3	0 -	3 33.3	1 11.1	2 22.2	0 -	7 77.7
年代別	10代	6 100.0	2 33.3	1 16.7	0 -	0 -	3 50.0	0 -	3 50.0
	20代	40 100.0	19 47.5	10 25.0	2 5.0	2 5.0	7 17.5	0 -	33 82.5
	30代	87 100.0	29 33.3	31 35.6	13 14.9	1 1.1	13 14.9	0 -	74 84.9
	40代	157 100.0	68 43.3	46 29.3	15 9.6	7 4.5	20 12.7	1 0.6	136 86.7
	50代	222 100.0	99 44.6	62 27.9	18 8.1	7 3.2	34 15.3	2 0.9	186 83.8
	60代	232 100.0	77 33.2	86 37.1	25 10.8	18 7.8	21 9.1	5 2.2	206 88.9
	70代以上	308 100.0	114 37.0	100 32.5	31 10.1	11 3.6	44 14.3	8 2.6	256 83.2
	無回答	8 100.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	0 -	7 87.5
の18歳以下の 有無	いる	238 100.0	92 38.7	81 34.0	31 13.0	14 5.9	18 7.6	2 0.8	218 91.6
	いない	816 100.0	316 38.7	257 31.5	73 8.9	32 3.9	124 15.2	14 1.7	678 83.0
	無回答	6 100.0	2 33.3	0 -	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 -	5 83.3

<性別>

性別による大きな差は見受けられなかった。

<年代別>

年代別による大きな差は見られなかった。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(問 40) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	1 ～ 2 回	3 ～ 5 回	6 ～ 1 0 回	1 1 回 以上	利用 しな かった	無 回 答	『 利用 した 』
(上段：件数、下段：%)									
全 体		1,060 100.0	410 38.7	338 31.9	106 10.0	47 4.4	143 13.5	16 1.5	901 85.0
居住 小 学 校 区 別	柳河	110 100.0	37 33.6	33 30.0	14 12.7	8 7.3	16 14.5	2 1.8	92 83.6
	城内	62 100.0	24 38.7	20 32.3	4 6.5	3 4.8	10 16.1	1 1.6	51 82.3
	東宮永	57 100.0	26 45.6	17 29.8	4 7.0	4 7.0	4 7.0	2 3.5	51 89.4
	昭代第一	67 100.0	30 44.8	19 28.4	5 7.5	4 6.0	9 13.4	0 -	58 86.7
	昭代第二	45 100.0	13 28.9	22 48.9	3 6.7	2 4.4	5 11.1	0 -	40 88.9
	蒲池	81 100.0	34 42.0	28 34.6	7 8.6	1 1.2	9 11.1	2 2.5	70 86.4
	矢留	65 100.0	23 35.4	27 41.5	8 12.3	4 6.2	2 3.1	1 1.5	62 95.4
	両開	51 100.0	11 21.6	19 37.3	11 21.6	1 2.0	6 11.8	3 5.9	42 82.5
	皿垣	28 100.0	16 57.1	6 21.4	1 3.6	0 -	5 17.9	0 -	23 82.1
	有明	14 100.0	4 28.6	5 35.7	1 7.1	0 -	4 28.6	0 -	10 71.4
	中島	43 100.0	20 46.5	11 25.6	8 18.6	2 4.7	2 4.7	0 -	41 95.4
	六合	44 100.0	17 38.6	14 31.8	1 2.3	2 4.5	9 20.5	1 2.3	34 77.2
	大和	45 100.0	19 42.2	11 24.4	1 2.2	2 4.4	12 26.7	0 -	33 73.2
	豊原	41 100.0	18 43.9	8 19.5	5 12.2	1 2.4	8 19.5	1 2.4	32 78.0
	藤吉	125 100.0	53 42.4	42 33.6	8 6.4	5 4.0	15 12.0	2 1.6	108 86.4
	矢ヶ部	25 100.0	9 36.0	10 40.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	0 -	23 92.0
	二ッ河	61 100.0	20 32.8	18 29.5	10 16.4	1 1.6	12 19.7	0 -	49 80.3
	垂見	47 100.0	17 36.2	19 40.4	4 8.5	0 -	6 12.8	1 2.1	40 85.1
	中山	14 100.0	3 21.4	2 14.3	4 28.6	3 21.4	2 14.3	0 -	12 85.7
	わからない	16 100.0	8 50.0	3 18.8	2 12.5	0 -	3 18.8	0 -	13 81.3
無回答	19 100.0	8 42.1	4 21.1	3 15.8	2 10.5	2 10.5	0 -	17 89.5	
居住 中 学 校 区 別	柳城	229 100.0	87 38.0	70 30.6	22 9.6	15 6.6	30 13.1	5 2.2	194 84.8
	昭代	112 100.0	43 38.4	41 36.6	8 7.1	6 5.4	14 12.5	0 -	98 87.5
	蒲池	81 100.0	34 42.0	28 34.6	7 8.6	1 1.2	9 11.1	2 2.5	70 86.4
	柳南	116 100.0	34 29.3	46 39.7	19 16.4	5 4.3	8 6.9	4 3.4	104 89.7
	大和	215 100.0	94 43.7	55 25.6	17 7.9	7 3.3	40 18.6	2 0.9	173 80.5
	三橋	272 100.0	102 37.5	91 33.5	28 10.3	11 4.0	37 13.6	3 1.1	232 85.3
	わからない	16 100.0	8 50.0	3 18.8	2 12.5	0 -	3 18.8	0 -	13 81.3
	無回答	19 100.0	8 42.1	4 21.1	3 15.8	2 10.5	2 10.5	0 -	17 89.5

<中学校区別>

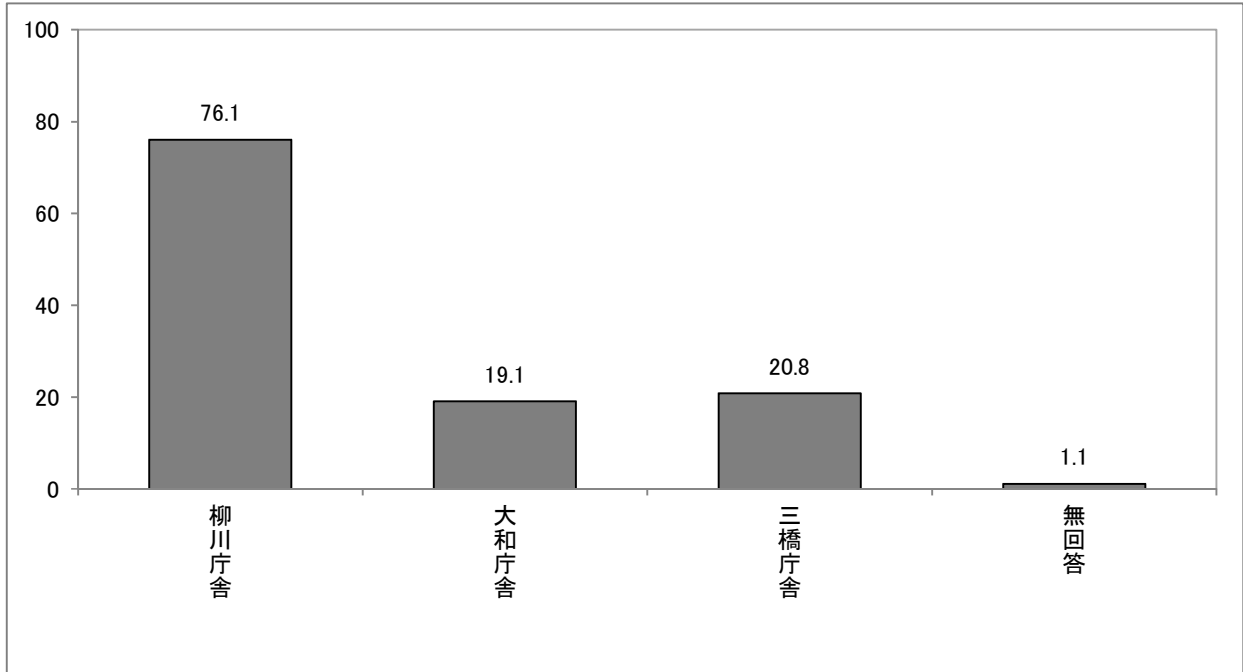
中学校区別では大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(5) 市役所に用事がある時の利用庁舎（問 41）

問 41. 市役所に用事があるときは、どの庁舎を利用していますか。（○はいくつでも）

最も高い割合は「柳川庁舎」で 76.1%。



■市役所に用事がある時の利用庁舎について、最も高かった割合は「柳川庁舎」で 76.1% と他の二庁舎と大きく差があった。以下、割合が高い順に、「三橋庁舎」(20.8%)、「大和庁舎」(19.1%)。

(問 41) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	柳川庁舎	大和庁舎	三橋庁舎	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	807 76.1	202 19.1	220 20.8	12 1.1
性別	男性	454 100.0	353 77.8	92 20.3	91 20.0	6 1.3
	女性	597 100.0	448 75.0	108 18.1	128 21.4	6 1.0
	無回答	9 100.0	6 66.7	2 22.2	1 11.1	0 -
年代別	10歳代	6 100.0	6 100.0	0 -	1 16.7	0 -
	20歳代	40 100.0	34 85.0	4 10.0	6 15.0	1 2.5
	30歳代	87 100.0	75 86.2	14 16.1	18 20.7	0 -
	40歳代	157 100.0	123 78.3	27 17.2	33 21.0	1 0.6
	50歳代	222 100.0	175 78.8	39 17.6	41 18.5	3 1.4
	60歳代	232 100.0	168 72.4	59 25.4	44 19.0	2 0.9
	70歳以上	308 100.0	220 71.4	57 18.5	76 24.7	5 1.6
	無回答	8 100.0	6 75.0	2 25.0	1 12.5	0 -
の18歳以下の有無	いる	238 100.0	194 81.5	31 13.0	58 24.4	2 0.8
	いない	816 100.0	609 74.6	169 20.7	162 19.9	10 1.2
	無回答	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 -	0 -

<性別>

大きな差は見られなかった。

<年代別>

大きな差は見られなかった。

<18歳以下の子どもの有無別>

大きな差は見られなかった。

Ⅲ. 調査結果

(問 41) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	柳川庁舎	大和庁舎	三橋庁舎	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		1,060 100.0	807 76.1	202 19.1	220 20.8	12 1.1
居住小学校区別	柳河	110 100.0	106 96.4	3 2.7	10 9.1	2 1.8
	城内	62 100.0	61 98.4	2 3.2	1 1.6	0 -
	東宮永	57 100.0	55 96.5	1 1.8	1 1.8	2 3.5
	昭代第一	67 100.0	66 98.5	2 3.0	1 1.5	1 1.5
	昭代第二	45 100.0	44 97.8	2 4.4	5 11.1	0 -
	蒲池	81 100.0	77 95.1	4 4.9	10 12.3	2 2.5
	矢留	65 100.0	63 96.9	3 4.6	3 4.6	1 1.5
	両開	51 100.0	47 92.2	7 13.7	3 5.9	2 3.9
	皿垣	28 100.0	13 46.4	19 67.9	1 3.6	0 -
	有明	14 100.0	4 28.6	12 85.7	0 -	1 7.1
	中島	43 100.0	20 46.5	36 83.7	2 4.7	0 -
	六合	44 100.0	18 40.9	39 88.6	4 9.1	0 -
	大和	45 100.0	22 48.9	30 66.7	4 8.9	0 -
	豊原	41 100.0	22 53.7	28 68.3	4 9.8	0 -
	藤吉	125 100.0	94 75.2	5 4.0	52 41.6	1 0.8
	矢ヶ部	25 100.0	22 88.0	0 -	5 20.0	0 -
	二ッ河	61 100.0	22 36.1	2 3.3	56 91.8	0 -
	垂見	47 100.0	12 25.5	3 6.4	41 87.2	0 -
	中山	14 100.0	8 57.1	0 -	14 100.0	0 -
	わからない	16 100.0	16 100.0	1 6.3	1 6.3	0 -
無回答	19 100.0	15 78.9	3 15.8	2 10.5	0 -	
居住中学校区別	柳城	229 100.0	222 96.9	6 2.6	12 5.2	4 1.7
	昭代	112 100.0	110 98.2	4 3.6	6 5.4	1 0.9
	蒲池	81 100.0	77 95.1	4 4.9	10 12.3	2 2.5
	柳南	116 100.0	110 94.8	10 8.6	6 5.2	3 2.6
	大和	215 100.0	99 46.0	164 76.3	15 7.0	1 0.5
	三橋	272 100.0	158 58.1	10 3.7	168 61.8	1 0.4
	わからない	16 100.0	16 100.0	1 6.3	1 6.3	0 -
	無回答	19 100.0	15 78.9	3 15.8	2 10.5	0 -

<中学校区別>

「柳川庁舎」の割合が最も高いのは昭代（98.2%）で、次に柳城（96.9%）、蒲池（95.1%）と続く。また、「大和庁舎」の割合が最も高い中学校区は大和（76.3%）で、「三橋庁舎」と答えた人が最も多いのは三橋（61.8%）と、中学校区に沿った結果となった。

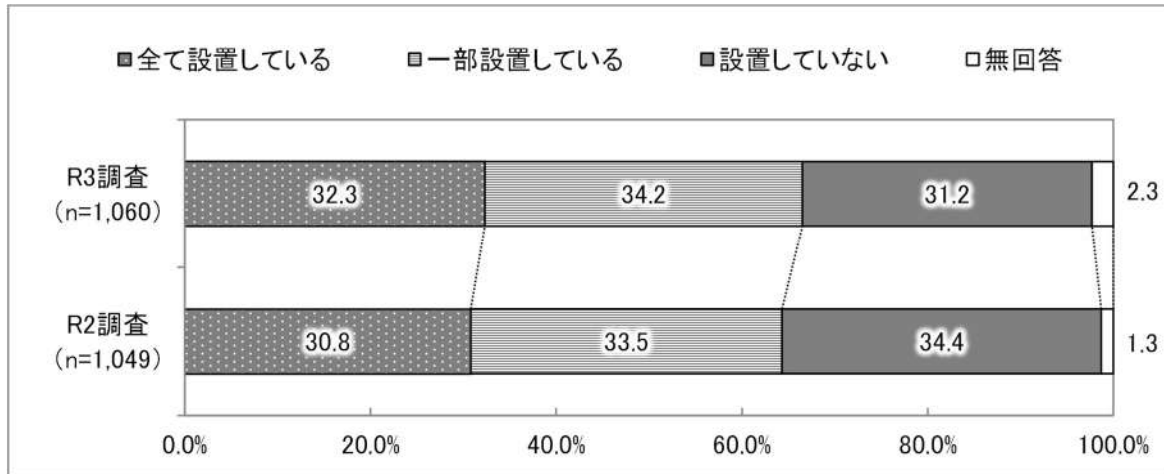
Ⅲ. 調査結果

10. 住宅用火災警報器について

(1) 家族全員の寝室への住宅用火災警報器の設置状況（問 33）

問 33. 住宅用火災警報器を家族全員の寝室（2階にある場合は階段も）に設置していますか。
（○は1つだけ）

最も高い割合は「一部設置している」で 34.2%。「全て設置している」「一部設置している」の合計「設置している」は 66.5%で、前年からわずかに上昇。



- 住宅用火災警報器の設置について、最も高かった割合は「一部設置している」で 34.2%だった。以下、割合が高い順に、「全て設置している」(32.3%)、「設置していない」(31.2%)。また、「全て設置している」と「一部設置している」を合わせた割合（以降、『設置している』と表記）は 66.5%で、「設置していない」31.2%より 35.3 ポイント上回っている。
- 令和 2 年度調査と比較すると、「設置していない」の割合はやや低くなり、『設置している』がやや高くなっている。

(問 33) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	全て設置している	一部設置している	設置していない	無回答	『設置している』
(上段：件数、下段：%)							
全 体		1,060 100.0	342 32.3	363 34.2	331 31.2	24 2.3	705 66.5
性別	男性	454 100.0	142 31.3	152 33.5	154 33.9	6 1.3	294 64.8
	女性	597 100.0	196 32.8	207 34.7	176 29.5	18 3.0	403 67.5
	無回答	9 100.0	4 44.4	4 44.4	1 11.1	0 -	8 88.8
年代別	10代	6 100.0	6 100.0	0 -	0 -	0 -	6 100.0
	20代	40 100.0	22 55.0	9 22.5	8 20.0	1 2.5	31 77.5
	30代	87 100.0	41 47.1	25 28.7	18 20.7	3 3.4	66 75.8
	40代	157 100.0	86 54.8	34 21.7	34 21.7	3 1.9	120 76.5
	50代	222 100.0	72 32.4	68 30.6	81 36.5	1 0.5	140 63.0
	60代	232 100.0	62 26.7	76 32.8	90 38.8	4 1.7	138 59.5
	70代以上	308 100.0	50 16.2	147 47.7	99 32.1	12 3.9	197 63.9
	無回答	8 100.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 -	7 87.5
の18歳以下の子ども有無	いる	238 100.0	118 49.6	64 26.9	50 21.0	6 2.5	182 76.5
	いない	816 100.0	221 27.1	297 36.4	280 34.3	18 2.2	518 63.5
	無回答	6 100.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 -	5 83.3

<性別>

「設置していない」の割合は男性がやや高く、『設置している』の割合は女性がやや高かった。

<年代別>

『設置している』は40代以下では7割を超えた。「設置していない」の割合は60代が最も高く、約4割を占めた。

<18歳以下の子どもの有無別>

『設置している』の割合は「いる」と答えた人が76.5%と、「いない」と答えた人よりも13.0ポイント上回った。

Ⅲ. 調査結果

(問 33) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	全て設置している	一部設置している	設置していない	無回答	『設置している』
(上段：件数、下段：%)							
全 体		1,060 100.0	342 32.3	363 34.2	331 31.2	24 2.3	705 66.5
居住小学校区別	柳河	110 100.0	46 41.8	35 31.8	27 24.5	2 1.8	81 73.6
	城内	62 100.0	15 24.2	31 50.0	15 24.2	1 1.6	46 74.2
	東宮永	57 100.0	13 22.8	17 29.8	24 42.1	3 5.3	30 52.6
	昭代第一	67 100.0	23 34.3	25 37.3	18 26.9	1 1.5	48 71.6
	昭代第二	45 100.0	15 33.3	14 31.1	15 33.3	1 2.2	29 64.4
	蒲池	81 100.0	37 45.7	15 18.5	28 34.6	1 1.2	52 64.2
	矢留	65 100.0	13 20.0	20 30.8	31 47.7	1 1.5	33 50.8
	両開	51 100.0	10 19.6	18 35.3	22 43.1	1 2.0	28 54.9
	皿垣	28 100.0	5 17.9	11 39.3	11 39.3	1 3.6	16 57.2
	有明	14 100.0	6 42.9	1 7.1	7 50.0	0 -	7 50.0
	中島	43 100.0	14 32.6	12 27.9	17 39.5	0 -	26 60.5
	六合	44 100.0	10 22.7	24 54.5	10 22.7	0 -	34 77.2
	大和	45 100.0	20 44.4	14 31.1	11 24.4	0 -	34 75.5
	豊原	41 100.0	8 19.5	16 39.0	13 31.7	4 9.8	24 58.5
	藤吉	125 100.0	58 46.4	35 28.0	29 23.2	3 2.4	93 74.4
	矢ヶ部	25 100.0	6 24.0	11 44.0	7 28.0	1 4.0	17 68.0
	二ッ河	61 100.0	11 18.0	26 42.6	23 37.7	1 1.6	37 60.6
	垂見	47 100.0	12 25.5	18 38.3	16 34.0	1 2.1	30 63.8
	中山	14 100.0	7 50.0	3 21.4	4 28.6	0 -	10 71.4
	わからない	16 100.0	6 37.5	9 56.3	1 6.3	0 -	15 93.8
無回答	19 100.0	7 36.8	8 42.1	2 10.5	2 10.5	15 78.9	
居住中学校区別	柳城	229 100.0	74 32.3	83 36.2	66 28.8	6 2.6	157 68.5
	昭代	112 100.0	38 33.9	39 34.8	33 29.5	2 1.8	77 68.7
	蒲池	81 100.0	37 45.7	15 18.5	28 34.6	1 1.2	52 64.2
	柳南	116 100.0	23 19.8	38 32.8	53 45.7	2 1.7	61 52.6
	大和	215 100.0	63 29.3	78 36.3	69 32.1	5 2.3	141 65.6
	三橋	272 100.0	94 34.6	93 34.2	79 29.0	6 2.2	187 68.8
	わからない	16 100.0	6 37.5	9 56.3	1 6.3	0 -	15 93.8
	無回答	19 100.0	7 36.8	8 42.1	2 10.5	2 10.5	15 78.9

<中学校区別>

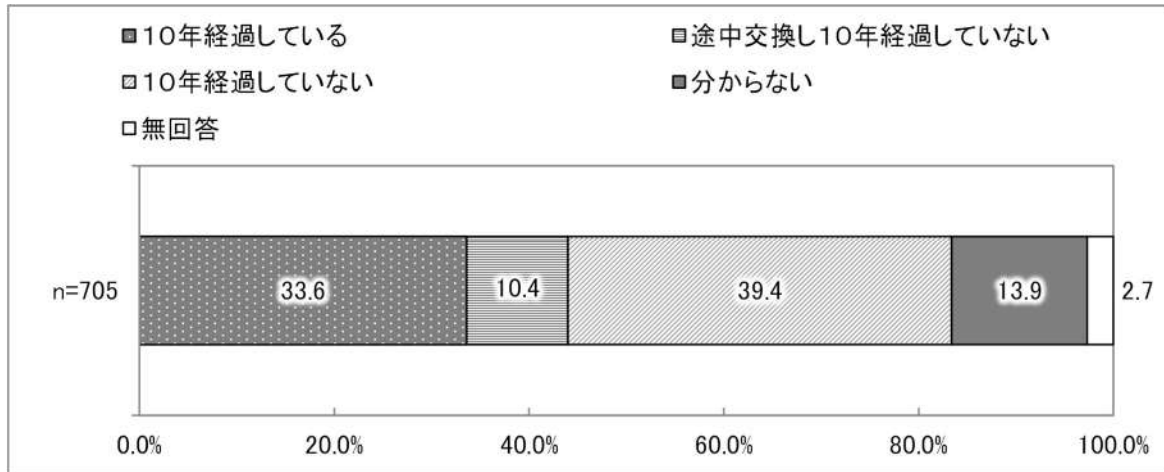
『設置している』の割合が最も高いのは三橋の68.8%で、昭代(68.7%)柳城(68.5%)と続く。最も低かったのは柳南で52.6%。

Ⅲ. 調査結果

(2) 住宅用火災警報器を設置後、10年の経過有無（問 34）

問 34. 住宅用火災警報器を設置して10年を経過していますか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「10年経過していない」で39.4%。「途中交換し10年経過していない」「10年経過していない」の合計「10年経過していない」は49.8%と約半数。



■住宅用火災警報器の設置後について、最も高かった割合は「10年経過していない」で39.4%だった。以下、割合が高い順に、「10年経過している」(33.6%)、「分からない」(13.9%)、「途中交換し10年経過していない」(10.4%)。

また、「途中交換し10年経過していない」を合わせた『10年経過していない』の割合は49.8%で、約半数を占めており、「10年経過している」(33.6%)より16.2ポイント上回っている。

(問 34) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	10年経過している	経過中交換していない10年	10年経過していない	分からない	無回答	『10年経過していない』
(上段：件数、下段：%)								
全 体		705 100.0	237 33.6	73 10.4	278 39.4	98 13.9	19 2.7	351 49.8
性別	男性	294 100.0	100 34.0	32 10.9	127 43.2	29 9.9	6 2.0	159 54.1
	女性	403 100.0	134 33.3	41 10.2	146 36.2	69 17.1	13 3.2	187 46.4
	無回答	8 100.0	3 37.5	0 -	5 62.5	0 -	0 -	5 62.5
年代別	10代	6 100.0	0 -	0 -	2 33.3	4 66.7	0 -	2 33.3
	20代	31 100.0	2 6.5	2 6.5	9 29.0	14 45.2	4 12.9	11 35.5
	30代	66 100.0	6 9.1	6 9.1	41 62.1	11 16.7	2 3.0	47 71.2
	40代	120 100.0	37 30.8	6 5.0	56 46.7	19 15.8	2 1.7	62 51.7
	50代	140 100.0	55 39.3	15 10.7	50 35.7	16 11.4	4 2.9	65 46.4
	60代	138 100.0	48 34.8	16 11.6	54 39.1	17 12.3	3 2.2	70 50.7
	70代以上	197 100.0	86 43.7	28 14.2	62 31.5	17 8.6	4 2.0	90 45.7
	無回答	7 100.0	3 42.9	0 -	4 57.1	0 -	0 -	4 57.1
の18歳以下の子ども有無	いる	182 100.0	50 27.5	10 5.5	87 47.8	28 15.4	7 3.8	97 53.3
	いない	518 100.0	185 35.7	63 12.2	188 36.3	70 13.5	12 2.3	251 48.5
	無回答	5 100.0	2 40.0	0 -	3 60.0	0 -	0 -	3 60.0

<性別>

『10年経過していない』と「10年経過している」の割合はそれぞれ男性が高く、「分からない」の割合は女性が多かった。

<年代別>

『10年経過していない』の割合は30代が最も高く71.2%。「10年経過している」は70代以上の割合が他の年代よりも高く、43.7%と全世代の中で唯一4割を超えた。

<18歳以下の子どもの有無別>

『10年経過していない』の割合は、「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりも4.8ポイント高い53.3%だった。

Ⅲ. 調査結果

(問 34) 居住小学校区別・中学校区別

(上段：件数、下段：%)		調査数	10年経過している	途中交換していない10年経過していない	10年経過していない	分からない	無回答	『10年経過していない』
全 体		705 100.0	237 33.6	73 10.4	278 39.4	98 13.9	19 2.7	351 49.8
居住小学校区別	柳河	81 100.0	25 30.9	6 7.4	32 39.5	17 21.0	1 1.2	38 46.9
	城内	46 100.0	15 32.6	10 21.7	19 41.3	2 4.3	0 -	29 63.0
	東宮永	30 100.0	12 40.0	2 6.7	12 40.0	3 10.0	1 3.3	14 46.7
	昭代第一	48 100.0	21 43.8	6 12.5	14 29.2	5 10.4	2 4.2	20 41.7
	昭代第二	29 100.0	10 34.5	3 10.3	13 44.8	3 10.3	0 -	16 55.1
	蒲池	52 100.0	13 25.0	5 9.6	25 48.1	7 13.5	2 3.8	30 57.7
	矢留	33 100.0	12 36.4	4 12.1	10 30.3	5 15.2	2 6.1	14 42.4
	両開	28 100.0	9 32.1	3 10.7	13 46.4	2 7.1	1 3.6	16 57.1
	皿垣	16 100.0	6 37.5	1 6.3	7 43.8	2 12.5	0 -	8 50.1
	有明	7 100.0	1 14.3	1 14.3	3 42.9	2 28.6	0 -	4 57.2
	中島	26 100.0	13 50.0	2 7.7	9 34.6	2 7.7	0 -	11 42.3
	六合	34 100.0	15 44.1	5 14.7	5 14.7	8 23.5	1 2.9	10 29.4
	大和	34 100.0	14 41.2	4 11.8	15 44.1	1 2.9	0 -	19 55.9
	豊原	24 100.0	11 45.8	0 -	10 41.7	3 12.5	0 -	10 41.7
	藤吉	93 100.0	23 24.7	12 12.9	42 45.2	13 14.0	3 3.2	54 58.1
	矢ヶ部	17 100.0	6 35.3	0 -	6 35.3	4 23.5	1 5.9	6 35.3
	二ッ河	37 100.0	12 32.4	2 5.4	14 37.8	7 18.9	2 5.4	16 43.2
	垂見	30 100.0	12 40.0	4 13.3	9 30.0	4 13.3	1 3.3	13 43.3
	中山	10 100.0	3 30.0	0 -	6 60.0	1 10.0	0 -	6 60.0
	わからない	15 100.0	1 6.7	2 13.3	6 40.0	5 33.3	1 6.7	8 53.3
	無回答	15 100.0	3 20.0	1 6.7	8 53.3	2 13.3	1 6.7	9 60.0
居住中学校区別	柳城	157 100.0	52 33.1	18 11.5	63 40.1	22 14.0	2 1.3	81 51.6
	昭代	77 100.0	31 40.3	9 11.7	27 35.1	8 10.4	2 2.6	36 46.8
	蒲池	52 100.0	13 25.0	5 9.6	25 48.1	7 13.5	2 3.8	30 57.7
	柳南	61 100.0	21 34.4	7 11.5	23 37.7	7 11.5	3 4.9	30 49.2
	大和	141 100.0	60 42.6	13 9.2	49 34.8	18 12.8	1 0.7	62 44.0
	三橋	187 100.0	56 29.9	18 9.6	77 41.2	29 15.5	7 3.7	95 50.8
	わからない	15 100.0	1 6.7	2 13.3	6 40.0	5 33.3	1 6.7	8 53.3
	無回答	15 100.0	3 20.0	1 6.7	8 53.3	2 13.3	1 6.7	9 60.0

<中学校区別>

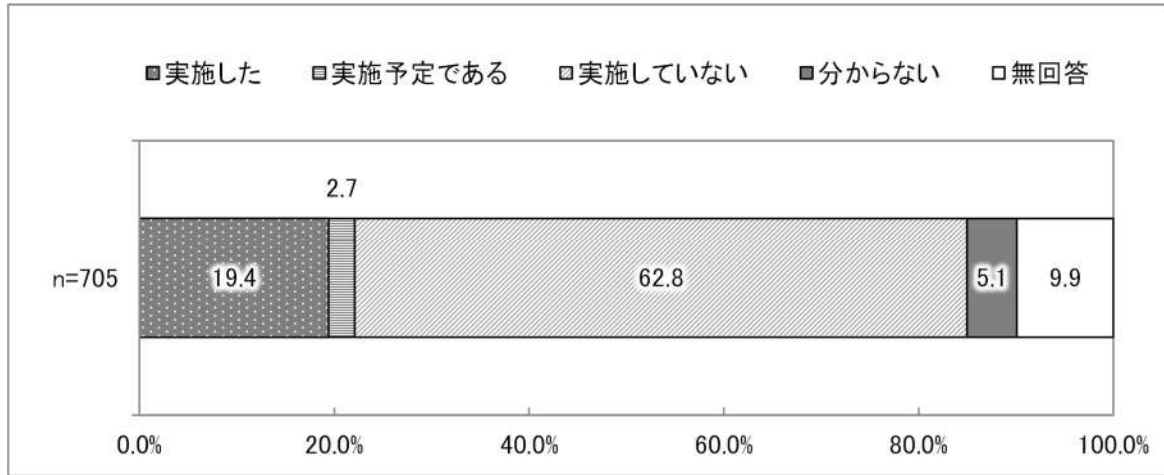
『10年経過していない』の割合が最も高いのは蒲池の57.7%で、柳城(51.6%)、三橋(50.8%)と続く。最も低かったのは大和で44.0%。

Ⅲ. 調査結果

(3) 最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認状況（問 35）

問 35. 最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認を行いましたか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「実施していない」で 62.8%と、過半数に上った。



■最近半年以内での住宅用火災警報器の作動確認について、最も高かった割合は「実施していない」で 62.8%だった。以下、割合が高い順に、「実施した」(19.4%)、「分からない」(5.1%)、「実施予定である」(2.7%)。

「実施していない」の割合は過半数を超えており、実施状況の低さが見られた。

(問 35) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	実施した	実施予定である	実施していない	分からない	無回答
(上段：件数、下段：%)							
全 体		705 100.0	137 19.4	19 2.7	443 62.8	36 5.1	70 9.9
性別	男性	294 100.0	65 22.1	12 4.1	182 61.9	9 3.1	26 8.8
	女性	403 100.0	71 17.6	6 1.5	257 63.8	26 6.5	43 10.7
	無回答	8 100.0	1 12.5	1 12.5	4 50.0	1 12.5	1 12.5
年代別	10歳代	6 100.0	1 16.7	0 -	1 16.7	2 33.3	2 33.3
	20歳代	31 100.0	1 3.2	0 -	22 71.0	4 12.9	4 12.9
	30歳代	66 100.0	14 21.2	2 3.0	33 50.0	9 13.6	8 12.1
	40歳代	120 100.0	16 13.3	5 4.2	84 70.0	5 4.2	10 8.3
	50歳代	140 100.0	20 14.3	1 0.7	96 68.6	7 5.0	16 11.4
	60歳代	138 100.0	30 21.7	5 3.6	85 61.6	3 2.2	15 10.9
	70歳以上	197 100.0	54 27.4	5 2.5	118 59.9	5 2.5	15 7.6
	無回答	7 100.0	1 14.3	1 14.3	4 57.1	1 14.3	0 -
の18歳以下の 子どもの有無	いる	182 100.0	24 13.2	7 3.8	125 68.7	9 4.9	17 9.3
	いない	518 100.0	112 21.6	11 2.1	316 61.0	26 5.0	53 10.2
	無回答	5 100.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	0 -

<性別>

「実施した」の割合は男性がやや高かった。

<年代別>

「実施した」の割合は70代以上が最も高く27.4%。「実施していない」は20代と40代の割合が高く、それぞれ7割を占めた。

<18歳以下の子どもの有無別>

「実施した」の割合は「いない」と答えた人(21.6%)のほうが「いる」と答えた人(13.2%)よりも8.4ポイント高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問 35) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	実施した	実施予定である	実施していない	分からない	無回答
(上段：件数、下段：%)							
全 体		705 100.0	137 19.4	19 2.7	443 62.8	36 5.1	70 9.9
居住小学校区別	柳河	81 100.0	15 18.5	2 2.5	46 56.8	5 6.2	13 16.0
	城内	46 100.0	12 26.1	1 2.2	28 60.9	2 4.3	3 6.5
	東宮永	30 100.0	9 30.0	0 -	20 66.7	0 -	1 3.3
	昭代第一	48 100.0	12 25.0	3 6.3	27 56.3	2 4.2	4 8.3
	昭代第二	29 100.0	6 20.7	1 3.4	19 65.5	1 3.4	2 6.9
	蒲池	52 100.0	6 11.5	1 1.9	35 67.3	6 11.5	4 7.7
	矢留	33 100.0	9 27.3	0 -	17 51.5	2 6.1	5 15.2
	両開	28 100.0	5 17.9	0 -	20 71.4	1 3.6	2 7.1
	皿垣	16 100.0	3 18.8	0 -	11 68.8	1 6.3	1 6.3
	有明	7 100.0	0 -	0 -	5 71.4	1 14.3	1 14.3
	中島	26 100.0	3 11.5	0 -	18 69.2	0 -	5 19.2
	六合	34 100.0	6 17.6	3 8.8	21 61.8	3 8.8	1 2.9
	大和	34 100.0	3 8.8	2 5.9	21 61.8	2 5.9	6 17.6
	豊原	24 100.0	6 25.0	1 4.2	16 66.7	0 -	1 4.2
	藤吉	93 100.0	25 26.9	3 3.2	51 54.8	5 5.4	9 9.7
	矢ヶ部	17 100.0	3 17.6	0 -	14 82.4	0 -	0 -
	二ッ河	37 100.0	3 8.1	0 -	30 81.1	2 5.4	2 5.4
	垂見	30 100.0	4 13.3	1 3.3	22 73.3	0 -	3 10.0
	中山	10 100.0	2 20.0	0 -	7 70.0	1 10.0	0 -
	わからない	15 100.0	3 20.0	0 -	8 53.3	1 6.7	3 20.0
無回答	15 100.0	2 13.3	1 6.7	7 46.7	1 6.7	4 26.7	
居住中学校区別	柳城	157 100.0	36 22.9	3 1.9	94 59.9	7 4.5	17 10.8
	昭代	77 100.0	18 23.4	4 5.2	46 59.7	3 3.9	6 7.8
	蒲池	52 100.0	6 11.5	1 1.9	35 67.3	6 11.5	4 7.7
	柳南	61 100.0	14 23.0	0 -	37 60.7	3 4.9	7 11.5
	大和	141 100.0	21 14.9	6 4.3	92 65.2	7 5.0	15 10.6
	三橋	187 100.0	37 19.8	4 2.1	124 66.3	8 4.3	14 7.5
	わからない	15 100.0	3 20.0	0 -	8 53.3	1 6.7	3 20.0
	無回答	15 100.0	2 13.3	1 6.7	7 46.7	1 6.7	4 26.7

<中学校区別>

「実施した」の割合が最も高いのは昭代の23.4%で、柳南(23.0%)、柳城(22.9%)と続く。最も低かったのは蒲池で11.5%。

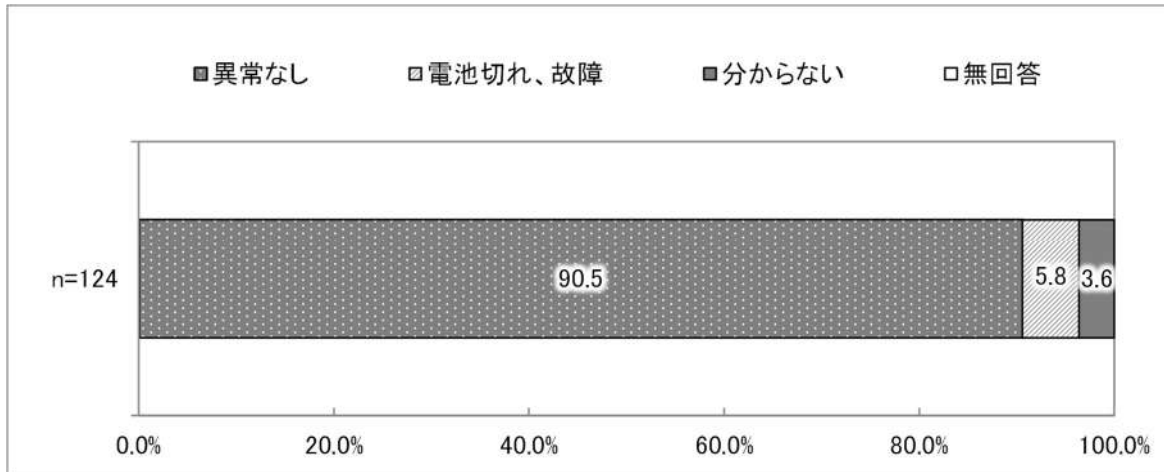
Ⅲ. 調査結果

(4) 最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認結果（問 36）

（問 35 で「実施した」と答えた人のみ回答）

問 36. 住宅用火災警報器の作動確認結果はどうでしたか。（○は1つだけ）

最も高い割合は「異常なし」で 90.5%。「電池切れ、故障」が 5.8%。



■住宅用火災警報器の作動確認結果について、最も高かった割合は「異常なし」で 90.5% だった。以下、割合が高い順に、「電池切れ、故障」(5.8%)、「分からない」(3.6%)。「異常なし」と回答した人は 9 割を超えた。

(問 36) 性別・年代別・18歳以下の子どもの有無別

		調査数	異常なし	電池切れ、故障	分からない	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全体		137 100.0	124 90.5	8 5.8	5 3.6	0 -
性別	男性	65 100.0	61 93.8	3 4.6	1 1.5	0 -
	女性	71 100.0	62 87.3	5 7.0	4 5.6	0 -
	無回答	1 100.0	1 100.0	0 -	0 -	0 -
年代別	10歳代	1 100.0	1 100.0	0 -	0 -	0 -
	20歳代	1 100.0	1 100.0	0 -	0 -	0 -
	30歳代	14 100.0	14 100.0	0 -	0 -	0 -
	40歳代	16 100.0	14 87.5	2 12.5	0 -	0 -
	50歳代	20 100.0	19 95.0	1 5.0	0 -	0 -
	60歳代	30 100.0	26 86.7	0 -	4 13.3	0 -
	70歳以上	54 100.0	48 88.9	5 9.3	1 1.9	0 -
	無回答	1 100.0	1 100.0	0 -	0 -	0 -
の18歳以下の有無	いる	24 100.0	23 95.8	1 4.2	0 -	0 -
	いない	112 100.0	100 89.3	7 6.3	5 4.5	0 -
	無回答	1 100.0	1 100.0	0 -	0 -	0 -

<性別>

「異常なし」の割合は男性・女性ともに大きな差はなかった。

<年代別>

「異常なし」の割合はどの年代でも8割を超える。

<18歳以下の子どもの有無別>

「異常なし」の割合は、「いる」と答えた人のほうが「いない」と答えた人よりもやや高かった。

Ⅲ. 調査結果

(問 36) 居住小学校区別・中学校区別

		調査数	異常なし	電池切れ、故障	分からない	無回答
(上段：件数、下段：%)						
全 体		137 100.0	124 90.5	8 5.8	5 3.6	0 -
居住小学校区別	柳河	15 100.0	12 80.0	1 6.7	2 13.3	0 -
	城内	12 100.0	12 100.0	0 -	0 -	0 -
	東宮永	9 100.0	8 88.9	0 -	1 11.1	0 -
	昭代第一	12 100.0	10 83.3	1 8.3	1 8.3	0 -
	昭代第二	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 -	0 -
	蒲池	6 100.0	6 100.0	0 -	0 -	0 -
	矢留	9 100.0	9 100.0	0 -	0 -	0 -
	両開	5 100.0	5 100.0	0 -	0 -	0 -
	皿垣	3 100.0	3 100.0	0 -	0 -	0 -
	有明	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	中島	3 100.0	3 100.0	0 -	0 -	0 -
	六合	6 100.0	6 100.0	0 -	0 -	0 -
	大和	3 100.0	3 100.0	0 -	0 -	0 -
	豊原	6 100.0	5 83.3	1 16.7	0 -	0 -
	藤吉	25 100.0	24 96.0	1 4.0	0 -	0 -
	矢ヶ部	3 100.0	3 100.0	0 -	0 -	0 -
	二ッ河	3 100.0	2 66.7	0 -	1 33.3	0 -
	垂見	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 -	0 -
	中山	2 100.0	2 100.0	0 -	0 -	0 -
	わからない	3 100.0	3 100.0	0 -	0 -	0 -
無回答	2 100.0	2 100.0	0 -	0 -	0 -	
居住中学校区別	柳城	36 100.0	32 88.9	1 2.8	3 8.3	0 -
	昭代	18 100.0	14 77.8	3 16.7	1 5.6	0 -
	蒲池	6 100.0	6 100.0	0 -	0 -	0 -
	柳南	14 100.0	14 100.0	0 -	0 -	0 -
	大和	21 100.0	20 95.2	1 4.8	0 -	0 -
	三橋	37 100.0	33 89.2	3 8.1	1 2.7	0 -
	わからない	3 100.0	3 100.0	0 -	0 -	0 -
	無回答	2 100.0	2 100.0	0 -	0 -	0 -

<中学校区別>

「異常なし」の割合が最も高いのは柳南の 100.0%で、大和 (95.2%) と続く。最も低かったのは昭代で 77.8%。

IV. 参考資料

IV. 参考資料

1. 自由記述

(1) 子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

問 15. 柳川市のどういうところを子育てがしやすい（しにくい）と思いますか。

記述内容は以下の通り。

主な記述内容	性別	年代
■ Q14. 子育てしやすい環境「そう思う」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・保育園の数が多。	男性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・近所のコミュニケーションがとれるので子供達に声がかかり易い。	女性	60歳代
・保育園等、希望する所で「待ち」が少ない。 ・人口減にならない様、若い人が多く増えて欲しい。	女性	70歳代
・子育ては終わりましたが、女1人で3人育てる事が出来ました。他市、他県の事は知りませんので、比較は出来ませんが、良い環境で有ったと思います。	女性	70歳代
■ 城内		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・田舎でのんびりしてて良い。	男性	70歳代
・自然に囲まれた所です。	女性	70歳代
■ 東宮永		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・私が住んでる所は周りに田んぼがあって、静かに暮らせて、少し行ったらスーパーあるので良い所です。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・病院も多く、柳川市の治安が良いと思う。	男性	60歳代
■ 昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・今はインターネットの時代ですので、お母さんたち、先生たちの心の声匿名でもいいから聞いたら、不安に思っている方へのアドバイスや答えを出してあげられるのでは…と思います。	女性	60歳代
■ 昭代第二		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・近所、子供会、老人クラブ等で活動があり、知人がいっぱい安心(コロナ前まで)。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・治安が良い。 ・災害が少ない。 ・優しい人が多い。	女性	50歳代
■ 蒲池		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・比較的安全。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・自然が多く、住んでいる人達が温かい。公園もたくさんある。	女性	40歳代
■ 両開		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・学童がある。 ・給食費が引き落としになった。 ・水天宮伝統、三味線・太鼓の受継。	女性	40歳代
・柳川市の伝統文化や自然環境に恵まれていると思います。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・地域に安全で遊ぶ事が出来る公園等がもっとあった方がいいのでは？	男性	60歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■血垣		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・近場の人たちの優しさ。	女性	30歳代
・歴史もあり、文化もあり、小学校（子供が）の時に川下りをしたり、北原白秋の歌をうたったり、お花さんへ行ったり、本とかで見るのではなく体験できるのはいいと思います。緑もあり、川もあり、のんびりした雰囲気がいいと思います。	女性	40歳代
■大和		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・祖父母がいる家庭が多いので、仕事に行ける環境がありがたい。	女性	50歳代
・子供も独立して、結婚して他県に行き、柳川で子育てしていたら分かるとは思いますが、協力できなくて申し訳ありません。	女性	70歳代
■豊原		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子育て世代が多いから。	男性	30歳代
■藤吉		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・待機児童も多くなかった。 ・平地。 ・土日に小さい子供が遊べる場所がない（屋内）。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・自然が豊か。 ・のどか。 ・保育園に入り易い。	男性	50歳代
・人口は適度で有り、交通量もそんなになく環境、治安も悪く無いと思います。都会でもなく、田舎でもなく普通の町で生活しやすいです。	女性	50歳代
・子育ては、学校にまかせきりでした。	男性	60歳代
・自由で気楽に生活出来ると思う（周りがあまり干渉しないから）。	男性	70歳代
・柳川市で子育てしてないからわからない。	女性	70歳代
・周りは緑の田畑で囲まれ、水が流れ、特に空気がきれいです。 ・それに、知識が豊富な老人達がいらっしやることです。	女性	70歳代
・保育園、幼稚園、学童と充実していると思う。	女性	70歳代
■矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・病院もたくさん有り、病気した時は心強いです。	女性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・公共の施設等で市民が子どもと優しく接しているところを見るから。	男性	20歳代
・親、子、孫、同居が多い。	女性	70歳代
■ニツ河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・大きな事故・災害が少ないところ。	女性	70歳代
■垂見		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子ども会等活動に地域の方々がとても協力的で、地域全体で子育てしてもらっている感じを受けます。	女性	50歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■ Q14. 子育てしやすい環境「どちらかといえばそう思う」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・病院代等が負担が少なくてよい。	男性	40歳代
・産後の保健師さんの家庭訪問、赤ちゃんサロン、離乳食教室、お世話になりました。 ・保育園は、空きがなく2ヶ所に分けた期間もわずかにありましたが、安心して預けることができました。	女性	40歳代
・柳河にYou・遊の森公園があります。そこには多くの子供達が遊びに来ています。4才～5才以上の子供達は、ぶらんこやすべり台で遊べるけど、0才～3才位の小さな子供たちは遊べないので、座って遊べる施設があればいいと思います。お父さん、お母さんも一緒に遊べる施設があればいいと思います。	女性	50歳代
・ークラスの人数が多くないので、問題が起こっても解決しやすい。	男性	無回答
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・近くに公園があったり、よく外で小さい子どもたちを見て子育てに向いていて、子どもたちも過ごしやすそうだなと思ったから。	女性	10歳代
・支援センターがある。	男性	40歳代
・子どもをベビーカーに乗せてよく遊歩道を利用して散歩していた。ただ、掘割の水が汚れて臭いがする時もあり、観光客が川下りをしているのを見てどうなのかな？と思う時もある。	男性	50歳代
・二人の子を育てたが、特に不便は感じなかったから。	女性	60歳代
・都会と違い交通も簡素であり、のんびりした土地柄であると思います。ある程度、自然を育むこともでき（近隣都市）子育てに適していると思います。ただ現代の子育て事情、人とのコミュニケーションはどこでもどの土地でも課題を残すところではないかと思っています。	女性	60歳代
・若い人の子育てする環境が整っていると思う。	男性	70歳代
・私は子育てが今はありませんので良く分かりません。	男性	70歳代
・公園が少ない。子供がボール遊びをする所がない。小学校から帰ってきて、又小学校へ遊びに行くしかない。	女性	70歳代
・学ぶ所がある（伝習館、柳川高、杉森）。	女性	70歳代
■ 城内		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・今はコロナ禍で動けないが、行事を通じ子供達の遊びの場がある。 ・治安が良い点。 ・子育て医療給付金とかもらえていいと思う。 ・子供達の意見のなかにヒントがあると思う。こんな町だといいか、具体的に学校を通じてアンケートをとるとか？	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・商業都市、大都会よりもゆったりとした田舎は、良い環境であると思います。	女性	50歳代
・公園、お宮の境内。 ・図書館等。	女性	70歳代
・自然環境が良い所。	女性	70歳代
・自然がいっぱい。 ・公園や広場がある。 ・文化会館、図書館、公民館等の施設がある。 ・地域ボランティアの見守り隊の活動が盛ん。 ・病院が揃っている。	女性	70歳代
・自然がいっぱい有り、又静かな所がいいと思います。	女性	70歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■東宮永		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・あまりにも子どもの人生を親が決めてしまうので、子どもの行き場がなく、むやみに周りを傷つけたり、反抗的になってしまうのでは？ ・逆に、シングルのお家庭が多い地域ではあるので、理解してもらいやすかったりはします。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・労働者の所得が少ない。	男性	40歳代
・もう少し公共の公演が増え、遊具があれば嬉しいです。いつも筑後広域公園、大牟田すわ公園、城島の水沼の里公園へ孫と行きます(今はコロナで行けませんが)。柳川ではむつごろう公園には行きますが、遊具が少ないので孫達は少し物足りないようで、他の公園に行きたがります。	女性	50歳代
・医療費の補助があったり、近くに公園があったりするから。	女性	50歳代
・環境もよく、重大な犯罪、大きな災害も少なく、安心・安全な町なので、どちらかと言えば子育てしやすい、住みやすい柳川と思います。 ・保育所・学校・学童保育所の更なる充実。 ・若い人が仕事・就職の為、他地域へ移動している。子育てしやすいが住めないではダメなので、若い人が定住・移住(他地域から)できる環境作り・施策を進める必要がある。	男性	60歳代
■昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・ひとり親に対しての制度がいいと思う。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・住むのには丁度良い町であり、人柄が良い人が多いので、子供達ものびのびと育つ様に思う。	女性	50歳代
・保育園が充実している。	男性	60歳代
・環境が温和である。	女性	60歳代
・比較的治安が良く、自然が残っている。	女性	70歳代
■昭代第二		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・高齢者夫婦(80歳以上)の2人暮らしで有り、柳川市の子育ての政策等についてよく分からない。	男性	70歳代
・公園などが少ない。公園が有っても、夏は日陰が無い。公園の草取り、整備が必要と思う。	男性	70歳代
・私は車に乗れなかったので病院が遠いので、それで困りました。	女性	70歳代
■蒲池		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・水の郷がある。相談しやすい。	男性	30歳代
・近所の人がみんな家族みたいに見守ってくれる。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・待機児童がいなくて聞かれること。	男性	60歳代
・柳川市で生まれて、子供時代を過ごしましたが、3年前に引越してまいりました。子育ての経験はしていません。	女性	60歳代
・歩いて30分以上かかるので大変だと思う。	男性	70歳代
・児童公園等が少ない。	男性	70歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■矢留		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・保育園とかが充実していると思います。	女性	60歳代
・どこのお母さんも気を使わなくてよい。	女性	60歳代
・自然たっぷり、外でのびのび遊べる。 ・いろんな文化行事があり、小さい時から触れられる。	女性	60歳代
・あまり傲慢な人が少ないのでいいと思う所。	女性	60歳代
・私たちの住んでいるところは保育園、小・中学校と、とても良い所に住んでいます。私は子育ては終わり、今はひ孫2人と孫7人がいて、皆さんが（近所の方々）いろいろ見てくれました。	女性	70歳代
・みんなが親切だから。	女性	70歳代
■両開		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・親子教室などあり、相談できる機会がある。小児科も多いかな。	女性	30歳代
・近所の方が優しい。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・地域密着（田舎など）。	男性	50歳代
・学校でのタブレット貸し出し等が良い。	男性	50歳代
・自然が豊かなところがいい。	女性	60歳代
■血垣		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・小学校が近い。	男性	60歳代
・当市は海あり、川あり、人情ありで住みやすい地域であると思います。 ・私達年代頃は、子供の時は余所の地区でも親の名前を知っており、何処の子供かわかっていました。当然、悪さをされない。これも、歴史を持つ愛着・誇りがあるからだと思います。 ・現在は子供も少なく、かえって子育ても難しい時代となっている様です。子育ては大変ですが。	男性	70歳代
■有明		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・自然豊かで、柳川でしか経験できないことがある。 ・周りの人が優しい。	女性	40歳代
■中島		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・地域と学校が協力し合って取り組んでいる。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・広報で、子育てに関する支援センターや教室が紹介されているので、利用できる人には良いと思います。	女性	70歳代
■六合		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・田舎で、あたたかい人が多い。 ・保育園待機児童もない。	女性	50歳代
■大和		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供の遊び場が少ない。	男性	70歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■藤吉		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・近所に保育園、小児科等がある。	男性	20歳代
・子が藤吉小学校に在籍しているが、担当の先生や校長先生など、とても教育熱心で、子どもたちのことを見てくれるように感じる。学力だけでなく、自主性などの伸びが見られ、感謝しております。 ・きれいに整備された公園が少ないように感じる（治安を含む）。	女性	20歳代
・手当が出ているので“しやすい”部類に入ると思います。	男性	40歳代
・学童に入りたい人がもっと入りやすいようにしてほしい。 ・公園の整備をしてほしい。	女性	40歳代
・子育ては、ほとんど終わっているのでもなんとも言えないが、学童がすごく助かりました。ありがとうございます。	女性	40歳代
・子供会がある。 ・幼稚園、保育園が沢山ある。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・支援がきちんとしている（子育て世帯には）。	女性	40歳代
・保育園や学童保育等も待機せず入所できるので、仕事をしている夫婦にとってはありがたい。	女性	50歳代
・近所付き合いによる、子供の見守りをやっている。	男性	60歳代
・歩道の整備をしてほしい。遊べる園が少ない。	女性	60歳代
・隣の芝生みたいな感じが多くなった。	女性	60歳代
・環境や利便性。	女性	60歳代
・ビルや住宅が過密で無く、水路や田園風景が存在し、穏やかな町と思います。 ・市内には高校3校、学習塾多数有り。	男性	70歳代
・環境にやさしく人間関係がやさしい。	女性	70歳代
・自然が少し残っている。のどかである。	女性	70歳代
・地域で子育てに予算を使って応援している。	女性	70歳代
■矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学校が平和（その他の市町村と比較的）。	男性	30歳代
■ニッ河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・私が住んでいる校区では、小学校まで遠くて近い所の小学校にするつもりでしたが、役所に聞いたところ校区外だったため仕方なく校区内の所にしました。安心して登校できる環境がよかったですと思いました。	女性	20歳代
・待機児童がいない（少ない）。 ・小児科等の充実。 ・子どもの遊び場、支援する場所は少なめ。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子育て支援策がいろいろある。	女性	50歳代
・隣近所、あまり関心がなく、自由に育てる事が出来る。	女性	60歳代
・孫が児童館を利用していますが、今度新しい児童館ができると楽しみにしています。	男性	70歳代
・周囲、近隣の人の見守りがある。	男性	70歳代
・保育所などが多く安心。	女性	70歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■垂見		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・市役所の方が、妊娠中からお電話で気にかけてくださり、出産後も相談をした際、丁寧に話を聞いてくださりました。まだ柳川に来て間もないので、とても心強かったです。	女性	20歳代
・自然が豊か。	女性	40歳代
・近くに病院もたくさんあるし、保育園も希望通りの所に通わせることができる。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・地域の子供は、地域で守るという考えが地域に残っているから。	男性	50歳代
・水の郷の施設や公園、幼児教育やいろいろな場所があり、しやすいと思います。	女性	70歳代
■中山		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・福祉が充実しているように思う。	男性	60歳代
・自然環境。 ・子育て世代と高齢者の考え方の相違。	男性	60歳代
・隣近所の繋がりがまだ残っている。子供の行動をよく見守っている。	女性	60歳代
・広報やながわの発行で詳しく書いてあるし、そう取り組んでいる様に思われます。	女性	60歳代
・市が各地区に積極的に出向いて子供を持つお母さん達と話をしてほしい。 ・市営団地の家賃が高いし共働きが多く子供の面倒まで手が回らない様に思う。	女性	70歳代
■わからない		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・生活に必要な施設が揃っている。	男性	20歳代
・物価が安い。	女性	30歳代
・市からの広報が早い。	男性	70歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■ Q14. 子育てしやすい環境 どちらともいえない」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子どもたちの遊び場所（公園）がない。あっても遊具が少ない。 ・親同士のコミュニティーの場がない。 ・子どもの病児保育を増やして利用しやすくしてほしい。子どもを預かる場所を増やして欲しい（共働き多い）。	女性	30歳代
・道路が狭くて危ない時があります。	男性	40歳代
・他の市の情報を詳しく知らないで、柳川市の特別この部分がという意見はありません。しかし、特には大きく子育てにおいて困ってはいません。最近ではコロナでお友達と遊ばず、おうち時間が多いので家庭の工夫以外にも市でも何か工夫して頂けたら嬉しいです。	女性	40歳代
・他からの転入の人はしにくいかも…と思います。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・機会がないので考えたことがない。	男性	50歳代
・子育て世代が少ない。 ・若者が集まる職場がない、公共施設がない、商業施設がない。 ・人口が減少してる。	女性	50歳代
・現状ではコロナ禍の収束が優先。	男性	60歳代
・20年前から、小学・中学・給食費を「無償化」の件を市議の方に言っているけど、未だにならない！！	女性	60歳代
・子供の医療費・薬代を18才まで無料にして欲しい。	女性	60歳代
・子供が安心して遊ぶ事のできる場所（公園）の充実。	男性	70歳代
■ 城内		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・職場の方々が男性も含め、子どもの発熱による早退に寛容。 ・コミュニティや習い事、イベントが極端に少ない。	女性	30歳代
・近くに集まって遊べる場所が少ない。	男性	40歳代
・医療については、やっと中学生まで伸びたのでよかったと思う。 ・陸上競技場やプールがない。広域公園やアクセスに行けるよう考えてはあるが、もっと子どもたちが気軽にいけるようなプールがほしい。 ・娯楽が少ない。映画・大型書店・ボーリングなどがないため、子どもたちの遊びは大牟田や佐賀に流れてしまっている。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・整備された公園がない。 ・歩道が少ない。 ・車優先の町づくりをしているので、子供と歩くと危ない（車中心すぎる）。	男性	30歳代
・安全で広い公園が少ない。	男性	50歳代
・公園が整備されていない。遊具が少ない。歩道が狭い。保育施設が充実していない。	女性	50歳代
・整理された公園が少ない。 ・病児保育を行っている保育園はありますか？	女性	50歳代
・子供が少なく、接することがない。	女性	70歳代
■ 東宮永		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・保育料が高い！！	女性	20歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・自由に遊べる場所が少ない。	男性	40歳代
・田舎なので、のびのびしていると思う。	女性	50歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・柳川市のことではないが、 ・養育費が安い ・実家や夫婦の両親や祖父母が近くに住んでいる ・子育て環境（施設や相談場）が整っている 等が必要。	男性	40歳代
・自然が身近にある。 ・隣近所から声をかけてもらえる。見守ってもらえる。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・優しい人が多い市だと思います。そんな地域性の中で育つ子どもたちは、優しい大人になっていくと思います。 ・現在、子育てしてないのでよく分かりません。スママセン。	女性	50歳代
・学童が安心。	女性	70歳代
■昭代第二		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・しやすい点 幼児教育施設の充実と教育内容の充実。 ・しにくい点 幼児交流施設が少ない。 図書館蔵書数が少ない。 公共交通機関が少ない。	男性	30歳代
・小学校で授業中に生徒がうろうろして、みんなに迷惑がかかるのに先生が注意しても聞かない子がいると聞いたので、子供を預ける側としては厳しい指導をしてほしい。	男性	40歳代
・医療費の助成が近隣の地域と比較して少ない。 ・子供達に対する周りの温かい目はありがたいと思う。	女性	40歳代
・地域範囲が広くて差がありすぎて統一性がない。又それが利点かもしれない。最近では地域ぐるみという考えが少なくなってきた。	女性	60歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・何でも高いと思います。	女性	70歳代
■蒲池		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供を遊ばせる場所が少ない（広い公園があまりない）。 ・子供を連れて食事を楽しめるお店が少ない。 ・子供が乳児の頃は、子育て支援センターがとて古く、充実していなかったため、あまり足を運んでいなかった。（隣市に行っていた）今度新しく建設予定のようなので、多くの方に喜ばれると思う。	女性	30歳代
・大きい行事等は中心部が多く、柳川市全体で関わってれば…。共働きなので小さい時、市の子供関係の催し物に行けなかった。	男性	40歳代
・小さい子供達が走り回れる場所や公園が（緑、自然の場所）少ないと感じます。（少し時間があって、子供達の走り回る姿が見たくても近くで行くのは市外になることが多いです）。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子育てをしたことないので分からない。 ・Uber Eatsなどのデリバリーサービスがあれば子育てがよりしやすくなると思う。また、高齢者の方にも利用方法を知ってもらえば高齢者の方も利用することで全世代利用できると思う。	男性	20歳代
・遊べる施設が少ないが、公共交通機関が少ない。習い事が少ない。	女性	20歳代
・小さい子供を遊ばせる、施設、遊具がない。	男性	50歳代
・公園が少ない。	男性	50歳代
・立花藩のこともいいです。 ・柳川の歴史の4/7、つまり400年の歴史を誇った事も大いに紹介して欲しい。立花藩ですら300年です。 ・立花宗茂が偉いといっても13万石、全盛に203万石です。 ・弥生時代から続いた礎の上に、柳川がある事を宣伝して欲しい。	男性	50歳代
・若い人への住宅支援や、定住しやすい様な仕事がない。	男性	60歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■矢留		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・遊び場を作ってほしい！	女性	30歳代
・子どもが遊ぶ施設が少ない。 ・学童の定員が少ない。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供が少ない。 ・公園や遊具が昔と比べると無くなってしまった。	女性	40歳代
・自分が住んでいる周りには、子供の友達となる同世代の子供が少なかった。	男性	50歳代
・公園が少ない。	女性	50歳代
・交通が不便。	女性	60歳代
■両開		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・保育所の待機児童の点から言えば、都市部より優位か。 ・昔に比べ、教育熱心な保護者が少なくなっていると感じる。教育熱心な保護者の元で育った人々は、現在は都市部に居住地にはいない。一概には言えないとわかってはいるが、現在、教育熱心な保護者僅少のもと、学級崩壊を防ぐことを最優先とした運営に力を注いでおり、都市部に比べて教育レベルは低いと言わざるを得ない、と感じる。	男性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子育て世代の若者が柳川に定着せず、他の市町村に流れているところ、つまり、柳川だけみても少子化の波がとまらないことがすべてを物語っていると思います。	男性	40歳代
・昔の子育ての時より、自然と遊べる公園が増えたと思う。 ・少子化により地域との関わりが薄れているが、若い人はSNS等により情報が入りやすくなっているから、子育てしやすいと思う。	女性	60歳代
・少子化。	男性	70歳代
・登下校の見守り隊。	女性	70歳代
・子供の数が少ないので、集団の遊びが出来ない。 ・昔と比べて行政の手厚い指導があって、その点は良かったと思う。	女性	70歳代
・他人の子供に対して優しく、気をつける。	女性	70歳代
■皿垣		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・公園が少ない。子供が外で遊びにくい。夜は暗い。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少子化の時代、柳川は住みやすい、子育て支援対策が十分されているからなど、他市県から思われるような市であってほしい。まだまだ十分でないと思います。	女性	60歳代
■有明		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・大きな公園がない。 ・児童館が大きくない。 ・車がないと移動が不便。 ・スーパーにある幼児カートが汚い。 ・子ども連れで入れる飲食店や商業施設が少ない。 ・祝い金制度がない、やなぼがある店は子連れで行かないから。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・地域の人との交流がある。	女性	50歳代
・子供の数が少ない。	女性	60歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■中島		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・公園がない。ちょっとした公園があっても子供たちが遊べる環境でもない。	男性	20歳代
・若い世帯が少ない為、ともに子育てする仲間がないのでは？ ・昔からの行事、しきたりがあり、外部からは入りにくいのでは？	女性	60歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・もう子育てが終わりまして、今の状況を考えて、私にすれば保育園に預けた時の料金が高かった思いがあります。今はどうなっているかわかりませんが、児童手当も出るようですので良いのではないですか。シングルマザーやシングルファザーの方々への支援をして頂けたらいいな！とは思っています。	女性	50歳代
・静かな環境の中、地域の方々も優しく接してよい。 ・子供達もよく挨拶する。	男性	70歳代
■六合		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子どもの医療制度の遅れ。 ・自宅近くの幼稚園に魅力がない。 ・公園のレベルが低い。	男性	30歳代
・大きな公園がない。	男性	40歳代
・子どもが小学生時、制服があり便利なようで不便でした。 ・親同士のネットワークが薄い場合、おさがりをもらえるわけでもないし、サイズが変わると買い直さないとけなくなる。値段は高く、卒業しても行き場はなし。 ・柳川市内で制服がある小学校とない学校があり、私服に統一してはどうかと思う。男子の制服は半ズボンで冬の寒いとき足を赤くして登下校。 ・私服の長ズボンを着用するならば、風邪をひいた際、担任の先生に届けるが、体調以外での着用は登下校のみ。学校によって格差があるので少々困っていました。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子育て以前に、不妊治療に対する補助を手厚くしてほしい。 ・来年4月からは医療適用という新聞記事を見たが、年齢的に少しでも早くとりかかりたい（というか取り組んでいる）自分達にとっては、もう少し手厚く金銭的補助を。 ・医療適用になる部分についても高額療養費以外の手出し部分についての補助も検討してほしい。	男性	40歳代
・良いところは、小学校と地域の関係が深いところです。市報の人権作文もいつも感心しています。 ・子育てしにくいと思う点は、以前TVで「柳川市では給食費を父兄が集めている」と驚かされていたので（今はどうかわかりませんが）。 ・柳川市で中学生が車の中からエアガンで打たれたニュースを見ました。子供さんや親御さんはこわいと思います。 ・図書館や公園など子供さんのよく行く場所に防犯カメラがあったらと思いました。子供食堂なども（もうあるかもしれませんが）。	女性	50歳代
・小学校単位で登校時に安全パトロール員が居ること。 ・学校と各家庭とのつながりが強いこと（PTA、育成会等）。	男性	70歳代
■大和		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・障害者の支援者が長く居ない（移動がある）。	男性	70歳代
■豊原		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・昔からのPTA活動等で親が仕事しながら参加したり地域の活動も子供がいる事で強制参加しないとけないので、仕事との両立が負担となる為子育てしにくい。	女性	40歳代
・出産やお祝い金を一人目、二人目、三人以上と支給すれば良い。 ・子育てしやすい場所があまりない。気軽に遊ばせる施設が少ない。公園等の設備がほとんどない。すべり台・ブランコがあるくらいで子供はすぐ飽きてしまう。屋外環境をもっと充実してほしい。	女性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供がいないのでよく分からないのですが、やはり車がないと色々な所に簡単に行けないので、歩いて行ける所に公園など遊べる場所がない。	女性	30歳代
・少子化で一つの小・中学校の生徒数が少なく、共同で行う行事ができない、活発でない、競争心がなくなるのではないか。	女性	50歳代
・自然が豊かである。地域の人が子供のこと（どこのだれの家の子だとか）をよく知っていてくれるので安心安全。教育熱心な親（祖父母）が多い。	女性	60歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■藤吉		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
<ul style="list-style-type: none"> ・母子アプリがあって、情報がすぐ見ることが出来るし整理できる。 ・各種教室がある。 ・障害児への支援が少ない。（オムツ給付とかあれば助かる）障害児を育てる親への情報提供がない（保健師さんに手当や手帳のことを聞いてもご存知ない）。 ・重症心身障害児が利用できる児童発達支援が少ない。 	女性	20歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・民間の学童がない（学校側で急遽休校や帰宅が早い場合困る）。 ・他の市のように子育て支援センターや、一時預かりがない。 ・公園が少ない、古い。 	男性	30歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公園等が少ない。 ・通学路が危ないと思う所がある。 	男性	30歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公園が少ない。 ・支援センターもほとんどない（あるけど古かった）。 	女性	30歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・遊具がある公園がない。 	男性	40歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・私は19年間、福岡市早良区に住んでいました。柳川市と大きな違いは、公園の数でした。柳川に戻って来て、公園が少ないことに不便さを感じました。又、公園があっても遊具がないことも驚きました。 	男性	40歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの医療費・保育料の負担軽減が私の子育ての時期に手薄だった。 	女性	40歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯に対して支援、サポートを手厚くしていただく事で住みやすく、生活しやすい環境が作れると思います。 	女性	40歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・大きな公園がない（小さい子から小学校高学年まで遊べる佐賀の森林公園のような所。いつもキレイで整備されている）。 	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の娘がいるが、小・中・高と地元の学校に通っていた。父子家庭だったので積極的に学校行事に参加していないが、子供が無事国立大学に進学できたので子育てしやすい環境だったかもしれない。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・育児サポートのイベントや施設があり、広報等でも周知されている。 ・病気の時に小さい子どもを預かってくれる施設がなく（20年以上も前のことですが…）共働きの時にとても困った。現在もそこは、あまり変わっていないのではないかと思います。 	女性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公共の広場が少ない。 	女性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・病院等で専門（子供・老人等）がない（近くに）。 	男性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・子供達の遊ぶ公園、施設等がない。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・しやすいと思えば、それ程、交通量が多くないところ（安全性）。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・孫が小さい時は大きい公園がある佐賀や城島に行っていた。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てをする親育てから。 ・あいさつのできる校区とできない校区があるのはおもしろい。 	女性	70歳代
■矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
<ul style="list-style-type: none"> ・公園がない事。 	女性	60歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■ニッ河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・柳川だけでなく子育て自体にお金がかかりすぎる。	男性	40歳代
・保育園代が高い。	女性	40歳代
・高齢者が多数を占めている為、高齢者中心の取り組みが目立つ。若者が少ないので、いたしかたないのかも…。柳川市執行部で、さらに強く向き合い真剣に取り組む数字的に効果を表してもらいたい。	男性	70歳代
・年配の人と若い人の価値観が一緒になる場所が少ないと思うから。	男性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・娘が里帰り出産で柳川に帰ってきましたが、上の子たちを受け入れていただける保育園・子ども園が1ヶ所しかありませんでした。時間・料金など厳しい現実がありました。若い人たちが柳川でも楽しく子育てしたいという(できるという)イメージが持ちにくいと感じました。	女性	50歳代
・クレークが多いのに防護柵が少ないと思います。	男性	70歳代
・今昔の遊びがない。	女性	70歳代
・子供と接してないので、よく分からない。	女性	70歳代
■垂見		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供が遊べる公園・施設を、もっと増やして欲しい。	女性	20歳代
・地域で子ども達を見守ってくれていると感じる。 ・もっと子育て世代に対して補助が欲しい。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・医療費補助の無償化。中学3年生まで助成している事は良い事と思う。 ・大きな公園が欲しい。 ・小児科の病院がもっとあれば良い。	男性	50歳代
・あいさつをしてくれる(嬉しい)。	男性	70歳代
・保育園待機児童が少ない。 ・学童、保育園の預かり時間が短い。もう少し弾力的に運営してもらいたい。 ・通学路が危険な所が多くある。	男性	70歳代
・全体的に公園、遊ぶ場がないに等しい。	男性	70歳代
■中山		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・地域が手伝う。	男性	70歳代
■無回答		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学童保育の先生達をよく考えてほしい！子供達に暴力をふるうのはよくないと思います!!教育委員会に電話相談しても改善されないのはおかしいと思います。	女性	70歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■ Q14. 子育てしやすい環境「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・コロナウイルスは証明されていません。子どもにマスクを強制させるのはやめて下さい。PCRもデタラメです。	男性	30歳代
・公園が少ない、ほぼない。仕方なく学校で遊んでいます。商店街は歩道がせまく自転車は危険。	男性	40歳代
・土地勘がないし、友人等がないので。	男性	40歳代
・公園の遊具などが古く、安心して遊ばせる事が出来ない。 ・医療費の助成をもっと充実して欲しい。 ・町内や公園などの人口割合の比率が大きく、役員などの負担が大きい。 ・子ども園は充実していて良いと思う。 ・教育に関しては、「学力の充実」や「柳川を愛する心」など、時代に合っていない施策が多くがっかりする。	女性	40歳代
・のびのびと遊ぶ場所がない。	女性	40歳代
・公園、自然が少ない。	男性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子どもの医療費について他県他市は安い(500円)のでとても魅力的と感じる。 ・給食費の無償化もないので残念。 ・市からサービスを受けているという感覚は特に感じられない(特に小学生)→保育園は安くなりとても良いと思います。	男性	40歳代
・通学路の安全性が良いとは言いつらいから。	男性	50歳代
・外で遊ぶ場所が少ない。 ・図書館以外、子供が集合して遊ぶところがない。 ・イベントもない。	女性	50歳代
・遊び場(公園)などが少ない。 ・子供への支援が少ない。	男性	60歳代
・保育費の免除などを考えてほしい。	女性	60歳代
■ 城内		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・楽しく幼児と親と一緒に遊べる場所が少ない。	女性	60歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・他の自治体と比べて色々な補助が少ないと思います。妹が筑後市に住んだ時は、新婚世帯への家賃補助があり、みやま市に引越しましたが、こちらも様々な補助がある様です。 ・私は子供3人産みましたが、特別何の補助も市からはなかったと思います。私の子供達を結婚後、柳川市に住むことは、あまり勧めようとは思いません。	女性	50歳代
■ 東宮永		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・他市に比べて、子どもを遊ばせたりする施設や公園(遊具など)などが少ないと思う。特に今、コロナ禍で遠方には行きにくくなっているし、もっと遊べる環境があったらいいのにな。と感じる事がある。 ・本当に必要とすることにお金を使って頂きたい。	女性	30歳代
・公園などが少ない。	男性	50歳代
・児童施設が少ない。公園の施設、設備が物足りない。	女性	50歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子ども達が遊ぶ所が少なく、施設がない。広い公園が近くにあればいい。医療費の負担をもう少し下げてもらいたい。若い世代が子育てしやすいように環境を整えてほしいです。	男性	40歳代
・詳しくは知りませんが、隣市と比べ子育てにかかるお金が高いと思う。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・クリーク沿いにガードレールがない所もあり、危ないと思う。 ・小さな交差点が多く、点滅信号等を設置してほしい。 ・子供の通学路に歩道がなく危険。 ・柳川市民文化会館へのアクセスが悪い。	男性	50歳代
・手続き等がスムーズに進まない。 ・保育園等個人情報を守られていない。	男性	60歳代
・子どもたちの遊ぶ場所が少ない。	女性	60歳代
■昭代第二		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・希望の保育園への入園を考えた時に、こちらの希望の時期に入園は難しいと言われた。理由は保育士不足。妻の産休を前倒して終えることを考えなければならない。	男性	40歳代
・公園の内容が充実していない。 ・保育園や認定幼稚園等、仕事や休みの時に用事を済ませたりしたいのに、休みの時は休みや早迎えをお願いされる(母親はゆっくりすることも許されないのか！と思う)。	女性	40歳代
■蒲池		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子どもの遊び場がない。公園が少なく遊べる遊具もない。 ・小学生の医療費…1200円上限が高い。 ・保育料が高い。	男性	30歳代
・公園が少ない。	女性	40歳代
・引っ越してきて1年半くらいなので、子供が遊べるような所をまだ行けてません。	女性	40歳代
■矢留		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・周囲の市町村に比べて、医療費が高い。	男性	30歳代
・保育園が古い建物の所もある。 ・市からの支援が少ない。	女性	30歳代
・子ども達が自由に遊べる広場を住んでいる周囲に作ってほしいです。私は団地に住んでいて、ボール遊びも制限されている状態なので、伸び伸びと体を動かす環境を願っています。 ・小学校は、学童の関係であまり使用が出来ていないと思います。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子どもを自由に預けられる場所がない。	女性	50歳代
・施設や環境が整っていない。歩道が狭い。子供の遊び場が少ない。(近場に公園がない)小規模な公園を数多く作ってほしい。図書館に子供ルームを作ってほしい。	男性	60歳代
・子育て世代の職場と保育環境がもっと充実していただきたいと思います。	女性	60歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■両開		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供の医療費控除を拡大してほしい。3才から自己負担が出てくるが受診機会はそれからが増えてくるのに、負担金は歳とともに上がる。又、小学校に入れば、検診など学校で行うものに治療カードが対象者に配布され、複数の科を回らなければいけない。そのたびに同等の金額をそれぞれ負担するので、料が多ければスケジュールを考えなければ、生活費等に支障が出やすい。 ・その他、公園等も遊具が少なく、もっと楽しめる様な設備が整ってほしい。県外や市外まで行かないと充実した公園がない。	男性	30歳代
・子供の医療費の助成が途切れ途切れだった。18才まで全額無料の対応があるとありがたいと思います。 ・兄弟児を別々の保育園に預けるという話を最近聞きました。そこは、同じ園に通えるよう考慮して頂けたらと思います。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・交通機関が悪い。 ・外灯が少ない。 ・近くに小さい子供を安心して遊ばせる所がない。	女性	50歳代
・子供をのびのび遊ばせられる公園がない！ちゃんとした遊具が揃ってない！	女性	70歳代
■血垣		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・みやま市や大牟田市と比べると医療費の免除が少ない。	男性	40歳代
■有明		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子育て支援が久留米市、大木町等に比べ、柳川市は良くない。と子育て世代の人たちが言っていた。	男性	60歳代
■中島		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・図書館などはありますが、公園があまり無いような気がします。子供が小さい時は、濃施山や諏訪公園まで行っていました。プールや公園など子供たちが思いっきり体を動かせるようなそんな広場ができれば、もっと子育てしやすいと思います。	女性	40歳代
・子育て支援や補助等が充実していないと思う。	女性	50歳代
・保育園の設定金額の所得に対する振り分けが少なすぎて、保育園料が高すぎる。子供を遊ばせる場所がない。	女性	50歳代
・地区等の活動が無くなっている様に思います。子どもさんが少ない為、出来なくなった活動がある様に思います。	女性	60歳代
■六合		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・他市と比べると医療費が高い。 ・子供達が思い切り体を動かし遊べる所がない。	男性	30歳代
・高校生(18才)まで医療費や給付金の援助をしてほしい。ひとり親家庭には援助があっているのに…。	女性	40歳代
・核家族・共働き世帯の増加の現状を考慮すると、下校後の学童保育や児童が利用できる施設等について、充実を図る必要があると思う。	男性	60歳代
■大和		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・中学生まで医療を無償化にしてほしい。	女性	40歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■豊原		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・保育料。	男性	30歳代
・使用料が高い。	男性	40歳代
・大都市に比べればサポートが弱い。	男性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・どうしても仕事を休めない時に、有料で構わないので医療系の託児所があれば助かる人も多いと思います。子育てママの集まる場も平日の昼間。仕事をしているママも集いたくても不可能。	女性	50歳代
・観光ばかりに力を入れて、これからの子供達の活躍の場があまり見当たらない。コロナの時代、これからの観光は期待できないのでは。	女性	50歳代
・他の市の方のお話を聞くと、子育て支援などで医療費・補助金などの違いを感じた。	女性	50歳代
・自己中が多く、我を通す。人の意見はあまり耳を傾けず、自分の子供中心になってしまう。 ・「他人の子供でも悪い時は叱る」という、本当のしつけ・教育が必要。特に親の教育も必要と思う。	女性	70歳代
■藤吉		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・ここ数年でピコクラブなど、体制や建物改善され使いやすくなってきていると思います。しかし、まだ利用している人は少ないと思います。又、子育て世代の利用できる遊具がある公園が少ない。又、公園の整備が整っていない事が多いと思う。 ・子どもの出産に対する市からの補助が少ない。 ・3人目以降の出産に対し、他の市はお祝い金が出ているが柳川市はない。 ・柳川駅周辺に子育て世代の利用できる施設があると利用者が増えるし、ひとり親の方や悩める方も相談しやすいかなと思います。	男性	30歳代
・公園や遊べる遊具・施設が少ない。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・その前に結婚がいいと思わせて欲しい(独身が多い)。	男性	50歳代
・保育料が高い。	女性	50歳代
・子育てをしていたころ、とても悩んで、とても困っていたので、市役所に相談に行ったことがある。窓口の人は親身に相談に乗ってくれたが、上司の人は冷たかった…。次、窓口に行ったら相談を聞いてくれた人は異動していた。違う窓口にいたけど、顔を合わせたくなさそうだった。自分の悩みは解決しない上に、話を聞いてくれた人に迷惑がかかるなんて…と思った。	女性	50歳代
・ベンチや木陰のある公園、遊び場がない。 ・歩道が整備されていない道もあり、ベビーカーが使いづらい。	女性	60歳代
・子供の保険の充実や児童保育の充実。	女性	60歳代
・はっきりとはわからないが、大木町、みやま市等は子供のいる家庭はすごく優遇されているそうです。	男性	70歳代
■矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・歩道が整備されていないところが多い。	男性	40歳代
・車がないと病院まで遠い。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少子化でもっと感じる場を広く参加できるところを増やしてほしい。	男性	60歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■ニッ河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・小さい子どもを安心して遊ばせることのできる、大きな公園がない（遊ばせる時は必ず市外の公園に行く）。 ・おむつのゴミが大量に出るのに、燃えるゴミの袋が小さくなり、なにがしかのケアがいただきたかった（近隣ではおむつのリサイクルが行われている自治体あり）。 ・地元特有の食材が豊富で、豊かな食育ができる所はよい。	男性	40歳代
・公園が少ない。	女性	40歳代
・市内には低賃金の企業が多く、共働きでないと生活できないと思います。	男性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供を遊ばせる公園が少ない。 ・子育てサークルの紹介が少ない。	男性	60歳代
・子供に対する助成が少ない。	男性	70歳代
■垂見		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・ホームページに最新の情報が無い。 ・コロナの中、孤独な子育てをしている家庭へのフォローもなく、感染対策を施した上での交流などもない。 ・市職員の対応に思いやりを感じない。（電話対応）事務的で、本当に支援課のスタッフなのか疑う。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・大木町に比べて。	男性	60歳代
・みやま市の方が、子育てがしやすいです。	女性	70歳代
■中山		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・公園が少ない（遊ぶ所が少ない）。 ・保育料高い。 ・学童料高い。 ・医療費。 ・習い事をさせたいが、仕事の都合で時間が難しい。母子にとっては料金が高く習わせられない。	女性	30歳代
■わからない		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・自分には子供がいないので人から聞いた話ですが、公園が少ない。子育て支援があまりよくない（お金とか）隣の 大川市の方がいいので引っ越しをした人がある。などを聞きました。	女性	50歳代
■無回答		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・学童は日祝の受入不可、入れても4年生くらいまでであること（学童によって運用も異なるのでしょうか…）。ひとり親 かどうかに関係なく、子供に対する支援はしてほしい。	男性	30歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■ Q14. 子育てしやすい環境「そう思わない」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・他の市と比べると子どもの過ごす施設等が少ない(ない)。高齢者よりになっている。	男性	40歳代
・近隣の市は保育料が安かったりするし、支援も他の市の方があっていと聞くので。	男性	40歳代
・保育料が高いし、子供が遊べるような公園など少ない。 ・特に、勉強に力を入れているわけでもなく、スポーツもそこまで盛んではないと思う。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・道路が、ガタガタしているのでベビーカーを押しにくそうです。	女性	10歳代
・子供達が近くで遊んだり自由に動き回れる公園や広場がない。車で佐賀や筑後、大牟田まで連れていく現状です。 ・図書館の休館日が利用したい時と重なり、休館日が多いと思う。 ・プール等気軽に子供達と行ける所がなく、又、車で連れて行くことが必要な現状である。	女性	60歳代
■ 城内		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・小学生の医療費の無償は難しいと思うが、小学生未満は無償にしてほしい。	女性	30歳代
・公園が少ない。 ・学校が問題が多い。 ・教育に対する意識が低い。	男性	40歳代
・小さい子供を連れて遊ぶ公園がない(佐賀の方まで連れて行っていた)。 ・近くの市町村と比べて保育料が高い(子供を保育園に預けていた時)。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・よその自治体では子供ができれば寄付金が多いらしいことを聞く。	男性	60歳代
・子育て世代の方々へのサポート(住居や金銭面など→子育ての)が、他地域よりも良くないと聞きます。それで知人の子供さん(子育て世代)などは近隣の地区に引っ越されたと聞きます。一件だけではなく数件聞きます。人気があるのは大木町だそうです。若い人たちは、ネットで色々調べてより子育てしやすい所へ移ってしますようです。	男性	60歳代
■ 東宮永		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・公園がない。 ・医療費がかかる。	女性	30歳代
・安全なきれいな公園がない。 ・水の都というわりには、水遊び場がない。 ・お年寄りが子供に冷たい、子育てママに冷たい。	女性	40歳代
・他の市町村から見ても、あまり良くない。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・他の市が実施している補助金などに比べると、見劣りしていると思う。	男性	60歳代
■ 昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・近隣市と比べて補助金等が少ない。柳川市以外での住みやすさに魅力を感じる。家の問題がなければ柳川市には住まなかったと思う。3人子供がいるが、正直、柳川市には大きな公園もなく、市の助成も少ないので不安がある。	男性	20歳代
・年齢が小さい子どもから大きい子どもまで一緒に遊べる公園等がない。 ・夏場は水遊びできる場所もない。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・町内会に強制的に入らないといけな空気感。子どもの行事に参加する為に、地域の行事を欠席したら罰金を取られる。 ・高齢者のグランドゴルフ等の公園の占有の為に、小学生が遊べずに帰っていくのをよく見かけます。	男性	30歳代
・子供の遊び場が少ないと思います。映画館や公園やゲームコーナーなどを作って欲しいです！！	女性	50歳代
・道が狭く、小さい子供が歩くにも自転車に乗るにしても、危なくて心配。	女性	70歳代

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問15）

主な記述内容	性別	年代
■蒲池		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・公園が少なすぎる！！高齢者や観光、農業、漁業には優しいが、子育て世代や50～60代、学生に対して住み辛い環境！！だから、若者が都会へ出て行く。ワクチンも遅い！もう少し若者（20～50代）に話や意見を聞くべき！！	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・公共交通機関が発達していない。	女性	30歳代
・大人から見ると、学校距離は遠く、安全な道路設備の格差があると思います。	男性	60歳代
・障がいのある子どもに必要な場所や学校を作してほしい。	男性	60歳代
・子供は皮肉にも夜間、日曜日などに、特に夜間に高熱が出たり突発的 사고が起こり小児科専門の救急病院がなく、隣市に行った事もありました。そちらの病院では付添人も一緒に泊まれ、設備も整っていました。柳川市内でもそういう病気になるても安心できる病院がないので子育てしにくいと感じました。	女性	60歳代
・コロナの影響でもありますが、家族に保育園児がいて、少々の熱で当日はともかく翌日まで熱がなくとも園を休ませなくてはなりません。そのへんの基準をもう少し改善してほしいです。ひとり親なんです、私達と住んでいるので母子家庭の手当てもないので、仕事を休むと大変苦しそうです。	女性	60歳代
■矢留		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子どもが遊べる場所が少なすぎる。物産公園やむつごろうランドなど遊具が少ない。子どもが夏楽しめるプール（県南婦人センター）も無くしてしまった。 ・子どもの為の行事、芸術鑑賞が少ない。子育て世代に文化的な活動・ワークショップが少ない。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・夜間の病院が市外に行くことが多い為、不便。	男性	40歳代
■両開		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・公園など遊びの広場があまりない。 ・保育園など希望するところに入所できない。	女性	50歳代
■血垣		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供が少ない。 ・市の援助があまりない。	男性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少子化対策が出来ていないと思う。 (例) インフルエンザ予防接種無料、他。	女性	60歳代
■中島		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・他の市町村に比べると子育てに力が入っていない。	男性	20歳代
・公園がない。 ・大木町と比べると色んな面で差がありすぎる。	男性	40歳代
・考えが古い。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・母子家庭に対する支援が、他の自治体と比べて少ないと思う。	女性	40歳代
・子どもたちがのびのびと遊べる居場所が少ない。各校区にひとつくらいはボール遊びが出来たり、小さい子どもを安心して遊ばせてあげられる公園などが必要だと思う。	女性	50歳代
■六合		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・各学校の児童数が少ないので、統合してほしい。集団生活が弱い。 ・現在、放課後の児童クラブが学童しかない。働く親が増えているので、子供を安心して預けられる場所が少ない。(時間、料金等)アフタースクールみたいなのがほしい。	女性	30歳代

IV. 参考資料

子育てしやすい（しにくい）と思う点に関する自由記述（問 15）

主な記述内容	性別	年代
■藤吉		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・助成が少ない。 ・学童の対応が悪い、改善もされない。	男性	30歳代
・広くてきれいな公園がない。支援センター等の室内で遊べる場所があっても狭い。ハイハイ期の赤ちゃんしか適していると思えない。公演は佐賀県内を利用、支援センターは大川市を利用していた。	女性	30歳代
・まわりの市は、診察料無料だが柳川市は高すぎる。小学校から月に1200円はあんまり。他からみるとすごく手薄で子育て世代には不満もあり、選びにくい。	女性	30歳代
・地元が柳川なので子育てがしやすいから住んでいるというわけではないのですが、逆にお聞きしたいぐらいです。 ・柳川市は、子育て世代に子育てしやすいようにどのような事をされているのでしょうか？ ・つどいの広場の新設？ 普段、仕事をしている側からすると建築費用が高く、他に使う所があるのでは？と思うのですが…。	女性	30歳代
・柳川市内で同じ子育て世代の方と触れ合う機会がなく、子育てに関する情報発信が乏しい。	女性	40歳代
・母子家庭や働く母親に対しての外の市町村との保証制度があまり十分とは思わない。 ・学童保育の数も足りないと思います。 ・子供の医療費が高すぎると思います。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供への経済的支援が少なすぎる。	男性	50歳代
・子育て世帯において共働きが多く、常に疲れている様子。仕事も休みにくく心理的負担が大きい。入学まで支援金があれば、子育てにも余裕ができ、子供との時間も大切に過ごす事が出来ると考えます。よろしく願います。	女性	50歳代
・3才以降になると、医療費が掛かる。 ・高校への登校が不便。	男性	60歳代
■矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学区によって、目の前の中学校に行けない。子供の通学負担の差が大きい。	男性	40歳代
・子どもはいませんが、歩道が整備されていないので道路を列になって通学している子ども達をみると、安全でないと感じます。	女性	40歳代
■垂見		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供が遊べる場所が少ない(公園等)。 ・就学前の子供に医療費がかかる(筑後市から移住したため、隣の市でこんなにも違うのかととても驚いています)。	男性	30歳代
■わからない		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・オムツのゴミ袋がない。 ・子どもの医療費の無償の期間を1年生までにしてほしい。 ・アベノマスクは、妊婦に配られたけど余ってるならまだほしい！！ ・出産祝い金が少ない。子どもが1人増えたのに、やなほポイントだけでは家庭にメリットなし。 ・薬の容器代も免除してほしい。 ・R2年度のコロナ給付金は、R2年度出生まで広げてほしかった。 ・春日市などの他の市の様に、子育てしやすい環境を作ってほしい。他の市に行った方が良さそう。	女性	30歳代
■無回答		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子育ての他に介護問題を切に考えて欲しい。	女性	60歳代

IV. 参考資料

(2) 学校再編を進めることへの賛否理由 (問 16)

問 16. あなたは学校再編を進めることについてどう思いますか。また、その理由をご記入ください。

記述内容は以下の通り。

主な記述内容	性別	年代
■ Q16. 学校再編を進めること「賛成」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・地区が多すぎる。子どもが少ない所は親の負担も大きい。	女性	30歳代
・学校の質が上がるのであれば賛成します。	男性	40歳代
・子供の数が減ってきているから。	男性	40歳代
・今の学校が遠かったりして、再編で近くなる子もいると思うから。特に、旧三橋・旧大和で区切らないで考えた方がいいと思う。	男性	40歳代
・理由は少子化のため。	男性	40歳代
・教職員の負担が少しでも軽くなるなら良いと思う。それにより、教育を充実させて欲しい。先生方の力量で子ども達の人生が大きく変わる事をしっかり考えて欲しい。	女性	40歳代
・子どもの数が加速的に減っているからやむを得ない。	男性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・建立時ではなく、現状に合わせて形は変えてゆくべき。	男性	50歳代
・少子化への対応。	男性	50歳代
・勉強の向上心が生まれる。異文化をお互い交換。	女性	50歳代
・小さい市なのに中学校が特に多い。まわりの市町村では、再編が進んでいる。	男性	60歳代
・人口が減少しているのでしかたないと思う。	男性	60歳代
・学年の学級数が少なすぎる。	女性	60歳代
・少子化でやむを得ないから。	女性	60歳代
・少子化で仕方ないと思う。でも学校が遠くなる子供もいるので、安全確保の為、スクールバスを出して欲しい。	女性	60歳代
・児童は多い方が友達は増えるし、大人になった時でもつながっていて欲しいと思う。それにより地域の活性化に役立つものとする。	女性	60歳代
・子供達同士で切磋琢磨して育った方が良いので、1クラスの人数を多くした方がいいのでは！	女性	60歳代
・少子化なので賛成です。	女性	60歳代
・柳川市人口が年々減少してる。子供の人員が減少し、各学年2学級の維持がだんだん難しくなるだろう。	男性	70歳代
・少子化で再編すべき。	男性	70歳代
・児童数の減少。	男性	70歳代
・子供数が少ない為。多くなった方が行事など盛り上がるのではないだろうか。	女性	70歳代
・他の市町村に比べて校区が分かれすぎ。行政区長も多すぎ、ムダ！！	女性	70歳代
・いじめの無い様にと願います。	女性	70歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■城内		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・現在の人数に対して分かれすぎていると思う。	男性	40歳代
・学校を集約して、質を高めるべき。	男性	40歳代
・児童の数も少なくなり、建物の老朽化等、維持費もかさむ。 ・近隣の市も再編に取組んでおり、現状を維持する必要は無いと思う。	男性	40歳代
・児童数の減少による教育上の問題。	女性	60歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・人口減少は目に見える。	男性	30歳代
・子供の数が減れば仕方ない。	男性	50歳代
・行政としては、経済的負担がある。近隣の地区では再編されているが、柳川市のみ進んでいないように感じている。また、小規模の学校では学校行事が実施できるのか。	男性	50歳代
・現在の校区について、自宅→学校までの距離のバランスがとれていない。	男性	50歳代
・少子化で年々、児童・生徒数は減少しており、集団生活の中で社会性を育むという点で十分に学ぶことができるのか…。 ・その他、学校施設の維持・管理費の問題もあり、学校再編を検討していく時期が来ていると思う。	男性	50歳代
・それぞれの学校が培ってきた歴史や伝統を引き継いで、新たな教育課程を編成するなら賛成です。	女性	50歳代
・6年間クラス替えがない事が、良くも悪くもあると思うから。 ・通学距離の問題もあると思うが、児童数の減少のため再編は仕方ない事だと思う。	女性	50歳代
・友達がたくさん出来る。	男性	60歳代
・校区ではなく、家に近い小学校に行けるといいと思った。	女性	60歳代
・学校が多過ぎて子供達も少人数でクラブ活動が出来ない状態ではないでしょうか。	女性	70歳代
・経費が少なくなり、その分子供の教育設備に回したら良いと思う。	女性	70歳代
■東宮永		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・人口増加が見込めなければ仕方ない。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・大勢の人と関わってほしい。	男性	40歳代
・柳川は今後人口減、少子高齢化が進むので、学校再編(小中一貫校を含めた統合)は必要である。 ・学校運営の効率化、学校・校区全体の活性化(学校、地域との交流促進)。 ・生徒の学力向上(競争意識)。	男性	60歳代
・少子化で再編なしでは何もできなくなると思う。	男性	60歳代
・子供が少なくなったので。	男性	70歳代
・私は毎日新聞を見ます。みやま市は早くから4校が統合している小学校が有ります。1校目は高田町舞鶴、2校目は瀬高町です。3校目が高田町に出来る様です。柳川はどうして統合しないのか不思議に思っていた所、新聞に柳川市に統合の様通達が有った事を知りました。柳川市にはいくつもの小学校が有ります。1クラス少人数のクラスばかりと聞きます。1クラス30～35人は居た方が子供達は楽しい学校生活が出来ると思っています。	女性	70歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・教育は未来への投資と考えるため。	男性	20歳代
・財政的な観点から施設は少ない方がよい。	男性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子どもの為にはいいと思う。	男性	30歳代
・人口が減っているので仕方がないと思います。	男性	40歳代
・子供が少ない。	女性	50歳代
・教育と人材育成の為に良いと思う。	女性	50歳代
・必要だと思います。クラスが少ないと、何年も同じクラス状況で過ごす事になります。良い関係の子は安心出来るだろうけど、何かしら問題を抱えてしまうと、逆に行きたくなくなると思います。そんな時に、新年度のクラスが変わる事は、プラスのきっかけになるし、プラスにする機会を上手に利用する力も持たせるべきだと思います。 ・それともう一つの理由として、社会に出た時に、いろいろな変化に対応する力を子どもの頃から環境の中で学んでいく事も大切だと思います。 ・とても遠い地区へは、スクールバスが出たらもっと良いと思います。	女性	50歳代
・これから人口が少なくなると、再編を考えることになる。	女性	50歳代
・少子化の中、子供達にはより多くの友達と出会い、いい意味での競争を経験してほしい。 ・通学問題があり、場合によっては送迎の配慮を。	男性	60歳代
・メリット、デメリットがあると思いますが、子供達の為に良い結果であることを望みます。	女性	60歳代
・日本の子供の学力が下がっているのでは…。	女性	60歳代
・児童の数が少なくなってきました。再編をしてほしいと思います。	男性	70歳代
・児童数はある程度多かった方が教育しやすいと思う。 ・児童生徒も、集団生活から得るものは大きいと思う(マイナス面も含めて、集団生活は必要だと思う)。	女性	70歳代
・安心できる。	女性	70歳代
・子供が少ないから仕方ないかもしれないが、通学を工夫してほしい。	女性	70歳代
■昭代第二		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供の減少している地域ではやるべきと思う。	男性	60歳代
・人口減少。	男性	70歳代
・少子化はますます進行するものと思われ、施設や人員を集約していくことが、よりよい学校教育に役立つと思われる。	男性	70歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問16）

主な記述内容	性別	年代
■蒲池		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・生徒数があまりにも少ないと寂しく感じる。多すぎても学校側が大変だと思いますが…。	男性	20歳代
・中学校の部活が少ない。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少ない数の子どもをたくさんの数の学校で教育することはコストが無駄にかかってくると思うから。 ・また、子どもたちもたくさんの出会い(刺激)があり、良いと思う。	男性	20歳代
・少子化なので仕方ないと思う。	女性	30歳代
・一長一短あると思います。ただ、学校建物等維持するのも大変だろうと思います。	女性	60歳代
・時代の流れ等。	女性	60歳代
・人口減少(特に子供人口減少)。	男性	70歳代
・子供の人数が減っているため。	女性	70歳代
■矢留		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子どもの減少で、少なれば出来る事が制限されていくので、いろんな事が出来るのは人数が多ければやれる事も増えるので賛成します。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・財政面等で仕方ないと思うが、通学距離は十分考えるべき。	男性	50歳代
・礼を重んじる子供達を育ててほしい。	男性	60歳代
・少子化に伴う、効率的な教育資金投入(税金の有効活用が必要)。例として、柳河小と城内小の再編、昭代第1小と昭代第2小の再編、矢ヶ部小と藤吉小の再編、豊原小と垂見小の再編等。	男性	60歳代
・子どもの人数も少ない為、仕方ないのかなと思います。しかし、小学生までは、そのままにして欲しいです。	女性	60歳代
・少子化が進んでいるため。	女性	60歳代
・児童を集中させるのではなく、密を防ぐようなクラス編成にして、又、安全の為に通学時間が短い方が良いと思います。	女性	60歳代
・1人1人に行き届いた(目手が届く)教育が受けられる体制作りが必要と感じる。 ・少人数(30人以下)学級、教師(員)の負担軽減等。	女性	60歳代
・通学路の安全・通学時間など。 ・一時、柳南中学校で柳城中学校に転校を選択出来るようになり、転校してから通学路が安全、通学時間が短くなり安心と言っていた。	女性	70歳代
■両開		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・人数が多い学校の少人数クラスならまだしも、1学年1クラスしかないような学校における少人数クラスだと、子どもの教育に良い影響を与えないから。	男性	40歳代
・少人数だと競争がなくなる(良くも悪くも)。	男性	50歳代
・人口減少の為。	男性	50歳代
・子供の数が少なくなってきて将来に活力や競争等が出てくるのでは？	男性	60歳代
・1クラスで6年間(小学校)もしくは3年間(中学校)過ごすのは良くない。 ・校舎等の施設の集約化ができ、ムダが省ける。 ・校長、教頭の要員を減らすことができる。	男性	60歳代
・校区で一生過ごすわけではない！競争社会を経験させる方が良い。	男性	70歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■ 皿垣		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供が少ない。	男性	30歳代
・子どもが少なすぎて経験ができない。競争心が持ちにくい。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・校区別などが大変だと思いますが、1クラスの数の方がもう少し多い方が良いと思います。	女性	40歳代
・私の住んでいる皿垣小学校は1クラスで10人前後と少なく、子供さんも友達が多い方が将来の為に良いと思います。少ないと競争意識が薄く、社会性が遅れ、子供さん達が可哀そうだと感じます。私の地区では、皿垣・有明・大和と3校の合併を望み、実現するのは大変ですが、叶えてほしいのは私だけではなく地区の人達の希望でもあります。よろしくをお願いします。	男性	60歳代
・あまりにも少数の人数で、スポーツするにも足りず、友達も出来づらい。クラブ活動などたくさんあって、のびのびと育てほしい。	女性	70歳代
■ 有明		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子どもの数が減るため、仕方ない。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・少子化の為、仕方ないと思う。	女性	50歳代
・子供の人数が減っている為。	女性	60歳代
・子供の数が少ない。	女性	60歳代
■ 中島		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・児童が少なくなったから。	男性	40歳代
・一校当たりの人件費、維持費がかかるのでは。	女性	60歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・PTAの改革。	男性	50歳代
・少人数で学ぶことも良いと思うが、人数が少ないと競争心が乏しく、向上心を持つことも少ないのではないかと考える。	女性	50歳代
・小学校の生徒数が各学校少なすぎて学校経営が成立しないし、子供が少なすぎるため子供のコミュニケーション能力が育たないから。	女性	50歳代
・校舎は老朽化して行き、子供は少なくなっていくので無駄が大きい。	女性	60歳代
・1つの小学校の生徒数があまりにも少ない。 ・行事、例えば運動会等がさみしい。	女性	60歳代
・合理化の為。	男性	70歳代
・近い未来の子供の育成の為にも、束縛なく自由校として再編できればと思う。	男性	70歳代
・各学校、生徒数が減少しているため。	女性	70歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■六合		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・少子化で生徒数も減り、空き教室が多くもったいない。 ・役員などすぐ回ってくる。 ・生徒が多い方が活気があって楽しそう。	女性	40歳代
・児童が増えた場合にも、変更がなされて来た。 ・児童の教育に適切に対応できる再編は必要と思う。	男性	60歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・ある程度の人数は必要。今は1クラスあたりの人数が少数だと思う。 ・学校1校建てするのに数億円かかると聞く。市財政は大丈夫ですか？	男性	40歳代
・子供の数が減少している為。	女性	60歳代
・総合的な教育の充実。	男性	70歳代
・児童生徒の減少。	男性	70歳代
・少子化が進むと、少人数のクラス化が今後益々進み、大事な集団での教育化が出来ない。特に、先生方の有効な教え方が出来ない。 ・また、先生1人当たりの有効な生徒数が少なくなる。 ・また、生徒に取っても同級生は多い方が色々な友達が出来て、教育上も良い。	男性	70歳代
■大和		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子ども達の為には、複式学級ではなく、普通学級がいい。出来れば、1学年1クラスではなく、2～3クラスあった方がいい。	男性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少子化の為、やむを得ない。	男性	50歳代
・生徒が少ない。	女性	50歳代
・人口減少・少子化になってきているので、統合・再編を進めるべき。	男性	60歳代
・協働活動が少なくなった。	男性	70歳代
■豊原		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・校舎等の維持費がかかる為。	男性	50歳代
・少人数では学校が活気がない。人件費が削減できその分図書室を豊かにしたら良い。	女性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・通学は大変になるとは思いますが、子どもたちは多くの人に出会い交流し、学習した方がよいと思います。学校は、学習は当然ですが、人間関係づくりにも大切な場だと思います。将来、様々な人に出会った時に対処する能力もつくと思います。	女性	50歳代
・人数が多い方が子供にとって競争心が湧くと思う。	女性	50歳代
・生徒の人数が少ない学校は統合した方がよいと思います。	男性	60歳代
・子供の数が減っている。	男性	60歳代
・子供のため競争はある程度必要である。 ・市の財政は無限ではない。	男性	60歳代
・距離的に広くなり通学に大変。	女性	70歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■ 藤吉		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・狭いエリアに2つも3つも小学校があり、無駄だと思う。	男性	30歳代
・人数の偏りがすごい。 ・子供には多くの友達がいる環境に通わせたいから。	男性	30歳代
・何にせよ、見直すことは大切。時代は変わる。	女性	30歳代
・子供たち、親たちにとって暮らしやすいように変えていくのであれば望みます。	女性	30歳代
・是非とも推進していただきたい。市内小学校には複式学級になる可能性が大いにある学校があると聞いている。小学校は学問も大事かもしれないが、人付き合い等の人間同士の関係を築くことが重要と考える。そんな中でやはり、大人数で切磋琢磨してもらいたい。	男性	40歳代
・人口減少のため。	男性	40歳代
・確実に少子社会は進んでおり、効率的な教育行政を行う上では致し方ない。	女性	40歳代
・あまりに規模が小さいと活発な充実した教育活動がやりにくいと思うので。	女性	40歳代
・人数が増えることによって、多様な考えができるようになればと思う。1クラスは少人数がよい。	女性	40歳代
・子供達が多くの人を作れる為。	女性	40歳代
・家庭だけでは教育はままならない。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・教員のことや維持費を考えれば、仕方ない部分もあると思うから。	男性	20歳代
・校区のバランスが均一ではない。1校集中になっている。	男性	40歳代
・人口減少のため効率化。	男性	40歳代
・避けられないことだと思うから。	男性	50歳代
・三橋町江曲は城内小、柳城中が近いのに、なぜ遠くの藤吉小、三橋中なのか(校区の見直し)。	男性	50歳代
・合併前の校区にこだわりすぎて、合理性が全くない。	男性	50歳代
・ある程度、人数のいる中で色んな人と関わることで多くのことを学ぶことができると思うから。	女性	50歳代
・1クラスでずっと過ごすことでの弊害や、教師の負担を考えると、少なくとも1学年2クラスは必要だと思います。	女性	50歳代
・無駄な費用を削減するべき。	女性	50歳代
・子供たちが通学しやすい学校へ行けるようにしてほしい。	女性	50歳代
・少子化が進んでいる。	女性	50歳代
・少子化では、仕方ないのではないですか。	男性	60歳代
・児童数が少なく単クラスだと人間関係が固定化し易いから。	女性	60歳代
・一校に先生が増員されるので、ゆとりある教育ができると思う。	男性	70歳代
・距離間、規模等の調整必要。	男性	70歳代
・少人数ではもったいない。ある程度の人数は必要では。	男性	70歳代
・子供が少なく、維持費・人件費等、金ももったいない。スクールバスを活用し、統合すべきである。	男性	70歳代
・効率的になれば、進める方が良いと思う。	男性	70歳代
・人口差が大きい。	女性	70歳代
・みやま市のようにすすめてほしい。	女性	70歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・中学校が遠いから。	男性	40歳代
・友達をたくさん作ってほしい。	女性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・人口が減少していて高齢者が増えている現状を考えると仕方ないと思うから。	男性	20歳代
・地域の差別意識がまだにあるため。	女性	20歳代
・自宅から近い学校に行くべき。	男性	40歳代
・市の財政と、少子化などを考えると、学校再編を進めるべきだと思う。子どもにとってもたくさんの友達と交わることはとても大切だと思う。	女性	50歳代
■ニッ河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・人数が多くなることは子供の性格などあり不安もありますが、それでも子供たちがみんな協力してやっていくということは社会に出て役立つと思うから。	女性	20歳代
・切磋琢磨のできる環境の維持。ただし、偏りのない学校配置(立地)が必要だと思います。旧校舎のリサイクルでは難しい地域もあると思います。	男性	40歳代
・合併前のそのままが残っている学校同士が近くにありすぎる。旧市町の枠組みに囚われすぎて、近くの学校にも行けない。	男性	40歳代
・学校が生徒一人一人に対して把握するのに学級の人数を減らすことは必要と感じる。	女性	40歳代
・この地域、少子化進行中の為、賛成だが、このままずるずるといけば、もっと深刻。市長選、市議選時の公約通りに目に見える形で実現を願う。幾度の選挙での謳い文句はもう聞き飽きたとならない為にも…。	男性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学童の人数が少ない小学校は比較的手厚い保護を受けることができる反面、中学に入学後、急に大多数の中のひとりになるので適応に苦労する。	女性	50歳代
・多くの人との出会いがある。	無回答	70歳代
・子供の数が減少しているので効率的にする必要がある。	男性	70歳代
・子どもたちに競争心を持たすためにも人数を少し増やした方が良い。	男性	70歳代
・生徒数減少、財政負担。	男性	70歳代
・1クラスを20名～25名でと思っています。30名以上だったら先生の目配りが大変だと思います。	男性	70歳代
・少子化により1クラスよりも3クラス位あったほうが子供達のためにも良いと思います。	女性	70歳代
・子供の人数が少なくなって。	女性	70歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■垂見		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・小学校が1クラスや少人数の学校の児童は、中学校に行ったときにビックリして、その中に対応できない子がいるかもしれないと思いました。少人数の学校は再編を進めて良いと思います。	女性	40歳代
・子どもの人数が減少していることもあり、数年後には複式学級での対応を迫られる小学校もあると聞いているため。 ・学校の維持管理費（経費）も、減額できるのではないかと。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・ある程度同一規模の学校とし、子供達に同じ教育環境を提供すべきと思うから。	男性	50歳代
・少子化の為、各学年の生徒数が少ない学校が多くなっている。	男性	50歳代
・教育の環境を充実させてほしいから。	男性	60歳代
・経費削減になる。 ・スクールバスになれば登下校が安心。 ・小規模校が合併により刺激になる。	男性	70歳代
・地域の実情や社会の要求に応じて進めていく必要があると思うが、その場合も、子ども達にとってどうなのかという視点も失わないでほしい。	女性	70歳代
■中山		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・少子化が進む中で学校が多すぎるように思う。小学校に限ると半分が良いと思う。生徒数が多くなると競争し合うし、優れた子供達が出来ると思う。	男性	60歳代
・みやま市でも行われていますし、子供の数も減っているからです。	女性	60歳代
■わからない		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・少人数教育の良さは何一つない。25人学級位が丁度良い。経費もムダである。 ・1クラス10人もいない中で、人間関係が上手くいくはずがない。実体験より。 ・しかし、中山小がなくなると住民がいなくなる。	女性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・より教育に力を入れるために必要なことだと思う。	男性	20歳代
・多くの友人を作り、いろいろなことを学んでほしいから。	男性	20歳代
■無回答		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・おおよそ1クラス分（20～30）はあった方が良いのでは。中山と二ツ河の統合などいいのではないと思う。校舎の建て替えも行ったと思うが、二次利用できるのも、まずは子供の集団生活化しての学びの方が重要ではないか。少ないなりに良い所はあるが、中学に入った時に思春期もあいて人によっては馴染みにくい。	男性	30歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少ない人間では人間関係が成り立たない。	女性	70歳代
【18歳以下の子どもの有無について無回答の人】		
・少数クラスでは社会性が育まれない。	無回答	無回答
・子供の人数減っているから。	無回答	無回答

学校再編を進めることへの賛否理由（問16）

主な記述内容	性別	年代
■ Q16. 学校再編を進めること「反対」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・校区外で学校に行っているのを厳しくしてほしいと思います。柳川市は緩すぎると思います。	男性	30歳代
・校区が広がるから。	男性	30歳代
・今の現状ではコロナ禍等でも、もちろん少子化等で考えてはいくべきで、校区同士の親交も必要（ただ他市町村や県に比べればすぐにでもやるべきかも。学校と学校が近すぎることもよくわかります…）。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学校を再編したら、さらに少子化が進む可能性も出てくると思います。	女性	10歳代
・母校がなくなるのが嫌だから。	男性	20歳代
・今は1人1人に教育視点が行き渡っているが、人数が多いと低学力の子どもとの差は開くと感じる。中学校は大規模校であるが少人数が良いと思う。	男性	40歳代
・通学が大変になる。 ・不祥事が起きた時、対応しにくくなる。	男性	50歳代
・選択肢が減るため。 ・規模縮小して、他校交流することが大切。	女性	50歳代
・小さな校区にも地域伝統文化があると思います。再編でなくなるか不安です。	男性	70歳代
・通学が不便になる。	女性	70歳代
・集約すると通学に時間がかかる。	女性	70歳代
■ 城内		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・なくなるのは、やはり寂しい。 ・子どもを増やすような取り組みを先に考えるべきでは。	女性	40歳代
・通学する学校まで遠くなるから。 ・ただ、柳河小と城内小は城内小に統合してもいいのではないかと思う。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供の面から考えると多くの友達がいた方が良いと思う。 ・人件費の面。	男性	50歳代
・通学距離が拡大するから。	男性	60歳代
■ 東宮永		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・教育が手薄になると思うから。	女性	50歳代
・通学に不便な所が出てくる。	男性	60歳代
・校区が広がってしまうと治安が悪くなる気がします。	女性	60歳代
■ 昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子どもが自分で通える距離ではなくなる可能性が高い。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・地域の親睦が失われてしまうのではないかと思うから。	男性	50歳代
・通学距離が長くなる。	男性	60歳代
・地域に定着した編成を希望します。	男性	60歳代
・今のままで良い。	女性	70歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■昭代第二		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・地域に根ざした学校教育の充実が希薄になるから。	男性	30歳代
■蒲池		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・通学が不便。	男性	60歳代
・学校名、又、統合などする地区がない。	男性	60歳代
・ますます学校が遠くなると思う。	男性	70歳代
・通学路が遠くなる。	男性	70歳代
■矢留		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・1クラス20名位いてほしいです。 ・通える距離内であって欲しい。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・校区割ではなく、生徒が行きたい学校に行けるようにしていただきたい。誰も、学校間で学力が異なるなら、少しでも上の方に行きたい筈でしょう？ ・あと、登校が遠くなるなら、再編に反対。自動車事故に遭いやすくなるから。	男性	60歳代
・子供は地元で育てたい。 ・通学に時間をかけない方が良い(安心)。	女性	60歳代
・通学に問題ができるのでは？	男性	70歳代
■両開		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・地域密着に反する(薄れる)と思う！！	男性	50歳代
・経費は学校再編を進めることにより、削減されると思いますが、地域性が失われて寂しくなりますね！	男性	60歳代
・通学距離が長くなる。	男性	60歳代
・通学路の関係・問題があるように思う。	女性	60歳代
■皿垣		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・まだまだ時期尚早。	男性	60歳代
■中島		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・地域密着で、1人1人に教育が十分に行き渡って欲しいと思います。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少子化で学校が統合せざるを得ないのは分かるが、1クラスでも出来るのであれば、小学校を少なくするのは反対です。	男性	40歳代
・通学が不便。	男性	60歳代
■六合		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供の通学時間が長くなる。行きは集団登校できても、帰りは一人になりやすく、連れ去りなど心配です。	女性	50歳代
■豊原		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・合併することには反対。地域に住んでいる人が利用しやすくなりべき。見守る人の目が遠くなることには反対。	男性	30歳代
・地域に小学校がなくなると人とのふれあい(祖父母参加の運動会など)が少なくなる。過疎化がさらに進む。	女性	60歳代
・子どもの教育環境を考えると賛成できない。通学距離が長くなったり、通学手段が複雑になったり、1学級の人数が増加したりするので反対です。	女性	60歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問16）

主な記述内容	性別	年代
■藤吉		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供にとって本当に良い事なのだろうか。それより、教師の質の方が問題だと思う。ストレス発散に、私の子は教師によるいじめを受けていた。親には言わない様にと口止めまでされて、それを知ったのは子供が成人してからだった。今もその教師は教壇に立っている。今も子供は心に傷を持っている（現在中島小）。	女性	50歳代
・再編（案）について知らないが、統廃合は反対。	女性	50歳代
■矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少人数の学校が存在しても良いと考えます。少人数の良さもあるのでは…ないでしょうか。	女性	60歳代
■ニツ河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・少人数の方が学びやすい。 ・登下校に時間がかかると不安。	女性	30歳代
・子供たちにきめ細やかな心配りが出来るかわからないから。	男性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・再編統合すると、地域の学校意識、子ども達の地元意識が薄くなってしまうのでは？	女性	50歳代
・学校が遠くなるので！	男性	60歳代
・再編した所で、遠くにもなるし通学に困る。	女性	60歳代
・あまりにも範囲が広がるから。	女性	70歳代
・それぞれの学校の特長が失われる。	女性	70歳代
■垂見		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学校から遠くなる子が出てくる。 ・他の市町村でコミュニティバスで通学しているが、なるべく歩いて皆で通ってほしい。	男性	50歳代
・地域にこだわっています。	女性	50歳代
・通学が大変（遠くなりすぎる）。	男性	70歳代
■中山		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供の減少により仕方ない面もあるが、柳川市の発展を考えると再編された地区の後のことは考えているのだろうか？駅前だけの発展じゃ柳川市の人口は増えない！小学校があることで、コミュニティの場が失われるのはさみしい。	女性	50歳代
・校区域が広がり、コミュニティが損なわれる。	男性	60歳代
・通学が遠くなる。 ・子供達との繋がりが希薄になる。	女性	60歳代
・子供達の通学が大変になると思う。バスの送迎に遅れたらどうするのか。部活動が出来なくなる。子供に大変負担がかかりそう。不登校が増える。	女性	70歳代
■無回答		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・今のままだと自宅から学校が近いので、助かっているのですが、再編で遠くなると困ります。	女性	20歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■ Q16. 学校再編を進めること「どちらでもない」と回答した人の意見		
■ 柳河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供の数が減れば、統合は仕方ないと思う。	男性	40歳代
・子供の数が減っているのに、再編の必要があるようにも思われるけれど、通学のことを考えると今のままがよいとも…。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学校再編のことがよく分からないから。	女性	10歳代
・母校がなくなるのはみんな嫌だと思います。	男性	40歳代
・再編の理由を知らないのに。	男性	50歳代
・少子化で学校再編はやむを得ないのかもしれない。 ・三橋町と合併したので広域で再編。 ・一クラスの生徒数を減らす。	男性	60歳代
・コロナ禍の収束が優先。	男性	60歳代
・子供がいない。	女性	60歳代
・詳しい事情を知らないので解らない。	女性	60歳代
・学校再編の意味がわからない。	男性	70歳代
・子ども達の安全を第一に考えて欲しい。 ・数の減少は大変だが、経済効果だけではなく、多角的に進めて欲しい。	女性	70歳代
・子供が少ないから、そうしないといけないのは分かりますが、遠くなるのはどうかなと思います。	女性	70歳代
■ 城内		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・学校再編についてよく知らない。	女性	30歳代
・良い点(子供達のコミュニケーションが良くなる)。 ・悪い点(小さい子供達にとって少子高齢化で仕方ないと思うが、細かいフォロー(クラス割・バス通とか)が大切と思う。通学が大変)。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・今の教育に期待していない。	男性	30歳代
・どう思っても文部省の決めたことに従うしかない。	女性	50歳代
・関係がないので、わかりません。	女性	50歳代
・問15の取り組み(子育て世代の方々へのサポート)が大きく関わってくると思います。子どもの数が減らなければ(増えていけば)よいですね。	男性	60歳代
・子供の全体数が少ないのでは？	女性	70歳代
・学校教育の場に全くタッチすることがない。	女性	70歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■東宮永		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・生徒が増える事は良い事だと思いますが、通学路が遠くなると不便になる。	男性	40歳代
・別の地域の子たちがまた1つの学校を作っていくという事は、大変な事もあると思いますが、井の中の蛙状態にいるのも、今の親世代が老いた時に大変な思いをするのは、現子ども世代であると感じます。	女性	40歳代
・子供の人数が減っているのだから…。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学校再編の説明が全然ないから。どのように学校再編をするか、なぜしなければならないのか。	男性	40歳代
・子供の数が少なくなったが、地域との結びつきが薄くならないか心配。	男性	50歳代
・内容をよく知らない。	男性	50歳代
・学校が合併して、クラスが増えるのは子供にとってもお互い刺激になっていいとは思いますが、通学が遠くなるのも大変になると思う。	女性	50歳代
・学校生活を送るには多い人数の方が望ましいと思うが、統廃合が進み、一小一中で小中に進学すると、子どもたちの人間関係に変化がないため、どちらとも言えない。	女性	50歳代
■昭代第一		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・距離(学校まで)の問題もあり、それに伴う安全性の問題もあると思う。	男性	40歳代
・仕方ない。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・昔と今では、児童数も違うし時代も違うから、どちらともいえない。	男性	50歳代
・少子化が進んで同年代の子ども同士の関わりが薄くなっているのだから、20人学級が2クラスずつはあった方がいいと思う。1クラス少なすぎるのも、かといって1クラスに20人以上押し込めるのも教育上よくないと思う。	女性	50歳代
・しかし、再編により学校までの道のりが遠くなりすぎるのも安全上どうかと思う。		
・学校再編とは、どういうことを言うのか、具体的に教えてほしい！	女性	60歳代
・子供の人数が減ってきているので何とも言えないが、通学するのに遠くなるのは？	女性	60歳代
・再編する事で何がかわるのか分からない。	女性	70歳代
■昭代第二		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・どのように再編するのかを知らない。	男性	40歳代
・子どもの心をつかむ先生に出会えば、子どもやクラスの雰囲気等、いい方向にいくと思う。先生次第で、どうにでも変わると思う！！	女性	40歳代
・少子化によって、各小学校・中学校のクラス数が減少するので、統合した方がいいと思う一方、学区が広がると通学等に影響するため。	女性	40歳代
・仕方がないことも考えられるが、少数単位が良いこともある。	女性	60歳代
・少子化と教師の数の問題をどう解決するか、難しい問題である。	男性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学校再編を考える前に、柳川市が若い世代の人口が増える街づくりを進めてほしい。	男性	50歳代
・子供達の今の環境がどうなのかよく分からないし、他の人から聞いたことがないので言えることがないけれど、少人数で経費が無駄に(二重、三重に)かかるとなると、再編等は仕方ないのかな、とは思う。でも、自分の思い出を振り返ると母校がなくなったりするのは、ものすごく寂しい。再編するのなら、「これからの子供達は良いよね、これだけの環境が整っているもの。都会や外国並やん」といえるようになったらいいと思う。それと共に、子供だけでなく、住民が誰でも同じような環境が整うといいですね。	女性	50歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■蒲池		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・どちらにせよ、子どもたちが伸び伸び暮らせるまちづくりをお願いします。	男性	30歳代
・決定した具体的な内容を知らないから。	男性	40歳代
・少人数で先生の目が行き届くのもいいが、1クラスで進級していくのも、子供間で問題が生じた時に子供に負担がかかるため。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・子供の少子化が関係しているから。	男性	40歳代
・あまりメリットとデメリットを理解していません。すみません。	女性	40歳代
・学校再編について知らない。	女性	40歳代
・通学距離や地域性を考えると反対だが、少子化の為、仕方がない部分もあると思う。	女性	50歳代
・内容がわかりません。ただ、子供にも親にも公平でわかりやすい学校にしてほしい。	女性	50歳代
・今のままで。	男性	60歳代
・自分の思い出が消されてしまうことは、大変悲しい。	男性	60歳代
・学校再編を進めるとはどういうことかわかりません。	女性	60歳代
■矢留		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供が少ないので仕方がないと思うが、1人1人に目がいなくなるのが困る。	男性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・人数が少なくなっているので再編も仕方ないのかと思いますが、小学校はあまりにも広範囲になってしまうし、登下校・放課後の過ごし方等で別の問題が出てくると思うので。	女性	50歳代
・子供がいない。	女性	50歳代
・クラスの人数とかクラス数とか、少ないと寂しい。しかし、遠くなると大変だと思う。	女性	50歳代
・どちらでもないですが！私達の小学校時代は1クラスに50人が入っていました。私が丁度戦後生まれで少ない時ですが、みんな一緒に仲良く遊んでいました。今は30人位がいいと思います。	女性	70歳代
■両開		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・再編を進めれば、極端に学校まで遠い子が出現し、登校時や災害時等の負担が難しい。 ・又、1人1人の生徒に目が行き届かなくなる。ケアが不十分になる。 ・しかし、進めないのも各々の学校で学力の差や給食化の問題などがありそうに感じる。	男性	30歳代
・学区が広くなり、通うのが大変になる。 ・同級生が多くなるのは、様々な刺激を与えて良いと思います。	女性	40歳代
・少子化、人口減少、財政難による必然性、現実問題と、きめ細やかな教育環境、現状存続。 ・現状が子供たちのためであるが、現実問題もあり、非常に難しい。 ・人口増を目指し、魅力有る柳川になる以外なし。 ・産業、工業の活性化。	男性	50歳代
・くわしいことは知らないから。	女性	70歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・遠距離通学への対応は？	男性	50歳代
・子供が巣立ってしまったので。	女性	50歳代
・必要とは思いますが、登下校の安全性・利便性が気になります。	女性	60歳代
・将来の子供の人数や設備資金など問題点は多々あると思う。	女性	60歳代
・良い面、悪い面両方あると？	女性	70歳代
・今の学校の様子がわからない。	女性	70歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問16）

主な記述内容	性別	年代
■血垣		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・子供が居ないから。	女性	60歳代
・現状に留めるか、再編を進めるかは、市中の各区環境も存在すると思いますが、本件について当方の勉強不足で すみません。	男性	70歳代
■有明		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・良く理解していないので分かりません。	女性	30歳代
■中島		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・遠くなってしまう子はスクールバスを用意するなどの対策をしたらいいかなと思います。	男性	20歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・今は子供の数が減ってクラスの人数も少なくなっています。時代に合った教育をして頂けたらいいなと思います。	女性	50歳代
・少子化に対し、学校再編は必要かもしれないが、絶対とは言えないので。	女性	50歳代
■六合		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・学校再編を進められている事を知らない。	男性	30歳代
・子どもが通学していた小学校も1学年1組でクラス替えもなく、新しい友達が増えず、人間関係が固定化してしまう心配 はありました。新たな考え方やもの見方に会える機会が増える面については賛成です。 ・逆に心配なのは、地域によって独特の風潮があり、統合した場合、保護者同士のいざこざは起こりそうで、子ども達 にとぼつちりがいかないかと思ってしまう。PTA活動でよくみられる。 ・考えているのであれば、説明会・アンケート・話し合い等で情報をしっかりと収集してみてもどうでしょうか。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・少子化には対応していかなければならないと思うが、現状問題がないのであれば、変える必要はないと思う。	男性	40歳代
・再編が子供達の為にあるなら賛成だが、大人の為なら反対。	男性	50歳代
■大和		
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・まず「学校再編（進めること）」について知らなかったから。	女性	10歳代
・大人の立場でなく、子どもたちにとってのプラスを考えて欲しい。	男性	40歳代
・若い世代なので考え方もいろいろ違う世代となり昔とは違いすぎると思う。	女性	50歳代
・少子化で仕方ないと思う。	男性	60歳代
・仕方がないと思う。児童数がどれだけなのか詳しい事はわからないが、私が小学校の時が約40人の2クラスあった と思う。今は20人弱の1クラスと聞く。私は多くの人と出会い、多くの考え方や性格の人と小さい時から接した方が良 い、多くの人の中でもまれた方が良いと思っているので、学校までの距離が多少長くなってしまうと思うが、致し方 ないと思う。運営する上でも効率的ではない。	女性	60歳代
・内容の詳細を知らないなので。	女性	60歳代
・70代過ぎて、もっと若かったら考えたと思います。残念です。	女性	70歳代
■豊原		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・少子化、しょうがない。校区選択はいいと思う。	男性	30歳代
・合併等は必要と思うが、登校に時間がかかる（遠くなる）のはかわいそうかなと思う。	男性	40歳代
・メリット、デメリットがあります。少子化の事、通学距離の事です。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・自宅から遠くなったりすると大変だと思いますが、友達が増えるのであれば、致し方ないかもしれない。少子化なの で最近1クラスしかない所も多いらしいので。	女性	30歳代
・再編する理由があるので進めるから。	女性	50歳代

IV. 参考資料

学校再編を進めることへの賛否理由（問 16）

主な記述内容	性別	年代
■ 藤吉		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・出身校に愛着はあるが、学校運営などの内部のことに関しては、行政に関わる方たちが一番理解していると思うので、お任せします。	女性	20歳代
・生徒数の偏りが柳川市全体で明らかに違うと思いますが、生徒達の通学を考えると、安全面を踏まえて今のままでもよいかと思います。 ・しかし、学年ごとの人数で授業への影響があるのであれば、再編も仕方ないかと思います。	男性	30歳代
・このような状況がいつまで続くか分かりませんが、子供達の無理のない範囲で登校できるのであれば、少ない所に分散させるなど、学校を有効に活用していくのも一つの手段かと思えます。	女性	30歳代
・転居して来てまだ数ヶ月で柳川の小・中学校の事を知らない。	女性	40歳代
・そういった話は聞いた事がない。	女性	50歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・初めて聞いた話題だから。	男性	30歳代
・現状も再編案も分からないため。	男性	30歳代
・学校の規模によるため、判断できない。	女性	30歳代
・時代の流れなので仕方ない。	女性	50歳代
・プラス面とマイナス面両方があると思うので。十分な討議や了承がされているとは思わない。	女性	50歳代
・いろんな問題があるだろうから。	女性	50歳代
・少人数で学業等を行える様に再編は望まない。但し、週一又は月一に合同参加出来るならばいいと思う(子供の家から近くに学校があればいいと思う)1km以内。	男性	60歳代
・どのような再編かわからない。	女性	60歳代
・今、自分の子供も大きくなり、学校との接点が無くなっているのが様子があまりわからない。	女性	60歳代
・再編により通学距離が遠くなり、通学中の防犯上の問題も大きくなる為。	男性	70歳代
■ 矢ヶ部		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・ちゃんと理解できていないので。	女性	40歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・詳しく知らないから。	男性	30歳代
・児童・生徒数については多ければ多いなりの、少なければ少ないなりのメリットもあるので、通学の負担や教員の確保、感染予防対策等の面から検討して頂ければいいと思います。	女性	40歳代
■ ニツ河		
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】		
・学校再編という言葉の意味が分からない。	女性	20歳代
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】		
・学校再編を知らない。	女性	50歳代
・学校再編は地域コミュニティや地域文化、地域のまとまりが崩れる等の恐れがあり、慎重に進めてもらいたい。	男性	60歳代
・子供の為になるなら進めて欲しい。	男性	70歳代
・学生は少人数より多い方がいいと思うが、通学が遠くなり不便になるのでは。	女性	70歳代

学校再編を進めることへの賛否理由（問16）

主な記述内容		性別	年代
■垂見			
【18歳以下の子どもが「いる」と回答した人】			
・学校についてよく知らないため。	女性	20歳代	
・どうしても財政がひっ迫している、児童数が極端に少ない等の場合は、仕方ないと思います。しかし、極端な再編の仕方であれば、反対する考えもあります(例えば、児童数がかなり増える等)。	男性	30歳代	
・通学距離が長くなると心配です。スクールバス等の整備をお願いしたい。	女性	40歳代	
・小学校が1クラスしかないため、新しい人間関係が築けず、クラスでうまくいかなかった時は学校に通えなくなる子どもいると思うと、再編は必要かと思う。 ・一方、学校までの通学距離が遠くなり、登下校が心配。	女性	40歳代	
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】			
・教員不足、通学距離による防犯。	女性	40歳代	
・再編して、学校が少なくなれば通学に時間がかかる子供さんが出てくるし、今の状態だと学校によって(人数差によって)学力の差も出てくると思う。	女性	50歳代	
・子供達が減少するなら仕方ないと思う。	女性	70歳代	
・少子化で仕方ないのかもしれないが、通学距離が遠くなるのが心配。	女性	70歳代	
■中山			
【18歳以下の子どもが「いない」と回答した人】			
・通学が短い方が良い。	男性	70歳代	

IV. 参考資料

(3) 市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由 (問 38)

問 38. 公共施設の維持管理経費における使用料収入と市税収入等との割合についてどう思われますか。また、理由をご記入ください。

記述内容は以下の通り。

主な記述内容	性別	年代
■ Q38. 施設利用者の負担割合について「増やすべき」と回答した人の意見		
【公共施設を「週1回程度利用している」と回答した人】		
・利用しない人は、この割合に納得しないと思います。利用者は安いから利用するというよりは、健康のために利用する人が多いと思うので、極端な値上がりでなければ問題ないのではないかと思います。	男性	20歳代
【公共施設を「月に複数回利用している」と回答した人】		
・市税を大切に使用していただきたい。利用しない人もいます。	女性	60歳代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・施設利用者が負担した方が良くと思います。市民の中には施設を使わない人もいますので、利用する人が負担するべきです。	女性	10歳代
・95%は高すぎる。	男性	20歳代
・(専門家に聞いた方がいいと思いますが…)。 ・基本的に利用していない側のため上記の意見になります。	女性	20歳代
・使った人が適正額を払うべき。	男性	30歳代
・利用していないため。	男性	30歳代
・施設を利用しないし、したいと思わない。まず利用者を増やすべき。	男性	30歳代
・全く使わない人の割合がかなり高いと思う。	男性	30歳代
・全く利用していないので利用している人たちから、もう少し割合を上げていいのでは？	女性	30歳代
・市民全体が負担する市税収入の割合が多すぎるため。	女性	30歳代
・利用しないものにお金を払いたくない。 ・使いたい人が払うといい。	女性	30歳代
・利用しない市民からの税収から負担する割合は減らしてしかるべき。	女性	30歳代
・不公平。	女性	30歳代
・なぜ利用者の負担が少ないのか分からない。税金で管理運営しているのであれば赤字ばかり増えるだけなのに。 ・市の負担になっているのであれば委託し、様々な活用法を見出せる方に運営していただくほうが良いかと思いません。	女性	30歳代
・使用する人の使い方によって施設の状態が変わるので責任の分は負担してほしい。	男性	40歳代
・使用出来る人や使用出来ない人があって平等ではない(仕事で)。	男性	40歳代
・使用料が安いと思います。	男性	40歳代
・全く利用していない人の負担を減らすべき。	男性	40歳代
・特定の人のみしか利用していない。	男性	40歳代
・市民には全て行政がやってくれると思っている甘い考えがある。	男性	40歳代
・利用しないのに市税からはもったいない。	男性	40歳代
・増やしたため利用減になるなら、施設の統廃合をすればいい。	男性	40歳代
・市の支出を減らすべき。	男性	40歳代
・必要ない施設もあるはず。	男性	40歳代
・使う人と使わない人の差が大きすぎると感じる。但し、学割は必要と思われる。	男性	40歳代

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・使用していないのに負担させられるのは、ごめんです。	女性	40歳代
・もう少し取っても良いのではないか。 ・長くきれいに便利に使っていくには必要な経費。	女性	40歳代
・利用者がそこまで多いと感じられない。	女性	40歳代
・興味、関心がないと全く使用しないから。	女性	40歳代
・95%が市の負担であれば、利用する人と利用しない人の公平性がない。	男性	50歳代
・利用者が負担するのは当たり前。	男性	50歳代
・利用した人は負担すべき。	男性	50歳代
・特定の市民利用しかないため。	女性	50歳代
・当然利用者の負担を増やすのは当たり前でしょう！	女性	50歳代
・施設利用者の負担割合5%は少なすぎると思います。仕事をしていると、市の施設を利用する機会はあまりありません。利用する人がもっと負担すべきだと思います。	女性	50歳代
・近年の自然災害の多さを思えば、柳川市の施設は大切だとは思いますが、使用していない人が大半だと思う。 ・スポーツ等で、使用頻度が高い方にもう少し負担してほしいし、維持管理の人件費を減らしてみてもどうですか。民間だったら減らしますよ。	女性	50歳代
・使用しない人もいる為、使用料を市税で賄うのは平等ではないと思う(高校生以下は別)。	女性	50歳代
・利用する人は限られていると思うから、使用する人が負担すべきだと思う。この割合は知らない人が多いと思う。	女性	50歳代
・利用者が使用している為だから払うべきだと思います。	女性	50歳代
・使う人が使用料を払うのは当然です。50%ぐらいでもいいと思います。しかし、福祉の分野での使用の場合は今までのままでいいと思います。	女性	50歳代
・使用しないのに、払う事はない。それより、市税が維持費として使われていると初めて知った。使う人が払えばいい話じゃないのか？	女性	50歳代
・他のところに市税を回してもらいたい。	男性	60歳代
・自分は使った事がない。	男性	60歳代
・障害が有り、利用できないものにも負担させないでほしい。	男性	60歳代
・利用者が負担が大きいのは当然のこと。利用しない人も税金を払っている。	男性	60歳代
・市税を少なくし他に回すことが出来るため。	男性	60歳代
・不公平です。	男性	60歳代
・理由があり利用できない人たちの市税も使われているから…休日が同じなど。	女性	60歳代
・利用する人が多く負担するのは当然の事です。	女性	60歳代
・柳川市の人口で施設利用者はどれくらいの人数でしょうか？私の周りでは施設の利用は殆どされていない方が多く、施設利用者の負担を増やすべきだと思います。	女性	60歳代
・今の所、利用する事がないので。	女性	60歳代
・適切な料金を払って欲しい。	女性	60歳代
・市税が年々高くなっている様に感じる。	女性	60歳代
・利用してないから。	女性	60歳代
・市の負担を減らすため。	男性	70歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・使用する人は安い方がいいですが、税金で賄うと言うと使わない人もいるから。	男性	70歳代
・利用者は自分の利益の為である。	男性	70歳代
・施設を利用出来ない人が多い。 ・利用者は一部の人の専用物である。	男性	70歳代
・赤字を減らしもっと他のことに使える財源を増やした方がよい。	男性	70歳代
・使いもしないものを新しくして税金の無駄使いはやめてほしい。どうして既存のものを上手に使わず、新しく土地を移動し新しい施設を作るのか理解できない。市・町の発展に何ひとつプラスになっておらず不快である。	女性	70歳代
・利用する機会があまりorまったくない人に不公平だから。道や学校等にもっとお金をかけてほしい。	女性	70歳代
・利用者が一部分に偏っている様に思う。	女性	70歳代
・利用している人が限られている。高齢者は特に利用しない。	女性	70歳代
・利用している人が少ないから。	無回答	無回答
【公共施設を「無回答」と回答した人】		
・利用者は一部の人が多いと思うから。	女性	70歳代

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
■ Q38. 施設利用者の負担割合について「どちらかといえば増やすべき」と回答した人の意見		
【公共施設を「週1回程度利用している」と回答した人】		
・市民税が高い!!施設も利用しているが、本人がもっと払うことに賛成。	女性	30歳代
・施設利用者の利用に対する責任感とか大切に扱おうという気持ちを促すため。 ・全く利用しない人に対しては税込で賄うのは負担大。	女性	50歳代
・図書館等については文化的面からやむを得ないが、水の郷の入場施設については増額すべきだと思う。	男性	50歳代
・施設を利用するのであれば、負担するのは当たり前。利用しない人との差をはっきりすべき。	男性	60歳代
・趣味活動が冷暖房費だけで出来るのは申し訳ない。 ・町内の話し合い等は現状のままで良い。	女性	70歳代
・もう少し設備を良くしてほしい(古い)。	男性	60歳代
【公共施設を「月に複数回利用している」と回答した人】		
・利用者が5%の負担しかしていないのであれば、もう少し負担割合を増やしてもよいと思います。	女性	30歳代
・利用者と利用者でない人に偏りがあると思うので、ある程度の負担は必要と思う。	女性	40歳代
・利用者の負担割合を増やした方が公平感が高いと思う。	男性	50歳代
・施設利用者は個人利用者であり、個人の好きで利用している為、当然利用料は自分達で負担すべきだと思う。	男性	60歳代
・一部の学校・団体、私物化されています。施設利用は、まだまだ市民の一部に限られてると思われれます。市税の負担が大きいかと…。	男性	60歳代
・市施設は、市税収入等(市予算:市全体)で設立しているが、利用者は一定の市民であるため「維持管理費」については利用者の受益者負担で賄うべきと考え、負担割合は増やすべきと思う。	男性	60歳代
・使用者が負担を増やすべきだと思います。自分のために利用しているのだから当然だと思います。	男性	70歳代
・お金の出所として「打ち出の小槌」を持っていますか？	男性	70歳代
・利用者の1～2割負担？	男性	70歳代
【公共施設を「月に1回程度利用している」と回答した人】		
・将来少子化で人口が減るのに、孫たちに負担がかかるようになる。利用者の負担が増えるのは当たり前と思う。	男性	60歳代
・利用したくても、健康や家庭環境により利用していない人が多い。利用できる人は恵まれていると思う。	女性	60歳代
・市の財政負担を軽くする。	男性	70歳代
・利用者が負担増は当然の事。	男性	70歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・市税収入等(95%)は割合が大きと思う。僕はこの割合を知らなかったが、市民が支払う市税収入の負担を減らして今までここに当てていたのも同じように減らすなどしても良いと思う。	男性	20歳代
・施設利用者の負担割合を増やせば、市民が負担する市税を減らすことができ、市民の生活もあまり負担にならないと思うから。	男性	20歳代
・現状、利用したいと思う施設が少なく、また使用料を増やしたとしたら市民の税が安くなるなら、その方が嬉しい方が多いはず。	男性	30歳代
・不公平だけど仕方ないと思う。	男性	30歳代
・営利目的(ex.教室などの使用)であれば使用できない所もあるため、一部の利用者のために9割もの市税を投入するよりは、それ自体で収益化を図れるよう、使用時の規約などを見直し、予約システムなどのインフラを整え、活性化させた方がよいと思う。学校関係での使用時は安くするなど、既存で利用している公的かつ青少年育成に係るものであれば別枠がよいのではないかな。	男性	30歳代
・使用しない人の負担が大きい。使用しないのに負担するのは少し納得しにくい。 ・使用して支払う分には、支払うべきだと思うので。	女性	30歳代
・利用する人が多く負担するべきだと思う。	女性	30歳代
・極端に使用料を上げず、10～100円くらい上げていくと、利用者もそこまでの負担にはならないと思う。	女性	30歳代
・使わない人の負担が大きすぎる。	女性	30歳代
・使う人にはメリットがあるが、使わない人にとってはなんとなく損している気になってしまう。ただでさえ税金は色々負担が大きいので。	女性	30歳代
・使用の方が負担して良いと思う。利用料が高すぎると利用者がいなくなる。	男性	40歳代
・利用していない市民の方が多いと思うから。	男性	40歳代
・単純に市税が高いから。	男性	40歳代
・何かかも市税で賄えると思う住民側も理解が必要。 ・当然、市側も必要経費等を具体的に開示する必要もあると思う。	男性	40歳代
・よく利用する人と全く利用しない人で、不平等が生じる。	男性	40歳代
・使用料を備品や、利用を促す為の費用など、用途を限定する事により理解を求めれば良いと思います。	男性	40歳代
・受益者負担。	男性	40歳代
・市の運営を少しでも減らすため、また登録団体は使用料が減免されるため、あまり影響がないと考える。	男性	40歳代
・市税収入等を他に必要なことに使って欲しいから。	男性	40歳代
・使う人とそうでない人がいるので。	女性	40歳代
・利用しない人は全く利用しないので、利用する人が多く負担するのが妥当だと思います。 ・その他の全ての人に向けたサービスを拡充して頂きたいです(ex:道路の整備など)。	女性	40歳代
・全く利用していない人の不平等感があるから。	男性	50歳代
・もう少し利用者が負担しても良い。市の負担(借金)が多い。	男性	50歳代
・税金で負担する割合が大きすぎると思う。利用する人しない人の格差が大きい。	男性	50歳代
・財政的観点から受益者負担を多くすべき。	男性	50歳代
・施設を利用していない人の市税収入も維持管理費になっているので、利用する人の使用料を増やすべき。(5%→7%くらい)。	男性	50歳代
・よく利用する人と全く利用しない人の負担を考えると、もう少しは検討の余地があるのではないかな。	男性	50歳代
・使用しない人は、税金を払いたくないので。	女性	50歳代

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・利用していないから。	女性	50歳代
・自分が全く施設を利用しないので。	女性	50歳代
・市民でも利用してない人の割合は多いのではないかと。	女性	50歳代
・市民対象ではあるが、利用者は偏るため。	女性	50歳代
・市の財政の負担軽減の為。	女性	50歳代
・使用していない人もいますので、市税でそれを賄うのはよろしくないと思う。	女性	50歳代
・使用する方が負担するのは当たり前かなと思います。逆になぜ市税収入で賄うのか、よく理解できません。柳川市民の特権でしょうか？うーん、必要かなあ。	女性	50歳代
・利用者が負担したらよいと思う。	女性	50歳代
・利用していない立場からすると利用している人の負担を増やす(ある程度)べきと考える。	女性	50歳代
・柳川市の税金は高いから。	女性	50歳代
・市税収入等での負担は、利用していない人からすれば納得いかないと思う。	女性	50歳代
・市民の数の減少。	女性	50歳代
・時々使用する市民などは現状のままでよいと思う。クラブチームなど定期的(週2回、3回など)に使用する団体等は公平性の点から割高にするなど差をつけてはどうか。	女性	50歳代
・市の財政状況を考えると、利用者負担を増やしてもよい。	女性	50歳代
・維持管理のためにも、利用者の負担はせざるを得ないと思うが、もっと多くの市民が利用しようと思えるような、何か対策などができれば施設も活性化されてよいと思う。	女性	50歳代
・利用していない人が多いと思うから。	男性	60歳代
・柳川市の人口減。	男性	60歳代
・本当に必要と思われる施設の見直し、内容精査。 ・利用の少ない施設の見直し、再編、過剰な施設をなくす。 ・たとえば図書館、両開、昭代、蒲池分室は必要か？	男性	60歳代
・増やす努力はしても良いと思う。	男性	60歳代
・利用者負担。	男性	60歳代
・施設利用者は使用しているので増やしてもいいと思います。	女性	60歳代
・具体的に金額がわからない(知らない)が、利用者が支払って負担するのは公平だと思う。	女性	60歳代
・利用者が限定的であり、市税収入の面で利用者の使用料を増やしても良いと思う。 ・65才以上負担なしは、これからの施設維持には良いことがないと思う(65才以上の高齢者が増加する)。 ・医療費も1割から2割、2割から3割へと負担しているので、5%は少ないと思う。	女性	60歳代
・使用者が多少負担しても良いのではないかと思います。	女性	60歳代
・利用する人は一定の人に限定されていると思います。	女性	60歳代
・若い方の市民税等が上がらない様に。	女性	60歳代
・利用する人がそれなりの負担をすべき。ただし公共の施設である事から利用者の負担割合があまり多いのもいかなものか。負担割合を利用者20、市税80。	女性	60歳代
・スポーツクラブの65歳以上は無料は？少しでも使用料を取ってもいいんじゃないかな。逆に行きにくい。	女性	60歳代
・市の税収入等も厳しいと思われます。特に人口減少など。	女性	60歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・施設利用者が少ないと思うので市税で多く賄うのは反対する。	男性	70歳代
・使用する人の利益になるから増やすべき。	男性	70歳代
・受益者負担。	男性	70歳代
・増額分はその施設管理費に充てる。	男性	70歳代
・受益者負担。	男性	70歳代
・不公平にならないため。	男性	70歳代
・受益者負担は原則である。	男性	70歳代
・利用者は使用料を出す(支払う)べき。	男性	70歳代
・5%と95%は差がありすぎと思うから。	女性	70歳代
・今の使用料がいくらなのか分かりませんが、利用したいと思っている方は少し値上がりしても行くと思います。	女性	70歳代
・施設維持管理経費は市民の税金だから。	女性	70歳代
・個人的に利用する人は毎日利用していると思う。利用していない人は全然していない。市税で賄っているならば、使用者の負担を多くする。	女性	70歳代
・コロナで税収も少なくなっていると思う。外にも施設が出来たので。	女性	70歳代
・平等(使用者と非使用者の利点から共生するため)。	女性	70歳代
・維持管理経費が大きい為(高額になる)。	女性	70歳代
・平等に取り扱ってほしいから。	女性	70歳代
・5%と95%では差がありすぎる気がします。もう少し利用者の負担はあってもいいと思います。	女性	70歳代
【公共施設を「無回答」と回答した人】		
・利用者のマナーの悪さを感じるがあるので。	女性	40歳代

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
■ Q38. 施設利用者の負担割合について「現状のままで良い」と回答した人の意見		
【公共施設を「週1回程度利用している」と回答した人】		
・特に困っていないため。	女性	20歳代
・施設をたくさん利用する人は、今の使用料で良いと考えます。使用されない人は、違うかもしれませんね…。	女性	40歳代
・夫と息子が昭代のプールを利用しているが、料金が安く助かっている。	女性	50歳代
・市民はそのまま、市外の人は割高にして良いと思う。	女性	60歳代
・利用者の調整がとれている。	男性	70歳代
・公共施設は利用者に負担させるものではないと思う。 ・しかし、財政を考えると利用者に今の使用料程度なら負担してもよいと思う。	男性	70歳代
・利用している人は年金生活者が多いと思うので高くなったら利用できなくなる。	女性	70歳代
【公共施設を「月に複数回利用している」と回答した人】		
・できるだけ多くの市民が気軽に利用できるように。	男性	60歳代
・南風を利用していますが、手頃な料金だと思いますよ（現在はコロナで利用していませんが）。	男性	60歳代
・高齢者はみんなデイサービスに行く人ばかりではありません。元気に自分で動ける人もたくさんいます。そんな人達は、自分の好きなサークルに参加して楽しく過ごしています。 ・今のような状況で、公民館などが利用できないのは非常に不便です。 ・コロナの事は心配ですが、ほとんどワクチンも打っています。消毒もしています。マスクもしています。	女性	60歳代
・市税が赤字であれば、少し値上げしてもよいと思う！	女性	70歳代
・維持管理経費は利用者負担を増やすべきではないと考えます。利用しやすい自己負担ですべきです。	女性	70歳代
・維持管理経費が不足又は無理になった場合は増やすべき。仕方ない。	女性	70歳代
【公共施設を「月に1回程度利用している」と回答した人】		
・満足しているから。	女性	30歳代
・受益者の負担を増やすと、利用者減少につながりかねない。現状のままで利用促進を図る。	男性	40歳代
・今はとても利用しやすい料金で、子どもの小遣いでも利用出来て、大変助かっています。	女性	40歳代
・5%という負担の軽い使用料でもっと利用できる企画が増えれば、コロナで離れている人達のコミュニケーションが計れると思います。	女性	40歳代
・特には問題点を感じないから。それよりも、税の徴収や税の用途の問題点を解決するべき。	男性	50歳代
・特に現時点で気になってないので、負担とは感じていない。	男性	50歳代
・只利用しない人にとっては不満かなあ？	女性	60歳代
・多くの市民が利用するには、利用者の負担は増やさない方がよい。	男性	70歳代
・現状より利用者増加となった場合は、負担も増して可能と思います。	男性	70歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・使用したことがないので、よく分からないから。	女性	10歳代
・施設利用者の負担割合を増やしたら、利用者が減ると思うから。	女性	10歳代
・負担を増やすことで利用者の減少が考えられるから。	男性	20歳代
・今まで比率を知らなかったため、かなり市が負担しているのだと思いました。私はほとんど施設利用がないが、利用している方たちにとっては使用料の増加についてご意見があると思うので、現状のままで良いのでは。	女性	20歳代
・税金が市民のために使われて還元されているから。	女性	20歳代
・市全体が負担する割合の高い方が、施設利用者に優しいから。	女性	20歳代
・災害や何かあった時にはなくてはならない場所だから。	女性	20歳代
・現状で不満はないから。	男性	30歳代
・あまり利用料について知らないが、今のままで経営できているのであれば、今のままでいいと思います。 ・しかし、利用料のUPは利用者は減ると思います。	男性	30歳代
・現状で不便さや不公平さを感じていないから。	男性	30歳代
・市外の人から使用料を多めに負担してもらっているなら、現状の割合で良いと考えます。	男性	30歳代
・市民としては使用料が安くなるのが有難いですが、利用者の秩序を保つためにある程度の使用料は取った方が良く思うから。	女性	30歳代
・私は利用していないが、使用したい人もいる。使用したい人のみの負担が増えるのを良いとは思わない。	女性	30歳代
・使用する人が払いやすい使用料であればいいので、利用者が今までよりも多めに負担しなくてもいいと思う。	女性	30歳代
・使用料を増やすと、小中学生が使用しにくくなり、さらに市税収入等の負担が増えることになると思う。	男性	40歳代
・運営に支障がなければ、そのまま良いと思う。ダメなら徴収する。(図書館にカフェを併設しても面白いと思う)(まず市内のカフェ1(ワン)グランプリを開催し、1位が1年間出店できる権利を与えられる等々)。	男性	40歳代
・利用者の負担を増やせば使用しなくなる。施設があるのにもったいない。	男性	40歳代
・よく仕組みが分からない。	男性	40歳代
・現状において、何の問題も生じていないから。	男性	40歳代
・近くにあれば利用しやすいけど、子供も利用しやすい様に情報・市報などで使用出来る事を教えてほしい。	男性	40歳代
・利用者の負担は多すぎると厳しいと思う。	男性	40歳代
・私はあまり施設を使用しないので施設利用者の負担割合を増やし、税収を減らすと言いたい所ですが、施設をよく利用する人の立場に立てば負担が大きくなるので、現状のままで良い。	男性	40歳代
・今までがそうであった為、不満に思ったことがないから。	男性	40歳代
・輕易に利用できるよう、利用者使用料は抑えるべきではあるが、利用していない(できる機会がない)人のことも考慮し、現行でよいのではないかと考察する。	男性	40歳代
・市が作った施設なので市民が負担する義務があるのは当然と思う。	男性	40歳代
・使用料が高くなれば、使用する人が減る可能性があるため、安く使える方がよいと思う。	女性	40歳代
・使用料を増やせば利用者が減るだろうし、減らせば市税が高くなるだろうし、今は何とも言えない。	女性	40歳代
・現状のままで良いが、どこで何を無料で使えるかを月1回ぐらいで別冊で各家庭に配布してほしい。わからないものも多い。	女性	40歳代
・施設を利用していないので、現状のままで良い。	女性	40歳代

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・施設を利用する人が少ないのであれば、施設利用を増やす方がいいと思いますが、コロナ禍ですので。今の現状は変わらないとも思います。	女性	40歳代
・みんなが利用できるので、利用者に負担を増やすのはどうかと…。	女性	40歳代
・利用はしていないが、公共施設はなるべく税金で維持した方が市民としては助かるため。	女性	40歳代
・一概に判断できないのでは？施設利用者が施設を利用して提供するサービスにより公共の福祉に寄与するものである場合等、利用目的により考え方は変わってくると思う。	女性	40歳代
・高すぎても安すぎても良くないと思うので。	女性	40歳代
・多くの市民に施設利用を広げるには、施設利用者負担が高すぎても低すぎてもいけないと思うため。	女性	40歳代
・使用料金が500円程度であれば、そのまま良いと思う。	女性	40歳代
・利用者の負担を増やすのは良くない。	男性	50歳代
・市民のための施設なので、使用する時の負担が多くない方がよいと思うから。	男性	50歳代
・（使用料を増やせば）施設利用者が減る事になると思う。	男性	50歳代
・受益と負担の関係から、今の割合でよいと思います。	男性	50歳代
・使用料が高くなり、その為に利用者が減ってしまうことを危惧する。	男性	50歳代
・利用しやすいように。	男性	50歳代
・施設を利用したことがないので分からない。	男性	50歳代
・利用しないので分からない。	男性	50歳代
・利用していないので、よく分からない。	女性	50歳代
・今はコロナ禍で利用する事が無い。子供が大きくなると、なおさら施設収益が出ないので致し方ないと思う。 ・民間にまかせても難しいので、市と市民と企業とで運営をしてみてもどうか？	女性	50歳代
・今まで負担に思った事はない。	女性	50歳代
・市の財政が豊かであれば無料が良いですが。	女性	50歳代
・いろいろな人たちが集う場は必要だと思います。負担が大きいと利用出来ない人もいると思うので、たくさん利用していく為には税は使って良いと思います。 ・適正な使い方は必要と思います。ボランティアをしたら、行きたい施設のチケットもらえるとか、映画券もらえる、クオカードもらえるなど、人の居場所(役に立っていると思える場)も、そこにプラスされたらもっと良いと思います。	女性	50歳代
・現在に問題がなければ！！	女性	50歳代
・あまり利用した事がないため分かりません。	女性	50歳代
・利用してないので分からない。	女性	50歳代
・増減の必要はない(なくていい)と思う為。	女性	50歳代
・無料に近い状態だと電気など使いすぎる現象が起きるような気がする。無料だからこれくらいとか、安いからこれくらいいいだろうという負の連鎖が起きそう。	女性	50歳代
・利用者が利用しやすい。 ・財政難で閉館したら困るので、その時は増やさざるを得ない。	女性	50歳代
・考えたことない。理由もない。	女性	50歳代
・安くしないと利用者が減りそう。	女性	50歳代
・市民間の交流の場・体力健康作りの為にいいと思う。	男性	60歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・利用者が使いやすい。	男性	60歳代
・現状で問題ないから。	男性	60歳代
・現状において不満はない。	男性	60歳代
・利用者負担があまり増えれば、せつかくの施設利用がしづらくなる。	男性	60歳代
・5%程度は仕方ないから。	男性	60歳代
・色々な経緯を経て今の割合に落ち着いたのだから。	女性	60歳代
・施設利用者が負担額について高いと思わなければ良い。	女性	60歳代
・施設を利用していないので無関心だが、市税収入を他に回した方が良いと言う所があればそちらに。 ・本当に利用したい施設であれば、多少高くなっても利用すると思う。逆に、少しでも高くなると利用をやめるという事もあるが。	女性	60歳代
・利用していないので分かりません。	女性	60歳代
・どうせ意見が通らないから。	女性	60歳代
・施設利用者に負担がかからない料金なので良いと思う。	女性	60歳代
・もうしばらく現状を維持した方が良いと思う。	女性	60歳代
・利用者の負担軽減のため。	女性	60歳代
・利用者の負担を上げてはいけない。	女性	60歳代
・負担を増やせば、利用者が減る。	女性	60歳代
・使用料を増やせば利用回数や利用者が減るかもしれないし、市民税を上げないと維持できなくなる。	女性	60歳代
・利用した事がないので分からないので、現状のままが良いかな？	女性	60歳代
・利用した事がないので分からない。	女性	60歳代
・高齢者雇用拡大の為に、維持管理等の働き場が少しでもあればと思う。使用料には異議なし。	男性	70歳代
・これらの施設は市民の健康維持・向上が目的であると思う。この使用目的からより多くの市民が利用すべきであり、選択肢1・2であれば使用者の減少につながる。 ・維持管理費としての収入を増やすには、使用人数・回数等を増やす方法を検討すべきである。	男性	70歳代
・コロナ感染拡大で利用者も減っている中、本来なら増やすべきだろうが、しばらくは現状のままが良いと思う。	女性	70歳代
・利用していませんので分かりません。	女性	70歳代
・現在、利用していない人でも、のちのち利用するかもしれないので、民間のものより安く保ってほしい。	男性	無回答
【公共施設を「無回答」と回答した人】		
・使用料が増すと、利用者が少なくなる。	女性	70歳代

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
■ Q38. 施設利用者の負担割合について「どちらかといえば減らすべき」と回答した人の意見		
【公共施設を「週1回程度利用している」と回答した人】		
・ちゃんと市民税支払っているの、その分で少しは賄ってほしいです。	男性	60歳代
・老人の使用が多いのため免除して下さい。	女性	70歳代
・冷暖房費が非常に高い。	女性	70歳代
【公共施設を「月に複数回利用している」と回答した人】		
・気軽に使いやすいように。 ・安すぎると乱用になるが、条件付きで無料など。	女性	30歳代
・税金を納めているから。	女性	40歳代
・年を取っているの。	女性	70歳代
【公共施設を「月に1回程度利用している」と回答した人】		
・コロナなので特別な限り、負担は市にお願いしたいです。	女性	50歳代
・多くの人が利用出来るのが市民施設の目的では。	女性	70歳代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・高齢者だけ安い為。	男性	30歳代
・高い。	男性	30歳代
・現在はコロナ等で収入減の方がいるから。	男性	40歳代
・利用頻度が増える。	男性	50歳代
・より多くの利用者が有るかも。	男性	50歳代
・普段、利用することはないけど、避難所として利用することはあるので、誰でもどこでも利用出来るように市税等をもう少し増やしてでもきちんと維持してほしい。今のご時世、親戚の所に避難しにくい人も多いと思う。特に年寄りを抱えている者は、周りに知らない人の所が気楽なコトもあるので。	女性	50歳代
・市民全体が負担する市税収入等で一度払っているの。 ・利用者の負担を少なくした方が利用が増えると思う。	女性	50歳代
・市民の施設利用が少ないのならば、より利用を促した方が良い。	女性	50歳代
・市の施設利用がしやすくなるから。プール施設が1日県南婦人会館から無くなってる現象。泳げる施設が欲しい。コロナが収束した時、コンサートが開催でき、HKT48や山下達郎さん呼んで欲しい(水都やながわ)。なお、身障者は無料にして欲しい。	男性	60歳代
・ホール使用料が高い。もっと安くして、利用頻度UPが結果的に良い。	男性	60歳代
・多くの人が利用しやすい様に。	女性	60歳代
・維持管理経費(1年間)、使用料金がわからない。	男性	70歳代
・皆様が気軽に使用できる様。	女性	70歳代
・なるべくたくさんの人達が気兼ねなく利用出来る様になるのではないかな。	女性	70歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問 38）

主な記述内容	性別	年代
■ Q38. 施設利用者の負担割合について「減らすべき」と回答した人の意見		
【公共施設を「週1回程度利用している」と回答した人】		
・税金を払っている。	無回答	無回答
【公共施設を「月に1回程度利用している」と回答した人】		
・市民の所有物と考える為、市民全体で負担するべき。	男性	40歳代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・コミュニティー施設を利用したく電話した所、「その時間に出て来ないといけなくなるので」という理由で断られました。それがあなたたちの仕事ですよ？	男性	30歳代
・利用頻度は少ないので立場としては、負担割合を増やすべき。街の活性化を考えると施設利用者を増やすべき。	男性	30歳代
・子供が利用しているようであるが、子供にとっては負担になる(中学生)。	女性	40歳代
・利用しやすい環境を作ってほしい。 ・お試しクーポンなど広報を行い、市民の理解を深めることが優先では？	女性	50歳代
・利用者が増えると思う。	女性	50歳代
・使用料が減らされた場合、利用が増し柳川の文化向上につながるものと考えます。	女性	60歳代
・みんなが自由に利用出来る。	男性	70歳代
・市民の利用者に負担をなくす為。	男性	70歳代
・孫が高校生2人いますが、今のコロナの中に運動や外出もままならず施設へ時々行っています。が、自分の小遣いが少ない時は親にもらい、家の仕事を手伝ってアルバイト代をもらった中で自分で出している。これはどこの家庭も一緒だと思います。	女性	70歳代
・利用者の負担を減らして、その分を市税収入で賄えば、利用者が増えるかもしれないので。 ・普段、使う人は安くなるとより利用しやすいし、使わない人も自分の税金から引かれていると思うと、使わないと損した気分になりそうだから。	女性	70歳代
・負担割合を増やすと利用客が減ると思う。	女性	70歳代
・利用者が増えるように。	女性	70歳代

市民が利用する施設の維持管理経費の負担割合についての理由（問38）

主な記述内容	性別	年代
■ Q38. 施設利用者の負担割合について「無回答」と回答した人の意見		
【公共施設を「週1回程度利用している」と回答した人】		
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がどのような個人、団体が使用しているかわからない。 ・市の為の団体なら無料、個人の為なら有料(10%位すべきでは、もったかな)。 	男性	70歳代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
<ul style="list-style-type: none"> ・まず5%と95%の負担割合が何を意味するのか、ダイレクトに記載されておらず？であるが、①利用者が少なく、市民全体の負担が高い＝稼働率が低く、無駄に維持費がかかっているの意？②使用料収入が他の市町村に比べ異様に低い意？①ならばまずは利用者の負担割合を上げるべきであろうが、市の活況、人口問題等、事は単純ではなからうことは想像可。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の使用料とかわからないので、何とも言えない。 ・公共施設がどんなのがあるのかも知らない。 	男性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・使用料は安い方がいいですが、柳川市の財政を考えると現状のままがいいと思う。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公共のための利用は税収入で賄って良いと思う。個人的私用目的は利用料を個人から頂いてもいいと思う。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・負担出来る所得の有る家庭、出来ない家庭が有ると思う。 	女性	60歳代

IV. 参考資料

(4) 市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由 (問 39)

問 39. 市民が利用する施設での使用料免除制度についてどう思われますか。また、理由をご記入ください。

記述内容は以下の通り。

主な記述内容	性別	年代
■ Q39. 市民の使用料免除制度について「通常の使用料を支払うべき」と回答した人の意見		
【公共施設を「月に複数回利用している」と回答した人】		
・社会教育団体と言っても、仲間同士5~6人の団体がある。そういった団体が無料で使用するのはおかしい。	男性	60歳代
・使用料を免除している理由が分からない。	女性	70歳代
【公共施設を「月に1回程度利用している」と回答した人】		
・使用料負担が税込5%とのことで、高額になると思わないので。	女性	40歳代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・全員平等にするべきです。そこで利用者の状況において変化させるのはおかしいと思います。	女性	10歳代
・団体だからといって全額免除は不公平だと思うから。	女性	30歳代
・公益団体や社会教育団体が全額免除の理由を知りたい。何故？	男性	30歳代
・なぜ利用者の負担が少ないのか分からない。税金で管理運営しているのであれば赤字ばかり増えるだけなのに。市の負担になっているのであれば委託し、様々な活用法を見出せる方に運営していただく方が良いかと思います。	女性	30歳代
・使用する人の使い方次第で施設の状態が変わるので責任の分は負担してほしい。	男性	40歳代
・使用するのだから支払いましょって感じです。	女性	40歳代
・使用しているので平等でいいと思う。	男性	40歳代
・公平性にかけると思う。	男性	40歳代
・使用していない方の税金が使用される為。	男性	40歳代
・皆、一般の人は支払っているのと同じでも良いと思う。そんなに高くないので…。	男性	40歳代
・どのような理由で全額免除なのか分からないので、○ではなく△なのですが、問6ではありませんが、市民の意に基づいたものでしょうか。逆に不公平が生まれているかもしれません。	男性	40歳代
・なんでも税金で賄うのはおかしい。関係がない人の税金が上がるだけ。	男性	40歳代
・使用しない人にはメリットがない。	男性	40歳代
・市の支出を減らすべき。	男性	40歳代
・公平性を保ちつつも、良好な教育についての取組みとして、教育団体のみ免除がよいと考察する。	男性	40歳代
・受益者負担。	男性	40歳代
・市の財政に余裕はない。	男性	40歳代
・ただでさえ安い使用料なのに、免除にする理由がない！！	男性	40歳代
・公益団体等も運営資金はあるはず(寄付金等)。公共施設を利用する時、使用料支払うのは当たり前です。優遇される方がおかしい、平等でいいはずです。	男性	50歳代
・使用する事に変わりはないので、負担した方が平等感がある。	男性	50歳代
・平等を保つ為。	男性	50歳代
・少しでも税金が安くなるよう、支払うべきであると思う。	女性	50歳代
・使用の目的(内容)で変わった方が良いと思う。	女性	50歳代
・施設の全額免除制度があるとは知らなかった。そういう団体こそ、使用料を支払い、公平性を保つべきだ。	女性	50歳代

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・利用が多くできる方々と全く利用できない方々との不公平を感じるから。	女性	60歳代
・当然だと思う。	男性	60歳代
・施設の維持費に市民税が多くかかるなら、市外の団体は有償であるべき。市内の団体なら、減免も構わないが。維持費かかるなら市税で賄うべきではない。市外団体に忖度する必要はない。	男性	60歳代
・団体等が多く料金を払うべき。一般の人が高すぎる。	男性	60歳代
・ちゃんと使用しているのだから、支払うべきだと思います。	女性	60歳代
・適切な料金を払って欲しい。	女性	60歳代
・利用者負担。	男性	60歳代
・不公平です。	男性	60歳代
・使用する以上は、支払うべきでは。	女性	60歳代
・公平に負担すべき。個人も団体も皆同じと思います。	女性	60歳代
・受益者負担が基本。 ・低所得者は、利用するヒマが無い。	男性	70歳代
・使用料は支払うべきと思う。	男性	70歳代
・維持管理費が相当な額と思うから。	男性	70歳代
・できるだけ使用する者が使用料を負担すべきである。	男性	70歳代
・使用する人、使用しない人がいる為。	男性	70歳代
・利用した分、支払うべきだと思います。	無回答	無回答

IV. 参考資料

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
■ Q39. 市民の使用料免除制度について「使用料は減額するが、一定程度の使用料は支払うべき」と回答した人の意見 【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・理由は問38と同じで、使用する方が少し減らしても支払った方が納得出来るので。	女性	30歳代
・全額免除をしている理由次第だと思うが…。でも、少しぐらい払ってもいいのではと思う。	女性	30歳代
・少しでもいいので支払うと、少しの利益になるのではないか。	女性	30歳代
・少しでも次世代の子どもたちに使って下さい。	男性	30歳代
・理由付けはどうしても言えるので、賢い人が得をするのではなく皆平等でよいはず。	女性	30歳代
・市民税を納めている立場からすると、全額免除は公平性がないと思うので納得できない。	女性	30歳代
・非営利団体なので一部は免除、減額してもいいと思うが、利用回数などによっては負担すべき。	女性	30歳代
・内容にもよると思うので何とも言えないが、やはりこれも問38と同じで利用する人、何かを行う団体とそれを見る？ 聞く側にはメリットがあるかもしれないが、利用しない(施設を)人にとっては、市民の税金が増える気がする。	女性	30歳代
・いずれは支払金が必要となってくると思う。	女性	30歳代
・全額免除で施設がそのまま維持などできるのであれば免除でもいいと思うが、経費を減らしたいのであれば、一定の料金支払いをお願いするべきと思う。	女性	30歳代
・この団体の名目なら免除だから、とするのではなく、使用に対する対価は大なり小なりある方がよい。まっとうに支払っている者にすれば、活動内容が同じである場合に不利益であるのでは。ワークショップex.陶芸教育など母体が違うけど、利用者からするとやることは同じなものがある場合、公益団体はあまりコストかからないが、個人利用だとかかるということになり、芸術活動など活性化の妨げになるのでは。	男性	30歳代
・維持、使用のためには必要なのでは…。	女性	40歳代
・何にしても、全額免除については反対です。使用するのであれば、少しでも負担すべきだと思います。	女性	40歳代
・免除せず、同団体により年間一定以上の利用があれば、一定額の徴収をするという方法は？どうでしょう？	男性	40歳代
・「使用する」という目的は同じなので、少しの負担があってもいいのかな…。	女性	40歳代
・全体的に使用料を上げるなら、公益団体、社会教育団体も一定程度負担を増やしてもよいのではと思う。	女性	40歳代
・近隣の市町と合わせていくべきと思うが、施設の利用頻度毎に分けてもよいのかと思う(頻度小→高額、頻度大→低額)。	男性	40歳代
・全額である必要はないと思う。	女性	40歳代
・一律とはいかなくとも少額でも負担はすべき。	男性	50歳代
・施設維持のためには必要と思うから。	男性	50歳代
・料金0より、一部の方が互いに意見が出やすい。	女性	50歳代
・使用する者が払えばいい。	女性	50歳代
・もう少し利用者が負担しても良い。市の負担(借金)が多い。	男性	50歳代
・施設利用者の負担割合5%は少なすぎだと思います。仕事をしていると、市の施設を利用する機会はありません。利用する人がもっと負担すべきだと思います。	女性	50歳代
・市民の利用との違いがあまりよくわからない。	女性	50歳代
・公益であっても少し支払う方が有難味を感じる。	女性	50歳代
・使用料を免除する判断を団体名で行うのではなく、使用目的・内容を判断基準にした方がよいのではないかと。	男性	50歳代
・財政的観点から受益者負担を多くすべき。	男性	50歳代

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・“教育”の利用も子どもたちの点は免除にして、後は一定の使用料は大人だから支払って良いと思います(何かしらの収入がある為、年金だとしても…)	女性	50歳代
・市民ばかり料金を押しつけている。団体からも使用料を一定程度、受け取るべきです。	女性	50歳代
・全額免除を悪用されそう。	男性	50歳代
・市の財政の負担軽減の為。	女性	50歳代
・税の負担を減らすべき。	男性	50歳代
・税金のムダ使いは良くない。	女性	50歳代
・市税にてそれらは賄われているので、これからの高齢化社会において市税の増収は難しいから、そういう施設費の使用料は使う人が負担すべき。	女性	50歳代
・使用する人、団体は決まっています全員が利用していない。使用目的も納得させてほしい。	男性	50歳代
・全額免除ではなく、通常の1/2程度。エアコンは全額。	男性	50歳代
・使用の方が負担するのは当たり前かなと思います。逆になぜ市税収入で賄うのか、よく理解できません。柳川市民の特権でしょうか？うーん、必要かなあ。 ・それでも免除する理由があると思われるので、少額負担で。	女性	50歳代
・平等にすべき。	男性	50歳代
・使用しない市民との格差があるから。	男性	50歳代
・ある程度の使用料は払うべき。	女性	50歳代
・私用の目的で割合は変えてよいが、少しは払ってもよいと思う。	女性	50歳代
・市税収入等での負担は、利用していない人からすれば納得いかないと思う。	女性	50歳代
・時々使用する市民などは現状のままでよいと思う。クラブチームなど定期的(週2回、3回など)に使用する団体等は公平性の点から割高にするなど差をつけてはどうか。	女性	50歳代
・施設の大切さを考えてもらうため、無料だと利用が雑。	男性	50歳代
・市の財政状況を考えると、利用者負担を増やしてもよい。ただし、冷暖房費も含めて一定程度の使用料としてもよいのではないか。	女性	50歳代
・利用目的に応じて(公平性の高さ)、免除割合(減額率)見直すことも必要かと思う。	男性	50歳代
・免除した分を市民が払うのか！	女性	50歳代
・施設の管理には、誰が利用しても同じだから負担すべき。	男性	60歳代
・ちゃんと市民税支払っているのだから、その分で少しは賄ってほしいです。	男性	60歳代
・使用者が目的を的確に表示して、その通り実施しているかどうかによる！	女性	60歳代
・使用料は払って当然と考える。	男性	60歳代
・市税を大切に使用していただきたい。皆、ある程度収入があると思うので。	女性	60歳代
・多少の利用料を払うことで施設のありがたさや大切さを実感しやすい。	男性	60歳代
・全額免除にすると予約を多く入れ、簡単にキャンセルされるので。	男性	60歳代
・公平性の問題。	男性	60歳代
・問38同様ですけど、市民の一部が個人的楽しみ目的で、これ程市税負担が大きいのは問題かと…。市民への貢献活動なりあれば理解出来ます。	男性	60歳代
・団体割引の感覚で良いのでは？	女性	60歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】(つづき)		
・市税で支払いしてもらいたくないです。	女性	60歳代
・使用者の公平さをなるべく保つため。	男性	60歳代
・無料はよくないから。	男性	60歳代
・会場使用料は免除であるが、冷房費やコピー代は有料であり、合理性に乏しいと思う。利用者は前述のとおり、受益者負担として一定の使用料は支払うべきと思う。	男性	60歳代
・団体とか関係なく市民同様、平等にするべきです。	男性	60歳代
・公共団体、社会教育団体とはどんな団体なのか。減免措置は必要と思うが、一定程度の使用料は徴収すべき。	女性	60歳代
・市民全員に関する公益団体等なら。 ・一部の人への場合、通常の使用料金を支払ってもらう。	男性	60歳代
・やはり一定の使用料は必要と思う。	男性	60歳代
・特別の団体にはいろいろあると思うが、同和地区の集会所は差別をなくす目的で使用しているので差別がなくなるまでは現状のままで良いと思う。	男性	60歳代
・コロナで市の財政が悪くなるかもしれないので…。コロナがいつ終息するかわからないので…。	女性	60歳代
・市民として使用しているのなら、もう少し公平性があってもいいのでは？と思うから。	女性	70歳代
・やはり施設維持管理経費は税金で賄っているから。	女性	70歳代
・ある程度使用量も支払いをしないと市の財政も大変だと思います。使用者に対してあまり負担量がかからないようにしてもらいたいです。	女性	70歳代
・市の負担を減らすため。	男性	70歳代
・問38と同じ様に、利用者からも負担するべきだと思います。全額免除はひどすぎます。使用料の一部をご検討して下さい。	男性	70歳代
・市も少しは利益を得た方が良いのではと思います。	女性	70歳代
・施設を利用して、団体の利益を得るわけですから、一定程度の使用料は払うべき。	男性	70歳代
・「利用目的や利用者の状況に応じて」使用料の免除を行う、との規程は(問38)の通り、一定程度は有料であるべきだと思います。	男性	70歳代
・市民の負担を軽くする。	男性	70歳代
・維持管理を含むサービス向上のため。	男性	70歳代
・受益者負担。	男性	70歳代
・当然だと思います。	女性	70歳代
・市の維持管理費を軽減する為。	男性	70歳代
・予約のみ先行し、実使用しない団体が多く見られる。	男性	70歳代
・市民のため有益であれば、減額でも良いと思う(社会教育団体業の催し物など)。	男性	70歳代
・冷暖房の使用料を安くしてほしいと思います。サークルの月謝よりクーラー代が高いです。	女性	70歳代
・全額免除はよくない。予算が柳川市がたっぷりあるならよいのだが。	女性	70歳代
・公平を保つために。	女性	70歳代
・相互扶助の観点から、当然の事と思う。	男性	70歳代
・何でもタダより高いものはない。最後の付けは使用していない市民にまで波及する。	男性	70歳代

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
■ Q39. 市民の使用料免除制度について「現状のままで良い」と回答した人の意見		
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・利用しやすくなるため。	男性	10歳代
・今のままで何の問題もないなら、そのまま良いと思ったから。	女性	10歳代
・理由が明確ならよい。	男性	20歳代
・良い制度だと思う。	男性	20歳代
・公益団体等は営利目的の事業ではないので、現状のままで良い。	女性	20歳代
・現状のままの方が、市民もよく施設を利用すると思ったから。	男性	20歳代
・理由によると思います。	女性	20歳代
・私たちが生活していくためには少しでも安い方がいいから。	女性	20歳代
・特に困っていないため。	女性	20歳代
・現状で不満はないから。	男性	30歳代
・現状で不満がないから。	女性	30歳代
・特に弱い立場の方々は守っていく世の中になってほしいから。	女性	30歳代
・今まで通り。	男性	30歳代
・目的によっては使用料免除は妥当だと思う。	女性	30歳代
・現状で不便さや不公平さを感じていないから。	男性	30歳代
・公益団体、社会教育団体がどういう団体かわかりませんが、ちゃんとした団体であれば現状で良いと考えます。	男性	30歳代
・冷暖房費も免除してほしい。ボランティア団体など。	女性	30歳代
・教育には力を入れていただきたいので。	男性	40歳代
・運営に支障がなければ、そのまま良いと思う。ダメなら徴収する。(図書館にカフェを併設しても面白いと思う)(まず市内のカフェ1(ワン)グランプリを開催し、1位が1年間出店できる権利を与えられる等々)。	男性	40歳代
・全額免除はありがたい。	女性	40歳代
・何が問題なのかよく分からないので、現状のままで良いと思いました。	女性	40歳代
・この状況に問題があれば変えるべきだと思う。	女性	40歳代
・免除の権利は維持。	男性	40歳代
・特に損する事がなければ今のままで良いのかなと…。	女性	40歳代
・他の市町村でも全国的に見ればこのシステムを導入しているところは少なくとも、柳川市民へのサービス向上を打ち出している以上、この制度は撤廃すべきではない。	男性	40歳代
・公益団体などは、利益を追求する団体ではないので、利用料は免除で良いと思います。	女性	40歳代
・教育に関わる団体には免除でもよいが、もう少し細分化してもよいと考えます。	男性	40歳代
・なぜ免除されているのかわからない。	男性	40歳代
・問38に同じ、現在コロナのため人と人とのコンタクトが減り、特に子供たちは人と接する機会が少なすぎると思います。このような制度を利用して人が人と交わる場所が必要です。	女性	40歳代
・利用率をある程度上げないと、施設を作った意味がなくなってしまう。	男性	40歳代
・利用目的が適正であれば良いと思う。	男性	40歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・市に有益な活動を行っている団体がほとんどの為。	男性	40歳代
・団体は認定を受ける際に公益性の有無を判断されているはず。	女性	40歳代
・現状に合わせているので、このままで良いと思う。	女性	40歳代
・公益団体や社会教育団体がどんなことで利用しているのかわからない。	男性	40歳代
・市民の文化芸術活動の振興には、現状維持が必要。	男性	40歳代
・特に児童が利用しているので、柳川の子供達の教育活動がさらに活発になるよう、全額免除で良いと思います。	女性	40歳代
・公益等が目的であればよいと思う。	男性	50歳代
・公益団体、社会教育団体とは具体的にどのような団体か不明。	女性	50歳代
・教育団体等には、使用していただいて良いと思います。	女性	50歳代
・利用目的や利用者の状況が免除相当であるとわかる場合。	女性	50歳代
・市の財政が豊かであれば無料が良いですが。	女性	50歳代
・使用できる施設があるのだから、多くの方に利用してもらい利用者が整備等すれば、グラウンドや体育館等の施設は長く使用できると思う。	女性	50歳代
・現在に問題がなければ！！	女性	50歳代
・柳川市の財政が厳しいならば、減額をして、一定程度の使用料を検討するのはやむを得ない。	男性	50歳代
・今のままでも良いと思います。	女性	50歳代
・利用しないので分からない。	女性	50歳代
・施設を利用しないので分からない為。	女性	50歳代
・無料に近い状態だと電気など使いすぎる現象が起きるような気がする。無料だからこれくらいとか、安いからこれくらいいいだろうという負の連鎖が起きそう。	女性	50歳代
・利用者が利用しやすい。財政難で閉館したら困るので、その時は増やさざるを得ない。	女性	50歳代
・利用しやすいように。	男性	50歳代
・税の徴収や税の使途の問題点を解決するべき。	男性	50歳代
・利用者のための施設を立てているのだから免除で良いと思う。 ・冷暖房費は使用時間1～2時間は料金免除とかで、それ以上は支払ってもらう事にするのはどうでしょうか。 ・最近の暑さでは必ず冷房を使おうと思います。	女性	50歳代
・利益が出る団体ではないと思うから。	女性	50歳代
・公共の福祉のための利用であれば理にかなっている。	女性	50歳代
・目的に沿って利用されていけば良いかと思う。	男性	50歳代
・使用したことがないのではっきりわからない。	男性	60歳代
・利用者の受益性。	男性	60歳代
・色々な経緯を経て今の割合に落ち着いたのだから。	女性	60歳代
・福祉と教育、健康促進だから。	女性	60歳代
・どういう団体で有れ、一部負担はするべきだと思う。	女性	60歳代

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
<ul style="list-style-type: none"> ・都会と柳川のような田舎とは違います。 ・時間・人数の制限をして、利用できるようにして欲しいです。完全閉鎖は、趣味の継続ができないため生きる気力がなくなっています。お願いします。 ・公民館の利用解除も、少しずつの時間でもいいですので、お願いします。 ・何月何日何曜日の何時にサークルに行く！という生活のメリハリが、なくなっていました。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・多く利用してもらえれば良いと思うが、無駄な利用の仕方はしないでほしい。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の福利厚生の為、良いのではないか？ 	男性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・私的利用じゃないので、全額免除が妥当だと思いますよ。 	男性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・現状のままで良いのではないかと思います。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用しやすいように、現状のまま使用料免除でいいと思う。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・現状で問題ないから。 	男性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・現状において不満はない。 	男性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の負担が少ない事で使用する施設であってほしいと思う。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公平に税金は使うべき。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・問題がなければ、現状のままで良いのでは。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公共の利用は全柳川市民のための利用なので良いと思う。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が利用しやすい。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・私は利用した事がないけど、使用料を支払う事は大切に利用する事につながると考えます。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・経費が掛かりますから今のままで。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の多くの人が利用できる様にするため。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体や利用目的が適正なものであれば、免除はぜひお願いしたいです。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・年を取っているから。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・施設は利用されてこそ価値があるので。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・使用料を、負担を増やせば、使用率が少なくなる。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公益団体等の活動は、ボランティア活動によって支えられており、施設利用の負担は広めないがよい。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房費は減免じゃないから。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・施設を利用することはないので、何とも言えないが免除に越したことはない。コロナ禍の状況で利用することができないのではないかな。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・この制度を利用しています。とても助かり活動しやすいです。さらに、いろいろな団体が活動・発展できるため、現状で続けてほしいです。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・対象団体は、市民の社会性向上等が目的であり、利益が目的でないため、現状のままで良いと考える。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設は市民が楽しく利用し、生活を豊かにすることとしますので、利用者が負担が高くなればストレスを感じることに良くなりたくない。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・前にやってきた事で当たり前と想ってる。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・免除は当然必要である。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用頻度が低いなら使用料はなくすべきだと思う。 	男性	70歳代

IV. 参考資料

市民が利用する施設の使用料免除制度についての理由（問 39）

主な記述内容	性別	年代
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・公共施設は利用者に負担させるものではないと思う。しかし、財政を考えると利用者に今の使用料程度なら負担してもよいと思う。	男性	70歳代
・市民が使いやすくする方がよい。	女性	70歳代
・例えばどんな団体？	男性	70歳代
・個人より公益性のあるものに対しては安くしていいと思います。	男性	無回答
・利用者は少なくとも、恩恵を受ける団体があってもよいと思う。	無回答	無回答

主な記述内容	性別	年代
■ Q39. 市民の使用料免除制度について 無回答の人の意見		
【公共施設を「利用していない」と回答した人】		
・冷暖房費も免除してほしい！！ボランティアでの活動の為。	男性	50歳代
・全額免除を受けている団体は何？ ・全額免除を廃した場合に、市の支出負担はどうなるのかがわからない。	男性	50歳代
・特に利用しておらず関心はないが、免除を受けられるものは受けられる制度を活用すべき。市民への負担はいかなるものでも少なくしてほしい。	女性	70歳代
・冷暖房費が高い。	女性	70歳代

IV. 参考資料

(5) 柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

問 42. 柳川市のまちづくりについて、ご意見等があればご自由にお書きください。

記述内容は以下の通り。

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】		
・夜、電球（明かり）がないところがある。危険や恐怖を感じたことがあるため、増やしてほしい。	女性	10歳代
・他の市に比べて、行動や判断が遅いと感じています（色んな事に対して。特にワクチン接種の件など…）。	男性	20歳代
・川下りの堀の水を綺麗にしてほしい。 ・高齢者の自転車走行で車道の逆走、突発的な横断、車道の中央部を走っている方が多いので、事故に遭いそうで怖いです。特に、西鉄柳川駅周辺でよく見かけます。正直、逆走される方には自転車に乗ってほしくないです。	男性	20歳代
・市役所の人たちについてですが、窓口に立っても誰も目を合わせようとしなないのは、来庁している身としてはちょっと気まずいので改善してほしいです。	女性	20歳代
・大和郡と柳川市の合併後、旧柳川市のみ手を入れているように感じています。地域差別を感じているので、改善することはできますか。	女性	20歳代
・「やなぼ」を使える店をもっと増やしてほしい。	女性	20歳代
・運動公園があると、健康の保持・増進に良いと思う。	男性	30歳代
・観光客等、他の県や市から来る方々に対してのサービスに焦点を当てるのではなく、現在生活している市民に焦点を当ててほしい。子育て、コロナ対策、高齢化問題などを充実させてほしい。	男性	30歳代
・治安の事とか、全体的な事を考えれば老後、住みたいとは思わない。近隣（大川、大木、みやま）に比べれば動きが遅すぎる。	男性	30歳代
・観光をメインにしているが、街路樹の整備や清掃、草取り等をしていかないと、景観を損ねていると思われる部分があり、もったいないと思います。	男性	30歳代
・沿岸道路のハーフィンターが使いにくい。 ・堀割の水は年間通してきれいにするのは難しいのですか？ ・学校の再建は子どもの教育だけでなく、マイホーム購入にも影響する。早期に進めてほしい。予定ではどうなっていますか？	男性	30歳代
・もう少し市民への還元がほしいです。近隣の市に比べると、コロナワクチン接種の開始、子育て世代の利用施設の建設などが遅れていると思います。 ・街並みは以前よりきれいになりつつあるが、それに伴うコミュニティはまだ整っていないので、今検討されている内容を市民の要望に合うように対応して頂いて、実現してもらいたいです。 ・コロナによる市の観光業・飲食は、赤字になっているので、その方々への独自の補助をしてほしいです。	男性	30歳代
・様々な相談をさせて頂く際、業務上知り得た内容をプライベートな場で話されるのではという不安があります。以前、知り合いより、市役所勤めの方が（もちろん私も知ってる人です）、「〇〇さんのお父さんは××勤務で年収が△△くらい」というのが分かる内容が話されていると伝え聞き、明らかに市役所に勤務していないと分からない話（接点がそんなにないのに年収なんて話さないでしょう??）だったようで、提出する書類も、相談したい内容も、きっちり守っていただきたいです。当時（3～4年前）市役所に投書するか相当悩みましたが、やはりお伝えすべきと思い書かせて頂きました。現在もお勤めでいらっしゃるので、皆様（一部ですね）の法令順守とモラルを向上させるべく、ダメよ、と言い続けて下さい。	男性	30歳代
・隣国を見下す人が多いと感じます。今後のインバウンドの為にも改善できたらと願っています。子供たちの交流などできるといいです。 ・福岡市観光案内所で働いたことがあります。観光地としては抜群の魅力があり、柳川駅のリニューアルや川下りの乗り場が駅のすぐそばになる等、嬉しく思います。 ・柳川でしか買えない、とてつもなく美味しいお菓子を作ってほしいです。パッケージがオシャレで高級感のある洋菓子がいいです。越山もちも好き嫌いが分かれます…。 ・福岡市コンベンションビューローがやっていた通訳ボランティアを集めて、クルーズ船来航の日など観光地や飲食店にスタンバイさせておき、海外のお客様をもてなせるといいなと思います。学生が参加すると大変勉強になります。	女性	30歳代
・柳川市内の歩道の所をなるべく市道にしてほしい。この家では後々の補正・修理など難しく、負担が大きすぎるし、不公平だと思う。その辺をしっかりと市の方で考えて頂きたい。生活自体に支障が現在出ている。	女性	30歳代
・柳川をもう少し盛り上げるには、シャッター商店街をどう活用するか！観光客の泊まる宿にしたり、お店を出したりした方がいいと思う。今の柳川じゃ少し不安です。	女性	30歳代
・暴走族を無くして欲しい。子供が泣いて起こされるのに何も出来ない。撲滅に取り組み、住みやすく過ごしやすいしてほしい。	女性	30歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
・選挙の時だけ目標をかかげた選挙活動をやめて欲しい。普段から伝えればいいし、何よりうるさすぎて仕事に非常に支障をきたす。	女性	30歳代
・子どもの遊び場が少ない。	女性	30歳代
・掃除に力を入れてきれいな市になればいいですね。	女性	30歳代
・カラスが多くて、道路が汚い。	男性	40歳代
・市役所職員がきちんと対応してくれない時がある。よく分かってない職員も多々いらつやる。困る。	男性	40歳代
・御花や川下りなど、一部の観光に偏った方針を止めるべき。	男性	40歳代
・観光都市として、魅力ある<まちづくり>をして欲しい。しかし、観光業に関係ない仕事をしていると、熱くならない。一部で盛り上がっている感じがある。 ・企業誘致や子育てで世代を増やして、人口の減少を止める政策を打ち出して欲しい。	男性	40歳代
・魅力あるまちづくり、特に若い世代が住みやすいまちづくりをお願いします。	男性	40歳代
・公務員の人数と収入を大幅に減らす。	男性	40歳代
・地域の運動会を中止もしくは別の物にして下さい。高齢者が多く、若い者に全て負担がきています。ひどい時は参加者がいなくて新参者や気の弱い世帯に押し付けられている状態は把握されていますか。もう昔みたいに若い世帯が多い訳ではありません。参加しないと陰口を叩かれ、会う度に嫌味を言われる。こんな市に今の子供達が住みたいと思いますか。はっきり言って、まじめな世帯が損しています。改善されないなら退去も考える所です。とにかく若い世帯の負担を減らして下さい。	男性	40歳代
・より住みやすい町、他県や他国の人々に自慢できる様な町、高齢化社会問題も大切な事ですけど、少子化問題が一番対策が必要だと思います。国、県、市、人口減少していく事が一番の不安です。	男性	40歳代
・問10、問11に関連するが、故郷の歴史や伝統、史跡等について気軽に聞ける勉強会(研修会)等が開催されている(?)なら、ぜひ聴講してみたい。 ・主要道路が交わる交差点や交通量の多い所には、右折レーンや道幅拡張を設ける。目的地への到着がスムーズであれば、住みやすい街、整備された街の自然なイメージがつき、職場やよく利用する施設の近くに住む必要がなくなる。新しい道路を造らず、そういう所にお金をかける。逆に交通量の少ない箇所の信号機を減らす、ムダです。一例として、古賀(信号)と本城町間は信号が多すぎ！こういう所が住んでいる者の町に対する見えないストレス不満である。これからの時代も、交通網関連の整備は必須です。 ・新築を建てる方や移住者等に、もっと補助制度を手厚くする。また、空家を利用し、新しい世帯や移住者にリフォーム費用等も同じです。 ・「燃やすしかないゴミ」等、ゴミ環境への対応はすばらしいと思います。	男性	40歳代
・観光を目玉に宣伝している部分が中途半端。 ・住みやすさは住んでみないと分からない。 ・人は良し！！	男性	40歳代
・人口が減るならば、それに合わせて施設も減らすべき。今あるものを無くすのは大変だと思うが、是非やるべき。	男性	40歳代
・全国に誇れる柳川です。行政に関わるスタッフは、自信を持ちもっと積極的に10年、20年、30年を見据えてまちづくりをやらなければ柳川の人口は減少するだけ。20代、30代、40代の行政マンは何をしているのか？上司の顔を伺いながらの仕事は意味がない。机とイスをあたためるのではなく、もっと“街”に出向いて、市民との交流をすべきではないでしょうか？私たちのまちは、私たちが作って行きましょう。人づくりは街づくり。街づくりは人づくり。市役所の中にいてもまちはよくなりません。水と人とまちが輝く柳川の実現に向けてスピーディーに早くしないと。	男性	40歳代
・全体的にある程度のレベルの行政だと思うが、市内・外、両方ともにアピールするようなインパクトのある発信が出来る取り組みがない。もっともっとセンスがある行政運営をやってもらいたい。	男性	40歳代
・柳川庁舎から夢モールまでの直線で結ぶ道路を早期に作ってほしい。	男性	40歳代
・妻の意見ですが、午後5時のサイレンの音量にびっくりすることがあるそうです。住んでいる場所によって差があるとは思いますが…。	男性	40歳代
・ムダなコミュニティセンターより、温水プールの方が必用で役に立つ。 ・新しい公民館はムダだったと思う。	男性	40歳代
・箱物行政はやめてほしかったが、ここ10年でずいぶん新しいものができました。今後、数十年に渡り自宅もそうですが、借金に苦しんでいけないといけません。	男性	40歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
・城のはりぼては、大変恥ずかしくやめてほしい！！続けるなら本格的に城を建てるため努力すべき。東京からの方に見られ、大変恥ずかしかった(本気で変と言われた…)。大河にとまるとネックになるくらいに思っている。	女性	40歳代
・川下りなどはいいと思うが、川が汚いと思う。 ・中途半端な風情。なかなかもったいない。あと一歩足りない。 ・買い物する所も少ない。税金が高い。	女性	40歳代
・コロナになって、現在の観光にだけ頼る柳川市ではダメな事がはっきり分かったと思います。 ・大河ドラマ招致をして、その5年後・10年後、どうなるのかきちんと考えてあるのでしょうか…。不安で仕方がないです。 ・子どもたちの未来を見据えたまちづくりをお願いします。 ・教育の充実(学力だけじゃない)、若者が離れたくない魅力的な街。柳川で一生涯過ごせるビジョンが描けません。	女性	40歳代
・市役所に平日行けない人のために、土日にも利用できる日を増やしてほしい。マイナンバーの引き取りの際、予約が取れず大変だった。	女性	40歳代
・西鉄柳川駅のところに川下りができるが、それよりも駅送迎車が待機できる場を増やしてほしい。雨の日の夕方など、ロータリー周辺道路が渋滞して見苦しい。	女性	40歳代
・市役所の職員さんが昔に比べれば利用者への接する態度がよくなった。が、まだ一部対応がよくない職員さんもいるので、市民に対する態度をよくしていただきたい。 ・コロナ禍にて経済面でも先が見えず、色々と不安です。 ・コロナで自宅療養になった場合など、自宅待機分の食品(食料、飲料水)の配給など、色々と検討して頂きたい。 ・状況によっては、昨年行われた子供のいる世帯への援助も検討してほしい。市県民税が高すぎ！！	女性	40歳代
・観光に力を入れているのは分かりますが、もう少し住んでいる人達が日々安心して楽しめる町づくりを目指して欲しいです(公園の整備など)。	女性	40歳代
・町にのぼりや、市議会議員の看板が多過ぎる。景観が美しくないので辞めて欲しい。おもてなしを、のぼりや、バッジなどで作ってアピールするのは好きではありません。教育の時間を持って伝えて欲しいです。	女性	40歳代
・TVで柳川(川下りの様子)を見た時に街の風景がグレー(灰色)に見えました。あまり良く感じなかった。改めて見るとグレー多いような…。 ・観光も大切ですが、市民(特に老人←高齢者)が住みやすい街になってほしいです。 ・沖端にマミーズがありましたが無くなってしまい、出来れば商店街の品なども扱うスーパーマーケットを作ってほしい。意外にみんな困ってます(特に老人←高齢者の方々)。	女性	40歳代
・何事も中途半端。 ・公園も商業施設も道も。 ・柳川は葬儀会社と病院の町です。	女性	40歳代
・公園やスライダーなどがあるプール(外、屋内)できたら絶対いいと思います！！	女性	40歳代
・図書館の本が、古い本が多いと思います。いつ行っても代り映えない本や古い時期に発売された本が並んでいます。蔵書の見直しをしてほしいです。	女性	40歳代
・三斤舎同じ対応をお願いします。それは柳川、大和など。	女性	40歳代
・道路の草刈りをしてほしい。 ・カーブミラーを増やしてほしい。	女性	40歳代
・商店街の路上駐車やクレーク沿いの草が生い茂っている場所等、子供や高齢者にとって、特に危険な箇所の整備をお願いします。	女性	40歳代
・観光のまちづくりである前に、市民が生活しやすいまちづくりであるべきと思う。 ・特に、西鉄柳川駅前まで堀割を引き込むという事については、生活する市民にとって必要なのか疑問に感じる。 ・堀割を引き込むことで、地盤や交通にリスクを生じないのか心配する。	女性	40歳代
・人口減に対する策をよく考えて。	男性	50歳代
・水路、道路が悪い。	男性	50歳代
・市が稼ぐ事も考えてほしい。	男性	50歳代
・コロナ禍において、柳川市のまちづくりも大変な事が多いと思いますが、市全体の景気や雰囲気为上向くような、行政だからこそ出来る施策に取り組んでいただき、柳川の人口が増え、より良くなってゆく事を期待します。	男性	50歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
<ul style="list-style-type: none"> ・一極集中の観光事業の打破。 ・あまりに観光事業、財源が沖端地区に偏りすぎ。殿様の元にしか財が集中しておらず愚策。そこにしか頼らねばならぬものなのか、頼るように仕向けられているのか。このままでは、人口減も相まって、市の行く末はジリ貧。柳川＝川下りと御花とうなぎだけ！殿様商売は柳川を減ぼす。 ・近隣市町村に勤務して分かったことは、合併市町村であっても、合併先の町村を大切に、それぞれの市町村の観光資源を大切に、特色を出し、全てのエリアでフルパワーの観光事業を推進している。 ・久留米市＝田主丸、三瀬とも独自の観光色を持ち、福岡市エリアからの来訪者の多さは…。 ・八女市＝合併前の各町村の特色が各々際立つ。5つのエリアが色彩の異なる魅力で輝いている。こちらも福岡市エリアの来訪者が多い。 ・これに比べ柳川は、三橋町・大和町の魅力を十分引き出せているのか？柳川市内であっても、話題は沖端だけ。両開・昭代・蒲池はいつでも蚊帳の外、眼中に無しではないか。ALL柳川でフルパワーで魅力ある観光事業に取り掛かるべき。沖端だけの観光事業は、はっきり言ってワンパターンでおもしろくない。 ・特産品の「海苔」の扱いも、ほとんどギャグの乗りで「海苔」の良さが活かしきれず、迷走甚だしいことは、もう分かっているのでは？ ・堀割は市内以外は湾岸工事で趣きは既になし。風情を殺している。 ・観光資源は決して悪くない。有明海（雲仙など）、平野の明るさ、豊穡さ。筑後川沖。 ・蒲池の歴史、筑後全体、立花だけに非ず、田中吉政しかり。すべて立花への忖度？ 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・カラス、スズメ、野鳥のフンに困っている。駆除をしてもらいたい。 ・農道等の雑草が生い茂っている。 ・農家の野焼きを注意(禁止)してほしい。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・休みの天気の良い日に、ゴミ(プラスチックなども)を燃やす人がいます。洗たく物、布団をいっぱい干したいのに干せません。何で、自分勝手に近所迷惑と思われぬ(思わない)人が柳川市に居るなんて、残念です。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・皆が住み良い市にしてもらいたい。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・一部の人、団体の為でないまちづくりを。 ・柳川に生まれて、自慢の出来るまちを作ってもらいたい。市民ファーストをお願いします。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・矢部川沿いの道路の草刈りを頻繁に行ってほしい。現在、1.5m以上ある為、対向車とぶつかりそうになった。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅近くの川沿いで、ごみの不法投棄が多く、見る度に不愉快になる。何とかして欲しい。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・今年、妻の実家がある柳川市に引っ越してきました(実家には住んでいません)。 ・柳川駅周辺は、お店もあるし普段の生活に不便は無いのですが、人が少なく寂しいです。市は若い夫婦にマイホーム取得支援事業を行ったり、東京からの移住者のみに移住支援を給付するとしていますが、年齢、収入、前居住地を限定せず、柳川市に永住したい人全員平等に支援してくれたらいいのと思います。就職の関係で若者が都会に出たり、子育てが一段落した人も将来の事を考えて、便利な都会に住みたいと思っている人もいると思います。このままでは将来、柳川市全体が過疎地域になるのではないのでしょうか。我が家も、終の棲家をどこにしようかと考えているところです。柳川市は地理的に、熊本、大分、佐賀など、いろいろな所に行きやすいと思うのですが(車の場合)、西鉄の特急も少なく、バスの便も少なく、不便と思う事もあります。コストコやイケアなど人気の大型店舗などが出来たら、遠方からも人が来るし、柳川に住みたいと思う人も多くなり、活気づくのではないかと思います。しかし、最近熊本御船にコストコが出来たので無理ですね…。九州では3店舗目になるので…。九州では、福岡市だけが人口の一極集中をしており、駅近のマンション購入も価格が高いです。柳川市は、久留米市より水害も少なく、のどかな景色もあり、特急電車で一時間もかからず福岡市に行けるので、福岡市に通勤する人達のベッドタウンを目指したらどうでしょうか？人が人を呼ぶと言いますからね。乱筆、長文ですすみません。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・道路…私は高速で走りたくない。速く行く道が良い道であると、決めつけたいが欲しい。 ・駅前まで堀を作る計画があると聞いていますが、どんなでもないと思います。絶対に反対です。理由は、多くの方が言われていると思います。 	女性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・観光のまち柳川ですが、川下りの船頭さん達の教育を再度行なわなければ、いい思い出として柳川が残らないと思う。コロナ禍の今だから教育の時間もたっぷりあるはずですが。 ・寂れすぎて、どこから手をつけたらいいかわかりませんね。 	女性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや生活に関する情報がわかりにくい。調べてもわかりにくい。HPを見てもわからない事がある。 	女性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・商店街に活気がある方がいい。 ・商店街に電柱が多いので、地下に埋められたらいい。 ・観光客のコースはきれいでも、少し外れると草はぼうぼうで、道路のラインもはっきりわからない所が多い。 	女性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・御花～水天宮～船溜り場あたりの道路について石量は必要なのだろうか？車で通ると、無駄に音ばかり大きく、歩く側にしてみたら女性はかなり歩きにくいと思う。 ・店先には幟旗が不揃いに並んでいる。黒川のように、総合的に景観を目指すのなら分かるが、観光地のメインを何にしているのか、他地域からいらっしゃった方はわからないと思う。 	女性	50歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
・近隣のみやま市にはLINE公式アカウントがあります。情報が送られてくるので、とても便利です。柳川市にも、ぜひLINE公式アカウントをつくっていただきたいです。	女性	50歳代
・観光地としても、とても魅力のある所だと思いが生かされていない。 ・今は難しいが、少しコロナが落ち着いたら、うまくPRしてほしい。	女性	50歳代
・柳川市の人口が減少傾向にあるようなので、歯止めをかけていただきたいです。 ・周囲を見渡すと結構、男女の結婚適齢期の方がいらっしゃるので、婚活に力をいれていただければと思います。 ・市街地を外れると外灯が少なすぎるので、中高生の帰宅時(冬場)は暗いので、外灯を設置していただければと思います。 ・むつごろうランドを、小さい子が安心して遊べる様に整備していただければと思います。もう少し、魅力的な市民の憩いの場になればと思います。 ・柳川市に人々が(市外の人)住みたくなるような、魅力あるまちづくりを願っています。市内の人々も誇れるようなまちであってほしいと思います。 ・最後に、花火大会が終了したことが残念です。長々とすみません。	女性	50歳代
・第2次柳川市総合計画は若い世代を重点的に考えられたものなのか、高齢化に対しての視点はどのようなのかと感じた。	女性	50歳代
・安全、安心な環境づくり。	女性	50歳代
・最近、街並みも道も変わってしまって、どこがどこかよく分からなくなりました。合併後は、市内一括りで、三橋のこともよく分からないままです。年寄りはおのこと。デジタルだけでなく、アナログな紙類などで地図やら各所の名スポット、ここが変わった等、手でゆっくり楽しめるような冊子等があると、とても嬉しいです。気付けば車ばかりで、家の隣もよく知らなくなっていました。	女性	50歳代
・観光地である沖端の石畳は変えた方がよいと思います。歩くのも高齢者に優しくない。車へも優しくない。	女性	50歳代
・若者が住みたい、残りたいと思うような環境作りをして欲しい。	女性	50歳代
・湯布院や黒川温泉etcの様な街並みに近づけて欲しい。	女性	50歳代
・もとから居住する市民だけではなく、市外から来た人の意見を取り入れて欲しい。宜しくお願いします！！	女性	50歳代
・水害など緊急時の対応について地域毎にもっと分かりやすくしてほしい。密も怖い。何が必要かなどが、見て分かるように(カードなど)持っていたい。確認にもなると思う。	女性	50歳代
・大和庁舎の住民課の方の説明の仕方が、私には理解できずよく分からなかった事があります。転出届や転入届の説明でした。それで娘が柳川庁舎に行ってくれた事が2~3回ありました。	女性	50歳代
・柳川市は柳川駅周辺だけではない！！もう少し視野を広げてほしい。	女性	50歳代
・柳川市街地(旧柳川市)ばかりを開発していて、他の大和町・三橋町の開発は何もされていない。観光ばかりに頼っていると、コロナのような病原菌が町中に流行すれば、大打撃を受ける。もっと広い視野で三橋町・大和町を含めて、色んなことに色んな場所に開発の目を向けるべき。それと保険料(国民)が他の所に比べて高すぎる。	女性	50歳代
・まだまだ家庭ごみを野焼きしている家庭を見かけます。広報に注意する呼びかけの欄を見ますが、小さいスペースでは高齢者はあまり隅々まで見ないのではないのでしょうか。回覧板ではダメです。結構スルーします。各家庭にA4サイズくらいの紙を配付して呼び掛けては、と思います。	女性	50歳代
・旧市民会館の時より、チケットが高くなったような気がします。カルチャラル柳川の公演はこれまでの値でお願いします！ ・福祉や人権の公演、毎年楽しみにしています。まちづくりは人づくりでもあると思います。時々、有名な人に来て頂くと若い方や初めての方も参加してもらえるかも？と思います(できれば無料をお願いします)。 ・毎年、大雨で道が冠水したり、ハラハラします。以前、腰まで水が来て床上浸水したり車が廃車になったりと聞くと、心配です。どうか堤防や排水ポンプ等、お願い致します。以前、TVで地域防災士の方の番組を見ました。個人や地域共同体でできることもあるようです。そういうことを知りたいです。 ・旧ごみ袋が時々出てきて「あー！！」とため息と悲鳴が。1枚いくらだったっけ？と見つめています。新旧交換期間を長く、10枚単位ではないようにして下さい。次回はぜひ。 ・アンケート、市民の声を聞いて下さって有難うございます。書いてるうちにいろいろ考えさせられました。初めは多い！と思っていましたが、だんだん楽しくなりました。	女性	50歳代
・市民の為、いい環境を作って下さい。緊急事態宣言は、各地域で行いたいの福岡県といわれるより福岡の〇〇市といわれた方がいいです(柳川はそうでもないので仕事上困ります)。	女性	50歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
・5年前に柳川に来ましたが、柳川は風情があって好きです。ただ、市内中心部とその他(合併した所含む)では、だいぶ雰囲気や意識、生活レベルなどが違うなと感じています。 ・コロナワクチンの接種は早くて助かりました。	女性	50歳代
・窓口に行っても対応が悪い時がある。こちらは知らないから聞いているのに、もう少し丁寧に対応してもらえれば…。	女性	50歳代
・問24の道路ですが、2つ改善して下さい。早急に！！ ・柳川駅東口、サンルートホテル前の道路で「塾の蛭」近くの角に植えてある木がとても邪魔で事故に遭いそうです。どうしても角に植えるなら、低いものにすべきだと思います。 ・エイリックススタイル柳川駅前というマンション前の堀(?)の所が一方通行ですが、柳の木が植えられていて放置されています。通るたび車に当たります。手入れをしないのならば、植えない方が良いではありませんか？用があっても通りたくありません。住民の方も大変なのでは？手入れをきちんとするのか？しないなら根本から切るなどした方が良いです！！管理をきちんとして下さい。	女性	50歳代
・地元意識が高いが、新しく転入(転居)したりして地域に入ると、ギャップがあることがあると思います。転入(転居)しやすい雰囲気があるとよいと思いました。	女性	50歳代
・使いづらいホームページをなんとかしていただきたい。	女性	50歳代
・公園が少ない。三橋庁舎北側の水辺の遊歩道は手入れが悪いので何のために作ったのかと思う。 ・三橋庁舎の最上階の会議室は、物置になっていると聞いている。展望レストランにするとか有益な活用法を考えてみたらどうか。 ・観光業に力を注ぐのは反対しないが、コロナ禍でダメージを受け経済的に影響が大きいのので、観光依存は避けるべき。IT関連企業を誘致するとか、人材育成に力を尽くして若く優秀な人材の地元離れを防ぐ努力をしないと、文化のレベルの低い老人だけのまちになってしまう。	女性	50歳代
・地域の人材や、有償ボランティアの方々と共に、市の様々な協働事業を展開できたら、柳川市のまちづくり、人づくりにつながっていくと思います。	女性	50歳代
・まちづくりも大切とは思いますが、治水を進めてほしい(8月14日の大雨では、国道443のバイパスが通行止めになっていました。国に要望してください)。	女性	50歳代
・ガス、水道工事は一度にすればいい。予算を無理して使い切る必要はないと思う。	男性	60歳代
・持主がいない土地、家がかかり多くなっている！市で再調査を行い、持主がいない土地を市で処分してほしい。隣近所は迷惑している。(竹が伸び放題で、境を超えてこちらの土地まで竹が生えてる)何十年も放置している土地がある。境界未確定の土地は市で責任をもって解決してほしい！	男性	60歳代
・川下りコースの柳川駅前まで延伸は反対。費用対効果は見込めない。もっと他に税金を使いましょう。	男性	60歳代
・船着き場周辺のスペースに、我が物顔で私物を置き、当たり前になっている。ちゃんと管理・指導を行って、前の状態に戻す様、厳重にやってほしい。	男性	60歳代
・今の柳川市は、市長が市民の方を向いていない。取って付けたような子育て政策、公金のムダ(大河、駅前の乗船場など)。もっと市民全体の意見を聞くべき。早く4年過ぎてほしい。	男性	60歳代
・行政区の見直しが必要。人口減少により機能なくなってきた。小学校区単位の活動とともに、各行政区の活動を工夫しなければ地域のコミュニティが保たれない。	男性	60歳代
・そもそも市職員の資質がなっていない。窓口にも職員が誰も席を立つことがないことが多々ある。職員が気付かなければ、代わりに上司が立つこともない。 ・もう少し自覚を持って仕事をしてほしい。そうでなければお前達は税金泥棒だ。	男性	60歳代
・ごみ減量の中で古着の回収が行われていない。コロナと言いつつ、1年間も実施されないのは対応策を考えていないのと同じではないか。	男性	60歳代
・観光についても何についても中途半端。	男性	60歳代
・多くの市民が望むことは、柳川市まちづくり全ての(半分くらいかも)市の職員自ら意欲・誠意・情熱さを感じさせてください。まずはそこからです。ボランティア推進隊長。 ・市民意識アンケートについての好感は高いです。さすが柳川市の職員、プロ意識意識が高いサービス精神期待しています。まだまだ失望させないでくださいネ。	男性	60歳代
・道の駅を早急に実現して下さい(みやまに負けないような)。 ・学校再編は夢で終わってはいけません。 ・若者が遊べる場所が少ない。久留米・佐賀で遊ぶ人が多い。柳川は魅力がないのか、福岡市まで遠出する若者も多い(今はコロナ禍で控える人が多いが)。	男性	60歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
・バス通りの店作りが、全然楽しくない。	男性	60歳代
・住民で構成する「自治会(町内会)」が意志を持って、市と共働してまちづくりを行うことが基本と思う。 ・現在の「行政区」のあり方について、市と行政区が共有する。 ・行政区長への市からの委託業務の項目を明確にする。 ・行政区と市との共働項目を明確にする。以上のことを検討した上での、まちづくりが必要と思う。	男性	60歳代
・令和元年6月8日、豊原コミュニティセンターにて市企画課主催舵取り体験講習会が開催され、大変興味深く参加させてもらった。 ・市の事業の推進や廃止を費用対効果をからめて考える内容であったと思う。ゲーム形式で進められおもしろかった。 ・続編をやってもらいたい。事業の推進や廃止をすることでメリットやデメリットがあると思うので、そこでまた考えたい。	男性	60歳代
・柳川市のまちづくりの前に市民の生活(健康)が先と思う。(例)コロナのワクチン接種が他の市などより遅い。市長選をやる前に全て先手・先手で行うべき。	男性	60歳代
・市長の考えで進めて良いと思う。何事にも反対の意見はあると思うけれど、市長のまちづくりに文句を言うつもりはありません。	男性	60歳代
・効率的な文章や、地図の作成(分かりやすくして下さい)。	女性	60歳代
・外灯を増やしてほしい。	女性	60歳代
・柳川、うなぎ、川下り、さげもん祭。柳川と言う名前の知名度はかなりあります。川下りのお客様も今は少なくなっていますが、とても良い所だと思います。 ・私は家に久しぶりに来た友人などと一緒に川下りをしたり、うなぎを食べたりで、普通に川下りをする事はありませんが、他県ナンバーの車と遭う時、うなぎが川下りのお客様だと思い必ず道を譲ります。さげもん祭も外の町にないイベントで、その時期に友人を呼びます。とても楽しいお祭りです。他所は川を使ったお祭りはないのでいいですね。 ・ただ、残念なのはお店が少ない！もっと誘致して何屋さんでもいいので呼んで欲しいです。どこの町も一緒ですが、日頃シャッターが閉まったままの所が多いですが、お祭りの時だけでも店先だけでも開けてもらえば賑わいますね。 ・昔からすれば、道路もきれいになりスッキリしていますが、町角にお祭り中と思わせるような看板もなく、前はひな祭りの歌も流れてました。久しぶりに来た友人が、前と比べたらきれいになったけど、何か寂しいね、と言いました。せめて、お祭りの期間だけでも賑やかにしたいです。さげもんは柳川です。テレビラジオも、どんどん来て欲しいです。もちろん、お客さんも。	女性	60歳代
・通学路、歩道の整備。 ・コミュニティバスの停留所が、わかりにくい。 ・ゴミ収集の一覧表はわかりやすく助かっている(天候の悪い日に、出してもいいのか悩む時がある)。	女性	60歳代
・観光メインの市だが、景観はもとより閉店している店の多さ、箱物は立派になったが、中途半端では？観光に携わらない一般市民ももっと豊かな生活が出来るようなまちづくりをして欲しい。	女性	60歳代
・家の前の道が石畳で、ガタガタで走ったり歩いたりしにくいです。	女性	60歳代
・近くにあったスーパーがなくなり、今は車で買い物に行っていますが、車に乗れなくなったら困ると思います。実際、今困っている方もいます。	女性	60歳代
・ゴミ袋が新しくなった時に、公民館で出来れば助かるという人がいました。市役所まで行くのが難しい人もいます。	女性	60歳代
・観光客がバスなどの利用で、バス停の長椅子が色あせして錆があり、新しい椅子に変えた方がいいと思う(柳川は、川下りが有名なので長椅子が錆っていると見た目が悪い)。	女性	60歳代
・商店街、京町通りに活気がない(仕方ないとは思うけど)。 ・自然災害が怖いと思う。 ・通学路などで、たまに「おはようございます」「こんにちは！」と言ってくれる子供がいる。私は嬉しくなって大きな声で「おはよう！」「こんにちは」と返す。ああ…私の方から先に言えばよかったと思う時がある！	女性	60歳代
・市内の町づくりはよくされているけど、地域の方は草刈り・川の掃除・歩道の整備をお願いしたいです。	女性	60歳代
・私達の体は90%水で出来ている。健康を左右するのは水だと言っても過言ではない。ぜひ東京都並みの高度浄水設備を作り、市民の健康を守って欲しい。	女性	60歳代
・市議会議員さんも若い方、色々な経験(他県で生活したことがある等)を経た方、新しい考えを持った方になってほしいと思います(市職員さんも)。	女性	60歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
・生活保護の見直しを考えてほしい。私たちは仕事をしながら税金を払い、生活をしているけど、本当に生活保護が必要かなと思う人が多い。病院(入院)と家を行きさして、家では元気なのに夕方病院へ行く(タクシーで)。	女性	60歳代
・メイン通りのみの整備だけではなく、順次町並み整備が行われる様望みます。	女性	60歳代
・雑草が多すぎます。整理して下さい。雑草が伸びすぎて危ないです。お願いします。	女性	60歳代
・自然の恵み、豊かなこの柳川で子供から老人まで温かく触れ合って仲良く暮らせるように、私達市民が努める。	女性	60歳代
・市全体が魅力がない。川下りとウナギだけじゃ食って行けないでしょう。	女性	60歳代
・空店舗をもう少し利用できないのかな。	女性	60歳代
・柳川市街ばかりに力を入れて、外れの集落には恩恵があまり(ほとんど)ないと思う。 ・川岸の階段の修理や手入れを全くしてない雑草だらけの空地、樹木の伐採をしてもらいたい。火事が心配。美観が損なわれている所がある。	女性	60歳代
・外国人観光客もこれから先見込めそうもないですし、内需拡大に目を向けた方が良いのではと思います。	女性	60歳代
・まちづくりも大切ですが、社会のルールを守らない大人の人が多すぎます。飲酒運転、ゴミのポイ捨て、まだまだ色々見てきました。これでは、せっかく柳川に観光に来て下さった方に恥ずかしいです。人づくりも一緒にやっていった方が良いのではと思います。	女性	60歳代
・昨年、市役所へ何度も相談に行きました。市職員の方の知識を、もう少し教育して欲しい。たらい回しにされ、なんの市役所なんだらうと落胆しました。まちづくりどころではありません。	女性	60歳代
・庁舎等、施設の統合を進め、人口減少都市化に備えてほしい。 ・4万人都市で必要・不必要を分けてほしい。民間でやっていることをやってほしい。 ・関心は増えるであろう不在家屋、耕作放棄地である。	男性	70歳代
・他所の市に出向いて、いろいろ見聞きて研究して、市のために頑張ってください。大木町などは良く頑張っています。市職員も。	男性	70歳代
・街路樹周辺の除草(夏場は特に気になる。地域住民の活動で年2-3回やるようにしてはいかが)。	男性	70歳代
・少子・高齢化が進行する状況では、若い人が住みやすい柳川を作ることは大事なことと思うが、子供や高齢者にも光を当ててほしい。	男性	70歳代
・行政区長を通して積極的に町づくりの計画の中に一般市民を参加させるシステムを構築すべき。	男性	70歳代
・観光される方々が柳川のトイレ良かったと言われるようなトイレを設置してほしい。	男性	70歳代
・まちづくりは1ヶ所に集中している。柳川市全体に進めてほしい。	男性	70歳代
・生ゴミ回収車が通る道路があるにもかかわらず、回収車が来ない為、150m先まで生ゴミを出さなければなりません。大変、不便です。生ゴミを出した150m先ではトラブルも生じます(カラス、ネコ、臭い、ポリバケツ)。 ・私達は高齢になり、この問題を真剣に取り組んで下さい。同じ税金を払っているのに、大変不平等ではないでしょうか。この問題も持っている方は、たくさんおられます。柳川市の住みよい所に取り組んで下さる事を希望します。	男性	70歳代
・市内有線放送の有効活用。 ・現在、コロナ関係の伝達がなされているが、それ以外についても放送して欲しい。各所の行事、祭、そして非常時の通達等。	男性	70歳代
・駅前の船着場計画は止めるよう。	男性	70歳代
・観光だけでなく、何か他の事でも人を呼べる事業を考えてみては…。	男性	70歳代
・公共施設、1.市役所、2.図書館、3.公民館、4.学校、トイレは洋式にてウォッシュレットに変更する事が望ましい。観光都市として恥ずかしいものがある。	男性	70歳代
・議員(市議会)→人口比として多すぎる。 ・会議費の手当50%にするべき。 ・市会議員の役員等の年齢75歳までとする事。	男性	70歳代
・このまちづくりについての取り組みは理解出来るが、さらに掘り下げ、真剣に、すばらしい効果を実現して欲しい。市の関係者の実行力に期待します。	男性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【行政への意見・要望】(つづき)		
・中心、中央部へは誰でも目が届くが、市の鄙辺への目配りが少々お留守気味ではありませんか。	男性	70歳代
・住みやすい町づくりをお願いします。	男性	70歳代
・住みやすい柳川市に。	男性	70歳代
・企業誘致等して活性化に努めてほしい。 ・一部落に公園等の設置をお願いしたい。	男性	70歳代
・柳川文化会館水都やながわを美術展や書道展、手芸展などに活用してもらいたいです。	女性	70歳代
・商店街が統一されていない。	女性	70歳代
・柳川駅からの川下りは反対です。川下り会社のまとまりもなさそうだし…。	女性	70歳代
・散歩していると観光にきた人から聞かれます。川下りはしたけど、川沿いを歩きたいと…。案内出来ませんでした。片原町水門の前にて。	女性	70歳代
・商店街の道がすごく歩きにくいです。全体に街灯が少ない。	女性	70歳代
・体育館、水の郷のトイレを改修してほしい。他町村からもお見えになるので恥ずかしい。	女性	70歳代
・学生さん達にも清掃作業への協力を促してはどうでしょうか。ポイ捨ての行動がよく見られますので。 ・まだ犬の散歩時のフンの後始末をしていかない人がみられます。何か方法がありませんでしょうか。	女性	70歳代
・燃えるゴミ袋の結ぶ部分、長くして欲しい。結べない。もう少し深くして欲しい。	女性	70歳代
・公共交通の不便。 ・買物の不便(大型スーパーなど)。 ・公園など憩いの場がない。	女性	70歳代
・柳川市町部の発展は、驚くほど変わっていくのに、他町部の発展のなさに心痛む現状にガッカリしている！！	女性	70歳代
・柳川市にも道の駅が出来たら嬉しいです。 ・駐車場が広くて、立ち寄れるお店が多いと外出が増すと思う。	女性	70歳代
・道路の側が狭くて歩けません。車中心で年寄りには住みにくい。一部の場所は発展していますが、外灯もなく夜は暗くて出られません。 ・地域のリーダー次第で行政サービスが届いていない。若い人と年寄りが共生できる柳川市である事が望ましい。	女性	70歳代
・商店街の灯りが多い方がいいと思います(シャッターが閉まっているお店が多い事)。	女性	70歳代
・駅前の船着場では、水の流れが悪くなると思う。駅から少し歩く位が、柳川の雰囲気も味わってもらえると思う。今のままで船に乗れる所を分かりやすくしてほしい。	女性	70歳代
・柳川も南の方ばかり行事があり、前から見ればすごく栄えました。 ・同じ市民として北の方もどうかありませんか。市長さんへ頑張ってもらいたいです。よろしく願い致します。川北方面の市民より。	女性	70歳代
・もう少し利用しやすくしてほしい。市民課に行ってもなんだか冷たい感じがします。	女性	70歳代
・お年寄りにもわかりやすい市役所の職員達を育ててほしい。親切な方もいらっしやるけど…。	女性	70歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【観光・地域振興について】		
・もっと柳川の「福岡有明海苔」をアピールすべき！	女性	20歳代
・西鉄柳川駅周辺を福岡天神に次ぐ活気ある駅にして欲しい。自然と利用者が増えると思う。	男性	30歳代
・道の駅(大きな)が欲しい。みやま市の大江にあるような。→地元産の野菜を使った事業を充実させてほしい。(理由)食生活が上手にできていないから。自分の努力の問題ですが…。つまり、ヘルシーな食事ができる店(みやまのさくらテラスのような)がほしいということです。	男性	30歳代
・柳川駅周辺の開発は、観光客が少ない今がチャンスです。どうか早めに着手されて下さい(進んでいるのだと思います)。	男性	30歳代
・柳川のことについて、色々企画して下さいありがとうございます。 ・もっと他県の方に柳川の知名度を上げて、活性化していけたらいいなと思います。 ・良い柳川市をこれからもっと創り上げていきましょう。	女性	30歳代
・コロナもあるが、商店街にもっとお店があってほしい。 ・そして、広告などもたくさん出していただけたら知ってもらえる。 ・駐車場も増やしてほしい(パン屋さん、アクセサリーのお店、ヨガのお店などに、なかなか車では行きづらい)。	女性	30歳代
・2月に行われた立花宗茂公柳川復帰40年記念イベントとてもよかったです。コロナ禍でトークは配信でしたが、また、あのようなイベント等で柳川を盛り上げてほしいです。楽しみにしています。	女性	30歳代
・駅や近くにミスドやスタバやカフェをしながら待ち合わせできる所(昔みたい)にほしい。 ・あまり座って待てる場所がないから、困っていると思う人が多い気がします。	女性	30歳代
・また、柳川の掘割についてですが、やはり水郷柳川と謳うからには、川下りルートだけでなく、その他のクリークのごみなど、すぐ気になります。色もやはり水の都とは…悲しいかな。昔の姿を知りませんが、もっときれいな水にならないのかなあ。川沿いの柳すごく好きなので、水が美しくければ、コロナ後、観光客ももっと増えると思うんです。	女性	30歳代
・欲を言えば、観光と言っても、各所の御花周辺はどうしてもうなぎ屋さんばかりなので、他のタイプのお店も増えると、来る側としては楽しいですね。できればうなぎが泳げて、その釣り体験もできるくらいきれいな水になってほしい。	女性	30歳代
・若い人が多いと街が活性化するので、若い人が永住できる街づくりができたと思います。九州初出店の店など柳川に出すなど。	女性	30歳代
・景観やイベントなどは、以前より良くなったな—という印象があります(若者向けのもが増えた?)。	女性	30歳代
・公園の整備。 ・道の駅、もしくは移動販売車。	男性	40歳代
・観光業に力を入れてほしい。	男性	40歳代
・町の外観の統一。	男性	40歳代
・活気あるまちづくりを。	男性	40歳代
・私が子どもの頃に比べて、柳川の観光の主要なものはあまり変わっていないように感じます。今の若い世代に人気が出るようにSNSを利用した魅力ある設備を作り、発信していけばよいと考えます。	男性	40歳代
・川下りなど、観光に力を更に入れて人が集まるまちづくりをして頂きたいです。同じ場所には無理なので、近い場所にも「柳川城」があれば新しいスポットになるはず。まち全体が、倉敷の美観地区の様になれば柳川のブランド力が上がると思います。	男性	40歳代
・もっと観光に力を入れてほしい。 ・また地元の人が利用したい観光業にもして欲しい。	男性	40歳代
・市にはもうこれ以上、身の丈以上の箱物は不要。観光については一部の事業者のみが潤っているように思える。また、単発的に人が集う場所ではなく、繋がりのある魅力的な観光地づくりが必要。	男性	40歳代
・川沿いの景観をもっと重視してほしい。 ・柳川は神社がたくさんある。しかも、小さな所でもけっこう立派なので、もう少しアピールした方がいい。 ・街歩きマップを作ってほしい(立花家ゆかりの所や神社用など)。	男性	40歳代
・柳川市民年1回せいの蒸し半額パスポート。 ・柳川市民年1回川下り半額パスポート。 ・3月、着物日和好きなので、7月or8月浴衣日和。 ・私は柳川を出たことがない。今現在、振り返ると風情ある柳川が好きだ！柳川バンザイ！！	女性	40歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【観光・地域振興について】(つづき)		
・もう少しコロナが落ち着いた頃に、地域で小さな範囲でもイベント(お祭り)ができればいいなと感じています。夏祭り(盆踊り)やバザー、お餅つき…昔は当たり前のように参加していました。自分も何か協力できることはないか考えたいと思います。	女性	40歳代
・観光のまちとしてはお店が少ないかなと思います。子育てのまちとしては、ミニキャンプができる施設があればいいかも(水の郷近くでとか?)。	女性	40歳代
・川下り、うなぎ、海苔、穂、柳川いいところです。	女性	40歳代
・コロナ禍で大規模なイベントは無理かもしれませんが、時々楽しめるイベントをやってほしいです。	女性	40歳代
・地元民には地域の本当の価値は分からない。こういう時代こそ、他エリアから見た柳川の魅力をきちんと磨き上げるまちづくりを期待したい。	女性	40歳代
・川下りの他に、春夏秋冬、目玉になるスポットを作る。例えば、コスモス畑、ひまわり畑等、いつの時期に柳川に行っても楽しめる場所作り。大きいイスやブランコ等、珍しいものを置いたり、映えする場所を作る事で市民も柳川市を愛し、他の地域の方からも好かれると思います。	女性	40歳代
・花は、観光客も地元の人々の心も癒すので、花のある美しいまちづくりを行ってほしい。	女性	40歳代
・特産品や、柳川市の良さをPR活動をもっと増やしてほしい。	女性	40歳代
・駅から直の川下りは必要ないと思う。	女性	40歳代
・現在の感染症が落ち着いたら、柳川市はもっと観光に力を入れて魅力ある町にしてほしい。柳川といえばうなぎ、白秋、御花、川下りしか思い浮かばない。お客様が何度も来たいという気持ちを引き出せる何かが足りないと思う。若い人の意見もどんどん取り入れて、活気ある柳川市を目指して欲しい。	男性	50歳代
・メイン事業の川下り、コロナ過ということもあり少なすぎて残念ですが、また元通りにたくさんのお客様が来られるようになり、柳川市が活性化することを願います。京町通り等のまちづくりもいろいろ若い方を中心に頑張っておられると思います。	男性	50歳代
・宿泊型の観光地へ。	男性	50歳代
・人口増は見込めないなので、コンパクトシティ等、人口減でのまちづくりをしてほしい。	男性	50歳代
・大規模運動施設。公園・野球場・サッカー場を作り、大きなイベントを開催し、盛り上げを図る。	男性	50歳代
・以前はおもてなし柳川を日本一にするとか、最近では立花宗茂を大河ドラマにと頑張っていますが、柳川市民全体に気持ちが行き渡っていないと思います。いずれも、尻切れトンボみたいな状態ではないかと思っています。 ・成し遂げるといふ思いが伝わってこないのが現状。柳川市全体で盛り上げられないと達成することはできないと思います。	男性	50歳代
・みんなが柳川市に住んでいて良かったと思える、まちづくりをして欲しいです。	男性	50歳代
・シャッター街の活性化。	男性	50歳代
・特にありません。 ・大いに柳川市をPRしてほしい。	男性	50歳代
・柳川よかもん館や水の郷などの内容をもっと活用出来るようにしては。農産物の取り扱いを増やしたり、温泉施設の時間延長や温泉以外の魅力あるものを取り扱うなど。	女性	50歳代
・柳川は“ステキなまちだな～”といろいろな人にもっと伝えたいようになる為に、観光は柳川の特色を出せると思うので力を入れてほしい。 ・特に感じるのは、体験・学びなどが人気が出てきた近年なので、親子や友だちなどで参加型スタイルの物を取り入れたら行きたいと思うし、職場の人や友だちにも“こんな場所出来たよ～”と紹介すると思います。 ・ずっと住みたいと思う「ステキなまち」になるように、いろいろ乱筆乱文ですみませんが書きました。	女性	50歳代
・大牟田の「えるる」のような施設があればいいと思う。	女性	50歳代
・観光の町をもっとアピールして(積極的に)盛り上げて行ってほしい。コロナ終息後に。	女性	50歳代
・柳川の風土を活かして、観光客が多く訪れる町になってほしい。観光客が増えることで、町の人がゴミのポイ捨てをしなくなるきれいなまちになってほしい。	女性	50歳代
・きれいなまちづくりをして欲しい。	女性	50歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【観光・地域振興について】(つづき)		
・道の駅を作ってほしい。	女性	50歳代
・今回のアンケートに答えることができて、もっと柳川市の活性化につながられるよう参加できたと思った。	女性	50歳代
・柳川市を良いイメージに全国に発信してもらいたい。	男性	60歳代
・人口減少を抑えてもらいたい。	男性	60歳代
・観光客が多い沖端に広い駐車場があれば良いのでは。 ・両開地区～昭代地区に橋があるので、何か観光施設でもあれば、もっと観光客を呼べるのでは？	男性	60歳代
・川下り、うなぎ、白秋生家、さげもん、いろいろ名物がありますが、何かあとひとつ、これだと言うのがほしいですね。 ・他の観光地のように、温泉とかお城みたいのがあればいいですね。	男性	60歳代
・観光に力を入れたら良いと思う。	男性	60歳代
・観光PRをもっと増やしてほしい。	女性	60歳代
・唐突ですが、柳川川下りの終着点、水天宮通りに柳川の物産(味噌や海苔、しょう油)の販売エリア(観光物産は知っています)が、商品を並べ(野菜ではなく)もっとPRすべきだと思います(し易いと思います)。費用もかからないしと思いますが、どうでしょうか。	女性	60歳代
・この20年間で柳川市は大分変化してきていると思う。 ・地域おこし協力隊等のおかげだとも思う。 ・高齢化により介護施設などの公平性や、これからの超高齢化率の高い柳川が、幸福度が高い住み良い柳川へともっと変化することを希望します。	女性	60歳代
・柳川は全国的に御花亭、川下り、せいろ蒸しが有名ですが、観光はそれだけでなく、柳川の商店街なども電車で来られる方に歩ける街としてもっと素敵に出来ないでしょうか？シャッターが多く活気がありません。まちづくりをしたいのなら柳川ビッグバンを思い切ってやって欲しいです。 ・それから不用の家電や服など、まだ使用できる物の物々交換や安く売買できるシステムがあれば家の不用品が減るのでは…と思います。金子市長の目に留まれば嬉しいです。	女性	60歳代
・柳川のお祭り(おにぎえ)は、とても良い物だと思いますが、宣伝力が無い様に思います。	女性	60歳代
・柳川は観光地として世界的にも知られる所、より楽しく観光してもらう為に、駐車場やトイレの場所など分かりやすい表示が欲しいし、特にトイレの数が少な過ぎです。又、「柳川ブランド」の充実化を、もっと知名度を上げられる対応を考えて下さい。	男性	70歳代
・又、西鉄柳川駅からすぐ川下りをと考えているようですが、もし出来たとしても長続きしないと思う。	男性	70歳代
・道の駅の新設(柳川の活性化)。	男性	70歳代
・柳川市の機関産業である農業・漁業観光の発展の為観光の新しい目玉を作ることから柳川の御城(柳川城)を作ってほしいです。	男性	70歳代
・街の電柱の地下化(観光都市として)。	男性	70歳代
・みやま市、柳川市、大川市の3市を川下りで繋ぎ1日かけて観光出来るアドベンチャーコーナーを設ける。	男性	70歳代
・柳川をテニスの町(街)に変える(テニスファンが柳川に集まる)※松岡さんや福井さんの知名度を活用する。	男性	70歳代
・駅前開発などお金を使うくらいならば、お金を使わず町おこしできるような(工場の誘致、商店街の支援等)、さらなる活動を進めてほしい。魅力のあるまちづくり→他市町へのアピール→人が集まる。新しいものを作ったとしても一時期のみで人の流れは続かない。大きなアピールをしなくても柳川市が昔のような賑わいを戻せば自然と話題に上がると思う。 ・ナイアガラで有名だった花火大会なども、私的なものではなく柳川市が潤って、また再開できればよいと思う。 ・柳川市の今ある古き良きものを生かして下さい。そして新しい風が吹くような市長への交代や制度が変わらないかぎり、柳川市は変わらないと思うし、魅力も何も期待できない。 ・おしゃれな京町の音符の壁画など、あのようなものを多く作って写真スポットなどにしたり、壁画をトリックアートみたいにしながらか柳川に関連したものを紹介するとか、人の流れを柳川市内にも移動させれば若い人がお店などを開き、商店街も潤うのでは。 ・最近では柳川の中心地ではなく、その周辺に施設が移動したりして、まとまりが無さすぎる。	女性	70歳代
・電柱を地下に埋め、景観を城下町らしくして、もっと観光客を呼び込み、商店街が発展することを望みます。	女性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【観光・地域振興について】(つづき)		
・地元生産の農業、漁業、製造商品、美術工芸品その他幅広い分野の商品が販売可能な、そしてゆとりある駐車場を有する大型道の駅(商業施設)を、どこの地域からもアクセスのよい場所に開設出来る様、市が主導で実現してほしい。	女性	70歳代
・西鉄柳川駅周辺の様子がすっかり変わったようです。駅の「向こう」「こちら」で、いろんな面で差が感じられます。活気の失われない、活気を満たす街づくりを願っています。	女性	70歳代
・今はコロナの為に活気がありませんが、30~40年前は商店街はとっても活気がありましたが、もう一度あんな街になって欲しいですね。	女性	70歳代
・空店舗が多く、活性化に努めてほしい。	女性	70歳代
・柳川ブランド認定品をもっと試食会場などに設置し柳川市以外にもPRし、電車の車内にもポスターなど掲載すればどうでしょうか。	女性	70歳代
・閉店されてる店のシャッターに明るい絵を。	女性	70歳代
・おもてなしの心を大事にして旅行者を迎えてほしい。	女性	70歳代
・京町、辻町、上町あたりの商店街をもっとどうにかしてほしい。活気のある町が良いと思う。	女性	70歳代
・祭り事や催し事等が関係者や一部の地域のみに関心事になっていないか？月々の広報に掲載して共有すれば、もっと柳川市民としての自覚も増すのではないか。	女性	70歳代
・駅前にホテルができたり、道路も広くなりきれいになったなと思います。 ・柳川のことを、もっと全国の人が知ってもらえるように、活動していただけたらと思います。	男性	無回答

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【水路・堀整備について】		
・市の中心部の堀割やクリークは、景観のために整備されているが、そうでない所(市の端の方)は、手入れが届いておらず汚い、臭い。	男性	30歳代
・排水設備がもっと普及されたいと思います。	女性	30歳代
・徹底して水をキレイにすると川下りにお客さんが殺到すると思います。水族館のようなキレイな水であれば桜を見に来た人達が集まる様に柳川に人が来ると思います。人が集まれば市民は潤うので先行投資してみたいか？	男性	40歳代
・堀の水が汚れている。	男性	40歳代
・“水郷”と名乗っている割に、河川が汚い。	男性	40歳代
・堀が汚い。 ・大雨時、トイレが使えなくなる。	男性	40歳代
・長年のテーマですが、川をきれいにしたい。	男性	40歳代
・国道208の冠水対策を早急にして下さい。少し雨が降るといつも大福すしの前は通れません！	男性	40歳代
・とにかく水をきれいに。所々の川や下水に水浄化の為に試行策を見かけますが、これを更に発展、深度を深め、かつての水がきれいであった柳川を取り戻したい。	男性	40歳代
・水が臭くて汚いのに水郷と言わないで欲しい。とにかく、臭い、汚い。水郷の意味よ。	男性	40歳代
・川下りを観光の目玉にしているなら、もっと川をきれいにすべきだと思う。川下りをしに行ったが、汚かったと市外の人に言われ、恥ずかしい思いをした。	女性	40歳代
・歩道の草が気になります。市内中心部はきれいなイメージですが、田舎の方は行き届いていないので、シルバーさんをお願いしたり、川掃除の代わりに地元でメンテナンスするなど工夫してほしい。	女性	40歳代
・コロナで、水路周辺の草取りができていない。柳の木の手入れもきちんとしてほしい。大雨、台風の時期の前に管理してほしい。	女性	40歳代
・お堀の清掃活動を、もっと推進してほしい。	女性	40歳代
・水の都、水があまりキレイではない。	女性	40歳代
・子どもや高齢者の水害が起きないように整備をお願いします。	女性	40歳代
・駅発着の川下り案が出ていますが下水が堀割に流れ込んでいるのもっと下水道設備に力を入れる方が先だと思う。 ・汚れている時は川から水を引き込み入替えるとか堀の水をキレイにする方にお金を使った方が観光客に喜んでもらえると思う。	男性	50歳代
・柳川市も下水区域が来ない所は市営浄化槽にした方がいいと思います。私は佐賀県の方で仕事していますが、農集、下水、浄化槽保守点検、水質試験の仕事をしています。佐賀市、小城市は下水区域が来ない所は市営浄化槽になっています。柳川市はなぜ出来ないのですか。環境を良くしたいなら1日でも早く市営浄化槽にするべきです。柳川市は本当に遅れていますよ。	男性	50歳代
・水路の整備(ホタルが飛びかう位)。 ・「道の駅」ならぬ「堀の駅」。 ・FM柳川の開局。	男性	50歳代
・柳川は川下りのできる観光地として全国的にも知名度が高いが、堀割の環境、整備面、船頭さんの人材不足、個々のレベルの向上等、問題点は多いと感じる。 ・観光客を満足させ、リピーターになってもらえる様、早期に改善して柳川にたくさんの観光客、特に若い人にきれいな堀割のあるまちとして知られる様に、活性化してもらいたい。	男性	50歳代
・自宅は一面クリークで囲まれており、いろんな廃材が流れ込んできます。ヘドロが溜まって、掘削しない限りきれいな環境とは言えません。	男性	50歳代
・都市計画があまり見えにくい。議員さんのパンフレット、市報を読むだけでなく、PR活動して欲しい(空家対策、区画整理等、上下水道による水をきれいにするとか、中・長期的に整備して欲しい)。	女性	50歳代
・この1週間大雨が続いています。柳川は堀に囲まれ、大雨の予報時には夜通し堀の推移を管理され柳川の水害を未然に防いでくださっている方々を昨年の市報で知りました。本当にありがとうございました。	女性	50歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【水路・堀整備について】(つづき)		
・柳川は堀以外にも川や水路がたくさんありますが、今回の大雨で気付いた事は、川や水路にたくさんの泥や草木があり、水の流れを悪くしていました。自宅近くでは東宮永小学校前の道は冠水していて、その横の水路は草木が茂っています。こういう所は沢山あります。このような所は市又はその地域が清掃し、整備して頂きたいです。	女性	50歳代
・8月13日、14日の大雨で、東宮永小学校から両開方面が大水で私の家の周りの田んぼ・川・家の庭まで水が入ってきて、夜の8時過ぎにやっと道が見えて通ることができました。今度からは、大雨でも川と田んぼと道の境がわかるようにしてもらいたいです。	女性	50歳代
・観光都市とするならば、堀割、及びその周囲の景観は水質も含め整備し、美しくしてほしい。 ・駅周辺や市街中心部店舗の活気があると良いと思う。	女性	50歳代
・堀割の整備。	女性	50歳代
・観光収入は柳川市の財政にとってとても大切だと思いますが、市民は市街地以外にもたくさん住んでいます。観光客が来ない場所の道路整備、堀の整備などにも目を配ってほしいです。	女性	50歳代
・川下りが一番の売りなのに、水が汚い、臭い。下水を川に流している家でもあるのかわからないが、川をキレイにしないとリピーターは増えない。柳川の名物は何か？と聞かれたが、答えられなかった。一度、川下りコースをちゃんと見て、桜を植えるとか。景観だけじゃなく、色んな所を見てほしい。	女性	50歳代
・堀の機能(洪水防止、癒し)の市民への周知。特に小さな堀の維持(垢、ヘドロの除去、流れを良くする)。	男性	60歳代
・大和町在住ですが、冬から春にかけて水路・クリークが海苔排水の影響でピンク・紫・茶色等になり、悪臭がするのを解決して頂きたいです。	男性	60歳代
・水辺をもっときれいにしてほしい。	女性	60歳代
・新型コロナの感染防止の為、小河川の清掃が行われなくなり、雑草が生え、ゴミ等が溜まりやすくなっている。早く再開できるように願います。	男性	70歳代
・バス路線から一步入る小路は、直線道路ではない。平行して通っている道路を結ぶ小路。特に排水路は直線ではなく、見通しができないよう作られている。歴史を感じる。又、場内を守る為、橋も作られていなかったと聞く。要所にお寺も配置されている。	男性	70歳代
・川下りコースで日吉神社から御花までの区間で右岸側を散策中、遊歩道に草が生え、虫が生息している箇所、また遊歩道が途切れている箇所があり散策が出来ず回り道しなくてはならなくなっています。川を眺めながら散策出来るように整備をお願いします。 ・川下りコース遊歩道にトイレの設置をお願いします。川下りの風情を楽しみながら散策が出来ると思います。	男性	70歳代
・「水都柳川の風情や快適さ」については、観光客が訪れる川下り水路ばかりでなく、田舎の水路の改修も行うべきである。すべてのクリークは、コンクリートの護岸になり、苔のようなヨシやアシ、ヒシなど水生植物は皆無で有り、エビやドンコなどはおろか、アカミミガメやバスなどの外来生物がたくさんいてクリークの風情はみられない(空き缶、ペットボトル、ビニール、ゴミが浮かんでいる)。	男性	70歳代
・シャッターの店が多くなった。 ・下水道を完備してほしい。	男性	70歳代
・観光地名称、道案内をもっと四方八方に広告掲示(例:川下り名物でありながら、ここ中島地域拠点には川下りの案内板が目に見えない)。 ・河川、水路の整備拡大。	男性	70歳代
・クリークの美化。 ・昔は使用している方々(農業者)が、年1回秋頃に清掃され、水が流れていた。このため、クリークの水は流水となり、美しかった。しかし、現状は水が流れず、汚水が汚臭源となっている所がある。また、海苔の生産期にはクリークの水が赤く変色している。この排水を処理して、クリークに流す指導をして欲しい。	男性	70歳代
・二ツ河川の浚渫。 ・市内下水道の整備。 ・用水路暗渠の整備。地球温暖化により以前より雨量が多く災害等が発生しやすくなり、旧態ままの道路横断の排水暗渠が小さく排水能力が少なく危険な状態である。	男性	70歳代
・堀割の浚渫。	男性	70歳代
・市の水路用地等で市の管理が出来ていない部分がいっぱいあり、管理を徹底して下さい。	男性	70歳代
・水落とした後のヘドロの処理。外来種の藻が多すぎる。船会社にも声かけしてもいいと思う!	女性	70歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【水路・堀整備について】(つづき)		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光地としての川は勿論、ごみひとつない道路で美しい街にしたい。毎月、定期一斉清掃を提案します。 ・街中の人笑顔で挨拶できたら、明るい街になると思います。 ・メイン以外の小さな堀の掃除が必要(いろんな物が投げ込まれている)。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・堀の整備・清掃を進めてほしい。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・護岸工事をされた時は最後は堀の中の土はもっと持って行ってください。水が少なくなると、たくさん残っています。 	女性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【交通・インフラについて】		
・歩道、自転車専用がない道の整備を早く進めてほしい。	女性	30歳代
・新しい施設（コミュニティセンターなど）が増えていますが、もっと利用頻度の多い方向にもって行くべきだと思う。	女性	30歳代
・道が悪く、きれいにしたい。	男性	40歳代
・歩行者用道路が狭い。	男性	40歳代
・道路の脇に手入れされていない草等がよく見受けられる。 ・人口減で空き家が目立ち、火事が心配。 ・柳川市内に会社があれば、もっと若者が増えて、市内に住む方が増えそうだが…。 ・道路工事だが、本当に悪い道路を整備されていないようだが…。	男性	40歳代
・誰もが好きになる柳川市にしてほしい。地域によってはかなりの差があり、住みにくい所がある。道路も狭く安全が保たれていない所もあり、子ども達の通学路も危なくかなり危険である。商店街通りもあまり人通りがなく明るい町を作ってほしいです。子どもの笑顔がいつばいの柳川にしてほしいです。	男性	40歳代
・よかもん館の前の道が狭い。	男性	40歳代
・不要な道路を増やさないようにしていただきたいです。道路よりも心が豊かになる市にしていきたい。宜しく願います。	女性	40歳代
・2020年5月に柳川市に引っ越して来ました。感じたことは…。車道と歩道を整備してほしい、草むしりの整備。	女性	40歳代
・道路の整備を駅周辺、市中心部以外の所でも進めてほしい。	女性	40歳代
・市内の道路が狭く、カラスの“フン”で汚い。商店街の道路が狭く、停車中の車が多すぎる。電信柱が邪魔でならない。大川市の高木病院前の道路は電信柱を無くし、町が“キレイ”に見える。駅前の開発よりも市内の整備が先だと思う。	男性	50歳代
・通学路・スクールバスの整備。 ・他県での事故があり心配です。歩道の整備、防護柵の設置、スクールゾーン標示の見直しをお願いします。	男性	50歳代
・安全に歩ける歩道が整備されたいと思います。	女性	50歳代
・高齢者のコミュニティバスとかより、タクシー利用の補助とかはダメなんですか？	女性	50歳代
・今は車ばかりで市内をゆっくり見て回ることがないので、よくはわからないけど、自分が子供の頃(30、40年前位?)、自転車で市内を回ろうとすると道が狭くて、とても怖かった思い出があります。道が狭く、電柱などの障害物に車道にはみ出しては、車やバスにあたりそうになったり…。今でも、その記憶が、市街地を通ると思い出し、車で通るにしても震える事があります。道路幅や歩道を広げるのは、難しい所もあるだろうけど、何とか知恵を出し合って、安心できるまちにしてほしいです。	女性	50歳代
・大きい道路から少し入ると、とても道幅が狭い道路が多いです。	女性	50歳代
・近年、釣り人が県外や福岡、久留米市から休日を問わず水路傍に車を止め、趣味を楽しむ人が多い。地域では年に3回草刈り清掃を行っています。	男性	60歳代
・水路周辺の景観だけでなく、公園の整備、充実が望まれ、一部の歩道だけでなく、歩行者や自転車が安全に通れるように歩道・自転車道の確保をして欲しい。	女性	60歳代
・道路の幅を広くしてほしい。	女性	60歳代
・いずれ車に乗らない時が来るので、コミュニティバスをいろんな病院に行ける様にしてほしい。一度バスの乗り方等書いてあるものを市役所で貰いましたが、全く理解出来ませんでした。右回り、左回りとか、バス停も分からず、みんなよくわかるなあと思います。	女性	60歳代
・市道の拡充を計るべき。大きい道路だけに目を向けて路地などがおざなりにされている(デコボコが多い所が多い)。	女性	60歳代
・柳川市全体的に、道路の整備がされてません。特に自宅の前は道路に亀裂が何か所も入り、家も大型自動車が通るたび地震のように揺れてます。家も少し傾いているような感じがします。市の対策にいつも疑問を感じます。	女性	60歳代
・コミュニティバスの利用法をもっと分かりやすく伝えて欲しい。公共交通機関も減少しているので、車の免許を返納した場合、行動範囲が減少する様に感じ将来不安になる。全ての世代の方々が明るく暮らせる柳川を望みます。	女性	60歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【交通・インフラについて】(つづき)		
・道路、歩道などがきれいに整備された方が良いと思う。歩道に草がはびこったり、信号も見えないように木や枝が倒れたりしている。二ツ河川の両堤防の草が人の背丈より伸びて道幅が狭くなって車で通る時、すれ違うのが困難で困った事が数回あります。	女性	60歳代
・防犯カメラ、街灯、歩道を希望します。	女性	60歳代
・コミュニティバスを廃止して乗合タクシーへ。利用者がほとんどいない。空で走ってるバスがほとんど。	女性	60歳代
・コミュニティバスを1日5～6回に増便して欲しい。	男性	70歳代
・市内だけが良くて、田舎の方は河川の周りなどが全然よくない。道路が狭すぎる。ゴミの収集車も入らない。救急車も入らない。少し考えてもらいたい。	男性	70歳代
・軽自動車も進入出来ない道路があり整備が必要である。	男性	70歳代
・京町通りを自転車で利用していますが、非常に危ない！！	女性	70歳代
・コミュニティバスを路線バスと同じコース、停車場にして欲しい。	女性	70歳代
・私は75才ですけど、60代の頃は自転車でも用事がある時は行っていました。今、昨年12月に転んで手首の手術、腰の圧迫骨折をして思うように体が動きません。歩道を散歩していて分かりました。歩道の木の下に草木がいっぱい生えていて、自転車とすれ違う時に、危ないと思いました。歩道の草がいっぱい植えられている所は、忙しいとは思いますが、きれいに切ってもらえたらいいなと思いました。筑紫の駐車場の外回りの草も時々取ってもらえたら助かります。私が体が少しでも良くなるように散歩を毎日して分かったことです。元気な時には分かりませんでした。よろしくお願い致します。	女性	70歳代
・年取った人でも外出が出来やすいように交通の便利が良くなったらと思います。	女性	70歳代
・市のバスは助かります。	女性	70歳代
・狭い道に老人や子供の為の安全な歩道の確保を。 ・入院している義母に代わって嫁が普段聞いていた話を基に書きました。よろしくお願い致します。	女性	70歳代
・コミュニティが家の近くにあれば良いが、遠くにある。	女性	70歳代
・西鉄柳川駅(西口)の一般送迎用の駐車スペースが少なく、お客様を送迎出来ない。一般用として10台位のスペースがほしいと思います。柳川観光のお客様は全て西口にお見えになりますので考えてください。	女性	70歳代
・瀬高行きだけの乗車が東口にあるのは間違いやすいので、バスの乗車は全て西口にしてほしいと思います。	女性	70歳代
・コミュニティバスの利用法をもう少し考えてほしい。利用しにくい。	女性	70歳代
・柳川市が運行しているコミュニティバスの件です。停留所が自宅から遠いので、利用出来ません。そこまで行くのが大変です。まだ利用していませんが、近所の方達(年寄り)と話しています。利用する様になったら、停留所の場所をお願いします。	女性	70歳代
・1人暮らしがこれから多くなっていくと思いますが、安心して生活できたら良いと思う(交通、買い物、治安)。	女性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【税金について】		
・指定ゴミ袋ではなく、ビニール袋なら何でもOKにしてほしい。 ・指定ゴミ袋の値段が高い。	女性	10歳代
・ゴミ袋を安くしてほしい。また、形の改善。	男性	20歳代
・税金利用方法の見直し。	男性	20歳代
・子供の為に何か援助(金銭的)をしてほしい。	女性	20歳代
・道路や公共施設などにお金を使い過ぎでは。	女性	30歳代
・柳川藩札は、前年度のように500円単位で利用できる方がよかったです。 ・柳川市に住み続けることで、子供に対して助成金や商品券がもらえる等、プレゼントがあれば嬉しいですし、住み続けたいという気持ちになります。	女性	30歳代
・NHK大河ドラマ招致実現に向けて、これまでどれだけの金額を費やしているのでしょうか？本当に税金の使い方が残念でなりません。莫大な建設費用であった物産館は？ただの近所のスーパーのようではありませんか？観光地の拠点になっているのですか？柳川駅や川下りを利用した方があそまで行く事はありますか？ ・市外や県外から足を運びたいような公園を整備し、そこから新たな収益を見出す。観光や移住には良い、特急が停まる柳川だからこそ出来ることは？若い世代に耳を傾け、行動を見て進めていかなければ柳川は衰退していく一方かと。	女性	30歳代
・ここ数年で、人口が減っていると思いますが、税収や補助など、人が住みたくするような市政、町づくりを願います。	男性	40歳代
・また、大河ドラマにムダな税金を使うのを止めて下さい。メディアは終わっています。時代に逆行した馬鹿な制作をしないで下さい。	女性	40歳代
・低所得者の為にも減税(免税)の検討。	男性	50歳代
・学生に給付金が欲しい(北九州etcはある)。	女性	50歳代
・生活保護・減税家庭など、しっかりと調査してもらいたい。免除を受け税金を払わず、ブランド品に身を包み贅沢をしている人々が多いように感じる。正しく税金を納めることで、市を豊かにし、美しい柳川市を作ってもらいたい。	女性	50歳代
・柳川駅前の取り組み(船着き場など)は、必要でしょうか？多額の資金(含税金)を使っても大丈夫なのかと思います。	女性	50歳代
・柳川駅西口の掘割の工事は必要ないと思います。もっと他の事に税金を使うべきでは？市民の為になるお金の使い方をしてほしい。	女性	50歳代
・家庭で2人オムツを使用しています。毎回、燃やすしかないゴミ袋(大)2袋はオムツだけで使用しています。もう少しゴミ袋代が安いと助かります。	女性	50歳代
・大河ドラマなど(川下りを駅まで延ばすことも)、必要のない支出が多い。教育など必要なところを考えると税金を使っ てほしい。	女性	50歳代
・市営住宅の未払いはどう考えてもおかしいと思います。きちんと払ってもらうようにして下さい。	女性	50歳代
・柳川駅の前に川下りの乗船所を作るのは反対です！これ以上、負の遺産を作らないでほしい。税金の無駄遣い。夕張市のように市が破綻する。子供達に税金の負担を増やさないでほしい。	女性	50歳代
・歴史観光都市として整備を進め、観光収入を増やし、市民税を下げてください。	男性	60歳代
・ゴミ袋が小さくなり、可燃物ゴミ袋が高くなった。その他のゴミ袋は安くなって、使用頻度が少ない為、増税と考 えている。可燃物ゴミ袋の容量及び金額を元に戻していただきたい。	男性	60歳代
・簡単には出来ないと思いますが、どこか矛盾しているところが目立って、必要なところにお金を使っている様に見えない！	女性	60歳代
・柳川の産業は観光だけではなく、海苔産業が大きく影響していると思います。ガソリンスタンド、造船所企業、海苔関連の会社(自動車販売も含む)の費用や税収も多いと思います。佐賀県のようなアピールや企画も考えて欲しいです。全国の海苔の7分の1は柳川産です。もっと海苔の町柳川を宣伝してください。	女性	60歳代
・まちづくりとは違いますが、コロナワクチン接種後の解熱剤は病院によって金額が大分違いますが、無料というわけにはいかないでしょうが、せめて同額にはならないかと思っています。	女性	60歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【税金について】(つづき)		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光収入に頼らず、他の収入源にも力を入れてほしい。 ・除草作業に参加すると、お金を配るのはおかしい。ボランティアでしているのだから(特定の地区だけかもしれませんが)。 ・生活保護、要保護、準要保護の査定をもっとしっかり見てやってほしい。パートで生活している人よりも、保証されている人が多い。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設(箱物)は作るべきではない。老人の人口割合は増えていくので、福祉に資金を回すべきと思うから。箱物は必ず古くなり、維持費が増えるので。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・御花が新型コロナウイルス感染症拡大により、史料館が休館になり入館者数の激減で運営費が賸っていけなくなった。それにより、立花家の所蔵品が売りに出される事を新聞で読み、びっくりしました。どうしてそんな事までしなくてはいけなかったのかと、でもクラウドファンディングにより、なんとか危機を乗り越えられて良かったです。どうか寄付の2,200万円を有意義に使って欲しいです。 ・大河ドラマ誘致活動は引き続き頑張ってください。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・柳川駅からの川下りを行う事ですが、川下りの発着所が近くにあるのに、わざわざ水路を作って水を引くのには周辺の人々や通行する人達、住民らは税金の無駄遣いと思ってます！ 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・年金生活で生活出来る柳川市してほしいです。 	女性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【学校・教育・子育てについて】		
・子育て世帯ですが、正直子育てはしにくいと思っています。市内の公園を利用することもほとんどありませんし、土日を市内で過ごすこともありません。観光等に力を入れているようですが、我々市民が恩恵を受けるか疑問です。 ・途中の設問でも書きましたが、補助金等も少ないと思います。近隣市と比較すると、市政に懐疑的にならざるを得ません。	男性	20歳代
・大きな公園を作ってほしい。	男性	30歳代
・子どもたちの遊び場が少なく、子育てのしづらい状況になるのは困ります。 ・次世代のことを考えたまちづくりをお願いします。	男性	30歳代
・子育て世代と子供にもっと目を向けてもらえたらと思います。	男性	30歳代
・子育ては他市よりしづらいです。学校再編は急務と思われる。改善すれば必ずよい町になると思います。	男性	30歳代
・観光が町にとってとても大事な事業だということは、理解できます。しかし、まず、市民にとって必要な物、事を優先すべきだと思う（例えば、子供が安全に遊べる公園を整備する、店を増やす）。	男性	30歳代
・子どもの見守りや通学路等の安全対策（クレークのフェンス等）を強化する。	男性	30歳代
・金子市町が押し進める「柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり」という政策がそもそも間違っていると思います。まず第1に優先すべきことは、いかに子育てがしやすい町なのかということではないでしょうか。それを優先して進めておけば若い人達は、別に何もなくても移住してくれると思います（筑後市みたいに！）。	男性	30歳代
・柳川市は自慢できる故郷です。共働きが多い世の中になっています。規模は小さくてもみんなが働きやすい、子育てしやすい街になってほしいと思います。 ・児童手当を生まれた月に関係なく平等に支給してほしいです。 ・まずは子どもの遊ぶ所を増やして下さい。	女性	30歳代
・子どものイベントやサークルがあると嬉しいです。例えば「日曜の何時から体育館で運動しましょう」、今日は「けんけんぱ」、今日は「ボールでボーリング」など。また、みんなで「ドミノ倒し」「スライム作り」「フライパン作り」などしたいです。	女性	30歳代
・子どもを増やしていきたいと思うのであれば、子育てしやすい環境や、子育て支援をより充実させるなど、子持ち家庭への配慮に力を入れて頂きたい。 ・公園を増やす、保育料を安くするなど…。他の市に比べると子育てには配慮が少ないと思います。	女性	30歳代
・子供を育てにくいです。	女性	30歳代
・クレークも多いですし、転落防止柵の設置や公園の遊具整備など…お願いします。	女性	30歳代
・小学校の給食費無料、子供達が遊べる公園が少ない。	男性	40歳代
・保育料の軽減。	男性	40歳代
・子育て環境は、これといって特徴的なことがなく残念。また子どもを遊ばせる公園がほぼゼロ。有料でも良いので、子供が思いっきり遊べる施設は必要。	男性	40歳代
・公園を増やしてほしい。既存の公園には遊具がほしい（大人の健康遊具も…）。	男性	40歳代
・一番思う事は、子ども達の体力作りに関するプール・広場の提供を強く願います。 ・バスケットコートなど広場にあるだけで、遊びの幅も広がるので、よろしくお願いします。	女性	40歳代
・子育てしやすい町になると、若者が定住してくれると思います。子育て支援に力を入れて頂きたいです。 ・マイホーム取得の補助も、もっと充実しても良いと思います。	女性	40歳代
・家族が遊べるような場所があれば、県外からも家族連れが足を運ぶようになり、柳川市の経済にも反映されると思う。公園など、内容が中途半端過ぎて、遊ぶことができない。	女性	40歳代
・筑後広域公園のような、子どもが遊べる遊具がたくさんある公園＆ドッグランがあったらいいなあ～。	女性	40歳代
・小学校体育館の老朽化、設備の不十分さを感じる。	女性	40歳代
・幼児に対しての医療費の無償制度の検討（6才児まで）。	男性	50歳代
・柳河にYou・遊の森公園があります。そこには多くの子供達が遊びに来ています。4才～5才以上の子供達は、ブランコやすべり台で遊べるけど、0才～3才位の小さな子供たちは遊べないので、座って遊べる施設があればいいと思います。お父さん、お母さんも一緒に遊べる施設があればいいと思います。	女性	50歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【学校・教育・子育てについて】(つづき)		
・小さな子供達が遊べるような公園が少なすぎ！！	女性	50歳代
・安全なスクールゾーンの確保。	女性	50歳代
・公園（柳川の中心となるような）を造ってほしい。	女性	60歳代
・公園に子供達の遊具を増やして、水遊びが出来る様にして、昼食を食べられる様にイス・テーブルを設置して、日陰（屋根付）を作ってほしい。	女性	60歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【移住・定住・企業誘致について】		
・柳川市へ転入してくる方への優待をすべき。人口の増加こそ柳川の発展と考え、政策の中心にすべき。	男性	30歳代
・他市から柳川市に移住するメリットが少ない。 ・若い世代のニーズに答えるようにしてほしい。	女性	30歳代
・長期的に見れば、まちづくりとも関係すると思うのですが、柳川市内の人口流出を止める策を早急に考えるべき。「マンパワー」という言葉もあるように、人が居てこそ、いろんな施策ができ、活気も出る。	男性	40歳代
・特に、若い子育て世代、働く世代が柳川に定住できるような施策を本気で考えるべきで、この点から目を背けていることは行政の怠慢でしかない。市長、議員、市職員の方々は危機感を持って行動に移してほしい。	男性	40歳代
・人口減がすさまじく空家が目立っています。6万5千人を切り、人が居なくなっています。外から呼ぶか流出を止めるか、対策が必要だと思う。コロナ禍だったら今のままがベストかなあ。	男性	40歳代
・企業誘致して人口を増やして店を増やしてほしい。	男性	40歳代
・人口減少に歯止めがかからない現状の中で観光に大きく依存してきた当市ではコロナ禍の大きな痛手も受けている。 ・女性が住みやすく、子育てにも革新的な取り組みを導入する等して、県外移住者の増加促進を、地域おこし協力隊（OBチーム含む）を核として進めてもらいたい。	女性	40歳代
・空き家を減らす。	女性	40歳代
・人口減少をストップさせるためには企業誘致と大学誘致が必要であると思う。まずは大川市のように大学を設立し市内に若者が集う活気ある町にして欲しい。コロナが収束しても観光客、特に外国人観光客は戻ってこない。私が市長なら大学誘致に全力を挙げる。幸い西鉄電車沿線であれば通学も便利である。宜しくお願いします。	男性	50歳代
・柳川市のまちづくりと言えば観光にばかり力を入れてるように思えますが、もっと人口を増やす事を考えてほしいです。人口を増やす事が大切ではないでしょうか。若い人が、たくさん働ける大きな企業が必要でしょう。私の子供達はみんな成人して外へ出てしまいました。柳川には仕事がないです。寂しいですね。私も何年後か柳川を出て他の市へ移住しようと考えています。柳川には魅力がありません。残念です。	女性	50歳代
・若い人が他県に出て行かないような、若い人が仕事が柳川市でできるような都市作りをするべきだと思います。 ・観光だけでは、市民生活は成り立たないと思います。	女性	50歳代
・働く場所（労働人口の流出を防ぐため）の確保。柳川市だけでなく、近隣地域で企業の誘致等してほしい。	女性	50歳代
・若い人達が住みたいと思える町作りをお願いしたい。	男性	60歳代
・企業誘致を進めてほしい。 ・観光地以外にも手を入れてほしい。	男性	60歳代
・若者が就職できる企業を誘致してほしい。	男性	60歳代
・人口減に対する対策を講じてほしい。若者が流出している。若者の定住しやすい町を。	男性	60歳代
・大型企業の誘致、大型道の駅の建設。	男性	60歳代
・若い方の働く職場が増えると、学校を卒業してから市外や県外へと就職せず、柳川市（自宅）から通勤出来て、高齢者だけの家族が少なくなる様に思います。	女性	60歳代
・近所は空き家だらけ、若い人は都会に出て行き、今住んでいる人達も老人だらけ。故郷がなくなってしまいそうで悲しい。でも何もしない私が悔しい！	女性	60歳代
・地元産業を育成し、若者の定着を進めるべき。	男性	70歳代
・若い人達が生まれた市や町に住みたいと思える町作り（企業誘致）。	男性	70歳代
・工場の誘致（働く場を作り人口減少をくい止める）。	男性	70歳代
・柳川に住みたいと思う人が増えて人口が多くなる様にして下さい。	女性	70歳代
・この調査で住んでいる私達はもちろん、柳川から流出した若者や中高年の中から柳川へ戻りたいと思ってもらえる様な昔ながらの良さも残しつつ、魅力的なまちづくりを深く考える機会になりました。	女性	70歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【移住・定住・企業誘致について】(つづき)		
・柳川には大きな企業がありません。企業がない為、若者が学業が終わり都会へ出て行きます。地元就職し年頃になれば結婚して子供も増えて一石二鳥と考える。私も久留米へ30年間通いました。	女性	70歳代
・柳川にもっと企業の誘致をして欲しい、そして若い人達の雇用を増やして欲しい。外に出なくていい様に(県外)、仕事が少ないと思う。	女性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【ごみ減量・リサイクルについて】		
・ビン・カン等の収集方法、人によって収集場所が遠く、高齢者とか特に大変そうです。	男性	30歳代
・最近特に年々風水害が酷くなっていますよね。やはり温暖化が大きな原因と思っています。個人的にはすごく危機感を感じていたんで、リサイクル、リデュース、リユースもずっと前から取り組んでいました。最近でこそ、ようやく他の人たちもゴミ袋の値段が上がったこともあり、少しずつゴミが減っているようですが、まだまだですね。プラスチックはリサイクル出来るのにゴミに混ぜて捨てている人を見ると本当にガッカリです。また、近所にも、堂々とドラム缶以上の大きなサイズの焼却炉を作って、毎日家庭ごみを燃やしています。洗濯物にプラスチックやダイオキシンの匂いもついて本当に迷惑です！市役所で、罰金や撤去など、取締りして頂けませんか？ルールを守らない人が得するなんて、しかもその人たちのせいで災害が増えてすごく気分悪いです！同じく、田畑の野焼き、どうにかありませんか？コンバインで耕すだけではダメなのでしょうか？どうせ全部燃えていませんよね？せっかく気持ちの良い季節、窓も開けられないし、煙たくて喉を必ず傷めてしまいますし、温暖化が進むこの時代、いくら伝統的にやってきた事でも、未来の子供達の為にも変えていく必要があると思います！	女性	30歳代
・まちづくりとは関係ありませんが、ゴミ袋（燃やすしかない）前の縦長の形の方が（水色）良かったです。ゴミ箱にも形が合わず、ゴミもまとめづらいです。	女性	40歳代
・ゴミの削減にコンポストを使用したい家庭に配ってもいいと思う。生ごみ削減になる。（福岡市に企業があるので）ローカルフードサイクリング機。 ・ごみ分別アプリを使用しているが、ごみ分別時点でも、わからないものがあるのでネットなどで問い合わせできるようなにして欲しい。すべて、電話での問い合わせになっている。ごみの量が減っているのを知ることができるのは、良いと思う。	女性	40歳代
・プラとペットボトルの収集日を月2回から週1回に増やして欲しい。	女性	50歳代
・ゴミ袋が小さくなったのに、枚数も少なくなったのは不満です。	男性	60歳代
・缶・瓶の収集の際、住民は必要か？きちんと出してほしいのでは。	女性	60歳代
・全てを良くするのは難しい事と思いますが、クリークにまだゴミが沢山の山で、個人で掃除をしています。長年溜まったゴミの様で…。稲にこの水が送り込まれていると思うとぞっとします。	女性	60歳代
・ゴミひとつない、なるべくまっすぐな道を作ってほしい。	女性	60歳代
・猛暑・大雨続きで地球温暖化が進んでいることを非常に感じる。フードロスをなくすことも生産者との取り組みが必要だと思う。SDGsに関する事をさらに市民に意識づける取り組みを考えていってもよいのではないかと考える。	女性	60歳代
・不燃物の回収日、プリンターを何度出しても回収されていない。配布されている冊子には回収する、と書かれている。問い合わせの電話をするしかないのか…と少し悩んでいる。 ・冊子に書かれていることが、アプリに反映されていないことが多いように思う。ごみ分別にやる気を持って取り組み、分別法を調べても分からないと、だいたやる気が削がれてしまう。 ・針金ハンガーは金属の日に回収されないのは、ゴムが巻かれているからでしょうか…？	女性	70歳代
・クリークの美化、きれいな町にして欲しい。	女性	70歳代
・燃えるゴミ袋を前の様に大きくしてほしい（値段は今のままでいいので）。	女性	70歳代
・燃やすしかないゴミ袋が非常に小さくて物を入れることが出来ない。毎回3枚も使うので非常に高くなりました。もう少し大きくして下さい。	女性	70歳代
・隅々の美化。	女性	70歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【歴史・文化・芸術について】		
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと柳川の歴史(人物・城・刀)などをいろいろな所に推して行ってほしい。 ・気軽に集まれる、立ち寄れるカフェとかがほしい。 ・柳川にたくさん有名人や俳優、声優を呼んで！水都やながわで公演(講演?)しましょう！ 	女性	20歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインを描いて、短期的な事業ではなく、次世代につながる活動を目指してほしい。(歴史(郷土)を元に町づくり)(部署の引き継ぎと、横との連携を必ずして下さい)。 ・新しいものではなく、今ある資源を大切にして下さい。無駄が多すぎます。 	男性	30歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・立花宗茂の大河ドラマはぜひ実現して下さい。 	男性	40歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な所、川下り等の景観のよさをもっとアピールしてほしい。 	女性	40歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・柳川の歴史を弥生時代から調べ直し、柳川全市民に紹介して欲しい。そうすれば柳川の偉大さが判ると思う。 ・その為の情報提供は、惜しみなくするつもりです。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも風情のあるまちに保って欲しい。 	男性	50歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと柳川市全域のことについて話し合い、見つめ直し、一部だけでなく市民全員が住みやすい市にしてほしい。 ・私達の若い頃の柳川が魅力がありました。 ・柳川市は、立花宗茂公がつくった町ではなく、田中吉政公、その前の蒲池氏のことも全国にアピールしてほしい。市長が悪いと思います。 	男性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・柳川市全体の活性化をお願いします。 ・城内だけではなく、昭代にも魅力的な場所があります(梅の木街道など)。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動(カルチャースクール等)に魅力を感じない。 	女性	60歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある古民家の保存の利用。 	男性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・柳川の歴史・文化・風土をもっと知ることが出来る場がほしいです。 	女性	70歳代
<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の景観や堀割などきれいに整備されすぎ昔の風情がなくなり、柳川の良さがなくなりつつあると思う。自然を残すようにしたら良いと思います。 	女性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【漁業・商工業について】		
・レジャー施設がほしい。	男性	20歳代
・大きいデパートが1つでもあると助かります。中山にはコンビニがないので作ってほしい。スーパーも。	女性	30歳代
・大型商業施設など呼んで人を集めて欲しい(コストコなど)。	男性	40歳代
・商業施設については、周辺の市町村に遅れていると感じます。大型商業施設(コストコ、イケア等、映画館)を柳川に建設することも、市民を増やすことにつながるのではないのでしょうか。	男性	40歳代
・子供から大人まで楽しめるような施設があると、もっとたくさんの方が来て、遊んで泊まって、柳川市が潤うと思う。大規模な複合施設が、柳川市にも必要だと思います。図書館をよく利用しますが、新しい形の図書館にしてほしいです。 ・大和町にも、もっとたくさん飲食店やディスカウントショップ等を増やしてほしいです。	女性	40歳代
・大型ショッピングモールの誘致。	女性	40歳代
・水害など災害に強い町づくりをお願いします。東宮永地域の強制排水設備がない。設置をするべきです。	男性	50歳代
・昔の寿屋のような百貨店を建てて下さい!!!お願い致します!!!	女性	50歳代
・柳川の商店街をもっと活気づけつつ、ショッピングモールももっと出来るといい。	女性	50歳代
・漁業も海苔業者の方にはいいが、昔からあった有明海の豊富な漁場が復活して欲しい。	女性	60歳代
・海苔、農作物をもっと価値あるものにして、経済を豊かにし、若い人たちの働く場があればいいと思う。	女性	60歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【広報誌・PRIについて】		
・広報の「もちふみデビュー」で赤ちゃんの写真が載りますが、父親の名前だけ記載するのは、いかがなものかと思えます。母親の名前も載せるべきだし、それが難しければ親の名前は記載しなくて良いと思います。	男性	30歳代
・柳川市、中心部だけ発展するのではなく、地域毎に観光地があれば…。楽しんで頂けるし、地域にも活気が生まれるのでは！？まずは、柳川市民に柳川の魅力やおすすめスポット等を知らせる事をしてほしい。特に今はどこにも行けないので、柳川だけで楽しめる情報を発信してほしい。	男性	40歳代
・議会だよりを楽しみに拝見していますが、一部の議員さんの名前は目にする機会がありますが、全議員さんの名前を目にしないのが不思議です。活動はされていると思いますが、できればその報告はしていただきたいと思っています。	女性	40歳代
・市報について、写真・カラーが多すぎる。市税経費削減すべきと思う。紙質も近年、厚くなったように思う。 ・市報の「もちふみデビュー」はなぜ片親の名前だけ記載するのでしょうか。親の名前は必要だと思えません。	女性	50歳代
・市の広報も月1回でいい。2回はお金の無駄！	女性	50歳代
・柳川市政の将来をもっと市報を活用して周知活動に務めてはどうか？	男性	60歳代
・柳川駅前に川下り情報がありますが、本当に実施、又は進行しているか、もっと市報などに発信したらいいのではないかと思います。出来る事を楽しみにしています。	男性	60歳代
・問21の広報の発行は月に1回にしてください。そして字を大きく、わかりやすくして下さい。今、広報の件で住民と話をすると、ほとんどの人が読んでいないとか、書いてあったことを知らないとか、多いです。どうしたらよいかわかりません。非常に苦勞して、スタッフの方々が発行しています。税金のムダにもなります。ご検討をお願いします。	男性	70歳代
・「第2次柳川市総合計画」については、全く知らなかった。広報・啓蒙が必要だと思う。	男性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【新型コロナウイルス感染症対策について】		
<p>・コロナウイルスは証明されていません。PCRもデタラメです。マスクも意味ありません。コロナワクチンはとても危険です。むしろ治験です。子宮頸がんワクチンとコロナワクチンの副反応は同じです。現在第三次世界大戦中であり、人口削減の元、現在のコロナ事変がつくられています。現在のメディアに洗脳された無知な親が、ワクチンを打ち、子どもたちが孤児になり、国家がタブレットで子どもたちを育てようとしています。また無知な親が、日本の未来を担う子どもたちにワクチンと言う名の得体の知れない液体を打たせ未来を奪おうとしています。一人でも多くの日本国民が意識を共に一人でも多くの日本民族を救わなければこの国は滅びます。現在地球規模で起きている事は、我々が想像を絶する以前から計画されていたものであり、多くの日本民族が集合意識を共有せねば、子どもたちの未来は守れません。第三次世界大戦中である認識を常に持つ必要があると思っています。我々に残された時間は多くありません。今すぐにワクチン接種をやめて下さい。お願いします。</p>	男性	30歳代
<p>・1日2回もコロナワクチンの放送を流しているが、本当に迷惑しています。新型コロナウイルスの存在を証明出来るデータを提示してください。存在が確認出来ないにも関わらず、あたかも危険なウイルスであるようなデマを放送し、市民を騙し洗脳するのを止めて下さい。ワクチンに関しても、成分が危険であるにも関わらず、安全であるように謳い、打たせようとする放送を流すのを止めて下さい。ましてや、子供に打たせようとするのは、もってのほかです。殺人に加担しているのと同じです。</p>	女性	40歳代
<p>・とにかくコロナ禍の収束に向けての対応が優先。</p>	男性	60歳代
<p>・ワクチン接種が後手に回っていたのでは？久留米市と比べたら1ヶ月以上遅れていた。</p>	男性	60歳代
<p>・コロナワクチン予防接種の対応が悪い。他の町や市より1番遅かった。</p>	女性	60歳代
<p>・回覧板は不要である。お知らせの内容も重要ではない。または、今はコロナ禍であり、人から人への手渡しがあるため、感染の危険性が大きい。よって、その点を考えてほしい。</p>	男性	70歳代
<p>・コロナ流行で、公共機関の閉館が続き、出かける事も減ってきています。 ・ワクチン接種を急いでほしいです。</p>	女性	70歳代
<p>・皆様が早くコロナワクチンを注射して安心して生活出来る様に頑張ってほしい(市が率先して)。</p>	女性	70歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【防災について】		
・雨や水害に備える。	男性	30歳代
・災害情報を充実させてほしいです。昨年自宅近くの川が溢れ、道路との境目がなくなり、車をどこに移動したら良いか、どこが冠水しているかわからず、子どもと2人のため怖かったです。 ・市のHPの地図は大まかすぎて、あまり参考にならないので、もっと拡大できる5段階程の色分けした危険度、実際浸水した年月日と写真等もアップしてほしいです。	女性	30歳代
・防災の放送が聞こえない。	男性	40歳代
・水害に強いまちづくりの取り組み。	女性	50歳代
・大雨が降る度に家の前の道路が毎年冠水して、家から出られず仕事も休みを取らなければいけない状態です（今年のお盆も）。道路が冠水しない対策をしてほしいと思います。	女性	50歳代
・豪雨災害に強い市でありたい。	男性	60歳代
・災害に強いまちづくりを進めてほしい。	女性	60歳代
・最近、大雨や台風が恐いです。丈夫で高い建物に避難出来る様になると安心して暮らせます。	女性	70歳代

IV. 参考資料

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【医療・福祉について】		
・とにかく障害児への支援を手厚くしてほしい。保健師さんに、健常な子の子育て支援だけでなく、障害児の子育て支援をしてほしいので、障害児の子育てに必要な知識を持ってほしい。	女性	20歳代
・また、療育関係の施設や発達障害などの子供を育てる家庭が利用しやすい環境づくり等も力を入れて検討してほしい。	男性	30歳代
・医療費の助成、検診の連絡(方法)、交流、学習の場など、他の自治体を転々しましたが、最もレベルが低いと思います。	女性	30歳代
・2030年問題(高齢者問題)についてしっかり取組んで、若い人達にとって住みたい町にしてほしい。	男性	40歳代
・また、高齢化している市ですので、老人介護特区のような地域を作り、全国でもあまり見ない取り組みを行ってほしいと思います。	男性	40歳代
・障害者等が安心して住めるまちづくり。	女性	50歳代
・もっと福祉に力を入れて下さい。	女性	60歳代
・老人への福祉の充実。	男性	70歳代

柳川市のまちづくりについての自由記述（問 42）

主な記述内容	性別	年代
【市民会館について】		
・市民文化会館でコンサート等あったらいいと思います。	女性	50歳代
・庁舎の横の市民会館は今後どの様に利用されるのですか。宮永の方にも立派な会館が出来ていますが、もったいない様な気がします。	女性	60歳代
・市民文化会館に行ったことがない。	男性	70歳代
・柳川市民文化会館を、もっと市民に活用する方法を考えて下さい。	女性	70歳代
・市民文化会館の催しが楽しみです。コロナ後はもっと増やして欲しい。	無回答	無回答

IV. 参考資料

主な記述内容	性別	年代
【その他について】		
・いつもありがとうございます。	男性	30歳代
・転入して間も無いので、まだ市についてあまり理解がありません。	男性	30歳代
・人口減なのに“ヤクザの組事務所”が存在する。子供達あるいは住民に対して不幸な話である。	男性	40歳代
・柳川市はとてもいい町だと思います。柳川に住んでよかったです。これからも、もっと住みよい、いい町にしていってほしいです。	女性	40歳代
・柳川市の為に尽力を尽くして頂き、ありがとうございます。	女性	40歳代
・私は生まれ育った柳川が大好きです。住みやすい魅力的な柳川になる様、私も出来る範囲でがんばりますので、皆さんもがんばってください。	男性	50歳代
・良いまちです！！ありがとうございます！！	男性	50歳代
・お仕事、お疲れ様です。	男性	50歳代
・成人式の記念品が、もし未だにDVDなら必要ないと思う。全員が映っているわけではないですよね。	女性	50歳代
・柳川はいいですね。友人もできて嬉しいです。	女性	50歳代
・仕事柄、他県に年の大半出張の為、地元には不在が多く、協力できなくてすみません。	女性	50歳代
・行政の皆様の努力に、感謝しております。	男性	60歳代
・すべての面に対応が遅い。	女性	60歳代
・柳川の大切なものが徐々になくなっていく淋しさを感じます。	女性	60歳代
・緑が少ないと思う。都会の方が多いと感じる。	女性	60歳代
・私が生まれ育った柳川は大好きである。大好きであると言いながら何か柳川市に私が出来る事をやっているかと言えば何もやっていない。行動しなきゃと思うのに動かない。情けない。	女性	60歳代
・豊かな海と田んぼ、クリーク、今あるものを大切に守っていきたい。	女性	60歳代

2. 調査票

柳川市市民アンケート調査

アンケート調査へのご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対しご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

柳川市では、平成29年6月に市のまちづくりの基本的な指針となる「第2次柳川市総合計画（平成29年度～令和6年度）」を策定いたしました。

第2次柳川市総合計画は将来像を「水と人とまちが輝く柳川」とし、4つの目標をたてております。1つ目は1人でも多くの市民が柳川に愛着や誇りを持てるような取り組みを行う「柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり」、2つ目は若い世代が子育てや暮らしやすさを実感しながら、住み続ける「若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり」、3つ目は市民の満足度を上げることで市外に住む人が惹きつけられる「水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり」、4つ目が地域資源を活かして柳川の稼ぐ力を育てる「柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり」に取り組んでおります。

このアンケートは、4つの目標を達成し、将来像を実現させるために実施している事業の進捗度を検証し、今後のまちづくりに活用するために実施するものです。

多くの市民の皆様の声、柳川市のまちづくりに反映させていきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

令和3年8月

柳川市長 金子健次

1. アンケート調査の対象者

このアンケート調査は、8月1日現在で柳川市在住の18歳以上の方から、無作為に抽出した2,000人を対象としています。

2. ご記入、ご返送について

- ・ご回答は、あて名のご本人が記入してください。
(なお、ご本人による記入が難しい場合は、代理人による代筆で記入してください。)
- ・ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。
- ・ご記入は鉛筆またはボールペンでお願いします。
- ・記入された調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で8月31日（火）までに郵便ポストに投函してください。

3. 調査票の取扱いについて

調査結果は、統計的に処理を行いますので、個人が特定されることはありません。

4. お問い合わせ先

ご不明な点等は、柳川市 総務部 企画課 総合戦略推進係 電話 0944-77-8423 までお問い合わせください。

IV. 参考資料

問1. 性別についてお選びください。(○は1つ)

- | |
|-------|
| 1. 男性 |
| 2. 女性 |

問2. 年齢を次の中からお選びください。(○は1つ)

- | |
|----------|
| 1. 10歳代 |
| 2. 20歳代 |
| 3. 30歳代 |
| 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 |
| 6. 60歳代 |
| 7. 70歳以上 |

問3. 住んでいる校区をお選びください。(○は1つ)

- | | | | | |
|---------|---------|--------|--------|-----------|
| 1. 柳河 | 2. 城内 | 3. 矢留 | 4. 東宮永 | 5. 両開 |
| 6. 昭代第一 | 7. 昭代第二 | 8. 蒲池 | 9. 皿垣 | 10. 有明 |
| 11. 中島 | 12. 六合 | 13. 大和 | 14. 豊原 | 15. 藤吉 |
| 16. 矢ヶ部 | 17. ニッ河 | 18. 垂見 | 19. 中山 | 20. わからない |

問4. あなたに18歳以下の子どもがいますか。(○は1つ)

- | |
|--------|
| 1. いる |
| 2. いない |

問5. 柳川市に愛着や誇りを感じますか。(○は1つ)

- | |
|--------------|
| 1. 大いに感じる |
| 2. 多少感じる |
| 3. どちらともいえない |
| 4. あまり感じない |
| 5. 全く感じない |

問6. 柳川市は人権が守られていると思いますか。(○は1つ)

- | |
|-------------------|
| 1. そう思う |
| 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない |
| 5. そう思わない |

問7. 観光客などに対しておもてなしをよかったと感じますか。(○は1つ)

1. 大いに感じた
2. 多少感じた
3. あまり感じなかった
4. 全く感じなかった
5. おもてなしの機会がなかった

問8. 地域活動や地域ボランティアに参加していますか。(○は1つ)

1. 参加している
2. 参加していない

問9. 柳川市の歴史や伝統文化を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている →問10へ
2. 少し知っている →問10へ
3. 知らない →問11へ

(問9で「知っている」または「少し知っている」と答えた人にお聞きします)

問10. 柳川市の歴史や伝統文化に愛着や誇りを感じますか。(○は1つ)

1. 大いに感じる
2. 多少感じる
3. あまり感じない
4. 全く感じない

問11. 柳川初代藩主「立花宗茂」とその妻「闇千代」を知っていますか。(○は1つ)

1. エピソードも含めよく知っている
2. ある程度は知っている
3. 名前は聞いたことがある
4. 全く知らない

問12. 柳川市は文化芸術活動が盛んに行われていると思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

問13. 柳川市民文化会館「水都やながわ」には、どのような目的で行ったことがありますか。

(○は1つ)

1. 音楽鑑賞
2. 美術鑑賞
3. 会議
4. 講演会
5. その他 ()
6. 行ったことがない

問14. 柳川市は子育てしやすい環境であると思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

問15. 柳川市のどういうところを子育てがしやすい(しにくい)と思いますか。

ご自由にお書きください。

--

問16. あなたは学校再編を進めることについてどう思いますか。また、その理由をご記入ください。(○は1つ)

1. 賛成
2. 反対
3. どちらでもない
理由:

問17. 小学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数はどれですか。(○は1つ)

1. 1クラス
2. 2～3クラス
3. 4クラス以上

問18. 中学校の望ましいと思う1学年あたりの学級数はどれですか。(○は1つ)

1. 1クラス
2. 3～5クラス
3. 6クラス以上

問19. 商品の地域性や安全性等を評価し、認定される「柳川ブランド認定品」を知っていますか。
(○は1つ)

1. よく知っている
2. 知っている
3. あまり知らない
4. 全く知らない

問20. 柳川市からの情報発信に満足していますか。(○は1つ)

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらでもない
4. どちらかといえば不満である
5. 不満である

問21. 広報やながわの発行は、月に何回が妥当だと思いますか。(○は1つ)

1. 月に1回
2. 月に2回
3. 月に3回以上
4. 見ていないから分らない

問22. テレビのKBCdボタンを押して柳川市の情報を見ていますか。(○は1つ)

1. よく見る
2. たまに見る
3. 全く見ない
4. 知らない

問23. よく利用する SNS は何ですか。(○は1つ)

1. Facebook
2. LINE
3. Twitter
4. Instagram
5. SNS を利用しない

問24. 市内の道路を快適に通行できると思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

問25. 外出する際、路線バス・電車など公共交通を利用しようと思うことはありますか。
(○は1つ)

1. よく思う
2. たまに思う
3. あまり思わない
4. 全く思わない

問26. 柳川市が運行しているコミュニティバスを知っていますか。(○は1つ)

1. 路線・ダイヤなど含めよく知っている
2. ある程度知っている
3. 聞いたことはあるが、よく知らない
4. 知らない

問27. この1年以内に川下りをしたことがありますか。(○は1つ)

1. ある
2. ない

問28. 柳川市の水辺の景観や掘割が保全されていると感じますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

問29. ごみの減量やリサイクルに関心はありますか。(○は1つ)

1. ある
2. ない

問30. 現在ごみ減量に関して取り組んでいることはありますか。(○はいくつでも)

1. 水切りネットを使用している
2. 生ごみ処理機を使用している
3. 買い物の際にマイバックを使用している
4. 紙袋を紙ごみ用の袋として使用している
5. 飲料用マイボトルを使用している
6. 古くなった服を古着屋やリサイクル専門店に持ち込んでいる
7. その他 ()
8. 特に取り組みを行っていない

問31. ごみ減量の工夫として次のようなものがありますが、取り組んでもよいと思うものはありますか。(○はいくつでも)

1. 水切りネットの使用
2. 生ごみ処理機の使用
3. 買い物の際にマイバックの使用
4. 紙袋を紙ごみ用の袋として使用
5. 飲料用マイボトルの使用
6. 古着屋やリサイクル専門店の利用
7. フードバンクの利用
8. 特にない

問32. お住まいの住宅はどれですか。(〇は1つ)

1. 一戸建て
2. 共同住宅等 (賃貸)
3. 共同住宅等 (持ち家)

問33. 住宅用火災警報器を家族全員の寝室(2階にある場合は階段も)に設置していますか。
(〇は1つ)

1. 全て設置している →問34へ
2. 一部設置している →問34へ
3. 設置していない →問37へ

(問33で「全て設置している」「一部設置している」と答えた人にお聞きします)

問34. 住宅用火災警報器を設置して10年を経過していますか。(〇は1つ)

1. 10年経過している
2. 途中交換し10年経過していない
3. 10年経過していない
4. 分からない

(問33で「全て設置している」「一部設置している」と答えた人にお聞きします)

問35. 最近半年以内で、住宅用火災警報器の作動確認を行いましたか。(〇は1つ)

1. 実施した →問36へ
2. 実施予定である →問37へ
3. 実施していない →問37へ
4. 分からない →問37へ

(問35で「実施した」と答えた人にお聞きします)

問36. 作動確認の結果はどうでしたか。(〇は1つ)

1. 異常なし
2. 電池切れ、故障
3. 分からない

問37. 柳川市の公共施設(体育施設やコミュニティ施設など)を利用していますか。(○は1つ)

1. 週に1回程度利用している
2. 月に1回程度利用している
3. 月に複数回利用している
4. 利用していない

問38. 現在、市民が利用する施設の維持管理経費は、施設利用者が負担する使用料収入(約5%)と市民全体が負担する市税収入等(約95%)でまかなわれています。施設利用者の受益と負担の関係から、この割合についてどう思われますか。

また、その理由をご記入ください。(○は1つ)

1. 施設利用者の負担割合(使用料)を増やすべき
2. どちらかといえば施設利用者の負担割合(使用料)を増やすべき
3. 現状のままで良い
4. どちらかといえば施設利用者の負担割合(使用料)を減らすべき
5. 施設利用者の負担割合(使用料)を減らすべき

理由:

問39. 市民が利用する施設では、利用目的や利用者の状況に応じて使用料の免除を行う制度を設けており、公益団体や社会教育団体は全額免除を受けています(冷暖房費は減免していません)。この制度についてどう思われますか。

また、その理由をご記入ください。(○は1つ)

1. 通常の使用料を支払うべき
2. 使用料は減額するが、一定程度の使用料は支払うべき
3. 現状のままで良い

理由:

IV. 参考資料

問40. 昨年度の1年間のうち、柳川市役所を何回利用されましたか。(○は1つ)

1. 1～2回
2. 3～5回
3. 6～10回
4. 11回以上
5. 利用しなかった

問41. 市役所に用事があるときは、どの庁舎を利用していますか。(○はいくつでも)

1. 柳川庁舎
2. 大和庁舎
3. 三橋庁舎

問42. 最後に柳川市のまちづくりについて、ご意見等があればご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入された調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)で8月31日(火)までに郵便ポストに投函してください。